

令和3年度 市民意識調査結果報告書

令和3年11月



目 次

1	調査の概要	1
2	調査結果	2
(1)	回答者属性	2
問 1	性別	2
問 2	年齢	2
問 3	居住地区	2
(2)	住みごこちや愛着等について	3
問 4	東近江市の住みごこちは	3
問 5	東近江市への愛着	5
問 6	東近江市を自慢できるか	7
問 7	「鈴鹿 10 座」の認知度	9
問 8	友人・知人に東近江市を紹介するところ	11
問 9	近江鉄道八日市駅周辺の訪問頻度	13
問 10	中心市街地（八日市駅周辺）が活性化するために必要なこと	15
(3)	健康や福祉について	17
問 11	かかりつけ医の有無	17
問 12	医療体制への満足度	19
問 13	健康づくりのために取り組んでいること	21
問 14	朝食を食べているか	27
問 15	運動の実施率	31
問 16	不安、悩み、ストレスを感じたか	33
問 17	不安、悩み、ストレスは解消できているか	37
問 18	東近江市民の障害者に対する理解	39
問 19	障害者に対する理解に向けて今後特に力を入れるべきこと	41
(4)	環境や暮らしについて	43
問 20	市の自然環境保全の取組への満足度	43
問 21	自然環境との関わりの実感度	45
問 22	低炭素・資源循環型の取組の実践	47
問 23	ごみと資源の分別の実施	51
問 24	木造住宅を建てるときに選ぶ材料	53
問 25	「男は仕事、女は家事・育児」という考え方への共感度	55
問 26	消費生活センターの認知度	57
問 27	市民生活相談課の認知度	59
問 28	市内の公共交通への満足度	61
問 29	近江鉄道について	63
問 30	近江鉄道の利用頻度	65

問 31	災害への備え	69
問 32	水道水の水質の満足度	71
(5)	子育てや教育関連の取組について	75
問 33	子育てをするのに良い環境か	75
問 34	通学路の安全確保について	77
問 35	人権が尊重されるまちになっているか	79
問 36	人権に関する講座等への参加	81
問 37	児童虐待の通報先	83
(6)	都市整備について	85
問 38	市内の都市基盤整備に対する満足度	85
(7)	購買状況等について	94
問 39	食品や日用雑貨、衣料品等の購入先	94
問 40	食品を購入する際の交通手段	99
問 41	野菜等を購入する際の基準	101
問 42	市内の農産物直売所の利用状況	103
問 43	キャッシュレス決済の利用頻度	105
(8)	協働のまちづくりについて	112
問 44	協働のまちづくりができていますか	112
問 45	地域での住民同士の助け合いができていますか	114
問 46	地域活動又はNPOやボランティア等の活動への参加状況	116
問 47	多文化共生社会の実現	124
(9)	広報等の情報について	126
問 48	市の情報（お知らせ）の取得方法	126
問 49	「広報ひがしおうみ」を読んでいるか	129
問 50	「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度	133
問 51	「東近江市議会だより」を読んでいるか	143
(10)	市役所のサービスに関して	145
問 52	市役所職員の対応の印象	145
(11)	まちづくりに対する意見等について	147
問 53	まちづくりに対する意見や提案（自由記述）	147
3	総括	150
4	調査票	153

1 調査の概要

(1) 調査の目的

東近江市では、平成 28 年度に策定した「第 2 次東近江市総合計画」に基づき、「うるおいとにぎわいのまち東近江市」を目指してまちづくりを進めています。住みよいまちを実現するために、市民の意識や生活スタイルなど、まちづくりに関する意見を聞くことを目的に、市民意識調査を実施しました。

(2) 調査対象

令和 3 年 6 月 1 日現在、東近江市在住の満 18 歳以上の市民 3,049 人を対象としました。（住民基本台帳から無作為抽出）

(3) 調査期間

令和 3 年 6 月 21 日から令和 3 年 7 月 5 日まで

(4) 調査方法

郵送による配布・回収、無記名

(5) 回収状況

調査票の配布数 3,049 件に対し、宛先不明として返送されてきた調査票が 14 件あり、到達した配布数は 3,035 件でした。回収した調査票数 1,436 件に対し、無効の調査票数は 3 件で、有効回収調査票数は 1,433 件、回収率は 47.2% でした。

配 布			回 収			到達配布数に対する回収率
配布数	不到達数	到達配布数	回収調査票数	無効調査票数	有効回収調査票数	
3,049	14	3,035	1,436	3	1,433	47.2%

(6) 調査結果の表示方法

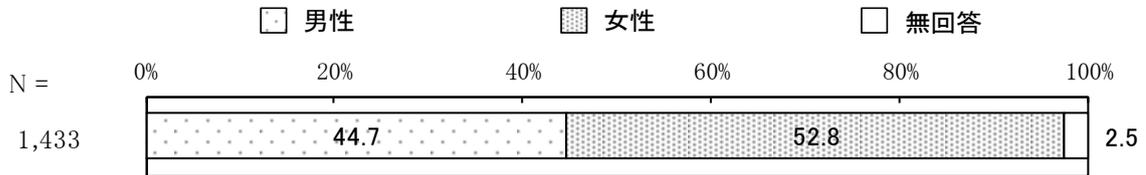
- ・ 回答は、各設問の有効回答数（N）を母数とした百分率（%）で示しています。また、小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答の設問については、回答者が全体（N=1,433）に対してどのくらいの比率であるかという表記になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。ただし、分岐設問の場合は、Nの値が異なります。
- ・ 調査結果を図表で表示していますが、グラフ以外の表（複数選択の設問）は、最も高い割合の回答（無回答を除く。）に  で網かけをしています。なお、選択数を限定している設問は、選択数の分だけ次に多くあげられている回答も薄く網かけしています。
- ・ 指定の回答数以上の回答や分岐設問等での誤った回答などは、すべて「無回答」として集計しています。
- ・ 性別や年代別、居住地区別の集計の場合、無回答を排除しているため、その有効回答数の合計と全体の有効回答数が合致しないことがあります。

2 調査結果

(1) 回答者属性

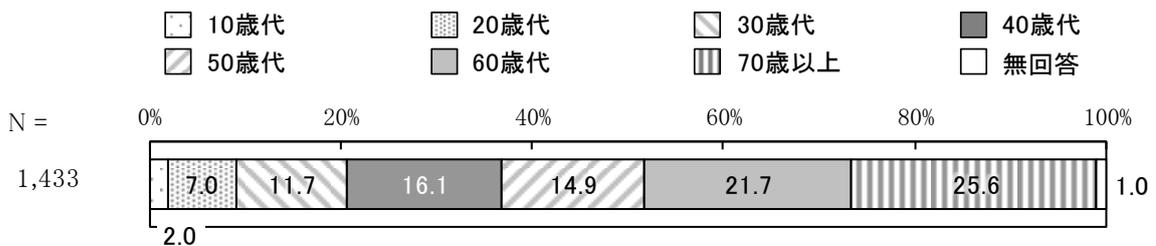
問1 性別

- 「男性」が44.7%、「女性」が52.8%で、女性が多くなっています。



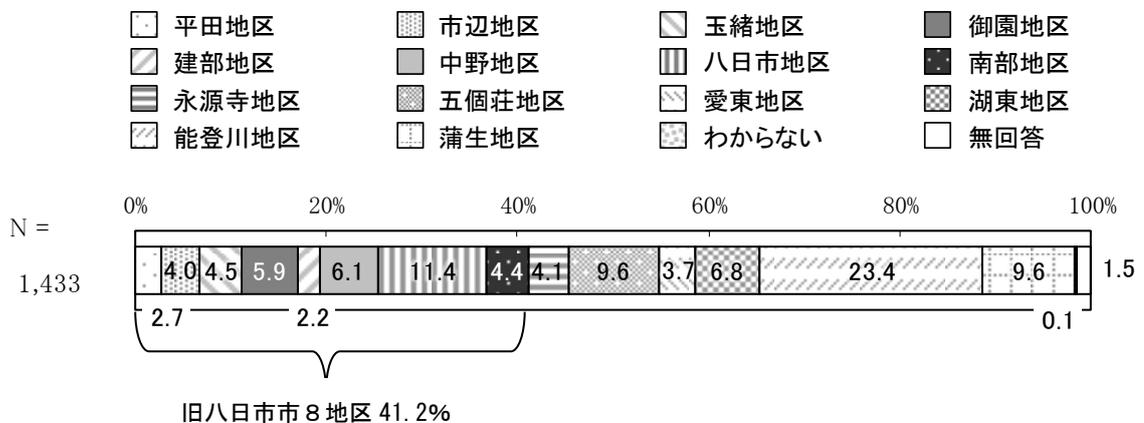
問2 年齢

- 年齢については、「70歳以上」が25.6%と最も多く、次いで「60歳代」が21.7%、「40歳代」が16.1%、「50歳代」が14.9%の順で、60歳以上が47.3%と半数近くを占めています。



問3 居住地区

- 居住地区については、「能登川地区」が23.4%と最も多く、次いで「八日市地区」が11.4%、「五個荘地区」と「蒲生地区」が9.6%となっています。
- 旧八日市市の8地区を合計すると、41.2%となっています。

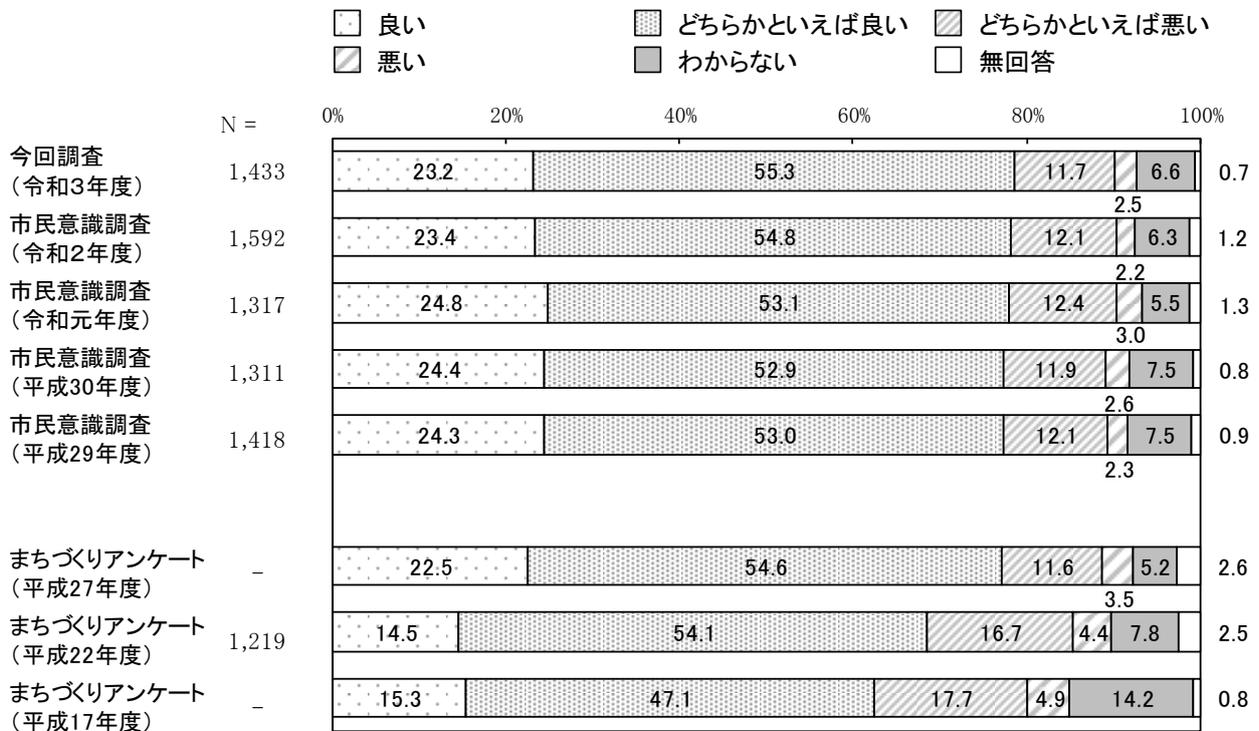


(2) 住みごこちや愛着等について

問4 あなたは、東近江市の住みごこちをどう思いますか。《○1つ》

8割近くが住みごこちが良い

- ・ 東近江市の住みごこちについては、「良い」が23.2%、「どちらかといえば良い」が55.3%で、これらを合わせると78.5%となり、8割近くの人が住みごこちが良いと感じています。一方、「どちらかといえば悪い」と「悪い」を合わせると14.2%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、住みごこちが良い（「良い」と「どちらかといえば良い」の合計）の割合は微増傾向を示しています。
- ・ 年代別では、住みごこちが良い（前述）の割合が、20～30歳代と70歳以上で8割を超えている一方で、10歳代でやや低くなっています。
- ・ 居住地区別では、住みごこちが良い（前述）の割合が、南部地区、建部地区、永源寺地区で高く、蒲生地区、平田地区でやや低くなっています。



単位：%

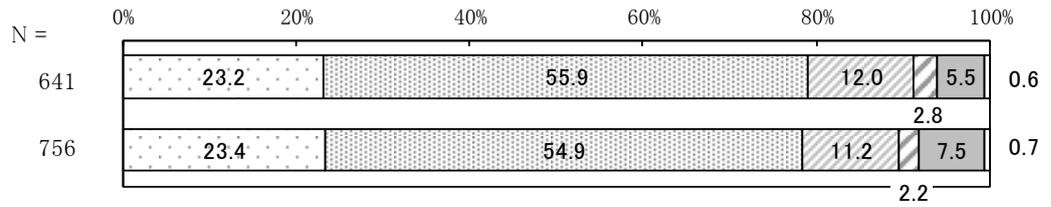
	良い*	悪い*	差
①今回調査(令和3年度)	78.5	14.2	64.3
②市民意識調査(令和2年度)	78.2	14.3	63.9
③市民意識調査(令和元年度)	77.9	15.4	62.5
④市民意識調査(平成30年度)	77.3	14.5	62.8
⑤市民意識調査(平成29年度)	77.3	14.4	62.9
①-⑤	1.2	-0.2	1.4
まちづくりアンケート(平成27年度)	77.1	15.1	62.0
まちづくりアンケート(平成22年度)	68.6	21.1	47.5
まちづくりアンケート(平成17年度)	62.4	22.6	39.8

* 良い:「良い」と「どちらかといえば良い」の合計

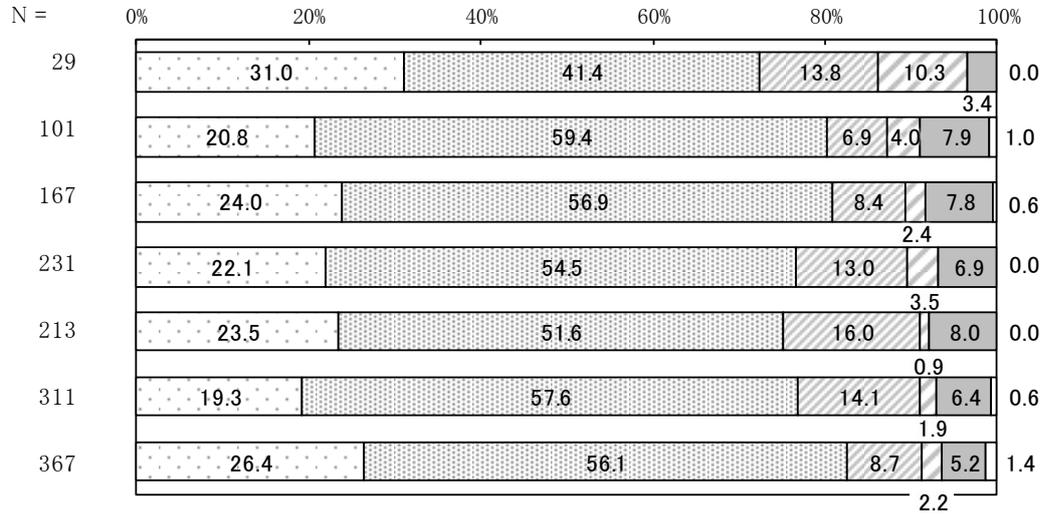
* 悪い:「どちらかといえば悪い」と「悪い」の合計

良い
 どちらかといえば良い
 どちらかといえば悪い
 悪い
 わからない
 無回答

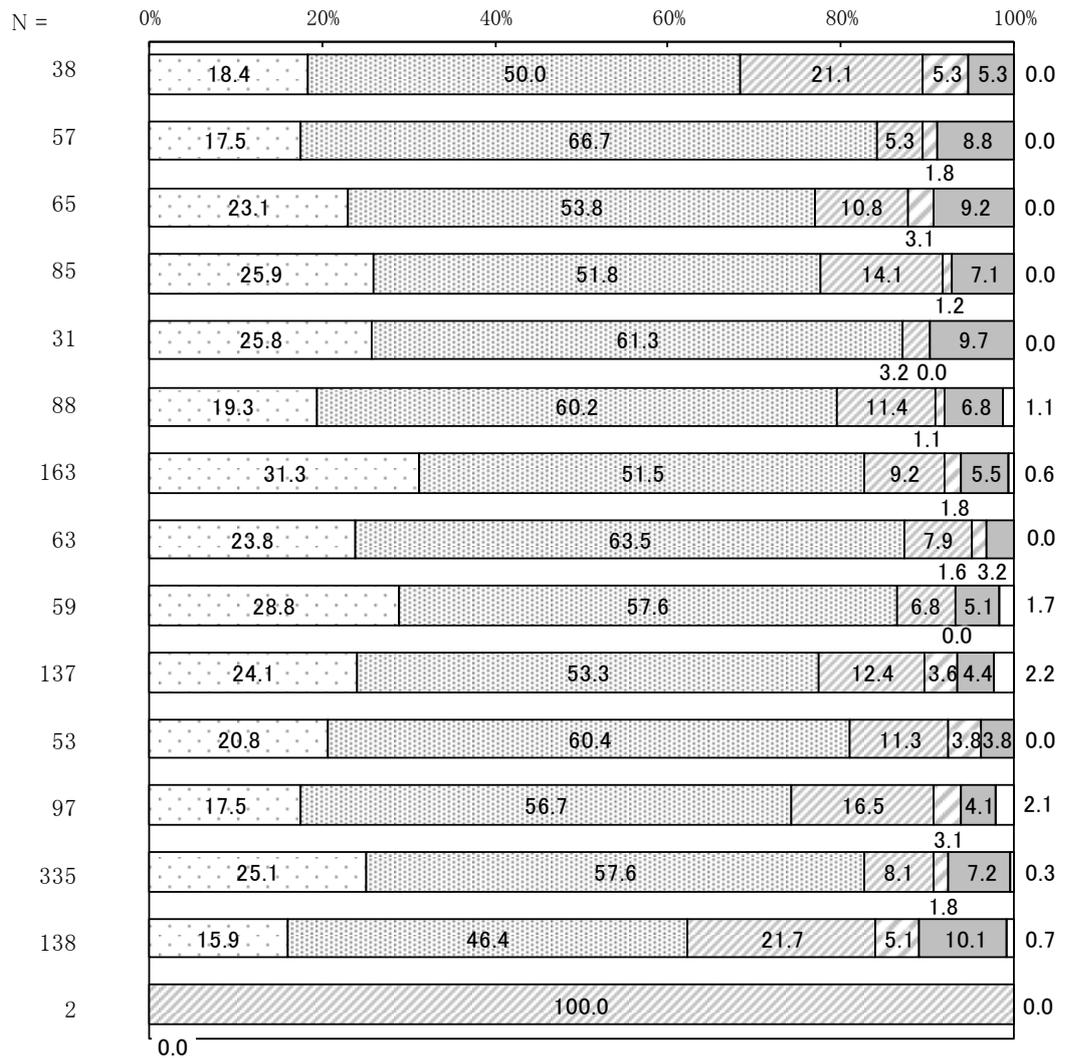
【性別】



【年代別】



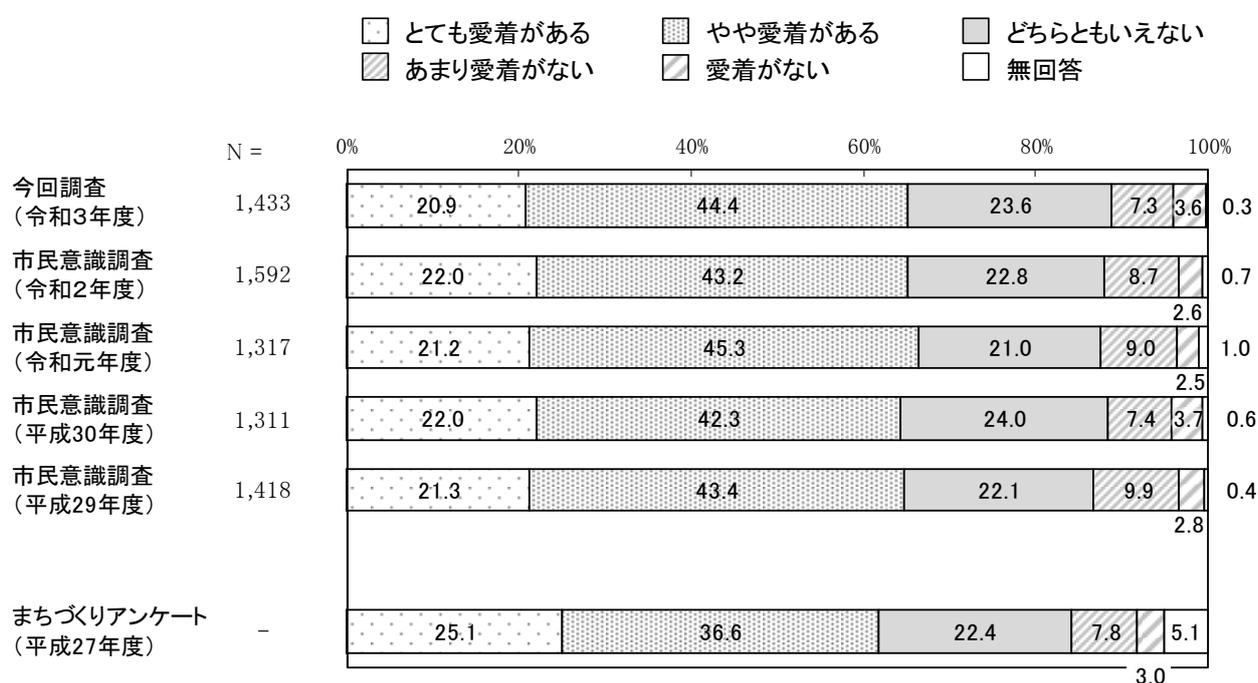
【居住地区別】



問5 あなたは、東近江市に対して愛着がありますか。《○1つ》

7割近くが東近江市に対して愛着がある

- ・ 東近江市に対する愛着については、「とても愛着がある」が20.9%、「やや愛着がある」が44.4%で、これらを合わせると65.3%となり、7割近くの人が東近江市に何らかの愛着があると回答しています。一方、「あまり愛着がない」と「愛着がない」を合わせると10.9%となっています。また、「どちらともいえない」とする人も23.6%と2割います。
- ・ 年代別では、愛着がある（「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計）の割合は、概ね、年齢が上がるほど高くなる傾向がみられ、70歳以上は7割を超えています。
- ・ 居住地区別では、愛着がある（前述）の割合が、建部地区、永源寺地区、愛東地区、南部地区で高く、蒲生地区、平田地区、八日市地区で低くなっています。



単位：%

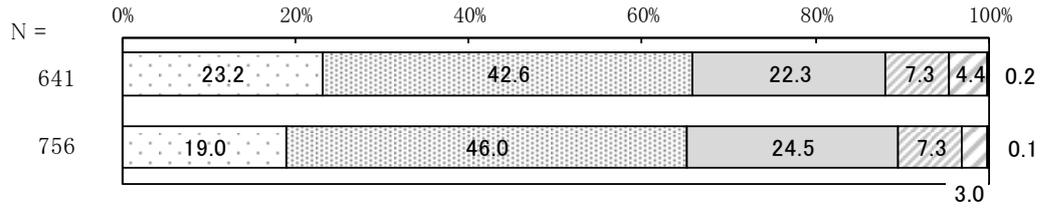
	愛着がある*	愛着がない*	差
①今回調査(令和3年度)	65.3	10.9	54.4
②市民意識調査(令和2年度)	65.2	11.3	53.9
③市民意識調査(令和元年度)	66.5	11.5	55.0
④市民意識調査(平成30年度)	64.3	11.1	53.2
⑤市民意識調査(平成29年度)	64.7	12.7	52.0
①-⑤	0.6	-1.8	2.4
まちづくりアンケート(平成27年度)	61.7	10.8	50.9

* 愛着がある:「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計

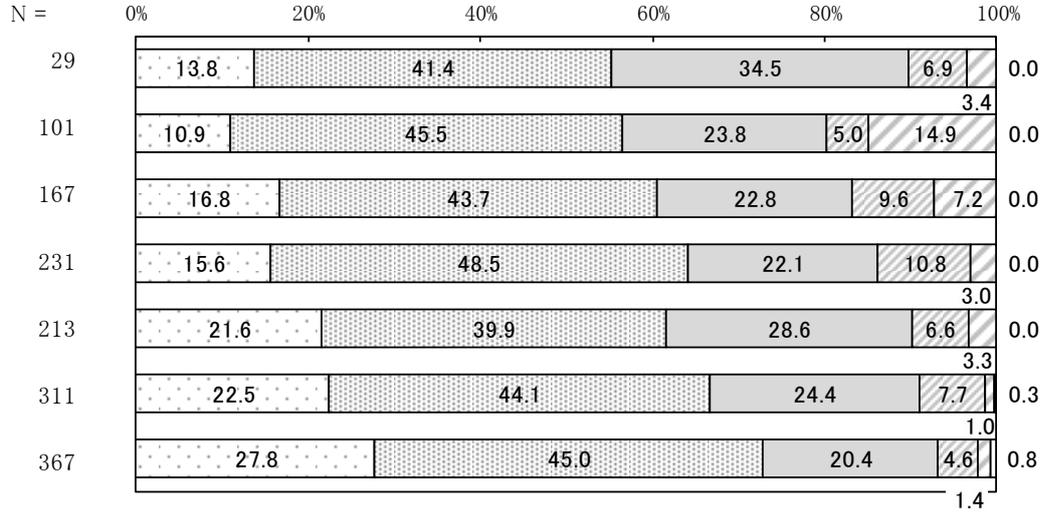
* 愛着がない:「あまり愛着がない」と「愛着がない」の合計

とても愛着がある
 やや愛着がある
 どちらともいえない
 あまり愛着がない
 愛着がない
 無回答

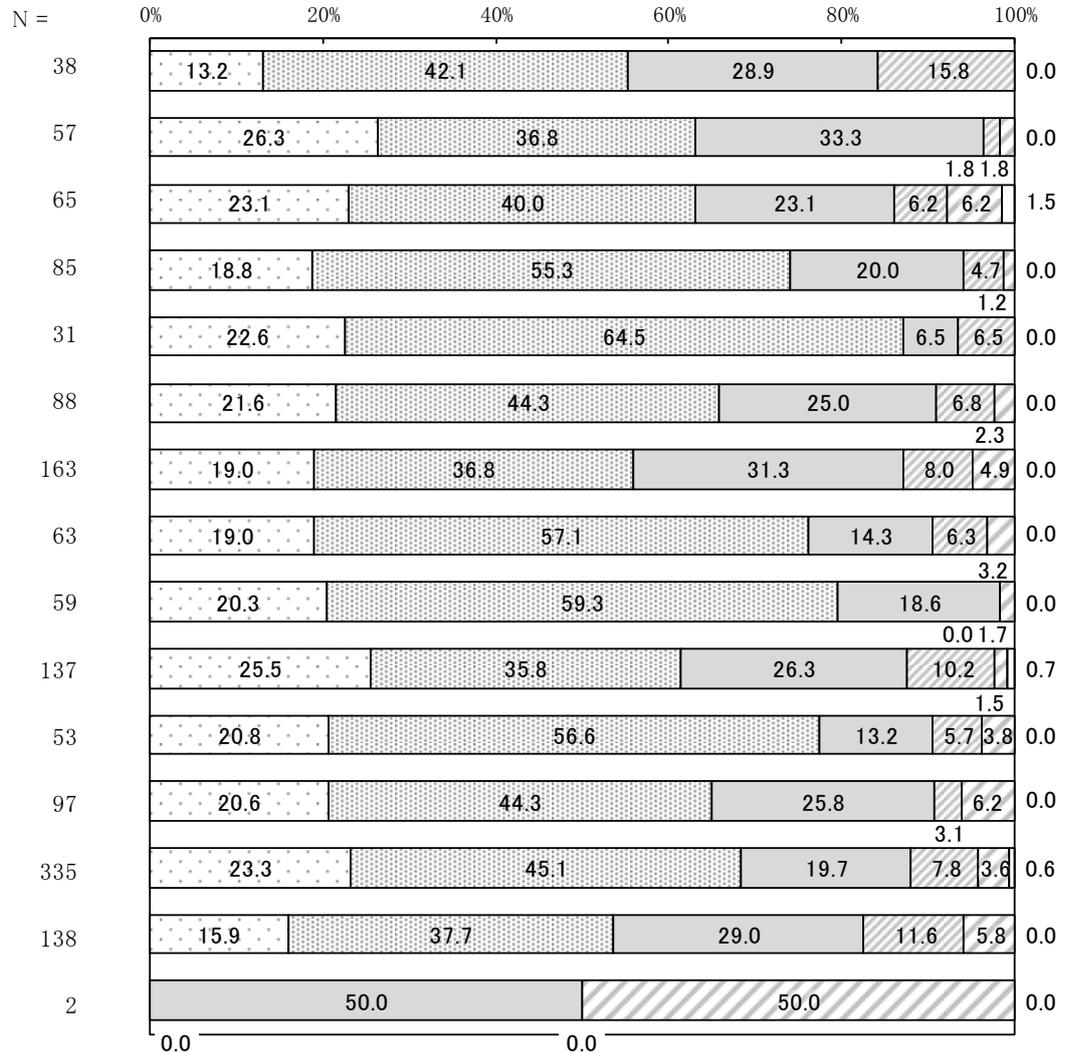
【性別】



【年代別】



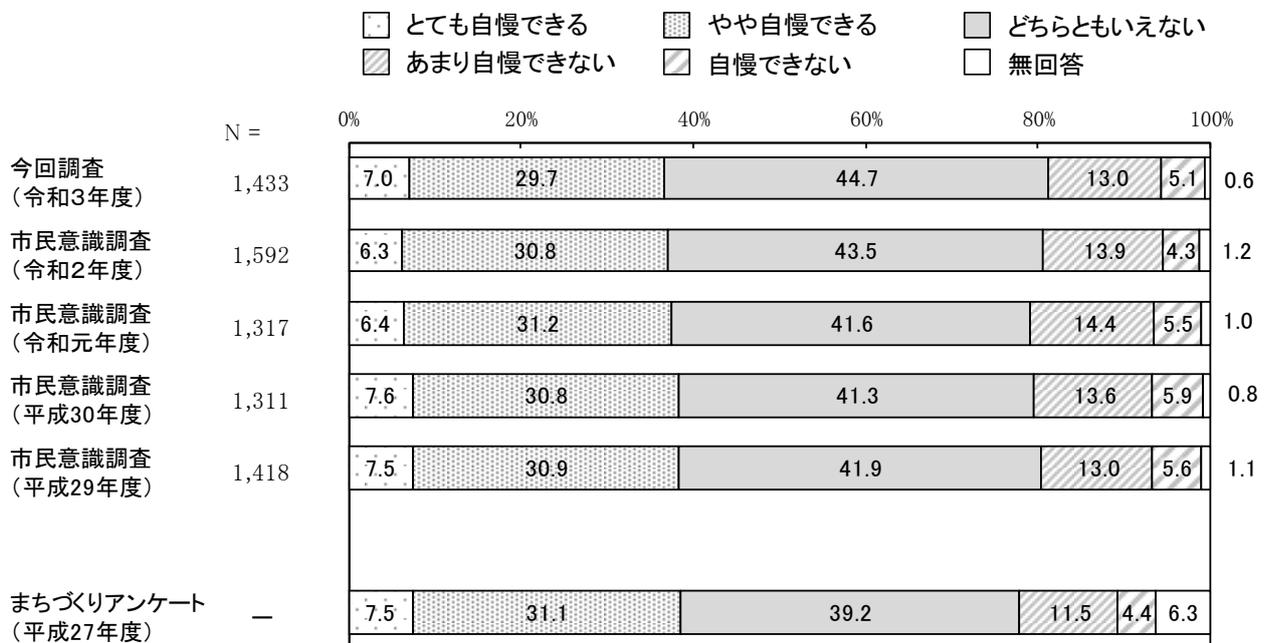
【居住地区別】



問6 あなたは、東近江市を自慢できますか。《○1つ》

4割近くが自慢できる、4割が「どちらともいえない」

- ・ 東近江市を自慢できるかについては、「どちらともいえない」が44.7%と最も多くなっています。また、「とても自慢できる」が7.0%、「やや自慢できる」が29.7%で、これらを合わせると36.7%となり、4割近くの人が自慢できるとしています。一方、「あまり自慢できない」と「自慢できない」を合わせると18.1%となっています。
- ・ 年代別では、自慢できる（「とても自慢できる」と「やや自慢できる」の合計）の割合は、概ね、年齢が上がるほど高くなる傾向がみられますが、10歳代は20～50歳代よりも割合が高くなっています。20歳代では自慢できる（前述）と自慢できない（「あまり自慢できない」と「自慢できない」の合計）の割合がほぼ同じとなっています。
- ・ 居住地区別では、自慢できる（前述）の割合が、永源寺地区、市辺地区で高く、御園地区、平田地区、蒲生地区で低くなっており、蒲生地区、平田地区は自慢できない（前述）人が自慢できる（前述）人より多くなっています。



単位：%

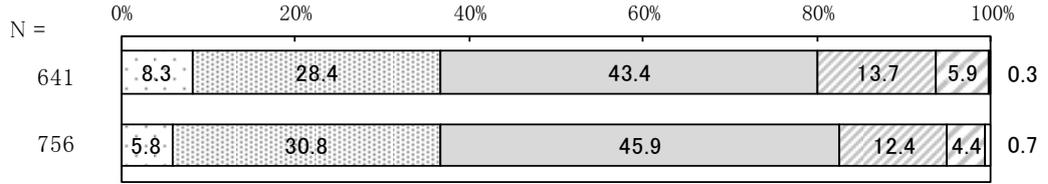
	自慢できる*	自慢できない*	差
①今回調査(令和3年度)	36.7	18.1	18.6
②市民意識調査(令和2年度)	37.1	18.2	18.9
③市民意識調査(令和元年度)	37.6	19.9	17.7
④市民意識調査(平成30年度)	38.4	19.5	18.9
⑤市民意識調査(平成29年度)	38.4	18.6	19.8
①-⑤	-1.7	-0.5	-1.2
まちづくりアンケート(平成27年度)	38.6	15.9	22.7

* 自慢できる:「とても自慢できる」と「やや自慢できる」の合計

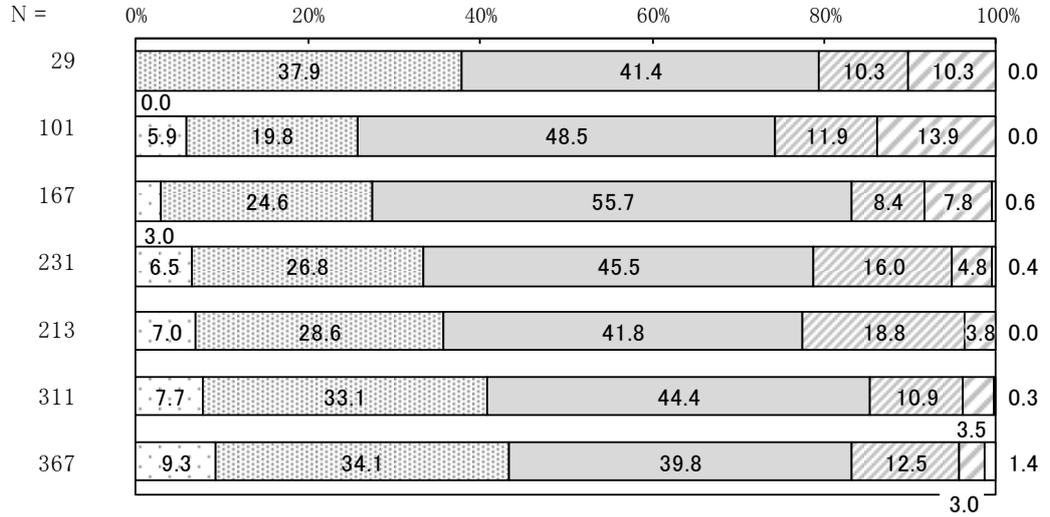
* 自慢できない:「あまり自慢できない」と「自慢できない」の合計

とても自慢できる
 やや自慢できる
 どちらともいえない
 あまり自慢できない
 自慢できない
 無回答

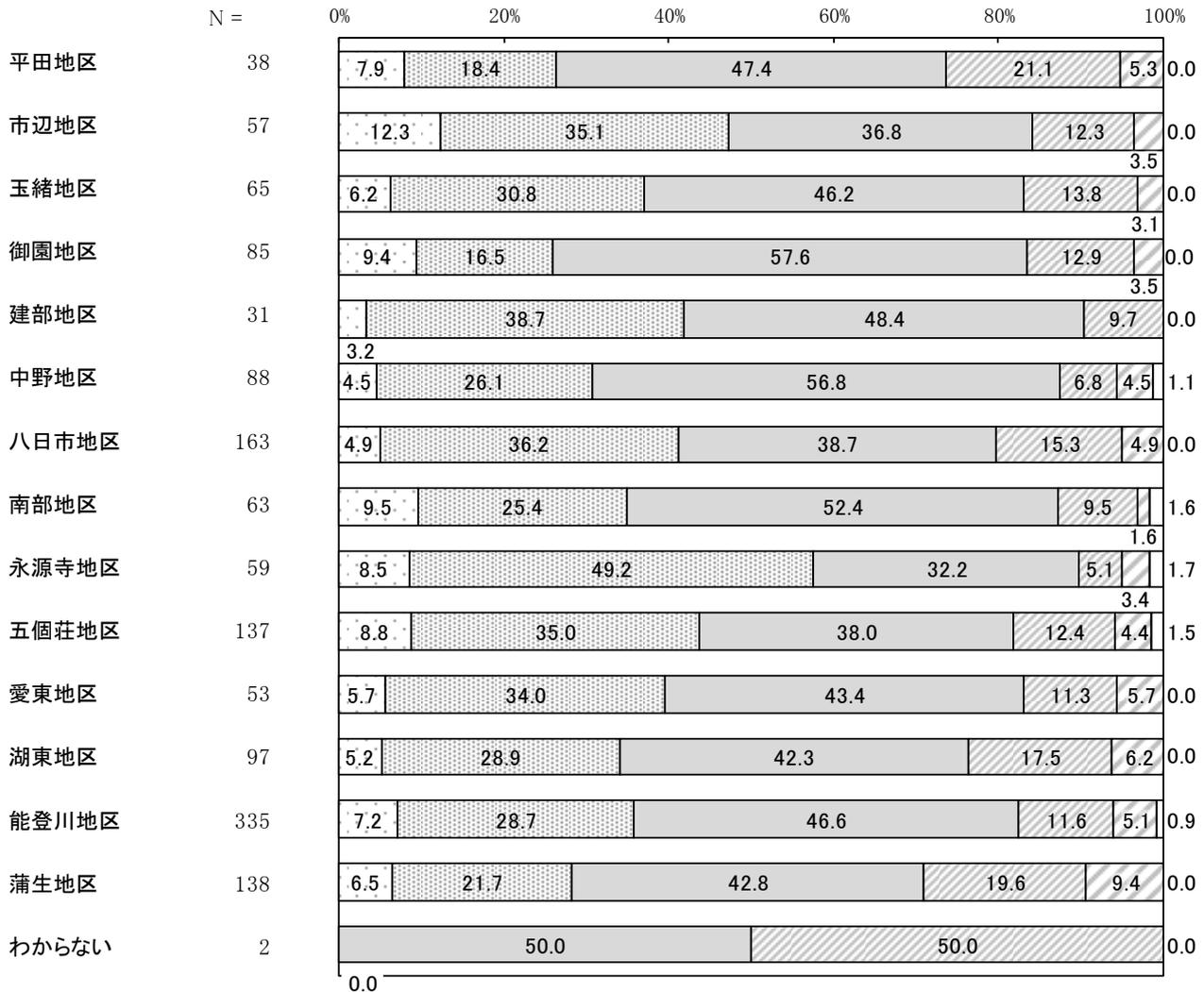
【性別】



【年代別】



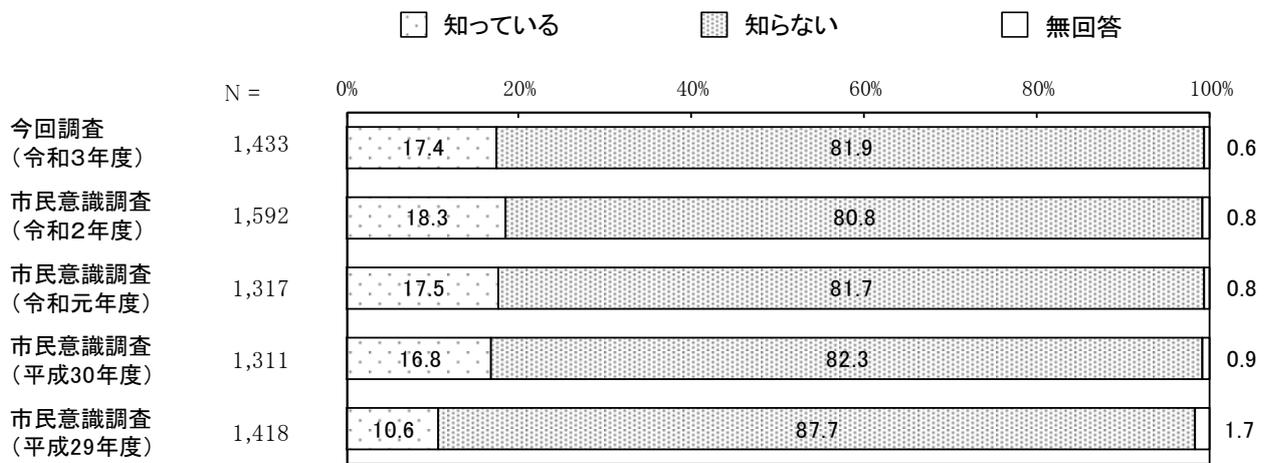
【居住地区別】



問7 東近江市では、平成27年度に鈴鹿の山々から「鈴鹿10座」を選定し、鈴鹿山脈の素晴らしさと存在意義を広く周知するとともに、市の知名度アップに取り組んでいます。
あなたは、「鈴鹿10座」が選定されたことを知っていますか。《○1つ》

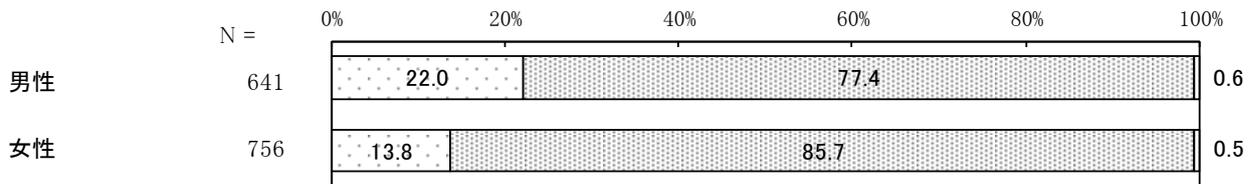
8割が「知らない」、認知度は2割近く

- ・ 「鈴鹿10座」については、「知らない」が81.9%と8割を占めています。一方、「知っている」は17.4%で、認知度は2割近くとなっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、認知度は平成30年度に1割から2割近くに向上したのち、ほぼ横ばいとなっています。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では年齢が上がるほど、居住地区別では永源寺地区と建部地区で、「鈴鹿10座」の認知度が高くなっています。



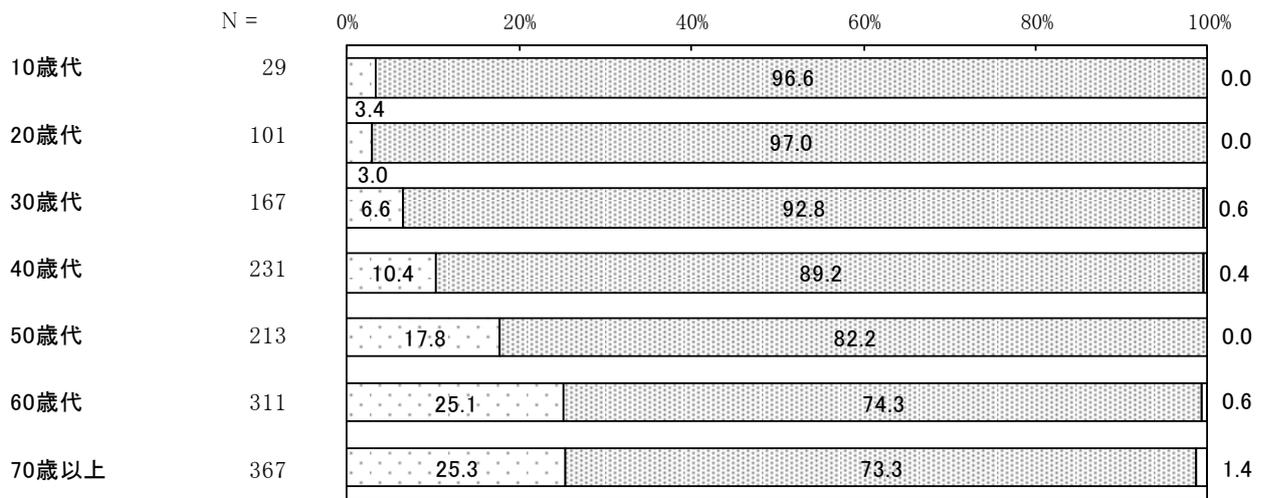
※令和元年度までの設問は、「鈴鹿10座を知っていますか」

【性別】

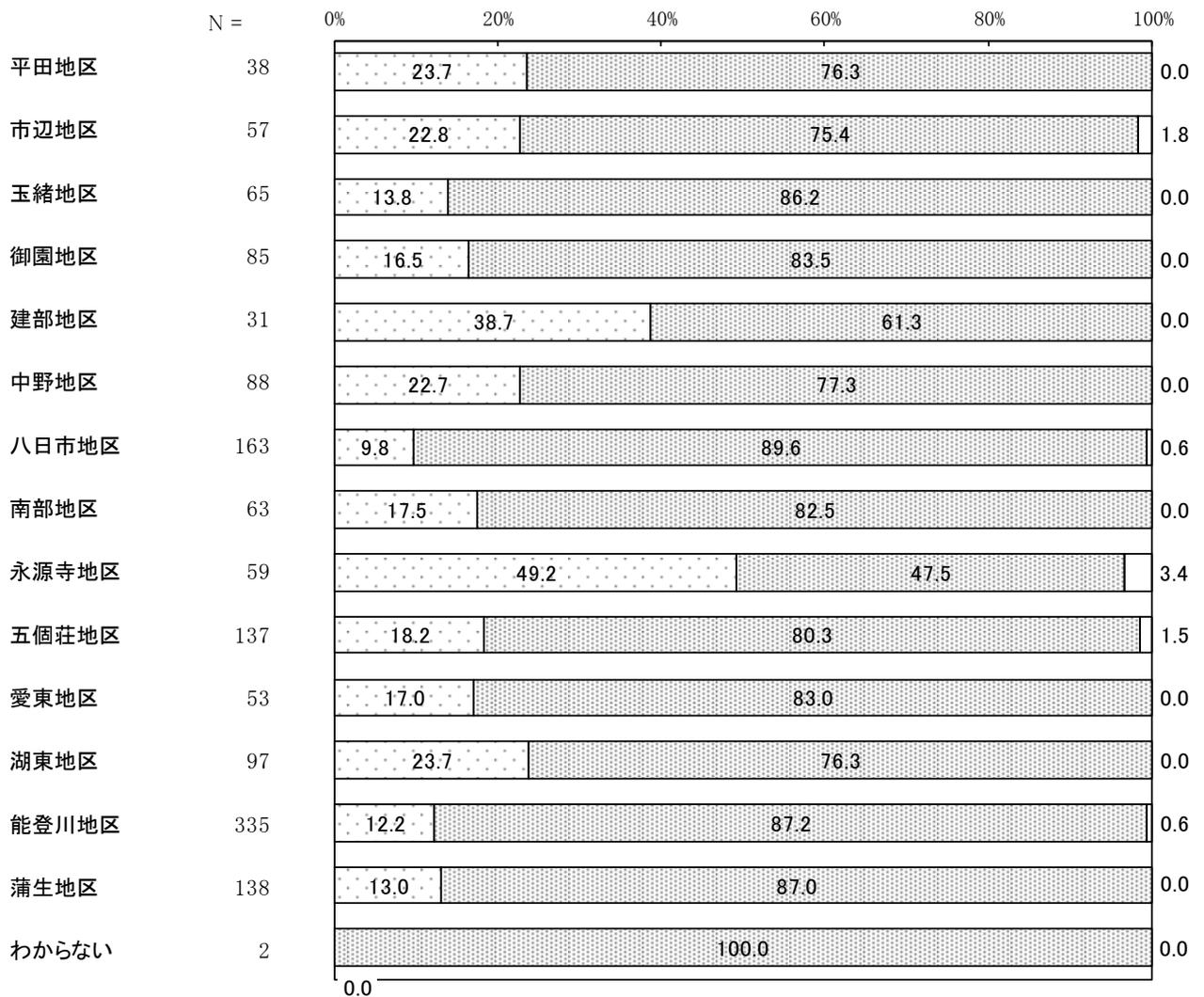


【年代別】

□ 知っている □ 知らない □ 無回答



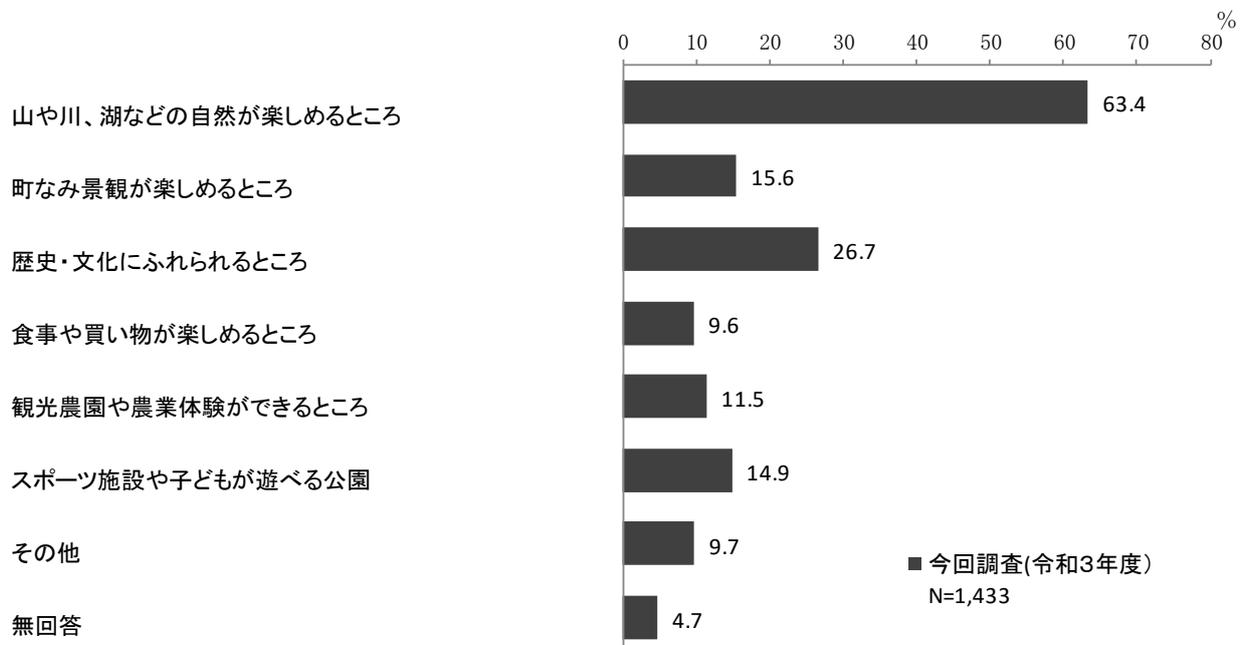
【居住地区別】



問8 あなたは、友人・知人に東近江市を紹介する場合、どのようなところを紹介しますか。《あてはまるものすべてに○》

6割が「山や川、湖などの自然が楽しめるところ」を紹介

- ・ 友人・知人に東近江市を紹介するところとしては、「山や川、湖などの自然が楽しめるところ」が最も多く、63.4%と6割の人があげています。次いで「歴史・文化にふれられるところ」が26.7%、「町なみ景観が楽しめるところ」が15.6%、「スポーツ施設や子どもが遊べる公園」が14.9%、と続きます。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも、「山や川、湖などの自然が楽しめるところ」が最も多くあげられています。
- ・ 性別では、特に女性で「町なみ景観が楽しめるところ」や「スポーツ施設や子どもが遊べる公園」、「観光農園や農業体験ができるところ」をあげる人が男性より多くみられます。
- ・ 年代別では、特に60歳代で「山や川、湖などの自然が楽しめるところ」をあげる人が7割近くみられるほか、50歳以上で年齢が上がるほど「歴史・文化にふれられるところ」が、30～40歳代の子育て世代で「スポーツ施設や子どもが遊べる公園」が、40～60歳代で「観光農園や農業体験ができるところ」が、10～20歳代で「食事や買い物が楽しめるところ」がほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、特に永源寺地区で9割近く、建部地区、能登川地区で7割が「山や川、湖などの自然が楽しめるところ」をあげているほか、建部地区、市辺地区、五個荘地区で「歴史・文化にふれられるところ」が、愛東地区で「観光農園や農業体験ができるところ」が、五個荘地区で「町なみ景観が楽しめるところ」が、湖東地区で「スポーツ施設や子どもが遊べる公園」が、八日市地区で「食事や買い物が楽しめるところ」がほかの地区より多くあげられています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	山や川、湖などの自然が楽しめる	町なみ景観が楽しめる	歴史・文化にふれられる	食事や買い物を楽しめる	観光農園や農業体験ができる	スポーツ施設や子どもが遊べる公園	その他	無回答
男性	641	62.4	12.0	27.9	9.5	8.9	12.2	11.1	4.7
女性	756	64.8	18.4	25.3	9.5	13.5	16.8	8.5	4.5

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	山や川、湖などの自然が楽しめる	町なみ景観が楽しめる	歴史・文化にふれられる	食事や買い物を楽しめる	観光農園や農業体験ができる	スポーツ施設や子どもが遊べる公園	その他	無回答
10歳代	29	44.8	17.2	13.8	13.8	3.4	13.8	10.3	0.0
20歳代	101	57.4	11.9	14.9	13.9	7.9	12.9	11.9	3.0
30歳代	167	64.7	15.0	13.8	10.8	9.6	26.3	10.8	2.4
40歳代	231	64.5	13.4	16.9	9.1	13.0	19.5	11.3	4.3
50歳代	213	60.1	15.0	22.5	10.3	14.1	8.9	14.1	4.7
60歳代	311	69.5	16.1	33.1	8.4	14.8	13.5	6.4	4.5
70歳以上	367	61.3	18.0	39.5	8.7	8.2	12.5	8.2	6.8

【居住地区別】

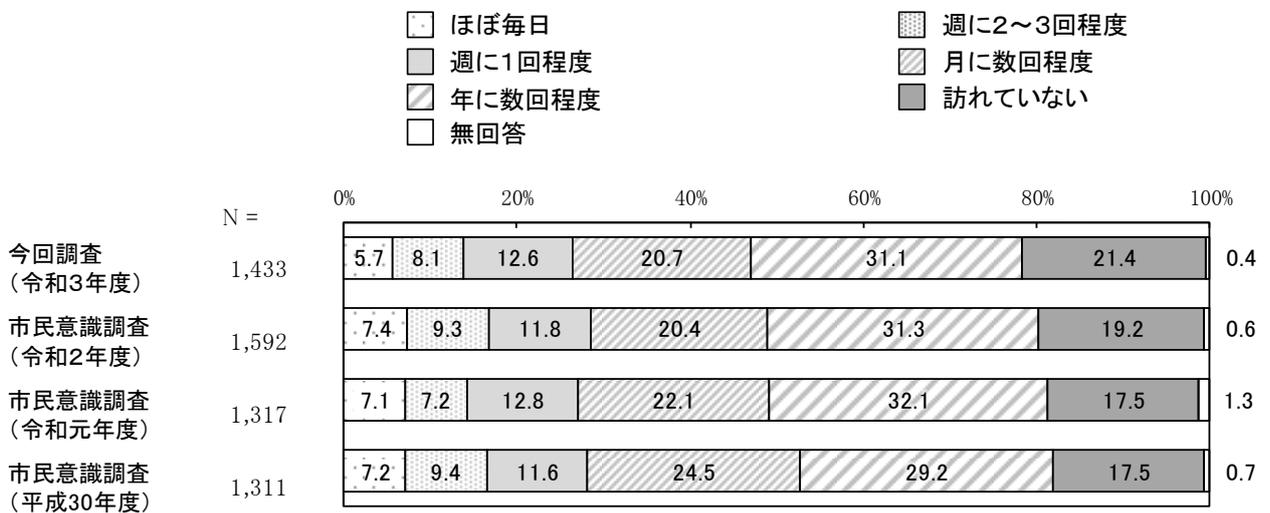
単位:%

区分	有効回答数(件)	山や川、湖などの自然が楽しめる	町なみ景観が楽しめる	歴史・文化にふれられる	食事や買い物を楽しめる	観光農園や農業体験ができる	スポーツ施設や子どもが遊べる公園	その他	無回答
平田地区	38	65.8	15.8	28.9	7.9	7.9	10.5	7.9	7.9
市辺地区	57	52.6	17.5	42.1	10.5	5.3	17.5	12.3	1.8
玉緒地区	65	63.1	6.2	24.6	7.7	9.2	15.4	15.4	9.2
御園地区	85	65.9	16.5	24.7	10.6	10.6	11.8	9.4	3.5
建部地区	31	74.2	19.4	45.2	9.7	12.9	12.9	3.2	3.2
中野地区	88	50.0	13.6	19.3	12.5	12.5	12.5	13.6	3.4
八日市地区	163	62.0	14.1	20.9	20.9	10.4	18.4	16.6	2.5
南部地区	63	63.5	9.5	25.4	11.1	14.3	12.7	9.5	6.3
永源寺地区	59	86.4	16.9	23.7	3.4	6.8	11.9	5.1	8.5
五個荘地区	137	45.3	33.6	41.6	10.9	4.4	10.9	2.2	6.6
愛東地区	53	66.0	5.7	22.6	3.8	41.5	5.7	1.9	1.9
湖東地区	97	68.0	10.3	21.6	5.2	13.4	27.8	6.2	7.2
能登川地区	335	71.9	16.7	23.3	6.6	9.0	16.7	11.3	3.9
蒲生地区	138	55.8	9.4	31.2	7.2	17.4	12.3	9.4	5.1
わからない	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0

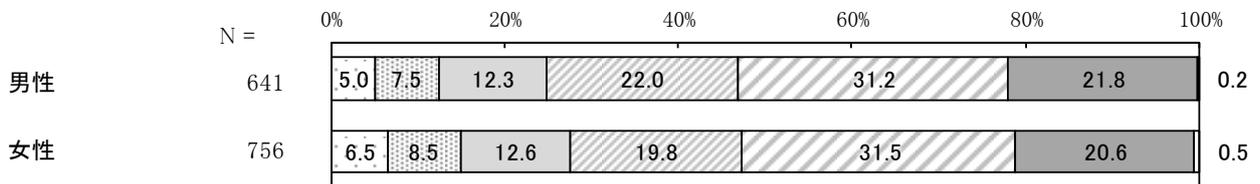
問9 あなたは、この1年間で近江鉄道八日市駅周辺（市役所周辺を含む。）にどの程度訪れましたか。《○1つ》

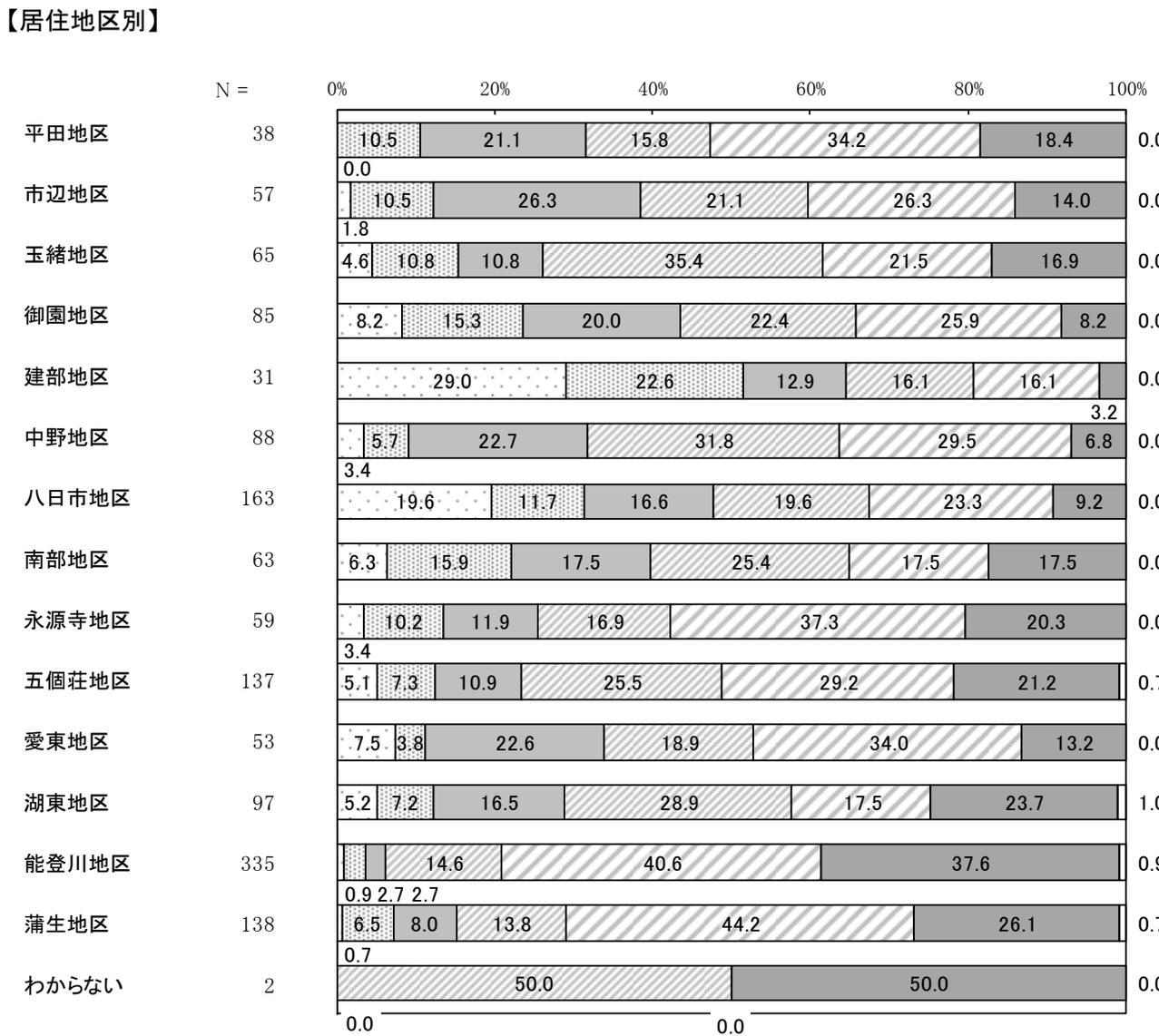
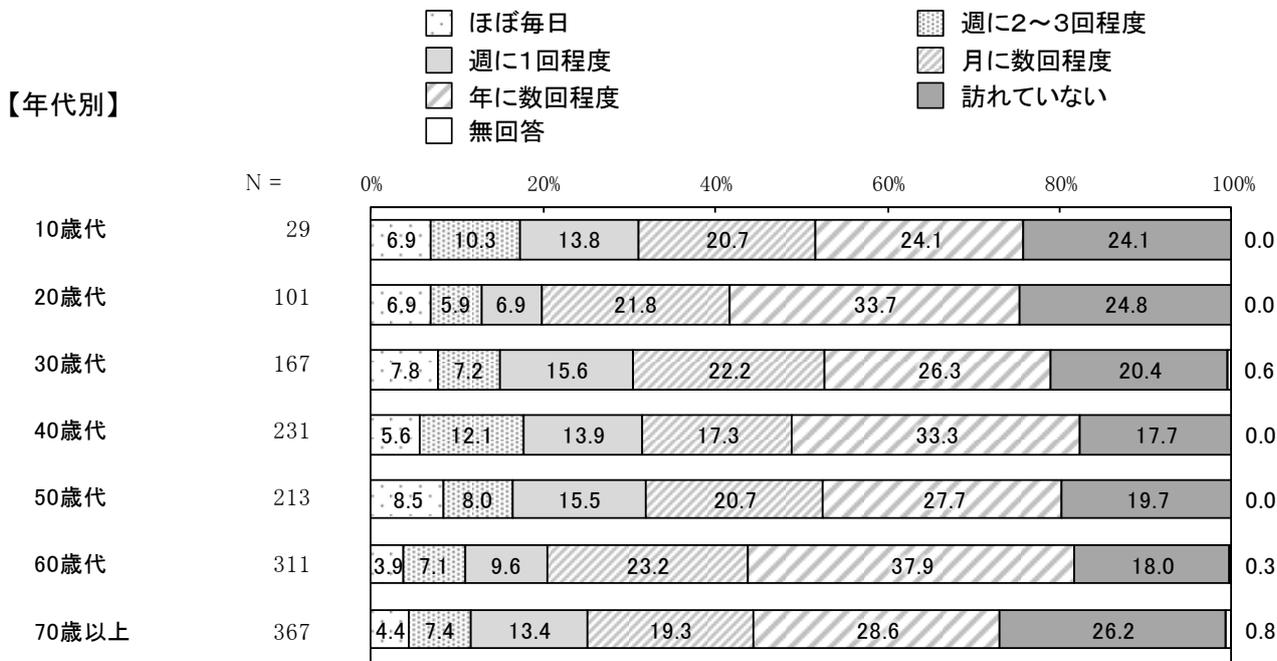
週1回以上訪れる人が3割近く、月に数回又は年に数回が半数以上

- この1年間で近江鉄道八日市駅周辺を訪れた頻度は、週に1回以上訪れる人が26.4%と3割近くとなっています。また、「月に数回程度」と「年に数回程度」を合わせると51.8%となり、半数を超えています。一方で、「訪れていない」人も21.4%と2割ほどみられます。
- 年代別では、いずれの年代も「年に数回程度」が最も高くなっていますが、10歳代は、「訪れていない」も同様に最も高くなっています。週1回以上訪れる人の割合は、20歳代を除く50歳代以下では3割を超えています。一方、訪れていない人は10～20歳代、70歳以上で多くみられます。
- 居住地区別では、週1回以上訪れる人の割合が、建部地区（6割）、八日市地区（半数近く）、御園地区（4割）で高く、能登川地区（1割未満）、蒲生地区（2割未満）で低くなっています。



【性別】

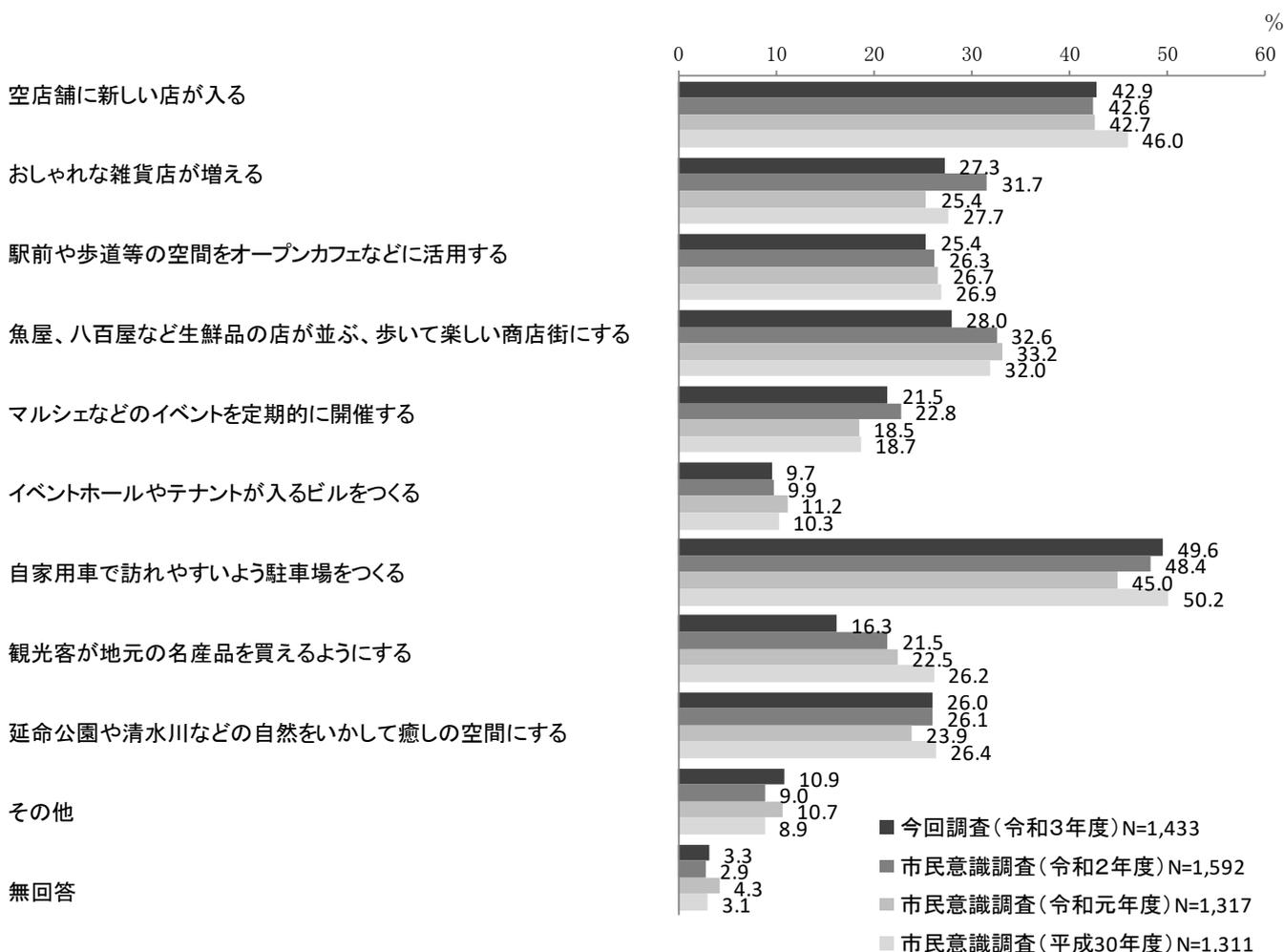




問 10 あなたは、八日市駅周辺の中心市街地が活性化するには、どのようなお店や施設、イベントなどの開催が必要だと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

駐車場の整備、空店舗の解消が上位

- ・ 八日市駅周辺の中心市街地が活性化するために必要なことは、「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が49.6%と最も多く、次いで「空店舗に新しい店が入る」が42.9%、「魚屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて楽しい商店街にする」が28.0%、「おしゃれな雑貨店が増える」が27.3%と続きます。
- ・ 性別では、男女ともに最も多いのは駐車場の整備ですが、女性は男性より「おしゃれな雑貨店が増える」、「マルシェなどのイベントを定期的を開催する」、「延命公園や清水川などの自然をいかして癒しの空間にする」などが多くあげられています。
- ・ 年代別では、10～20歳代と40歳代は「空店舗に新しい店が入る」が、30歳代と50歳以上は「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が最も多くなっています。そのほか、30歳代までで「おしゃれな雑貨店が増える」が、10～20歳代で「駅前や歩道等の空間をオープンカフェなどに活用する」が、70歳以上で「魚屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて楽しい商店街にする」が、30～40歳代で「マルシェなどのイベントを定期的を開催する」が、50～60歳代で「延命公園や清水川などの自然をいかして癒しの空間にする」がほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、南部地区、八日市地区、中野地区は「空店舗に新しい店が入る」が、そのほかの地区は「自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる」が最も多くなっています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	空店舗に新しい店が入る	おしゃれな雑貨店が増える	駅前や歩道等の空間を活用する	楽しい商店街にする	品屋、八百屋など生鮮品が並ぶ、歩いて	魚屋、八百屋など生鮮品を定期的に開催する	マルシェなどのイベントが入るビルやテナント	イベントホールやテナ	よう	自家用車で訪れやすい	観光客が地元の名産品	の自然をいかして癒しの空間にする	延命公園や清水川など	その他	無回答
男性	641	43.5	21.5	25.9	28.2	17.2	11.4	48.7	14.5	22.5	12.0	2.3				
女性	756	43.1	32.3	25.3	27.5	25.8	8.3	50.7	17.5	28.4	10.2	3.7				

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	空店舗に新しい店が入る	おしゃれな雑貨店が増える	駅前や歩道等の空間を活用する	楽しい商店街にする	品屋、八百屋など生鮮品が並ぶ、歩いて	魚屋、八百屋など生鮮品を定期的に開催する	マルシェなどのイベントが入るビルやテナ	イベントホールやテナ	よう	自家用車で訪れやすい	観光客が地元の名産品	の自然をいかして癒しの空間にする	延命公園や清水川など	その他	無回答
10歳代	29	58.6	41.4	37.9	17.2	13.8	10.3	31.0	6.9	17.2	0.0	0.0				
20歳代	101	43.6	40.6	36.6	18.8	24.8	14.9	36.6	6.9	21.8	11.9	0.0				
30歳代	167	51.5	40.7	29.3	26.9	36.5	16.2	52.1	15.0	25.1	10.2	0.0				
40歳代	231	46.8	31.6	27.7	22.5	35.1	8.2	45.0	17.7	23.8	14.3	0.9				
50歳代	213	46.5	28.6	25.8	25.4	24.4	12.2	50.2	20.7	30.5	14.1	1.9				
60歳代	311	39.9	23.2	23.8	26.4	18.0	8.7	56.3	15.1	28.6	11.9	3.2				
70歳以上	367	36.2	16.9	19.3	39.0	7.4	5.7	50.7	18.3	24.3	7.1	7.9				

【居住地区別】

単位:%

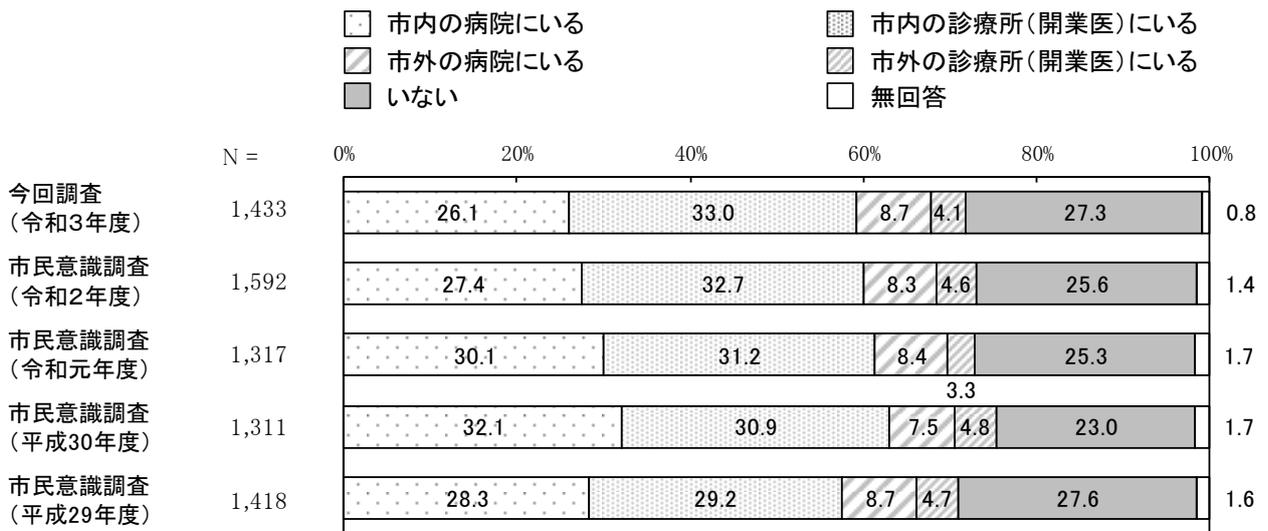
区分	有効回答数(件)	空店舗に新しい店が入る	おしゃれな雑貨店が増える	駅前や歩道等の空間を活用する	楽しい商店街にする	品屋、八百屋など生鮮品が並ぶ、歩いて	魚屋、八百屋など生鮮品を定期的に開催する	マルシェなどのイベントが入るビルやテナ	イベントホールやテナ	よう	自家用車で訪れやすい	観光客が地元の名産品	の自然をいかして癒しの空間にする	延命公園や清水川など	その他	無回答
平田地区	38	50.0	34.2	26.3	26.3	23.7	15.8	63.2	13.2	15.8	5.3	0.0				
市辺地区	57	49.1	29.8	28.1	24.6	22.8	10.5	54.4	14.0	33.3	14.0	0.0				
玉緒地区	65	43.1	21.5	20.0	20.0	20.0	9.2	55.4	18.5	26.2	10.8	3.1				
御園地区	85	47.1	28.2	25.9	34.1	28.2	17.6	57.6	20.0	36.5	9.4	4.7				
建部地区	31	64.5	32.3	35.5	35.5	32.3	9.7	58.1	19.4	29.0	16.1	0.0				
中野地区	88	47.7	28.4	20.5	34.1	15.9	9.1	44.3	20.5	28.4	10.2	1.1				
八日市地区	163	51.5	29.4	26.4	30.1	23.3	11.0	39.3	19.6	36.2	11.7	2.5				
南部地区	63	57.1	30.2	17.5	31.7	20.6	11.1	55.6	15.9	33.3	9.5	0.0				
永源寺地区	59	47.5	25.4	32.2	32.2	20.3	8.5	64.4	18.6	27.1	6.8	1.7				
五個荘地区	137	35.0	24.8	22.6	29.2	20.4	6.6	49.6	17.5	24.1	10.9	3.6				
愛東地区	53	34.0	28.3	24.5	28.3	22.6	7.5	43.4	18.9	11.3	7.5	0.0				
湖東地区	97	47.4	27.8	29.9	25.8	20.6	10.3	57.7	13.4	25.8	4.1	8.2				
能登川地区	335	33.7	24.5	25.1	23.9	20.6	9.0	43.3	11.6	19.7	14.6	5.4				
蒲生地区	138	38.4	31.2	26.1	29.0	22.5	8.0	52.9	19.6	23.9	10.9	2.9				
わからない	2	100.0	50.0	100.0	100.0	0.0	50.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0				

(3) 健康や福祉について

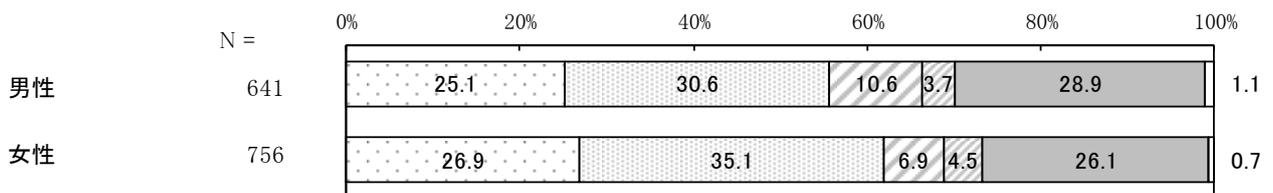
問 11 あなたには、日常的な診療や健康の管理をしてくれるお医者さん（かかりつけ医）はいますか。《○1つ》

6割近くが市内の病院や診療所にかかりつけ医がいる

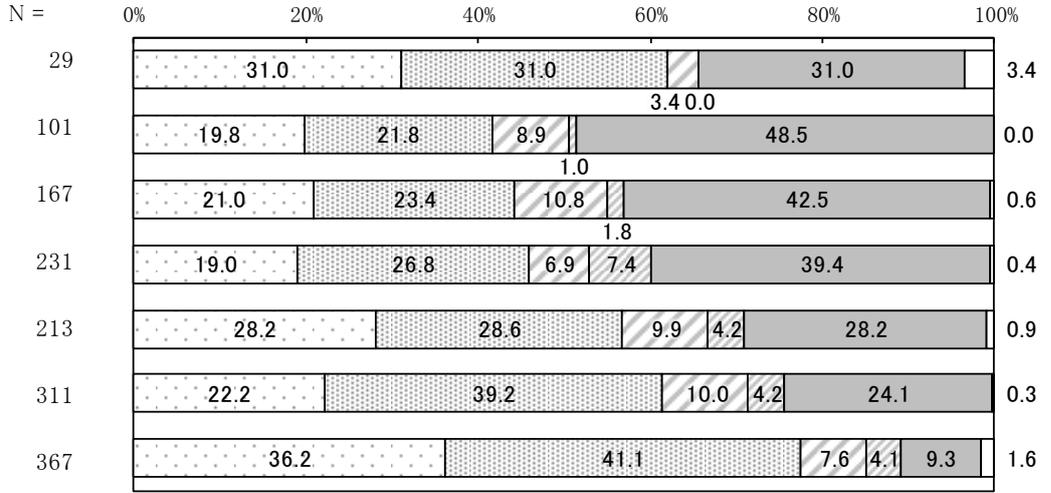
- ・ かかりつけ医がいるかどうかについては、「市内の診療所（開業医）にいる」が33.0%と最も多く、「市内の病院にいる」の26.1%と合わせると、59.1%が市内にいると回答しています。一方、「いない」と回答した人も27.3%と3割近くいます。
- ・ 過去の調査と比較すると、平成30年度以降、「市内の病院にいる」の割合がやや減少傾向、かかりつけ医がいない人の割合はやや増加傾向にあります。
- ・ 年代別では、50歳以上で市外も含めてかかりつけ医がいる人が多く、70歳以上は9割近く（市内が8割近く）となっています。一方、20歳代は半数近く、30～40歳代は4割前後がかかりつけ医が「いない」と回答しています。
- ・ 居住地区別では、市外も含めてかかりつけ医がいる人の割合は、永源寺地区と市辺地区で9割近く、平田地区、建部地区で8割前後と高くなっています。一方、八日市地区、中野地区、御園地区でかかりつけ医がいない人が多くみられます。また、蒲生地区、永源寺地区、平田地区でかかりつけ医が市外にいる人が2割以上とほかの地区より多くなっています。



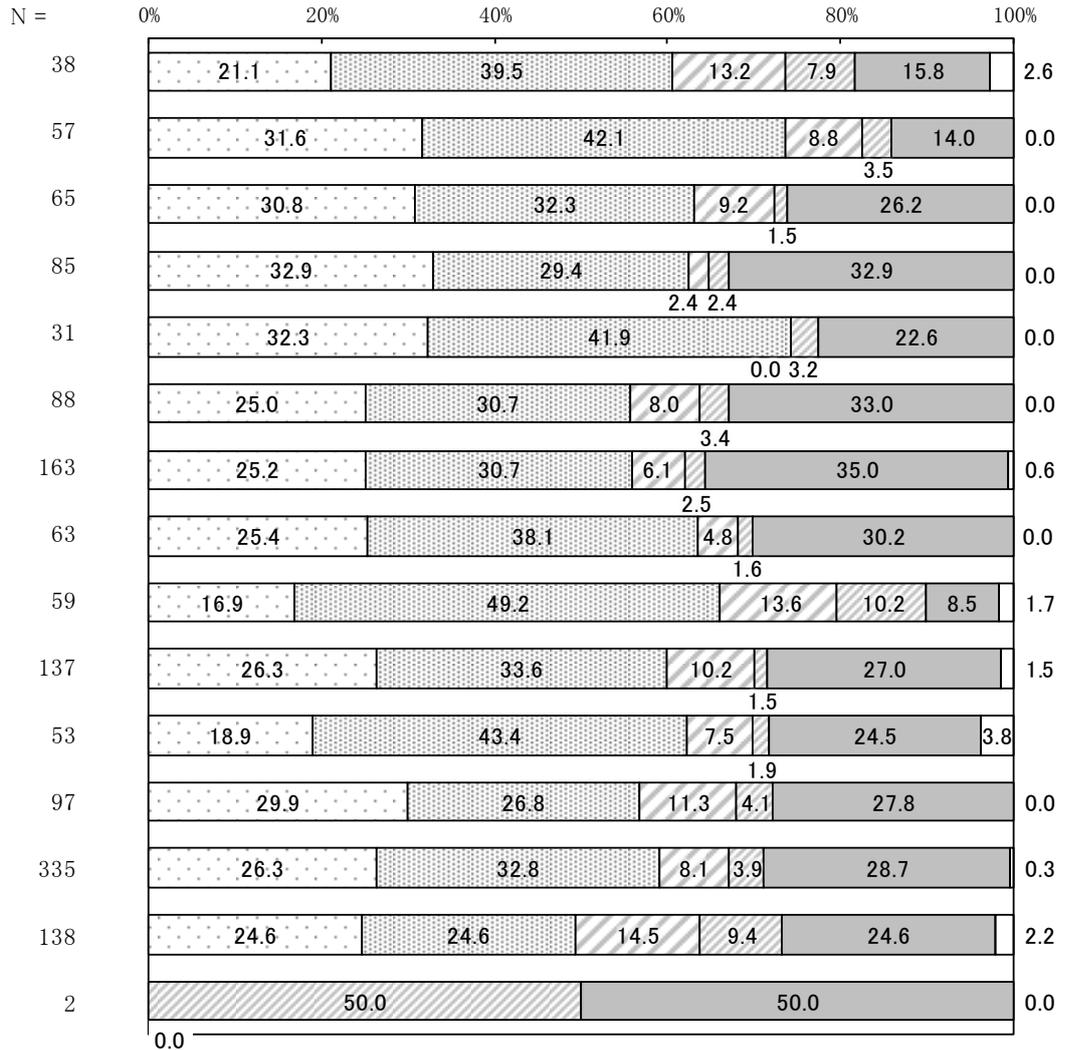
【性別】



【年代別】



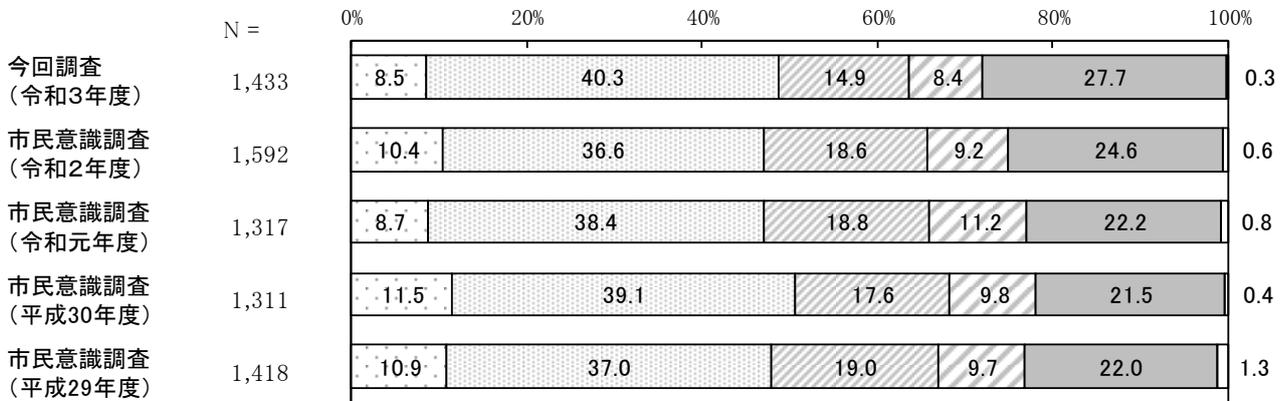
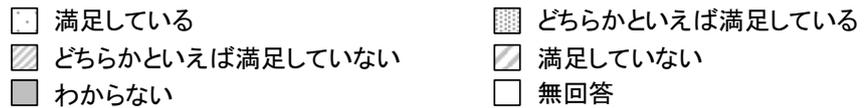
【居住地区別】



問 12 あなたは、病院や救急時の医療体制に満足していますか。《○1つ》

半数近くが満足、2割は満足していない

- ・ 病院や救急時の医療体制についての満足度については、「満足している」が8.5%、「どちらかといえば満足している」が40.3%で、これらを合わせると48.8%となり、半数近くの人が満足していると回答しています。一方、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」を合わせると23.3%で、2割となっています。また、「わからない」と回答した人も27.7%と3割近くいます。
- ・ 過去の調査と比較すると、令和元年度以降、不満（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合が減少する一方で、「わからない」の割合が増加しています。
- ・ 年代別では、すべての年代で満足（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合が不満（前述）より高くなっています。特に、60歳以上で満足（前述）の割合が高く、60歳代で半数、70歳以上では6割を超えています。一方、年齢が若いほど「わからない」の割合が増加する傾向がみられます。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、市辺地区、建部地区で満足（前述）の割合が高く、蒲生地区で不満（前述）の割合がほかの地区より高くなっています。

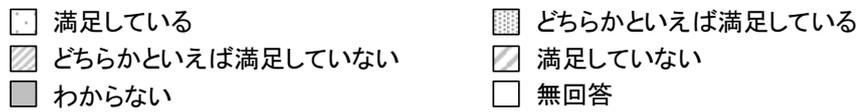


単位：%

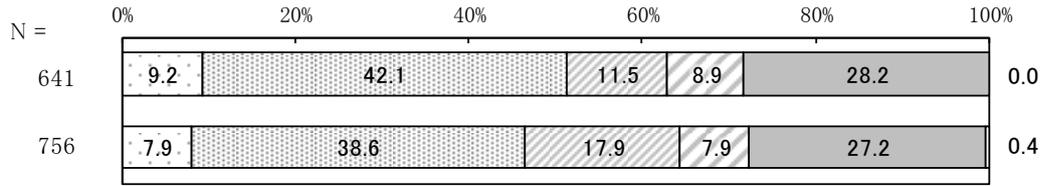
	満足*	不満*	差
①今回調査(令和3年度)	48.8	23.3	25.5
②市民意識調査(令和2年度)	47.0	27.8	19.2
③市民意識調査(令和元年度)	47.1	30.0	17.1
④市民意識調査(平成30年度)	50.6	27.4	23.2
⑤市民意識調査(平成29年度)	47.9	28.7	19.2
①-⑤	0.9	-5.4	6.3

* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

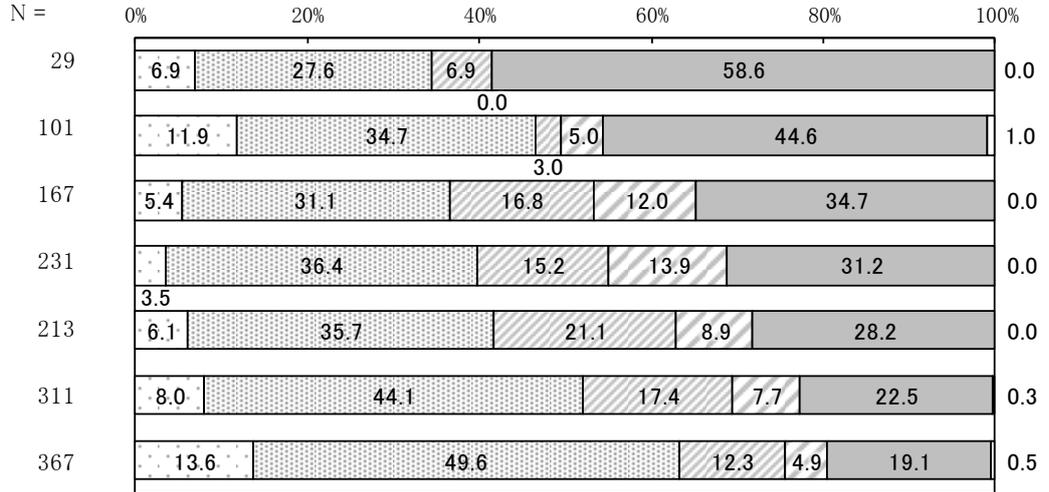
* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計



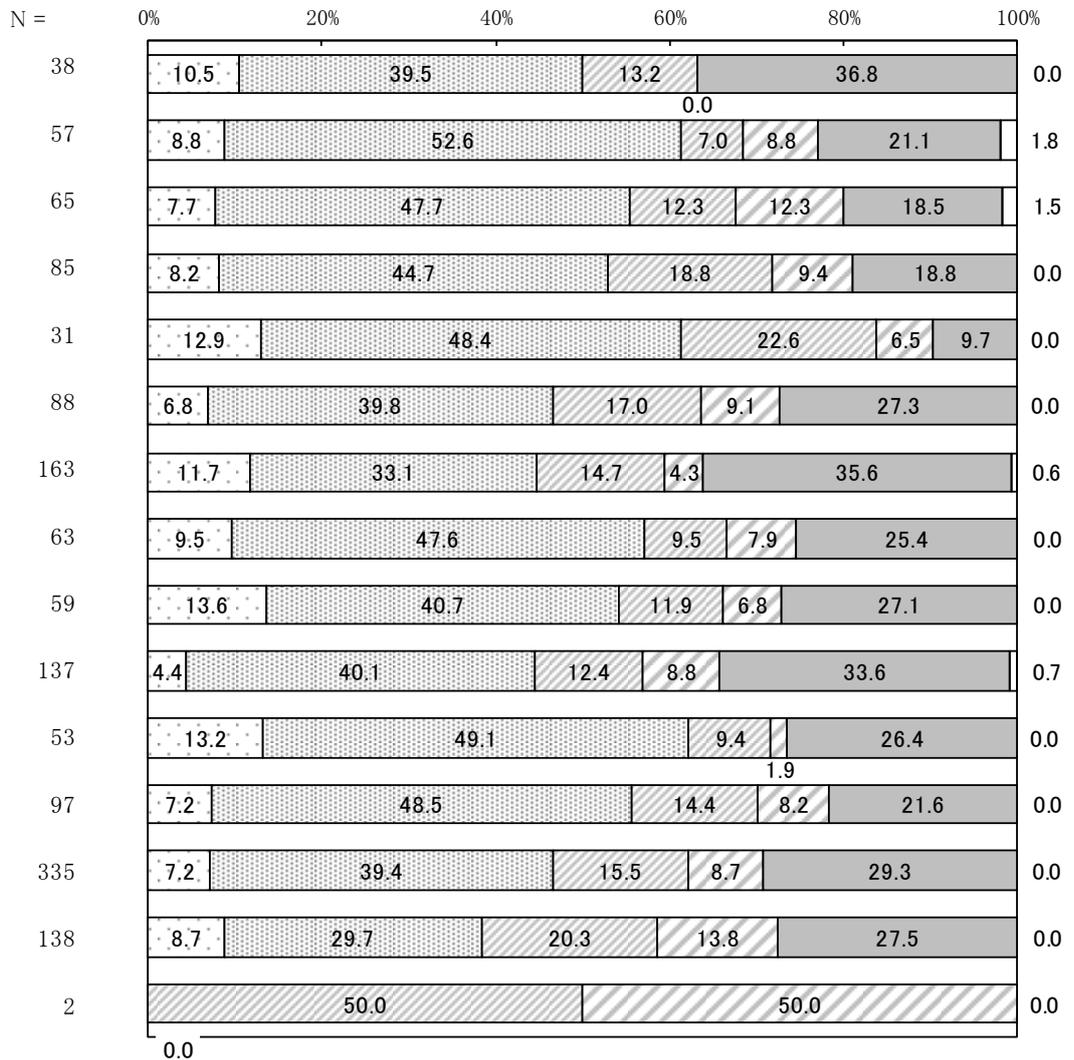
【性別】



【年代別】



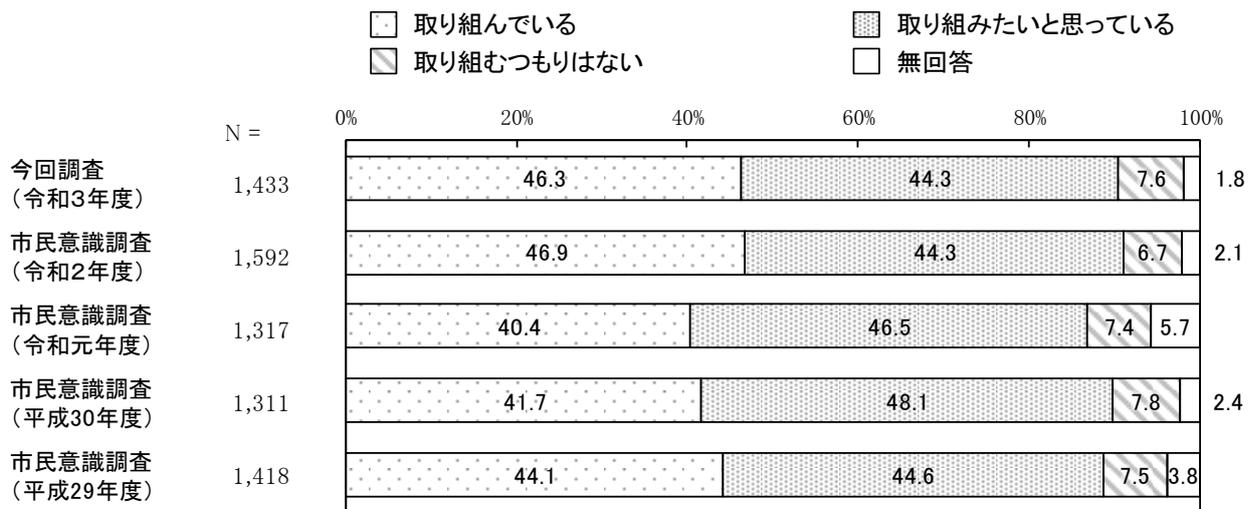
【居住地区別】



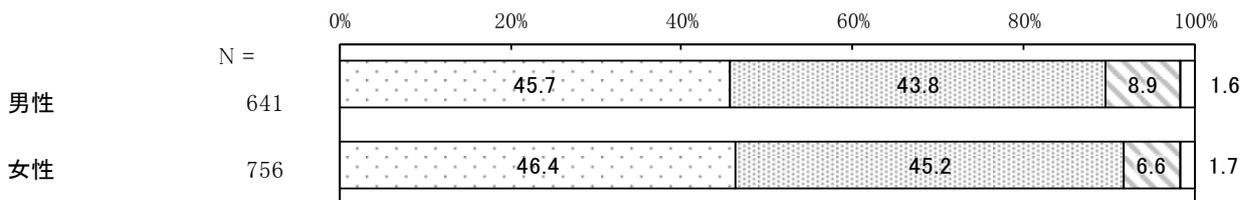
問 13 あなたは、自分の健康づくりのために何か取り組んでいますか。《○1つ》

半数近くが健康づくりを実践、取り組みたいを合わせると9割に

- ・ 自分の健康づくりのために何か取り組んでいるかについては、「取り組んでいる」が46.3%と最も多く、次の「取り組みたいと思っている」の44.3%を合わせると90.6%となり、9割の人が関心を持っていることが分かります。
- ・ 過去の調査と比較すると、減少傾向にあった、自分の健康づくりのために何か「取り組んでいる」と回答した人の割合が、令和2年度以降増加し、半数近くとなっています。
- ・ 年代別では10歳代と60歳以上で、居住地区別では蒲生地区、建部地区、五個荘地区、八日市地区、平田地区で、自分の健康づくりのために何か「取り組んでいる」人が多くみられます。

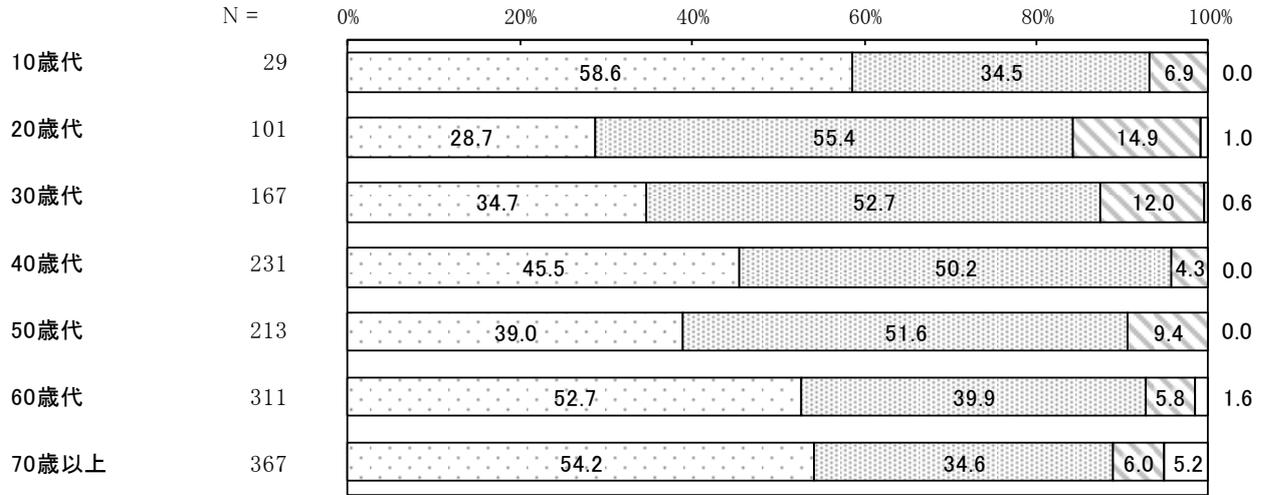


【性別】

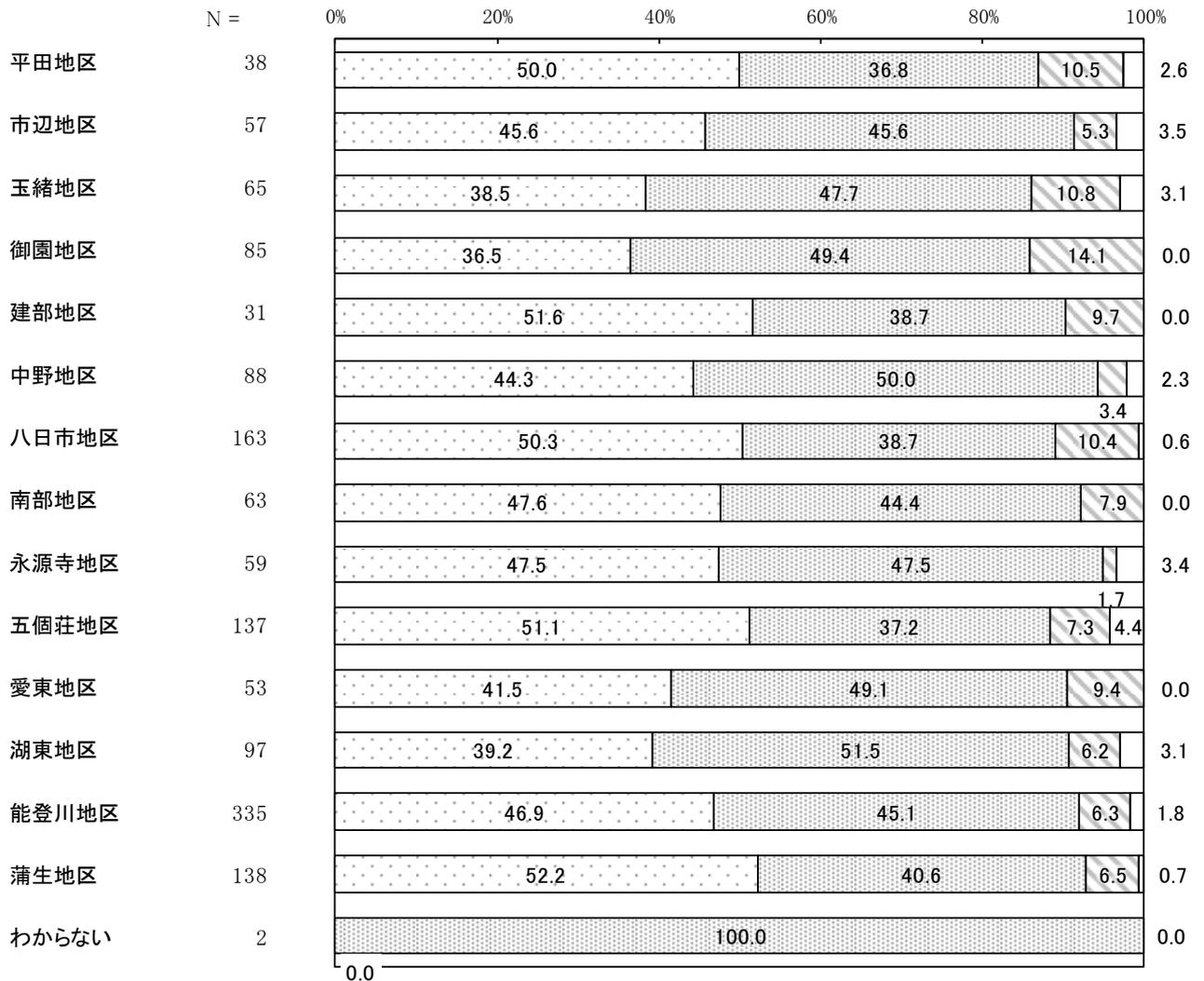


【年代別】

取り組んでいる 取り組みたいと思っている
 取り組むつもりはない 無回答



【居住地区別】

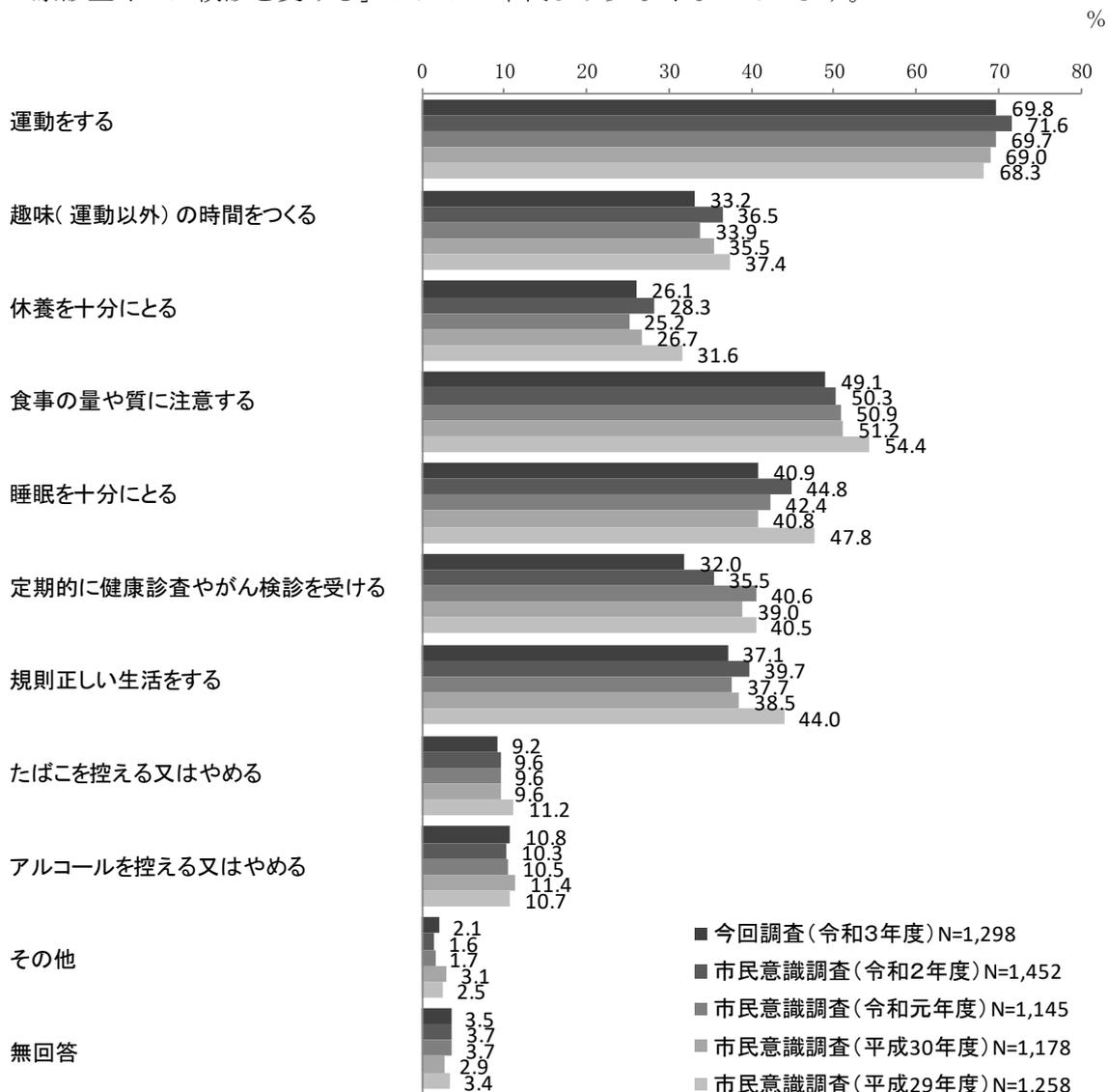


問 13-1 問 13 で「1. 取り組んでいる」「2. 取り組みたいと思っている」とお答えの方におたずねします。

具体的にどのような取組をしていますか、又は取り組みたいと思っていますか。《あてはまるものすべてに○》

「運動をする」、「食事の量や質に注意する」、「睡眠を十分にとる」が上位

- ・ 実際に取り組んでいる（取り組みたい）こととしては、「運動をする」が 69.8%と最も多く、次いで「食事の量や質に注意する」が 49.1%、「睡眠を十分にとる」が 40.9%、「規則正しい生活をする」が 37.1%、「趣味（運動以外）の時間をつくる」が 33.2%、「定期的に健康診査やがん検診を受ける」が 32.0%と続きます。
- ・ 性別では、男女ともに「運動をする」が最も多くなっていますが、女性は規則正しい生活や食事、定期健診の受診などをあげる人が男性より多く、男性は禁煙や禁酒などが女性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、すべての年齢で「運動をする」が最も多くなっていますが、特に 10 歳代で 8 割みられます。そのほか、20～30 歳代で「休養を十分にとる」が、10～30 歳代で「睡眠を十分にとる」が、40 歳以上で「定期的に健康診査やがん検診を受ける」が、60 歳以上で「趣味（運動以外）の時間をつくる」がほかの年代より多くなっています。一方、10～20 歳代で「定期的に健康診査やがん検診を受ける」がほかの年代より少なくなっています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	運動をする	の趣味(運動以外)の時間をつくる	休養を十分にとる	る食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	ん定期的に健康診査やが	規則正しい生活をする	めるたばこを控える又はやめる	はアルコールを控える又はやめる	その他	無回答
男性	574	69.0	32.8	25.6	43.7	38.5	26.0	29.1	16.0	16.6	1.7	3.5
女性	693	70.7	33.2	26.4	53.5	42.9	37.1	43.1	3.5	6.1	2.3	3.6

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	運動をする	の趣味(運動以外)の時間をつくる	休養を十分にとる	る食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	ん定期的に健康診査やが	規則正しい生活をする	めるたばこを控える又はやめる	はアルコールを控える又はやめる	その他	無回答
10歳代	27	81.5	18.5	29.6	37.0	51.9	0.0	37.0	3.7	3.7	0.0	3.7
20歳代	85	74.1	28.2	43.5	44.7	49.4	18.8	41.2	7.1	9.4	1.2	2.4
30歳代	146	74.0	34.2	36.3	53.4	48.6	22.6	38.4	11.6	16.4	1.4	0.7
40歳代	221	72.4	25.8	24.0	48.9	39.4	35.7	28.1	10.0	13.1	0.0	4.1
50歳代	193	67.4	27.5	28.5	48.7	44.6	32.1	28.5	10.9	9.8	1.6	3.6
60歳代	288	69.1	39.6	22.9	47.9	36.5	36.8	38.9	9.0	9.0	2.4	4.5
70歳以上	326	66.3	38.0	19.3	50.3	37.1	35.6	45.7	8.3	9.5	4.3	4.0

【居住地区別】

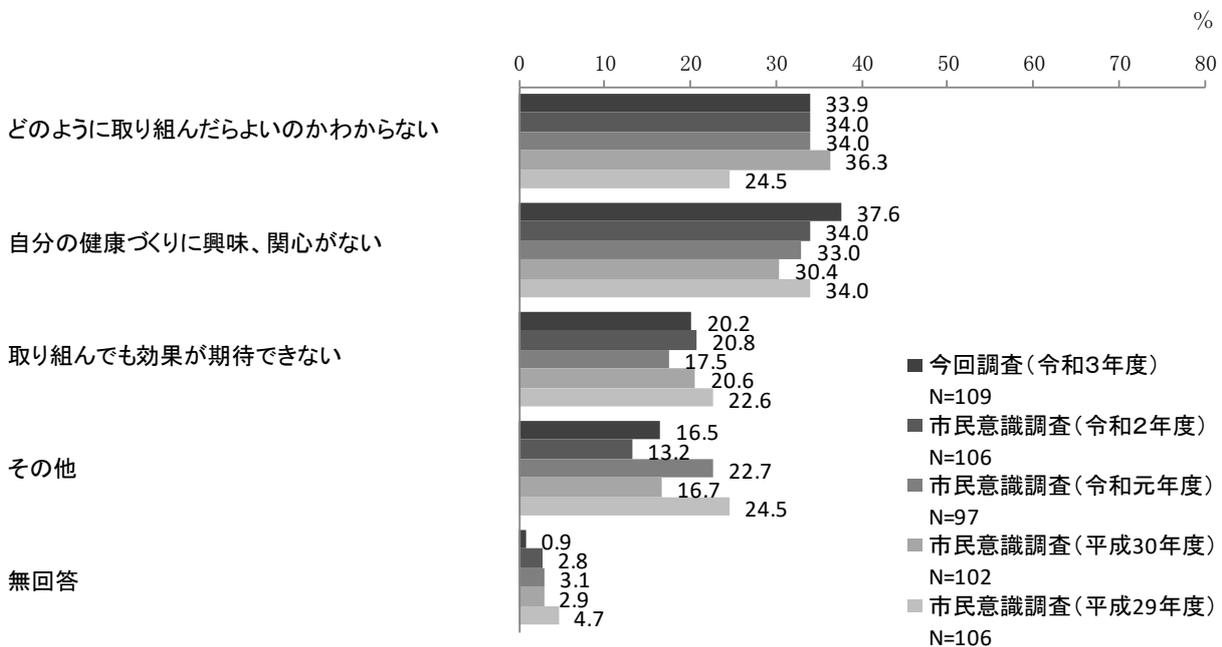
単位:%

区分	有効回答数(件)	運動をする	の趣味(運動以外)の時間をつくる	休養を十分にとる	る食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	ん定期的に健康診査やが	規則正しい生活をする	めるたばこを控える又はやめる	はアルコールを控える又はやめる	その他	無回答
平田地区	33	78.8	18.2	24.2	45.5	45.5	27.3	27.3	0.0	6.1	0.0	6.1
市辺地区	52	71.2	46.2	26.9	55.8	48.1	36.5	38.5	9.6	15.4	1.9	1.9
玉緒地区	56	76.8	33.9	21.4	41.1	33.9	30.4	33.9	19.6	14.3	1.8	5.4
御園地区	73	65.8	42.5	34.2	45.2	43.8	32.9	43.8	13.7	12.3	8.2	4.1
建部地区	28	78.6	32.1	32.1	64.3	42.9	39.3	53.6	3.6	10.7	7.1	3.6
中野地区	83	71.1	27.7	18.1	37.3	30.1	19.3	33.7	7.2	14.5	1.2	4.8
八日市地区	145	69.7	35.9	31.7	55.2	47.6	25.5	42.8	8.3	9.7	2.8	1.4
南部地区	58	72.4	32.8	20.7	56.9	36.2	44.8	51.7	12.1	15.5	0.0	5.2
永源寺地区	56	76.8	28.6	21.4	35.7	44.6	37.5	39.3	14.3	14.3	3.6	5.4
五個荘地区	121	67.8	33.1	24.8	52.9	34.7	33.1	35.5	7.4	11.6	1.7	2.5
愛東地区	48	60.4	33.3	27.1	47.9	37.5	33.3	29.2	2.1	2.1	0.0	4.2
湖東地区	88	71.6	34.1	20.5	44.3	42.0	31.8	31.8	11.4	13.6	2.3	4.5
能登川地区	308	67.9	32.8	26.3	50.0	42.2	38.0	35.4	8.4	9.7	1.6	3.2
蒲生地区	128	68.0	29.7	28.9	49.2	41.4	23.4	35.9	10.9	7.0	0.8	3.9
わからない	2	50.0	50.0	100.0	100.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 13-2 問 13 で「3. 取り組むつもりはない」とお答えの方におたずねします。
その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

取り組むつもりがない理由は、「自分の健康づくりに興味、関心がない」、「どのように取り組んだらよいかわからない」が上位

- ・ 自分の健康づくりに取り組むつもりはない人の理由としては、「自分の健康づくりに興味、関心がない」が 37.6% と最も多く、次いで「どのように取り組んだらよいかわからない」が 33.9%、「取り組んでも効果が期待できない」が 20.2%、「その他」が 16.5% となっています。
- ・ 性別では、男性は「自分の健康づくりに興味、関心がない」、女性は「どのように取り組んだらよいかわからない」を理由にあげる人が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、有効回答数が少ないため単純比較はできませんが、50 歳代は「どのように取り組んだらよいかわからない」、40 歳代までと 60 歳代は「自分の健康づくりに興味、関心がない」、70 歳以上は「取り組んでも効果が期待できない」を理由にあげる人が最も多くなっています。



【性別】

単位: %

区分	有効回答数(件)	どのように取り組んだらよいかわからない	自分の健康づくりに興味、関心がない	取り組んでも効果が期待できない	その他	無回答
男性	57	28.1	49.1	17.5	14.0	0.0
女性	50	42.0	26.0	22.0	18.0	2.0

【年代別】

単位: %

区 分	有効回答数 (件)	ら ど の よ う の か わ か ら ず 組 ん だ	味 自 、 分 関 の 健 心 康 が づ な い くり に 興	待 取 で り 組 ん だ も も 効 果 が 期	そ の 他	無 回 答
10歳代	2	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	15	40.0	53.3	6.7	6.7	0.0
30歳代	20	35.0	40.0	10.0	15.0	0.0
40歳代	10	30.0	40.0	30.0	10.0	0.0
50歳代	20	45.0	40.0	5.0	20.0	0.0
60歳代	18	27.8	44.4	22.2	22.2	0.0
70歳以上	22	27.3	13.6	40.9	22.7	4.5

【居住地区別】

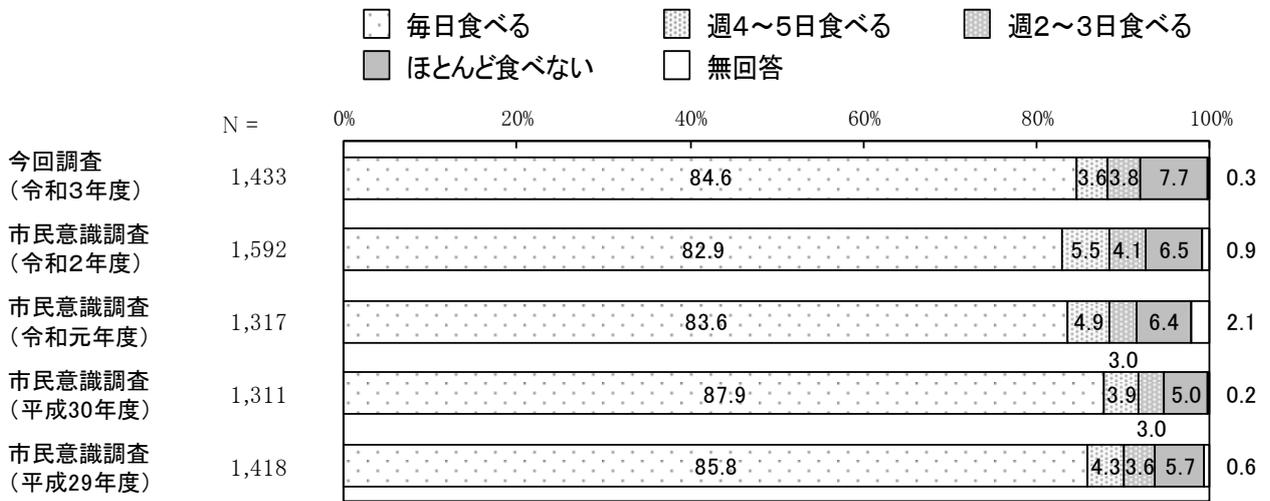
単位: %

区 分	有効回答数 (件)	ら ど の よ う の か わ か ら ず 組 ん だ	味 自 、 分 関 の 健 心 康 が づ な い くり に 興	待 取 で り 組 ん だ も も 効 果 が 期	そ の 他	無 回 答
平田地区	4	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0
市辺地区	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
玉緒地区	7	0.0	71.4	28.6	0.0	0.0
御園地区	12	25.0	41.7	41.7	16.7	0.0
建部地区	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
中野地区	3	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0
八日市地区	17	41.2	47.1	5.9	17.6	0.0
南部地区	5	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0
永源寺地区	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
五個荘地区	10	50.0	10.0	20.0	30.0	0.0
愛東地区	5	80.0	40.0	0.0	20.0	0.0
湖東地区	6	16.7	50.0	16.7	16.7	0.0
能登川地区	21	42.9	42.9	14.3	9.5	0.0
蒲生地区	9	11.1	33.3	22.2	33.3	0.0
わからない	0	-	-	-	-	-

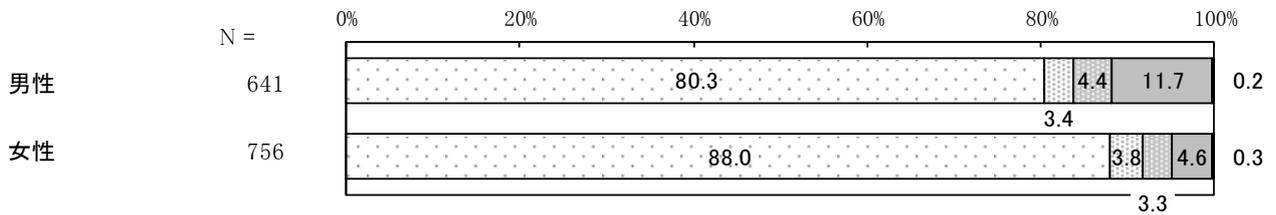
問 14 あなたは、朝食を食べていますか。《○1つ》

8割が朝食は「毎日食べる」

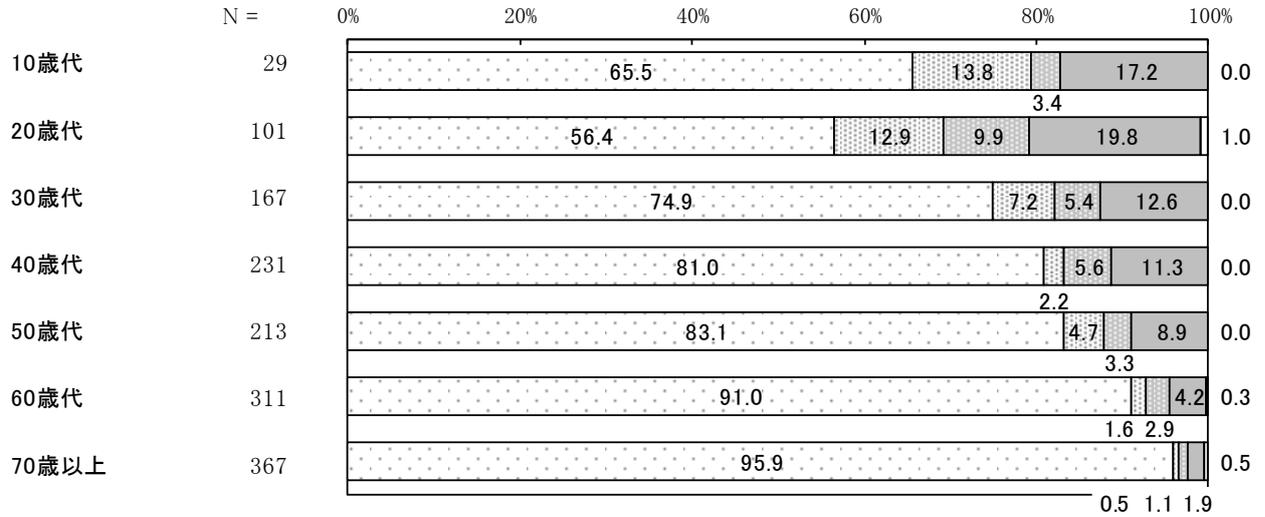
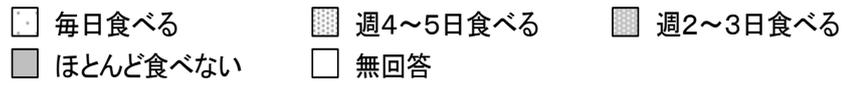
- ・ 朝食を食べているかについては、「毎日食べる」と回答した人が 84.6%と、8割以上となっています。次いで、「ほとんど食べない」が 7.7%、「週2～3日食べる」が 3.8%、「週4～5日食べる」が 3.6%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、朝食を毎日食べる人の割合は、今年度やや増加しましたが、平成30年度の9割近くをピークに減少しています。
- ・ 性別では女性が、年代別では60歳以上で、居住地区別では湖東地区、永源寺地区、平田地区、市辺地区、御園地区で、9割前後の人が朝食を毎日食べています（60歳以上、湖東地区は9割以上）。



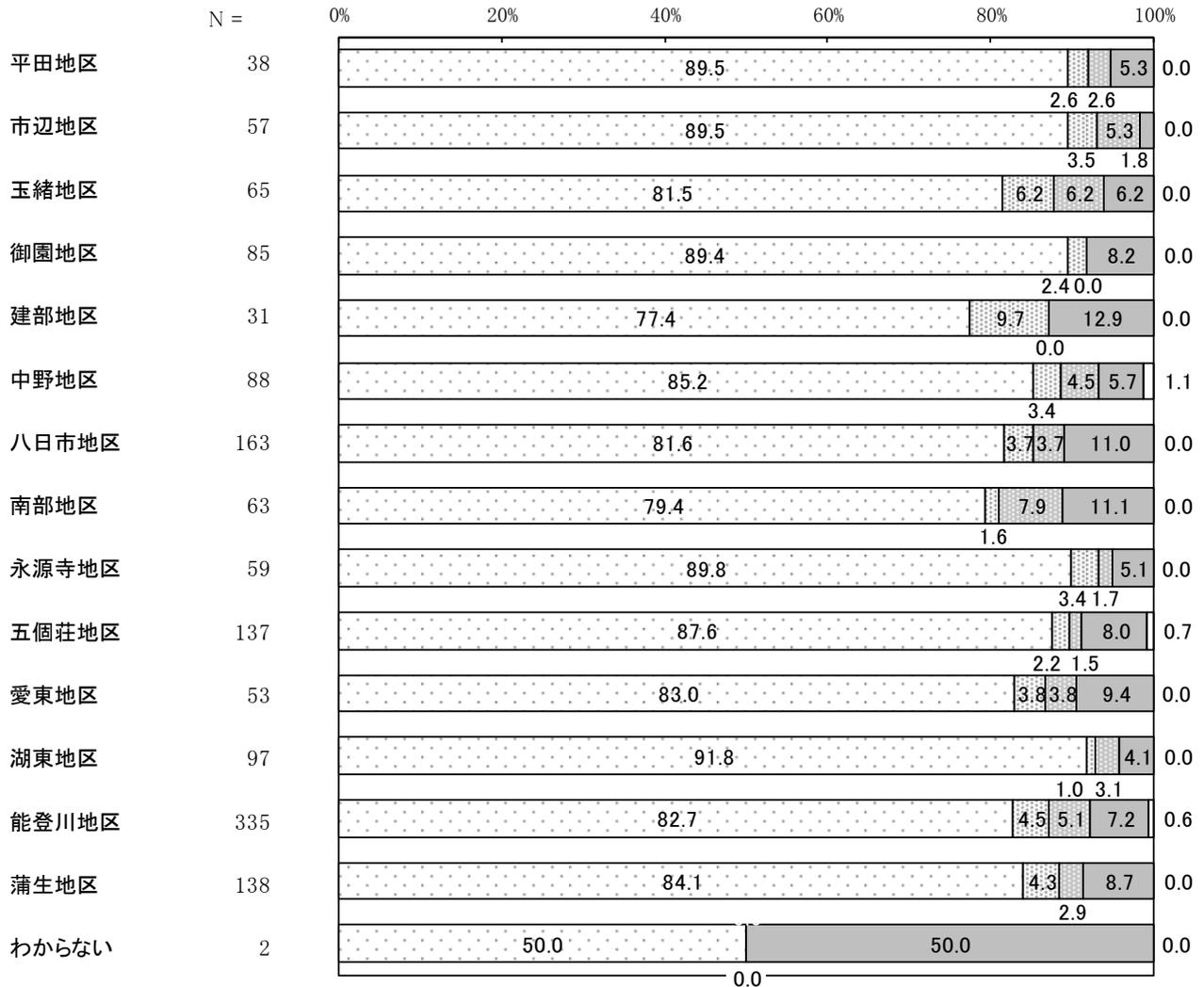
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

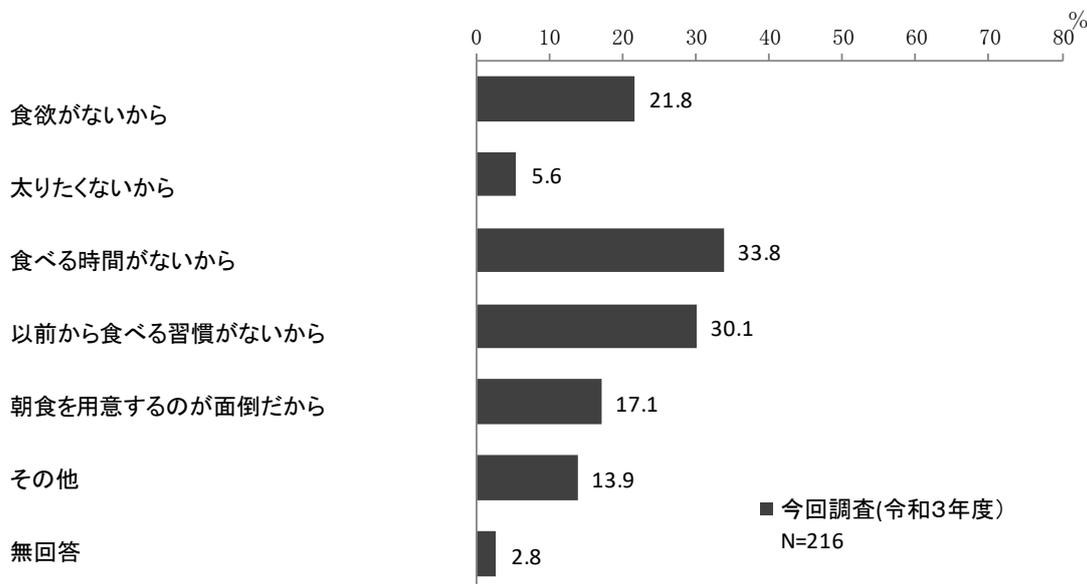


問 14-1 問 14 で「2. 週 4～5 日食べる」「3. 週 2～3 日食べる」「4. ほとんど食べない」とお答えの方におたずねします。

食べない日がある理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

朝食を食べない理由は、時間がない、食べる習慣がないなど

- ・ 朝食を食べない日がある方にその理由を聞いたところ、「食べる時間がないから」が 33.8%と最も多く、次いで「以前から食べる習慣がないから」が 30.1%、「食欲がないから」が 21.8%、「朝食を用意するのが面倒だから」が 17.1%と続きます。
- ・ 性別では、男女ともに「食べる時間がないから」が最も多くあげられていますが、男性は女性より「以前から食べる習慣がないから」、女性は男性より「朝食を用意するのが面倒だから」が多くみられます。
- ・ 年代別では、有効回答数が少ないため単純比較はできませんが、40 歳代までの比較的若い世代は「食べる時間がないから」、50 歳以上は「以前から食べる習慣がないから」が最も多くなっています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数 (件)	食欲がないから	太りたくないから	食べる時間がないから	以前から食べる習慣がないから	朝食を用意するのが面倒だから	その他	無回答
男性	125	21.6	4.0	35.2	33.6	15.2	12.0	3.2
女性	89	21.3	7.9	31.5	24.7	20.2	15.7	2.2

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数 (件)	食欲がないから	太りたくないから	食べる時間がないから	以前から食べる習慣がないから	朝食を用意するのが面倒だから	その他	無回答
10歳代	10	30.0	10.0	30.0	0.0	30.0	10.0	20.0
20歳代	43	23.3	4.7	46.5	18.6	18.6	14.0	0.0
30歳代	42	21.4	2.4	40.5	38.1	23.8	14.3	0.0
40歳代	44	25.0	6.8	36.4	31.8	9.1	2.3	6.8
50歳代	36	16.7	8.3	27.8	33.3	16.7	25.0	0.0
60歳代	27	25.9	3.7	22.2	40.7	11.1	11.1	3.7
70歳以上	13	7.7	7.7	7.7	30.8	23.1	23.1	0.0

【居住地区別】

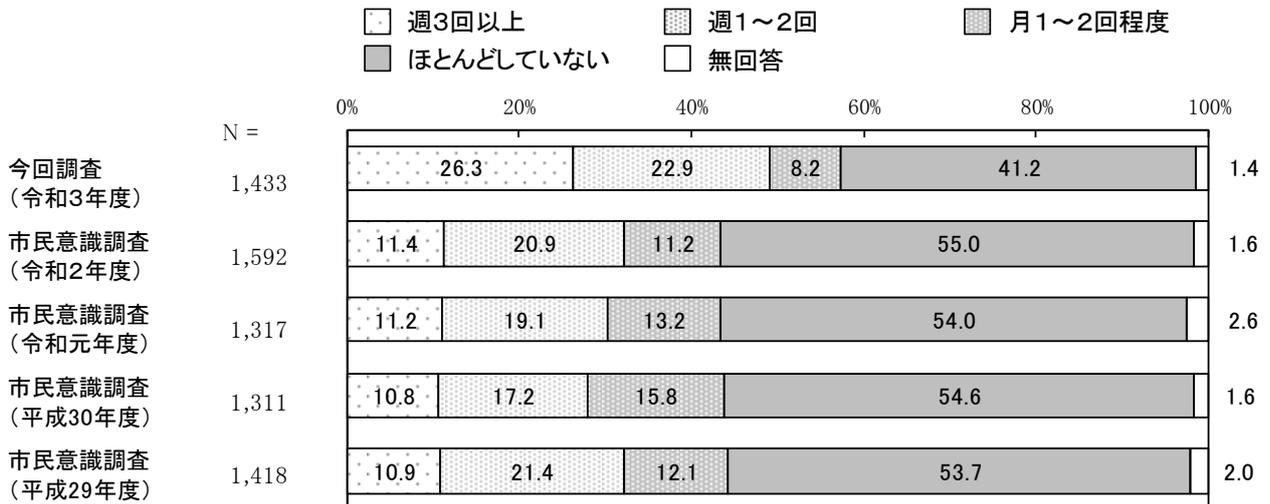
単位:%

区分	有効回答数 (件)	食欲がないから	太りたくないから	食べる時間がないから	以前から食べる習慣がないから	朝食を用意するのが面倒だから	その他	無回答
平田地区	4	50.0	0.0	75.0	25.0	25.0	0.0	0.0
市辺地区	6	50.0	0.0	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0
玉緒地区	12	8.3	0.0	33.3	33.3	0.0	25.0	0.0
御園地区	9	22.2	0.0	22.2	33.3	22.2	11.1	11.1
建部地区	7	14.3	0.0	42.9	14.3	14.3	28.6	0.0
中野地区	12	25.0	0.0	33.3	25.0	8.3	8.3	8.3
八日市地区	30	20.0	10.0	36.7	26.7	20.0	16.7	0.0
南部地区	13	15.4	0.0	30.8	53.8	38.5	7.7	7.7
永源寺地区	6	16.7	16.7	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0
五個荘地区	16	12.5	6.3	31.3	31.3	18.8	12.5	0.0
愛東地区	9	22.2	0.0	22.2	33.3	33.3	0.0	0.0
湖東地区	8	0.0	25.0	50.0	25.0	12.5	12.5	0.0
能登川地区	56	23.2	8.9	26.8	26.8	19.6	14.3	1.8
蒲生地区	22	27.3	0.0	40.9	36.4	4.5	18.2	4.5
わからない	1	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0

問 15 あなたは、スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っていますか。(運動には、散歩やラジオ体操といった簡単に体を動かすものも含まれます。)《○1つ》

週1回以上運動している人は半数近く

- ・ スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っているかについては、「ほとんどしていない」が41.2%と最も多く、4割を占めています。次いで、「週3回以上」が26.3%、「週1～2回」が22.9%、「月1～2回程度」が8.2%と続きます。週1回以上運動をしている人は49.2%と半数近くとなっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、設問の内容を見直したことから、特に「週3回以上」が1割から3割近くに急増し、週1回以上運動をしている人の割合も3割から半数近くへ大きく増加しました。
- ・ 週1回以上運動をしている人の割合は、性別では女性で、年代別では10歳代と60歳以上で、居住地区別では建部地区で高くなっています。
- ・ 一方、スポーツやレクリエーション等の運動をほとんどしていない人は、年代別では20～50歳代で半数近く、居住地区別では愛東地区で6割近く、湖東地区、御園地区、玉緒地区で半数前後となっています。



※令和2年度までは、設問の括弧書き(運動の定義)なし。

単位：%

	週1回以上運動をしている*	ほとんどしていない
①今回調査(令和3年度)	49.2	41.2
②市民意識調査(令和2年度)	32.3	55.0
③市民意識調査(令和元年度)	30.3	54.0
④市民意識調査(平成30年度)	28.0	54.6
⑤市民意識調査(平成29年度)	32.3	53.7
①～⑤	16.9	-12.5

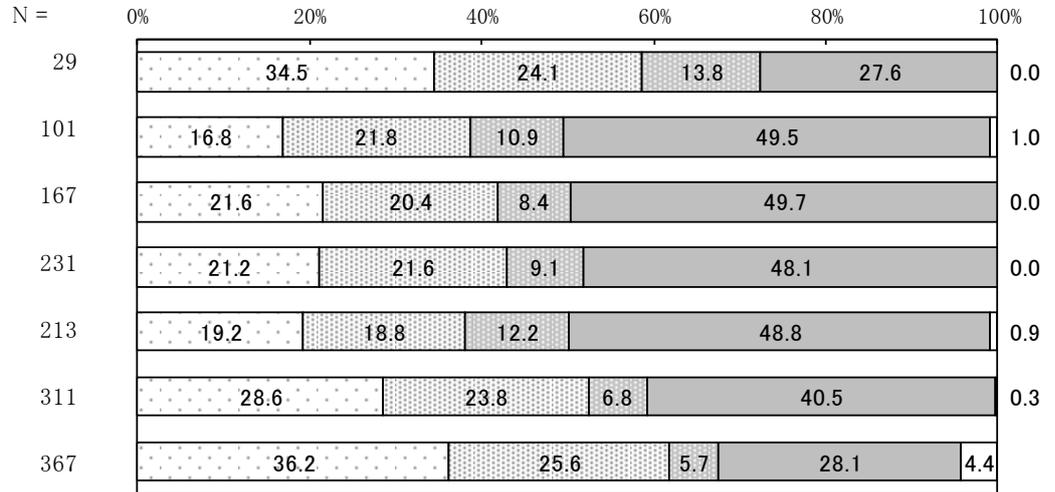
* 週1回以上運動をしている:「週3回以上」と「週1～2回」の合計

週3回以上
 週1~2回
 月1~2回程度
 ほとんどしていない
 無回答

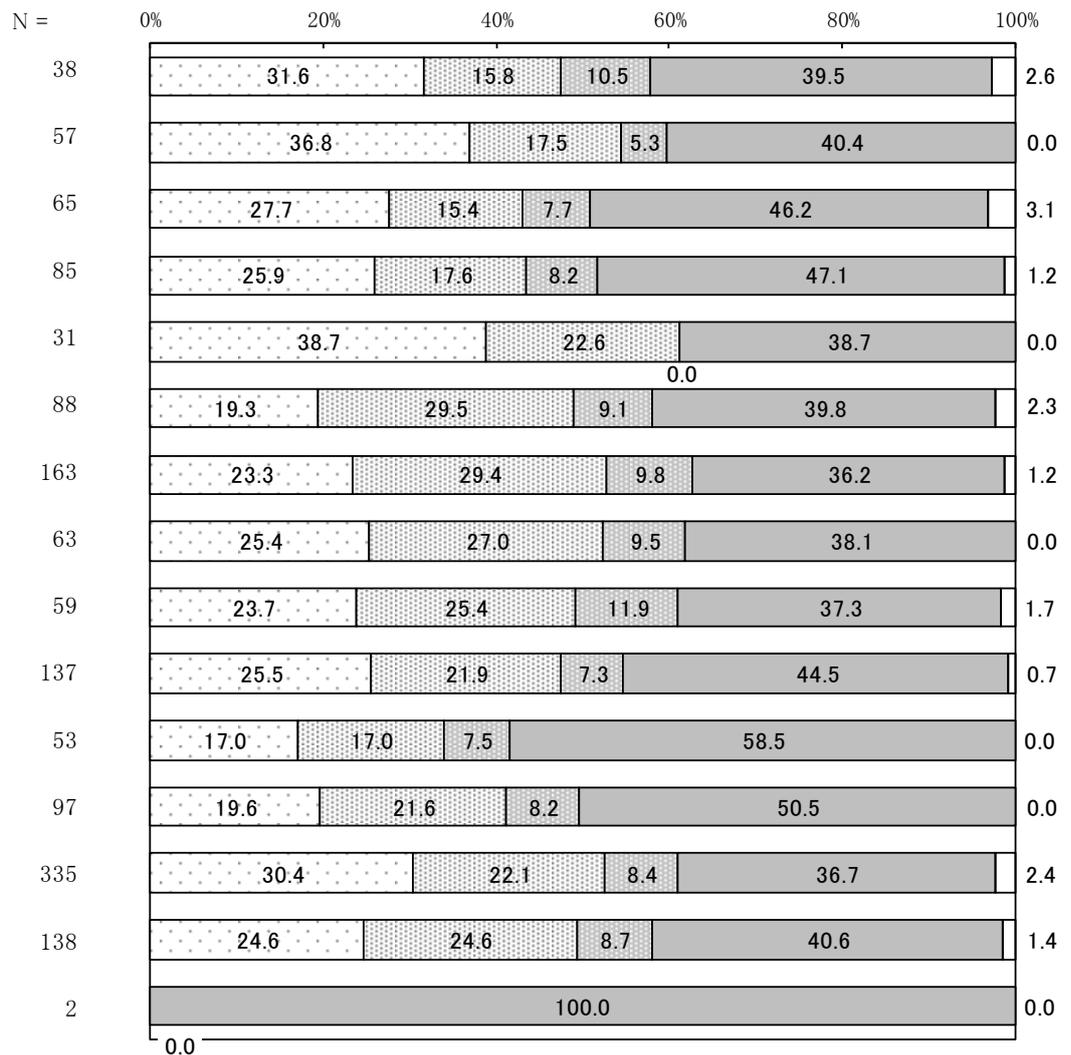
【性別】



【年代別】



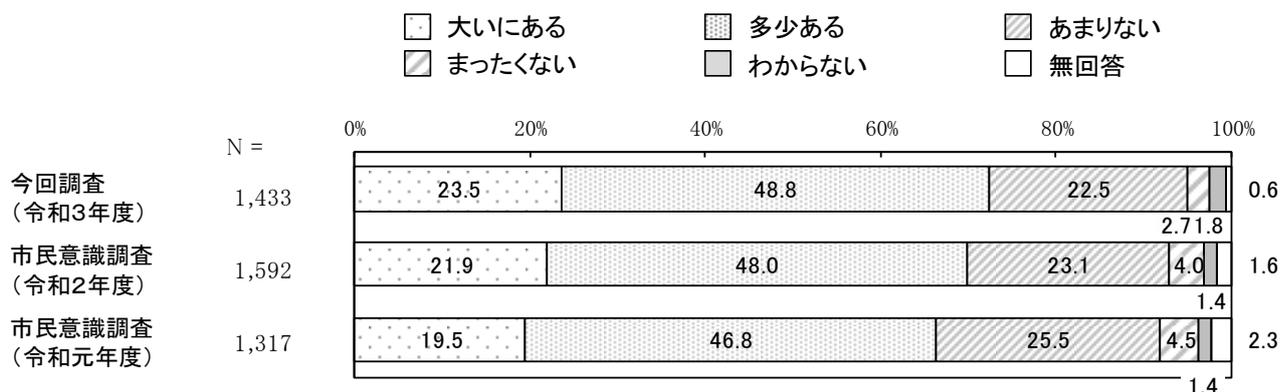
【居住地区別】



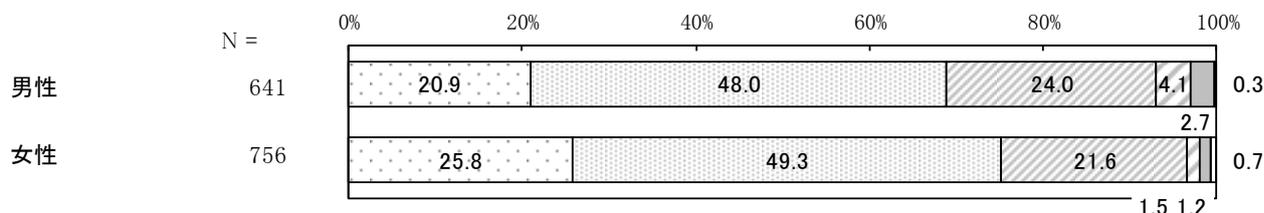
問 16 あなたはこの1箇月間に、不安、悩み、ストレスを感じましたか。《○1つ》

7割が不安、悩み、ストレスを感じている

- この1箇月間に、不安、悩み、ストレスを感じたかどうかについては、「大いにある」が23.5%、「多少ある」が48.8%で、合わせて72.3%と7割の人が不安、悩み、ストレスを感じたと回答しています。一方、「あまりない」と「まったくない」を合わせると25.2%で、3割近くの人が感じていないと回答しています。
- 過去の調査と比較すると、不安、悩み、ストレスを感じたと回答した人の割合は、年々増加しています。
- 性別では、女性は7割以上が不安、悩み、ストレスを感じている（「大いにある」と「多少ある」の合計）のに対し、男性は3割近くが感じていない（「あまりない」と「まったくない」の合計）と回答しています。
- 年代別では、30～50歳代で不安、悩み、ストレスを感じている人（前述）が8割前後いるのに対し、10歳代と60歳代で3割前後、70歳以上で4割近くが感じていない（前述）と回答しています。
- 居住地区別では、建部地区、愛東地区、中野地区、湖東地区、南部地区、五個荘地区で8割前後が不安、悩み、ストレスを感じている（前述）のに対し、特に平田地区で4割近くが感じていない（前述）と回答しています。

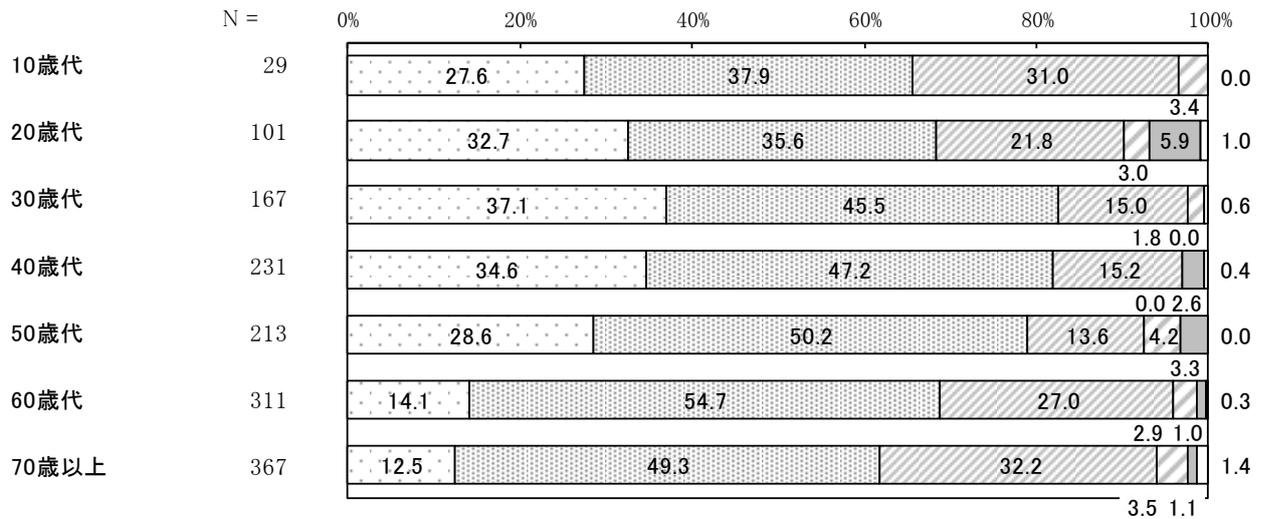


【性別】

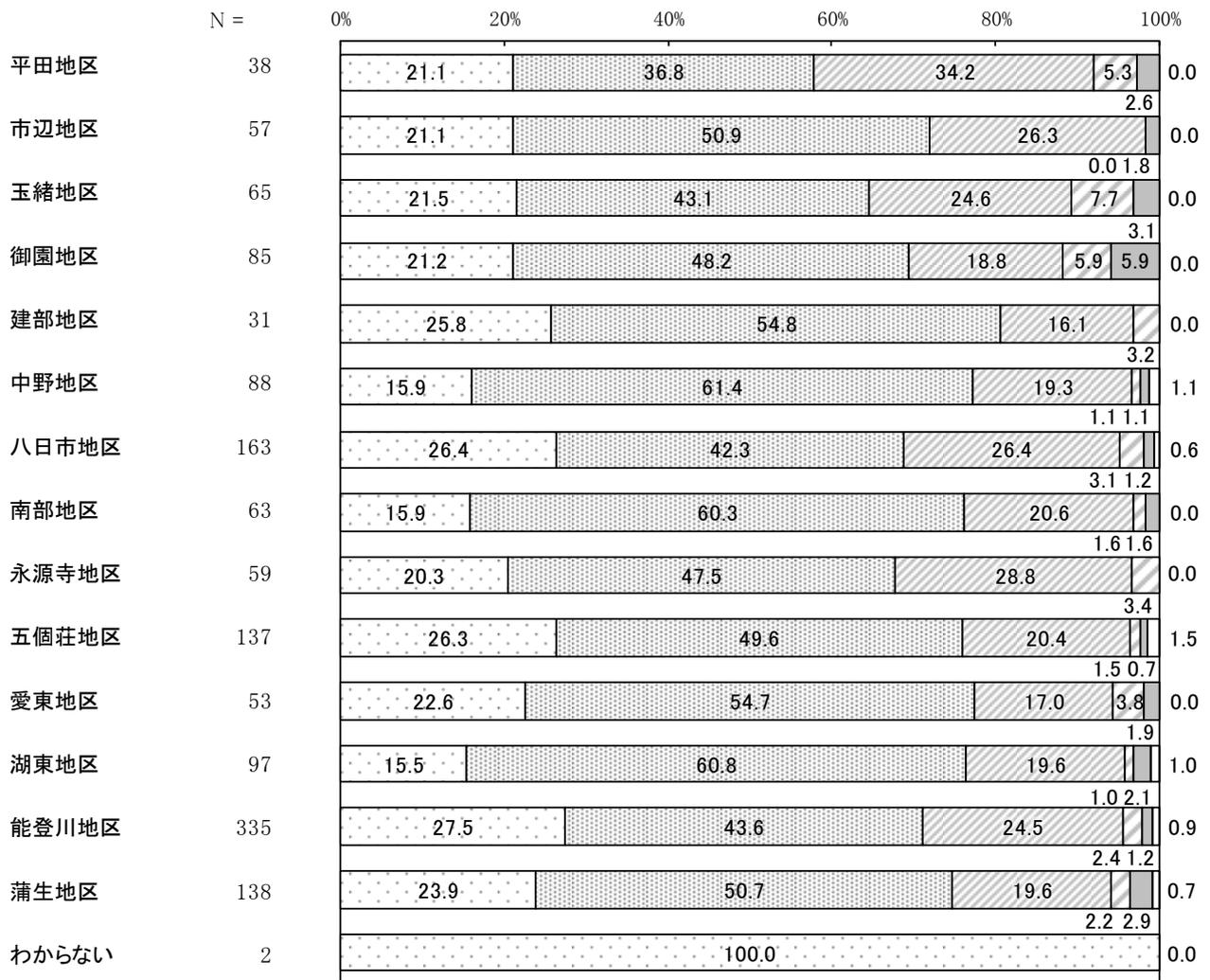


【年代別】

大いにある 多少ある あまりない
 まったくない わからない 無回答



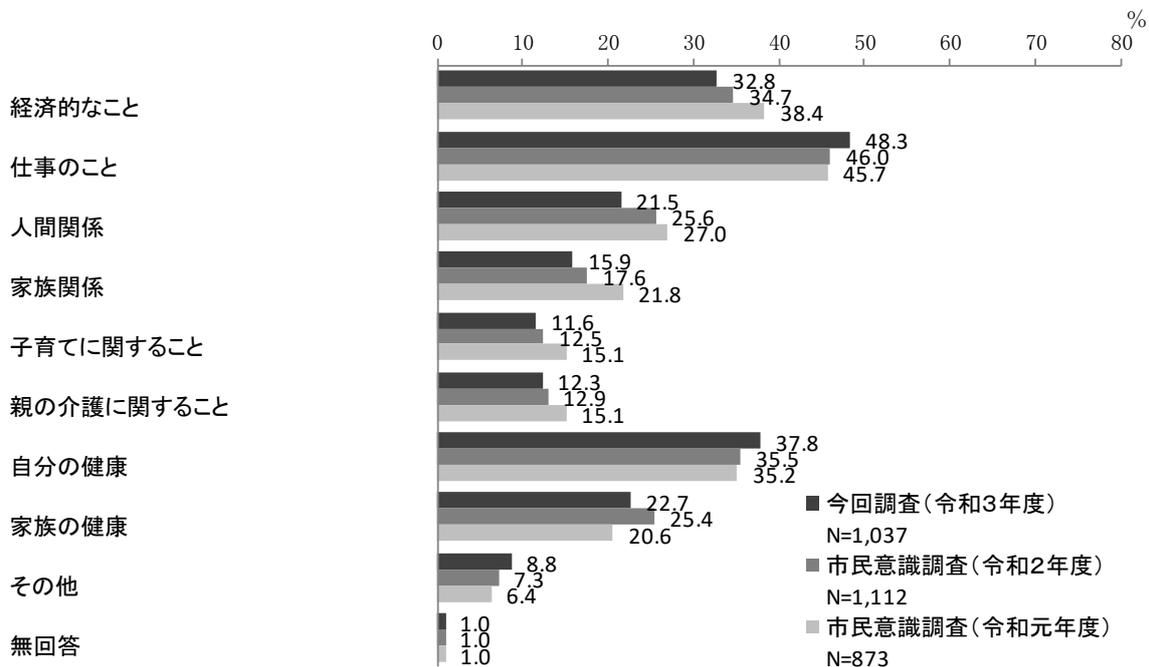
【居住地区別】



問 16-1 問 16 で「1. 大いにある」「2. 多少ある」とお答えの方におたずねします。
 あなたの不安、悩み、ストレスの原因は何ですか。《あてはまるものすべてに○》

半数近くが「仕事のこと」

- 不安、悩み、ストレスの原因としては、「仕事のこと」が 48.3%と最も多く、半数近くとなっています。次いで「自分の健康」が 37.8%、「経済的なこと」が 32.8%、「家族の健康」が 22.7%、「人間関係」が 21.5%、「家族関係」が 15.9%と続きます。
- 過去の調査と比較すると、「経済的なこと」や「人間関係」、「家族関係」などが減少する一方で、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあってか、「仕事のこと」、「自分の健康」、「家族の健康」をあげる人の割合が増加しています。
- 性別では、男女ともに「仕事のこと」が最も多くなっていますが、女性は「自分の健康」も同様に最も多くあげられています。また、女性は「家族の健康」についても男性より多くあげられており、コロナ禍で自分や家族の健康への不安などが大きくなっていることがうかがえます。
- 年代別では、50 歳代までは「仕事のこと」、60 歳以上は「自分の健康」が最も多くあげられています。そのほか、10～20 歳代で「人間関係」が、30～40 歳代で「子育てに関すること」が、50～60 歳代で「親の介護に関すること」がほかの年代より多くみられ、それぞれのライフステージに応じた要因があることがうかがえます。
- 居住地区別では、建部地区、湖東地区、永源寺地区、市辺地区は「自分の健康」が、そのほかの地区は「仕事のこと」が最も多くあげられています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	経済的なこと	仕事のこと	人間関係	家族関係	子育てに関すること	親の介護に関すること	自分の健康	家族の健康	その他	無回答
男性	442	34.6	60.4	22.2	13.3	9.5	10.9	33.3	16.5	6.1	0.9
女性	568	31.0	40.5	21.3	18.1	13.6	13.9	40.5	27.3	10.9	0.9

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	経済的なこと	仕事のこと	人間関係	家族関係	子育てに関すること	親の介護に関すること	自分の健康	家族の健康	その他	無回答
10歳代	19	26.3	52.6	47.4	10.5	5.3	0.0	5.3	0.0	26.3	0.0
20歳代	69	29.0	69.6	33.3	7.2	13.0	1.4	14.5	7.2	14.5	0.0
30歳代	138	39.9	73.9	21.7	17.4	31.2	5.1	26.1	18.8	5.1	0.0
40歳代	189	36.5	72.0	25.4	13.8	25.4	12.2	25.4	18.5	5.8	0.0
50歳代	168	41.7	62.5	16.7	21.4	7.7	21.4	38.1	23.2	7.1	0.6
60歳代	214	26.2	31.8	19.2	15.0	2.3	22.4	43.9	24.8	11.2	0.0
70歳以上	227	26.0	11.9	18.1	17.6	0.0	5.3	59.9	32.6	9.3	3.5

【居住地区別】

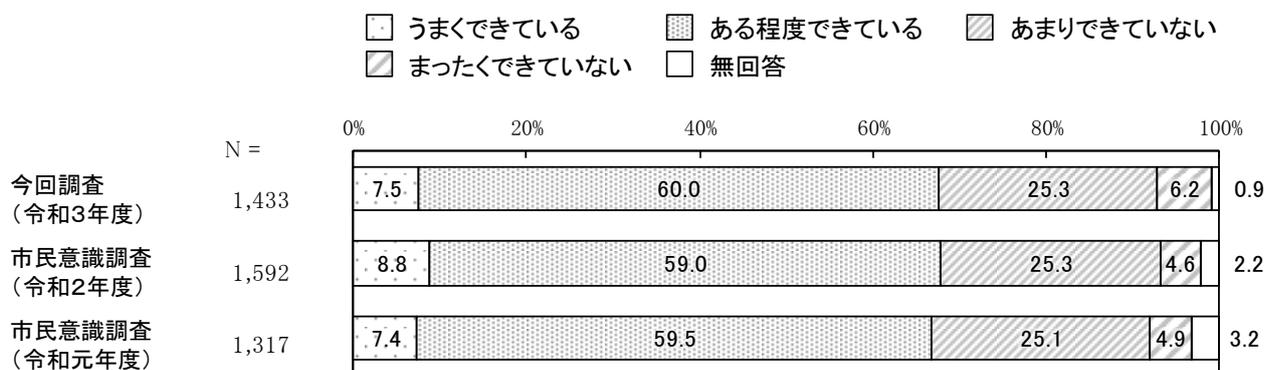
単位:%

区分	有効回答数(件)	経済的なこと	仕事のこと	人間関係	家族関係	子育てに関すること	親の介護に関すること	自分の健康	家族の健康	その他	無回答
平田地区	22	40.9	50.0	22.7	22.7	9.1	18.2	18.2	22.7	4.5	0.0
市辺地区	41	31.7	41.5	22.0	9.8	7.3	17.1	43.9	29.3	9.8	2.4
玉緒地区	42	33.3	40.5	11.9	19.0	11.9	11.9	31.0	19.0	9.5	0.0
御園地区	59	33.9	49.2	16.9	18.6	15.3	11.9	37.3	22.0	5.1	0.0
建部地区	25	36.0	40.0	12.0	24.0	4.0	16.0	60.0	32.0	8.0	0.0
中野地区	68	30.9	52.9	16.2	16.2	10.3	10.3	32.4	16.2	4.4	1.5
八日市地区	112	46.4	67.9	31.3	17.0	10.7	8.0	28.6	14.3	7.1	0.9
南部地区	48	29.2	50.0	18.8	6.3	8.3	14.6	35.4	29.2	12.5	0.0
永源寺地区	40	27.5	42.5	15.0	12.5	12.5	12.5	45.0	15.0	5.0	0.0
五個荘地区	104	24.0	40.4	23.1	10.6	11.5	9.6	35.6	26.9	17.3	1.9
愛東地区	41	24.4	31.7	29.3	12.2	12.2	19.5	26.8	14.6	0.0	0.0
湖東地区	74	25.7	41.9	23.0	18.9	6.8	10.8	48.6	18.9	10.8	0.0
能登川地区	238	33.2	49.2	19.7	17.6	14.3	14.7	42.9	27.3	8.4	0.4
蒲生地区	103	32.0	44.7	23.3	18.4	14.6	11.7	39.8	25.2	9.7	2.9
わからない	2	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0

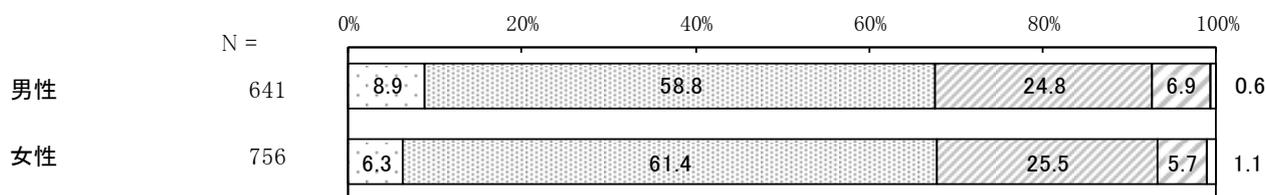
問 17 あなたの不安や悩み、ストレスは解消できていますか。《○1つ》

7割近くが、不安や悩み、ストレスの解消はできている

- 不安や悩み、ストレスが解消できているかどうかについては、「うまくできている」が7.5%、「ある程度できている」が60.0%で、これらを合わせると67.5%となり、7割近くの人が解消できていると回答しています。一方、「あまりできていない」と「まったくできていない」を合わせると31.5%で、3割の人ができていないと回答しています。
- 年代別では、10歳代と60歳以上で7割以上の方が不安や悩み、ストレスの解消ができている（「うまくできている」と「ある程度できている」の合計）と回答しているのに対し、40～50歳代は4割近くができていない（「あまりできていない」と「まったくできていない」の合計）と回答しています。
- 居住地区別では、建部地区、南部地区、八日市地区、平田地区、湖東地区で7割以上の方が不安や悩み、ストレスの解消ができている（前述）と回答しているのに対し、特に愛東地区で4割以上の方ができていない（前述）と回答しています。

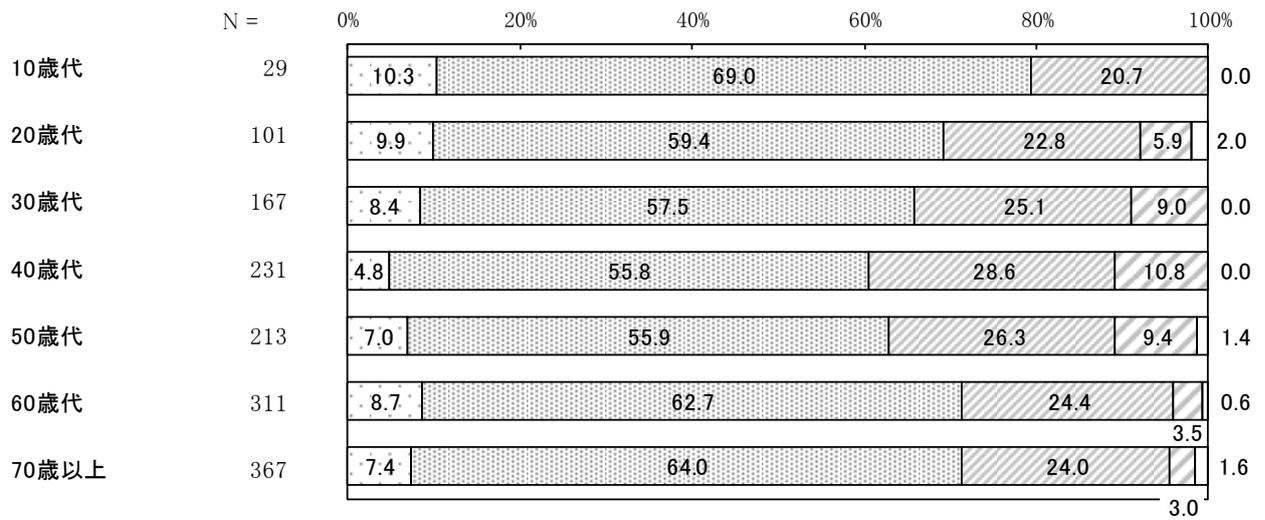


【性別】

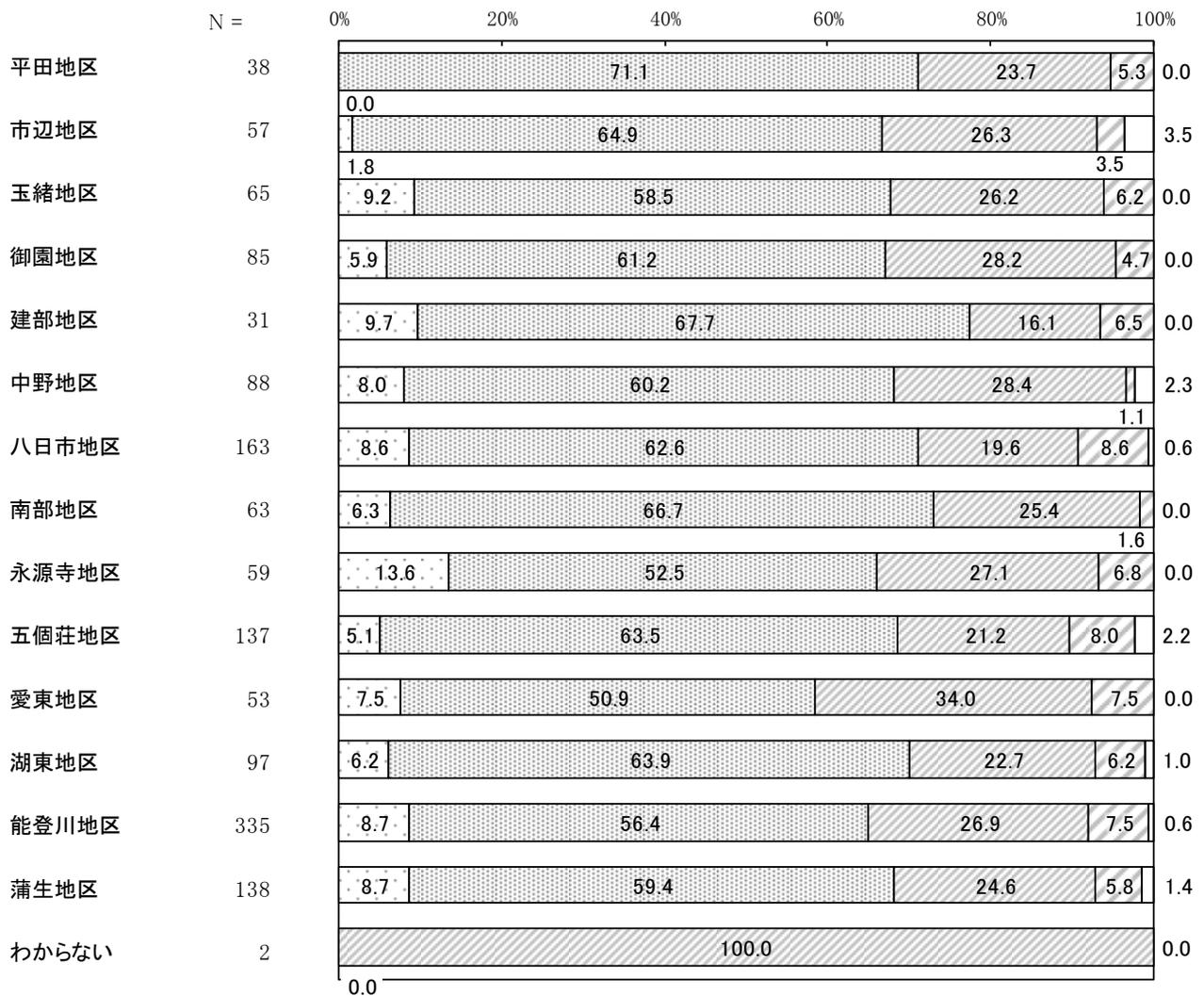


【年代別】

うまくできている
 ある程度できている
 あまりできていない
 まったくできていない
 無回答



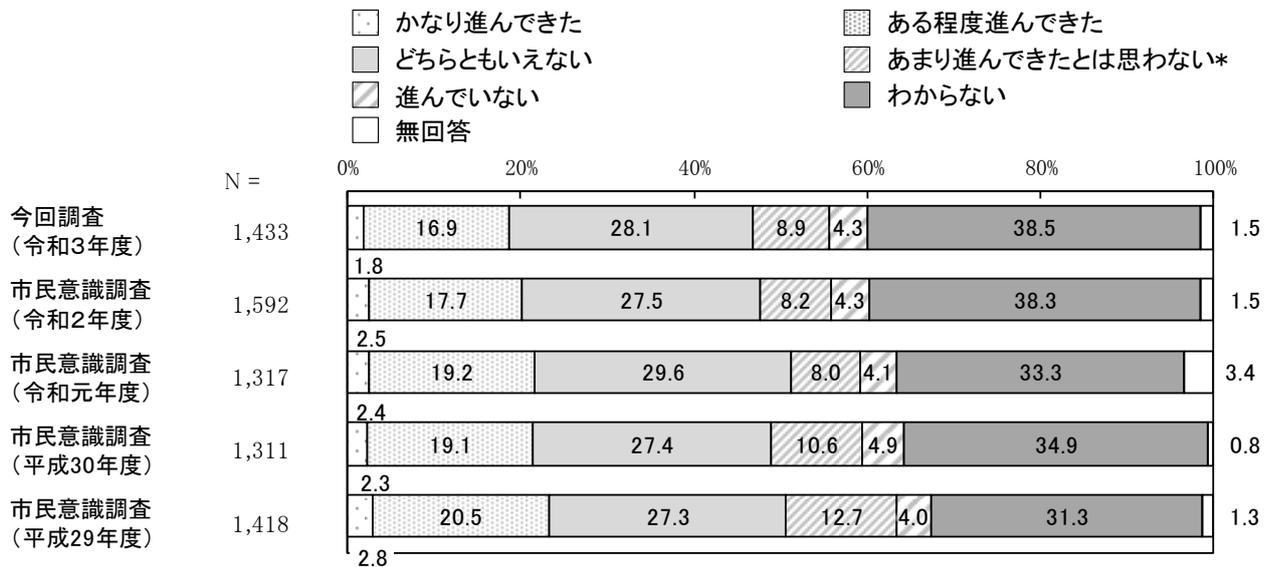
【居住地区別】



問 18 あなたは、東近江市民の障害者に対する理解は進んできたと思いますか。《○1つ》

「わからない」が4割近く

- 東近江市民の障害者に対する理解が進んできたと思うかについては、「かなり進んできた」が1.8%、「ある程度進んできた」が16.9%で、これらを合わせると18.7%となり、2割近くの人が進んできたと回答しています。一方、「あまり進んできたとは思わない」と「進んでいない」を合わせると13.2%となっています。なお、「わからない」と回答した人が38.5%となっています。
- 過去の調査と比較すると、理解が進んでいないと思う人（「あまり進んできたとは思わない」と「進んでいない」の合計）は減少傾向ですが、理解が進んできたと思う人（「かなり進んできた」と「ある程度進んできた」の合計）も減少しており、「わからない」人が増加しています。
- 年代別では60歳以上で、居住地区別では愛東地区、市辺地区、永源寺地区、南部地区、湖東地区、建部地区で、障害者に対する理解が進んできたと思う人（前述）が多くみられます。
- 一方、年代別では10歳代と30～50歳代で、居住地区別では平田地区で、障害者に対する理解が進んできたと思う人（前述）より進んでいないと思う人（前述）が多くみられます。



*平成29～30年度は「あまり進んでいるとは思わない」

単位：%

	進んできた*	進んでいない*	差
①今回調査(令和3年度)	18.7	13.2	5.5
②市民意識調査(令和2年度)	20.2	12.5	7.7
③市民意識調査(令和元年度)	21.6	12.1	9.5
④市民意識調査(平成30年度)	21.4	15.5	5.9
⑤市民意識調査(平成29年度)	23.3	16.7	6.6
①－⑤	-4.6	-3.5	-1.1

*進んできた:「かなり進んできた」と「ある程度進んできた」の合計

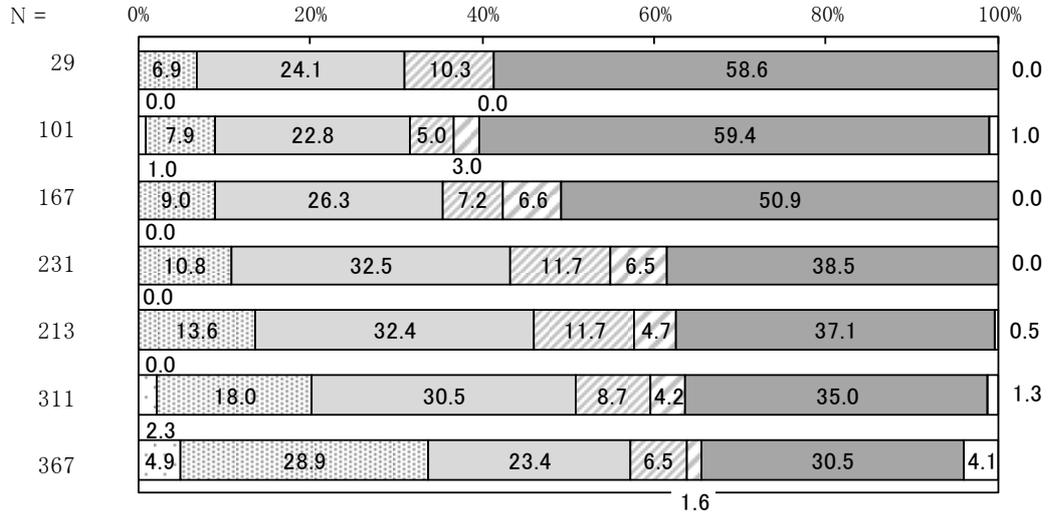
*進んでいない:「あまり進んできたとは思わない」と「進んでいない」の合計



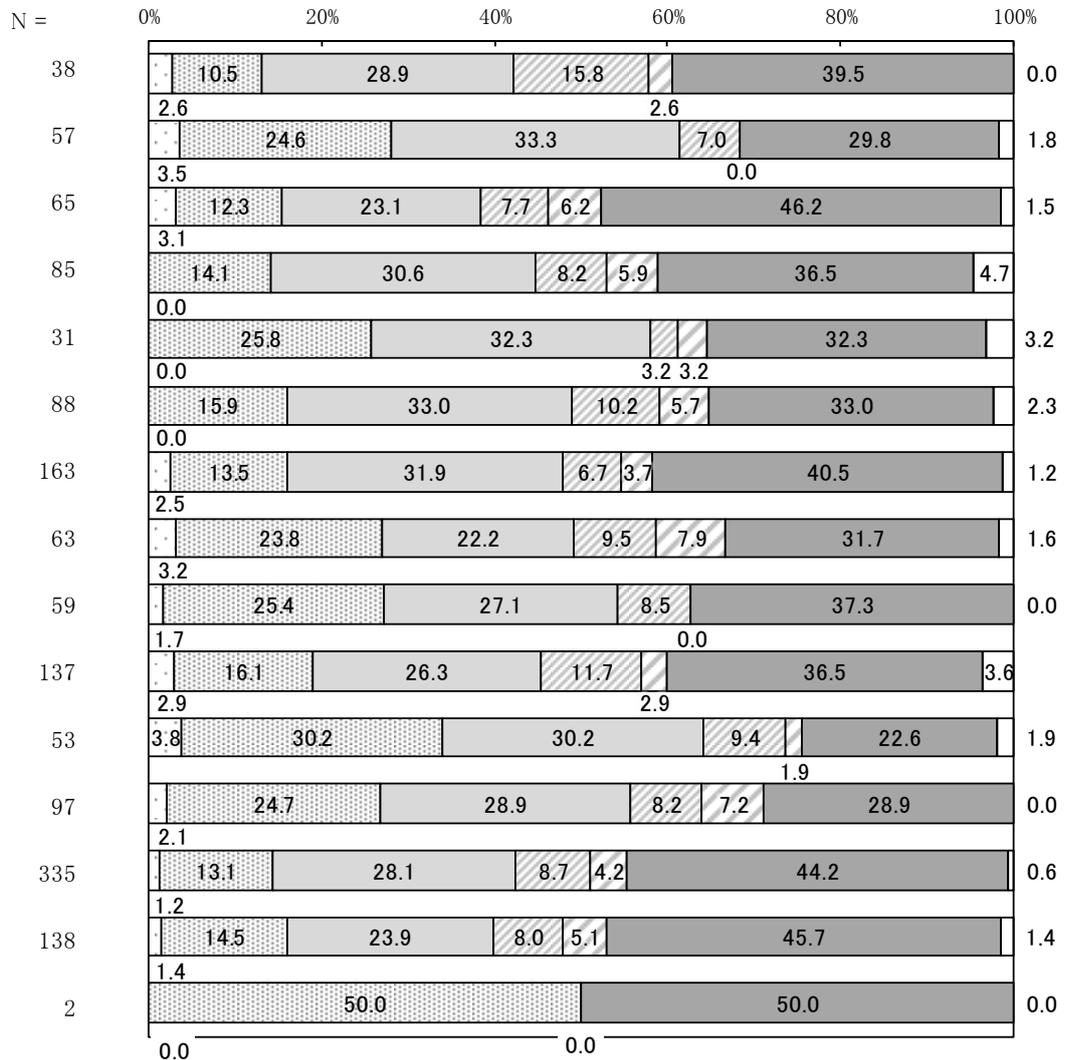
【性別】



【年代別】



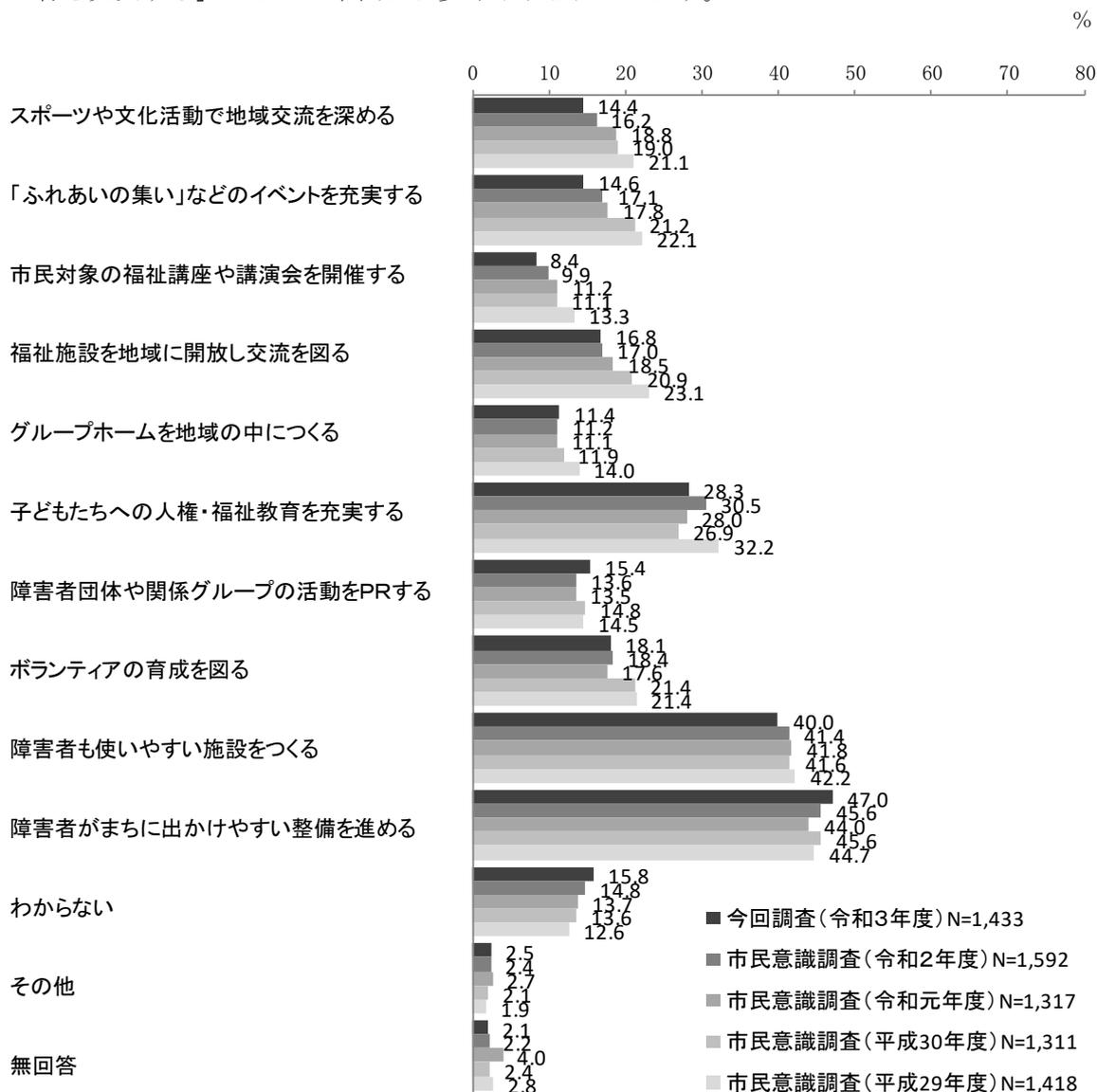
【居住地区別】



問 19 あなたは、障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

特に力を入れるべき取組は、バリアフリーのまちづくりや施設整備

- ・ 障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきかについては、「障害者がまちに出かけやすい整備を進める」が47.0%と最も多く、次いで「障害者も使いやすい施設をつくる」が40.0%と、バリアフリーやユニバーサルデザインのまちづくりや施設整備をあげる人が多くなっています。
- ・ そのほか、「子どもたちへの人権・福祉教育を充実する」が28.3%、「ボランティアの育成を図る」が18.1%、「福祉施設を地域に開放し交流を図る」が16.8%、「障害者団体や関係グループの活動をPRする」が15.4%、「「ふれあいの集い」などのイベントを充実する」が14.6%、「スポーツや文化活動で地域交流を深める」が14.4%など、交流や支え合い等を通じたノーマライゼーションの実現をあげる人も多くみられます。
- ・ 年代別では、10歳代と30歳代で「障害者も使いやすい施設をつくる」が、そのほかの年代で「障害者がまちに出かけやすい整備を進める」が最も多くあげられています。また、特に10歳代で「「ふれあいの集い」などのイベントを充実する」が、30歳代で「子どもたちへの人権・福祉教育を充実する」がほかの年代より多くあげられています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	スポーツや文化交流を深める	「ふれあいの集い」などのイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちに出かけやすい整備を進める	わからない	その他	無回答
男性	641	16.5	13.1	9.2	18.7	10.8	26.8	15.8	16.7	37.4	43.1	16.5	2.8	1.9
女性	756	12.8	16.0	8.1	15.1	12.0	29.6	15.2	19.7	42.3	50.5	15.3	2.1	2.1

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	スポーツや文化交流を深める	「ふれあいの集い」などのイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちに出かけやすい整備を進める	わからない	その他	無回答
10歳代	29	17.2	24.1	6.9	0.0	3.4	27.6	0.0	20.7	51.7	37.9	13.8	0.0	0.0
20歳代	101	15.8	10.9	6.9	11.9	10.9	34.7	13.9	14.9	44.6	47.5	16.8	2.0	2.0
30歳代	167	15.0	13.2	7.2	12.6	11.4	38.9	12.0	15.6	48.5	45.5	18.6	3.0	0.6
40歳代	231	16.0	10.8	6.9	13.4	8.2	31.2	15.2	16.5	42.9	51.1	10.4	3.5	0.9
50歳代	213	12.7	12.2	5.6	14.6	14.1	20.2	12.7	19.2	43.7	54.5	16.9	5.6	0.9
60歳代	311	15.8	15.8	11.9	19.9	11.9	32.2	20.3	19.6	39.9	51.4	12.2	0.6	1.6
70歳以上	367	12.8	18.8	9.3	22.3	12.3	21.3	16.3	18.8	30.5	37.6	20.7	1.6	4.6

【居住地区別】

単位:%

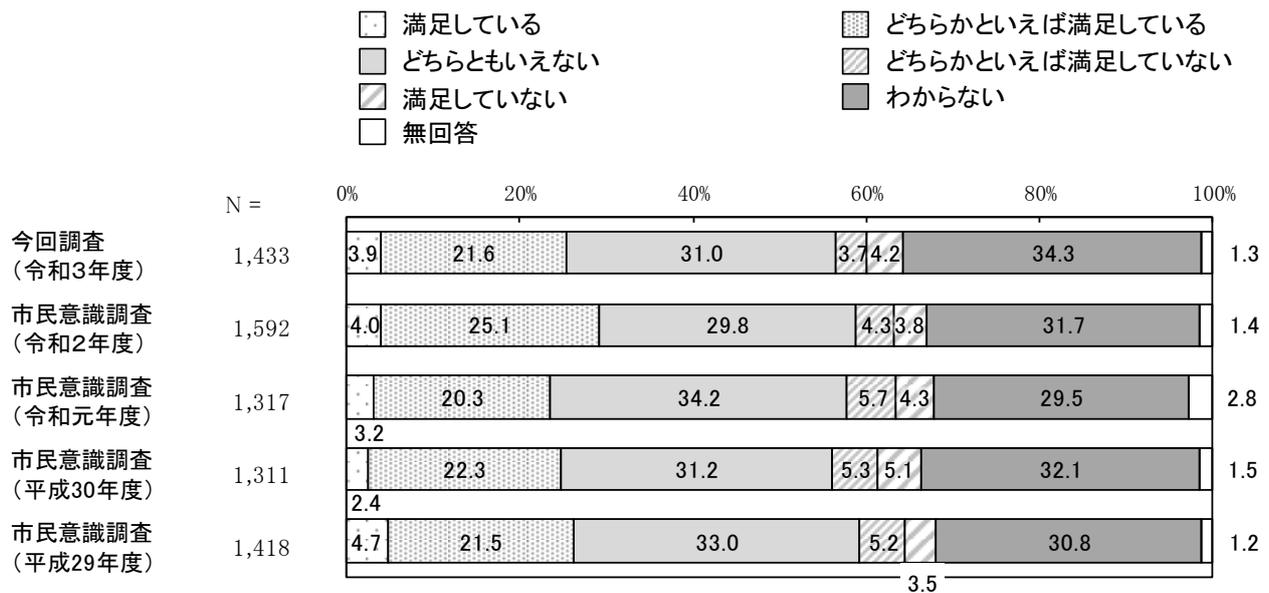
区分	有効回答数(件)	スポーツや文化交流を深める	「ふれあいの集い」などのイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちに出かけやすい整備を進める	わからない	その他	無回答
平田地区	38	23.7	23.7	10.5	23.7	13.2	39.5	26.3	36.8	42.1	47.4	10.5	0.0	2.6
市辺地区	57	24.6	17.5	15.8	26.3	10.5	21.1	19.3	12.3	28.1	50.9	17.5	5.3	1.8
玉緒地区	65	9.2	12.3	7.7	10.8	12.3	21.5	15.4	21.5	32.3	40.0	21.5	0.0	4.6
御園地区	85	18.8	20.0	8.2	18.8	11.8	30.6	18.8	16.5	43.5	49.4	18.8	2.4	5.9
建部地区	31	16.1	12.9	16.1	25.8	12.9	58.1	22.6	25.8	54.8	61.3	9.7	3.2	0.0
中野地区	88	9.1	15.9	6.8	21.6	6.8	25.0	14.8	15.9	37.5	31.8	15.9	1.1	2.3
八日市地区	163	7.4	9.8	4.3	13.5	9.8	27.6	15.3	16.0	41.1	49.7	19.0	3.7	1.8
南部地区	63	7.9	11.1	1.6	14.3	9.5	33.3	14.3	23.8	46.0	49.2	15.9	9.5	1.6
永源寺地区	59	22.0	15.3	5.1	18.6	15.3	35.6	11.9	18.6	33.9	47.5	11.9	0.0	0.0
五個荘地区	137	16.1	16.1	7.3	14.6	10.2	28.5	16.1	20.4	35.0	45.3	19.7	1.5	2.9
愛東地区	53	17.0	13.2	5.7	13.2	13.2	20.8	11.3	7.5	30.2	41.5	11.3	0.0	1.9
湖東地区	97	16.5	19.6	11.3	21.6	15.5	27.8	18.6	17.5	43.3	45.4	10.3	3.1	1.0
能登川地区	335	14.6	12.8	10.4	17.0	12.8	28.4	14.0	16.7	42.1	49.0	14.0	2.4	1.5
蒲生地区	138	15.9	14.5	10.1	13.0	9.4	23.2	11.6	18.1	43.5	49.3	16.7	1.4	2.2
わからない	2	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0

(4) 環境や暮らしについて

問 20 あなたは、東近江市の自然環境保全の取組について満足していますか。《○1つ》

3割近くが満足、7割近くが「どちらともいえない」又は「わからない」

- ・ 東近江市の自然環境保全の取組についての満足度は、「わからない」が34.3%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が31.0%、これらを合わせると65.3%となっています。
- ・ 「満足している」が3.9%、「どちらかといえば満足している」が21.6%、これらを合わせると25.5%となり、3割近くの人が満足しています。一方、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」を合わせると7.9%で、1割未満となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、満足（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合は、概ね2～3割前後で推移しています。
- ・ 年代別では、満足（前述）の割合が、40歳代と70歳以上で高く、10歳代で低くなっています。また、10～20歳代で「わからない」の割合が半数以上と高くなっています。
- ・ 居住地区別では、南部地区、永源寺地区、愛東地区で満足（前述）の割合が高く、御園地区、南部地区で不満（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合がやや高くなっています。南部地区は、満足（前述）の割合と不満（前述）の割合のどちらもすべての地区の中で最も高くなっています。

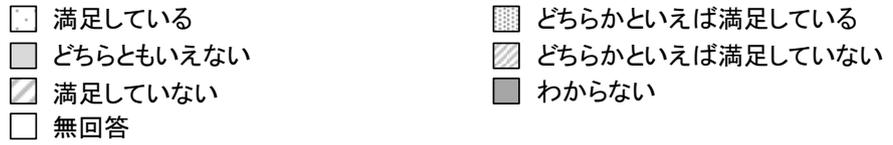


単位：%

	満足*	不満*	差
①今回調査(令和3年度)	25.5	7.9	17.6
②市民意識調査(令和2年度)	29.1	8.1	21.0
③市民意識調査(令和元年度)	23.5	10.0	13.5
④市民意識調査(平成30年度)	24.7	10.4	14.3
⑤市民意識調査(平成29年度)	26.2	8.7	17.5
①-⑤	-0.7	-0.8	0.1

* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

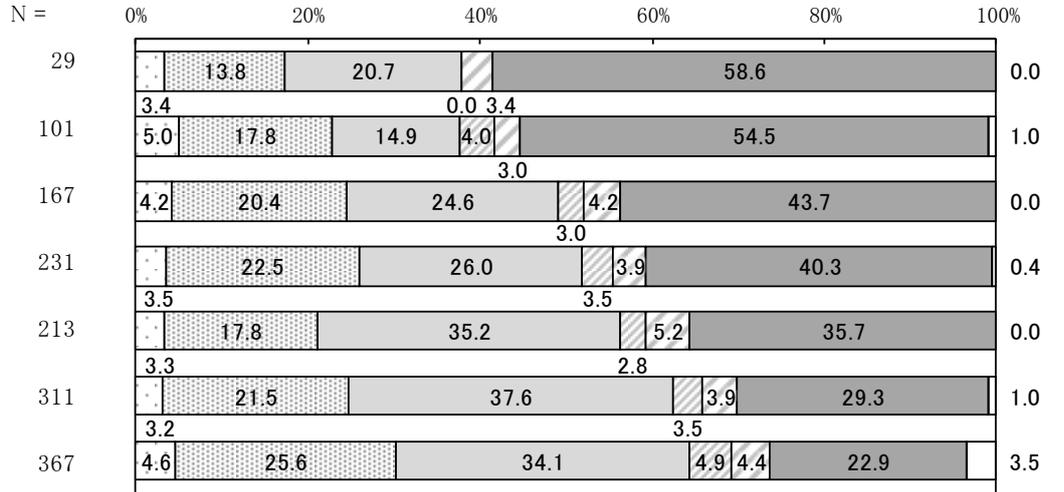
* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計



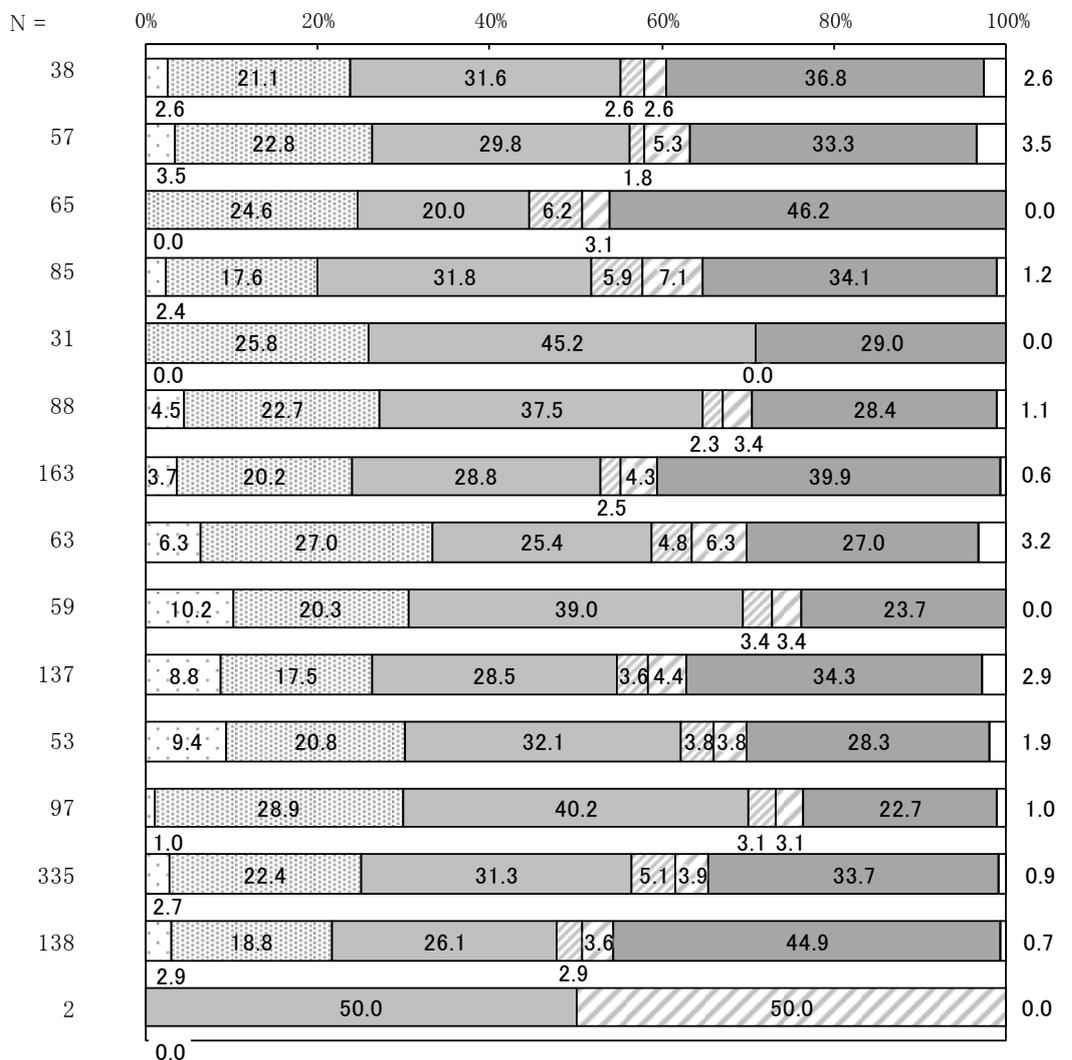
【性別】



【年代別】



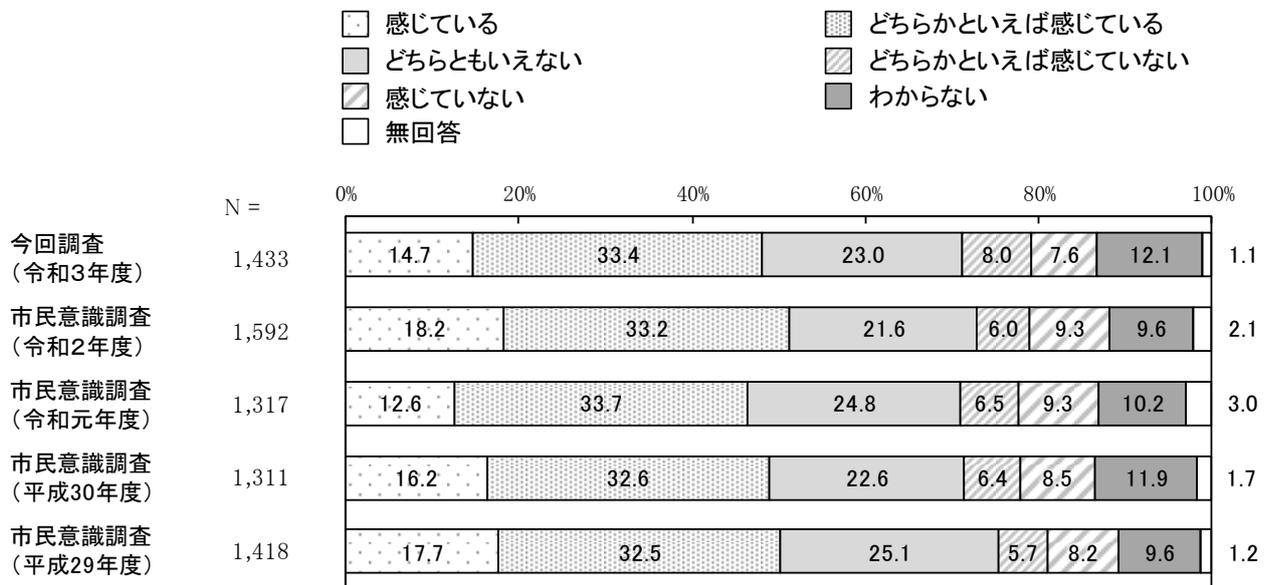
【居住地区別】



問 21 あなたは、暮らしや仕事等日々の営みの中で自然環境との関わりを感じていますか。《○1つ》

半数近くが自然環境との関わりを感じている

- ・ 日々の営みの中で自然環境との関わりを感じているかについては、「感じている」が 14.7%、「どちらかといえば感じている」が 33.4%で、これらを合わせると 48.1%となり、半数近くの人が自然環境との関わりを感じています。一方、「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」を合わせると 15.6%となっています。また、「どちらともいえない」が 23.0%、「わからない」が 12.1%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、自然環境との関わりを感じている人（「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計）の割合は、概ね半数前後で推移しています。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では 60 歳代で、居住地区別では建部地区、愛東地区、永源寺地区で、自然環境との関わりを感じている人（前述）が多くみられます。

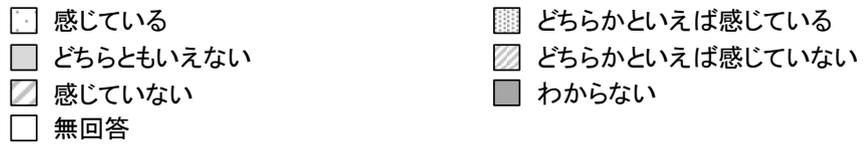


単位：%

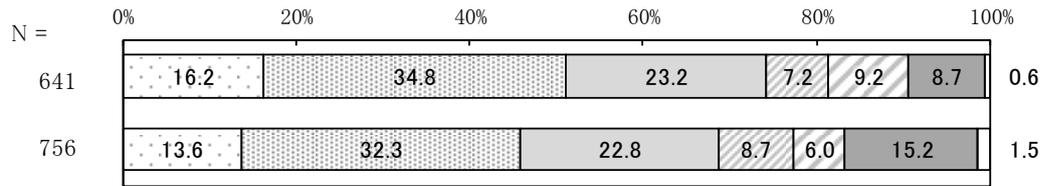
	感じている*	感じていない*	差
①今回調査(令和3年度)	48.1	15.6	32.5
②市民意識調査(令和2年度)	51.4	15.3	36.1
③市民意識調査(令和元年度)	46.3	15.8	30.5
④市民意識調査(平成30年度)	48.8	14.9	33.9
⑤市民意識調査(平成29年度)	50.2	13.9	36.3
①-⑤	-2.1	1.7	-3.8

* 感じている:「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計

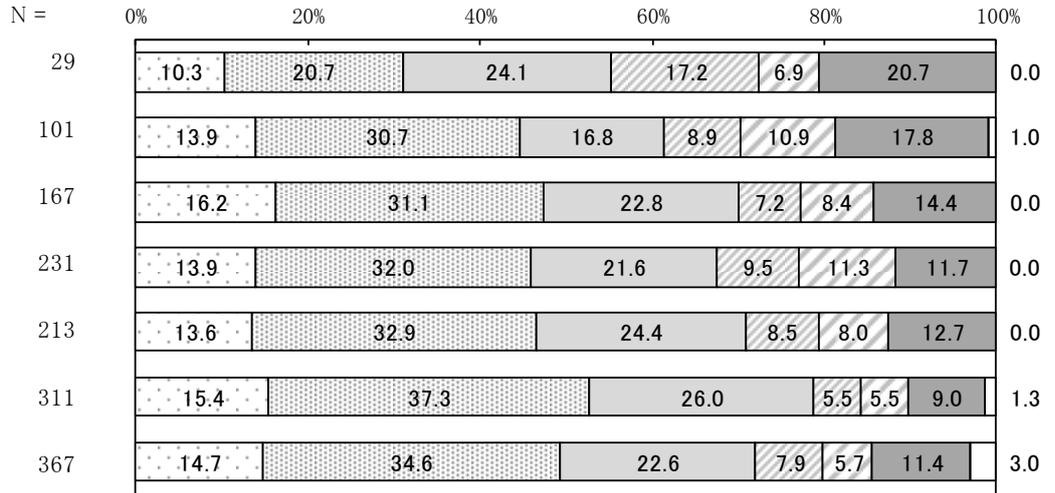
* 感じていない:「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」の合計



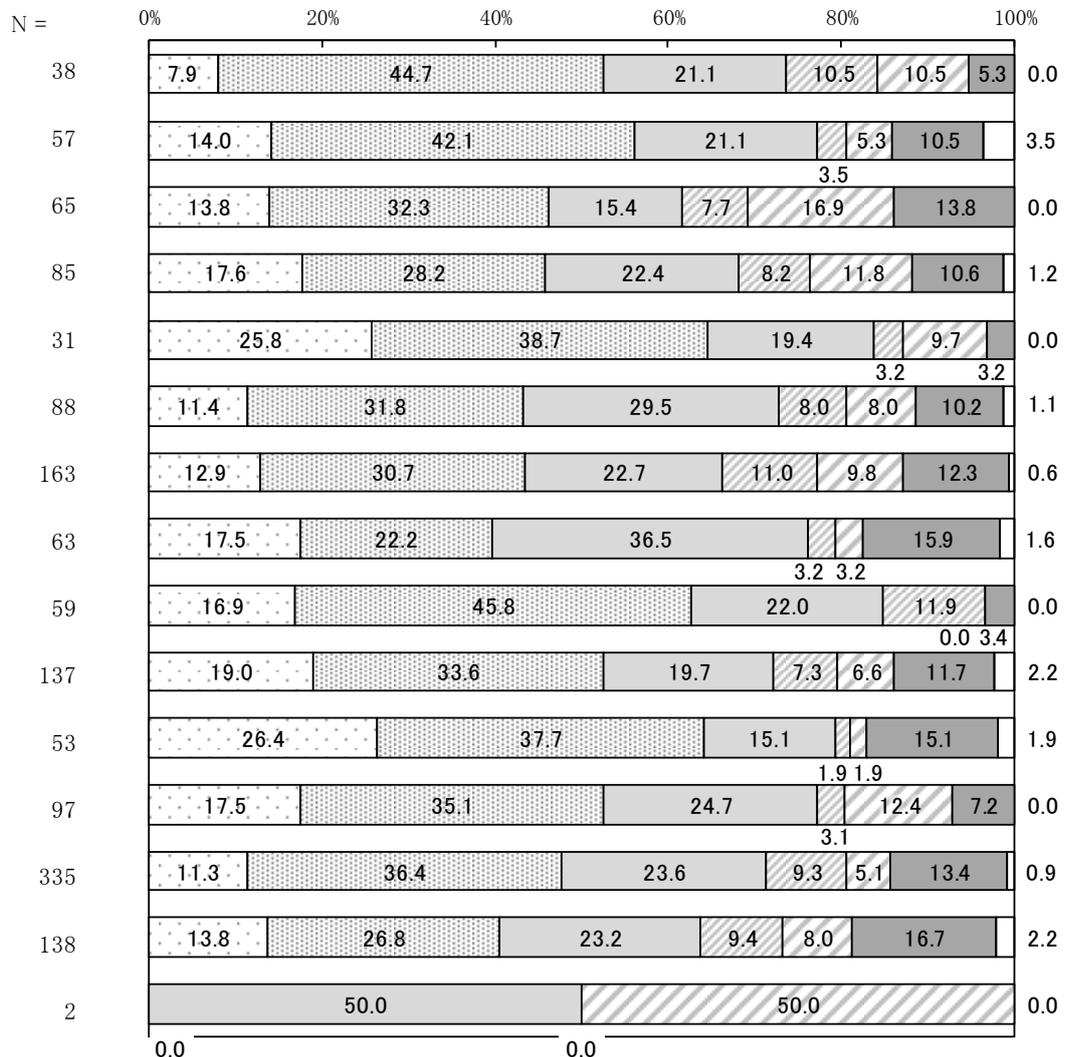
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

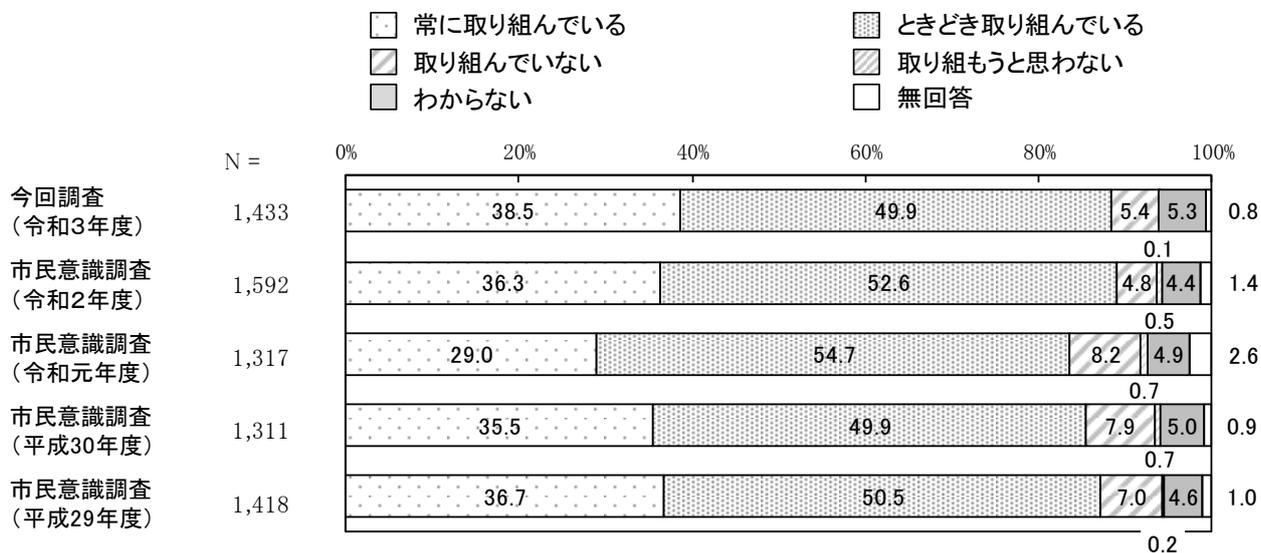


問 22 あなたは、次の低炭素・資源循環型の取組を行っていますか。

①あなたは、環境にやさしい取組を行っていますか。(使用していない電気の消灯、マイバツクの持参、省エネ機器の選択、自転車や公共交通機関の利用等)《○1つ》

9割近くが環境にやさしい取組を行っている

- ・ 環境にやさしい取組の実施状況については、「常に取り組んでいる」が38.5%、「ときどき取り組んでいる」が49.9%で、これらを合わせると88.4%となり、9割近くの人が取り組んでいると回答しています。一方、「取り組んでいない」は5.4%、「取り組もうと思わない」は0.1%とわずかでした。
- ・ 過去の調査と比較すると、環境にやさしい取組を「常に取り組んでいる」と回答した人の割合は、令和元年度以降増加しています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では70歳以上で、居住地区別では南部地区、平田地区、御園地区、建部地区で、環境にやさしい取組を「常に取り組んでいる」人が多くみられます。



単位：%

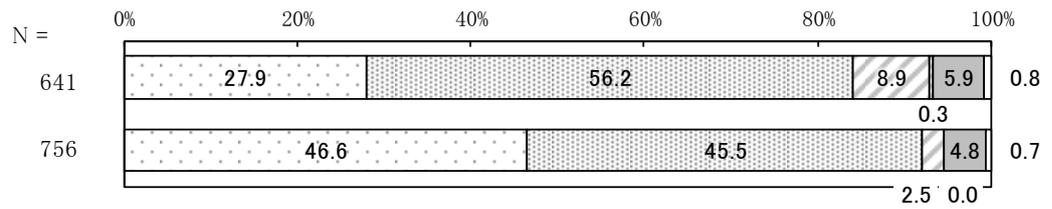
	取り組んでいる*	取り組んでいない*	差
①今回調査(令和3年度)	88.4	5.5	82.9
②市民意識調査(令和2年度)	88.9	5.3	83.6
③市民意識調査(令和元年度)	83.7	8.9	74.8
④市民意識調査(平成30年度)	85.4	8.6	76.8
⑤市民意識調査(平成29年度)	87.2	7.2	80.0
①-⑤	1.2	-1.7	2.9

* 取り組んでいる:「常に取り組んでいる」と「ときどき取り組んでいる」の合計

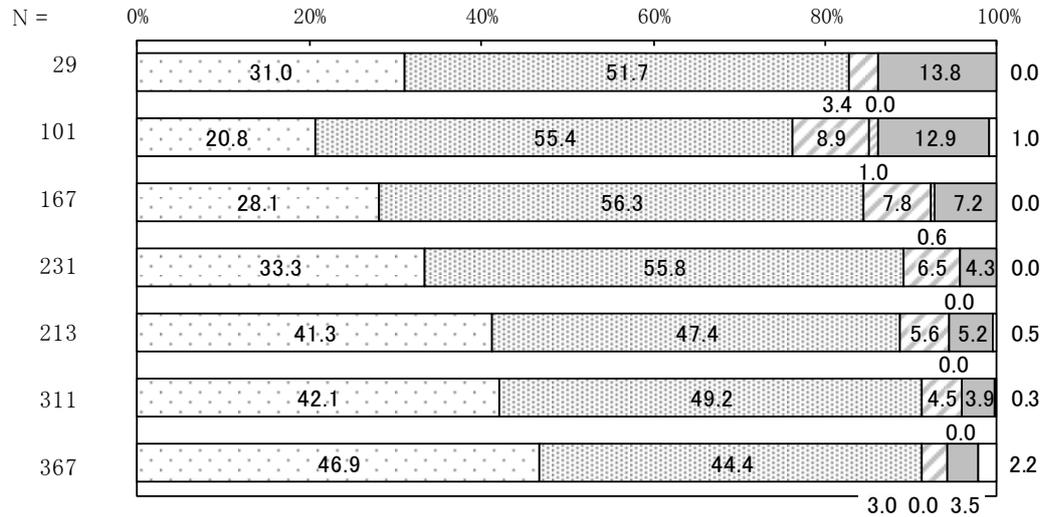
* 取り組んでいない:「取り組んでいない」と「取り組もうと思わない」の合計



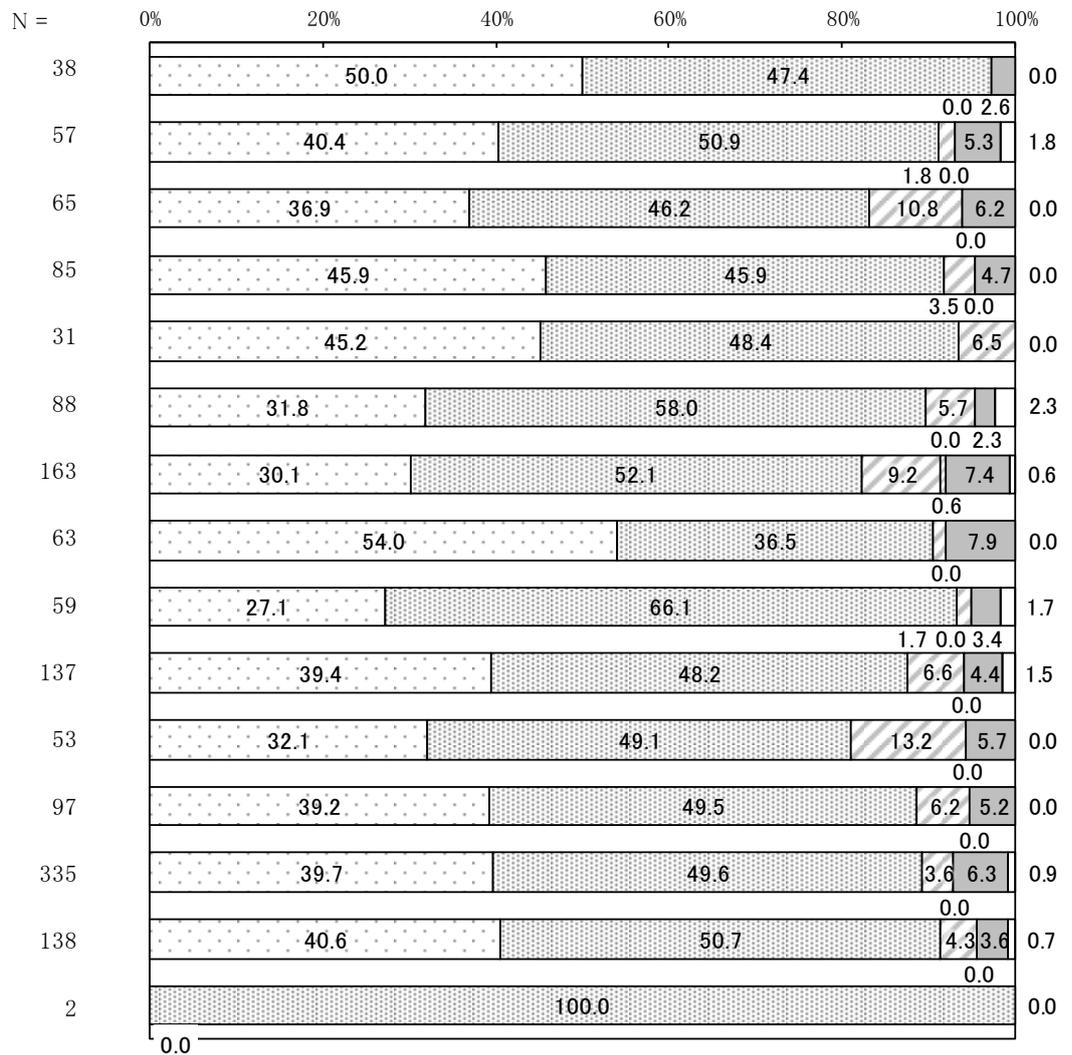
【性別】



【年代別】



【居住地区別】



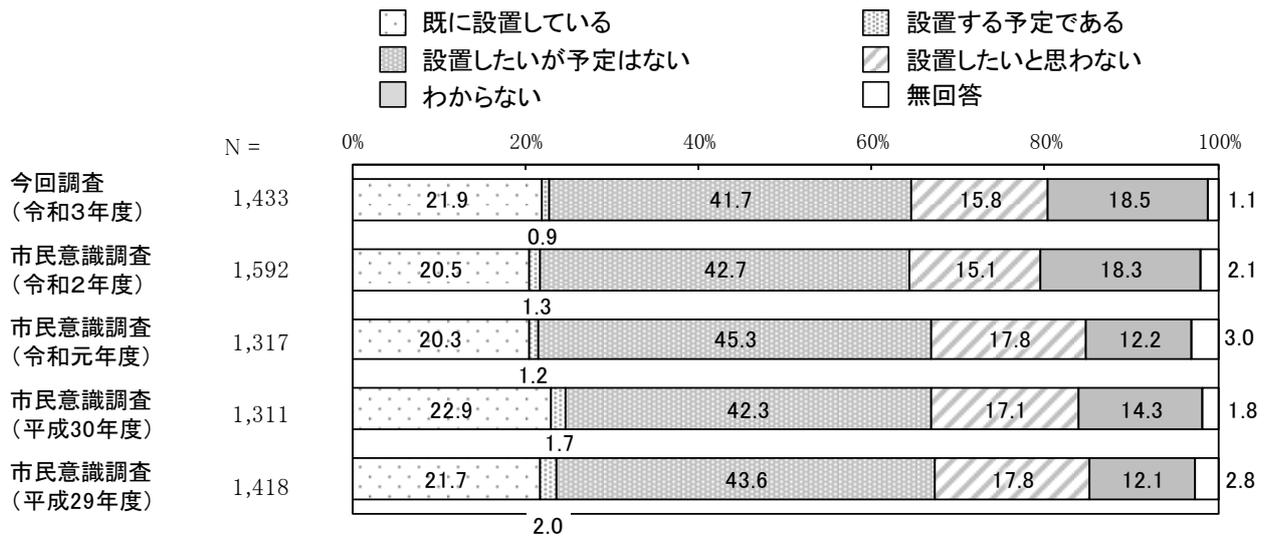
問 22 あなたは、次の低炭素・資源循環型の取組を行っていますか。

②あなたは、自宅に再生可能エネルギー・省エネ設備を設置していますか。(太陽光発電や
コージェネレーションシステム、蓄電システム、太陽熱温水器、雨水貯留施設の設置等)
《○1つ》

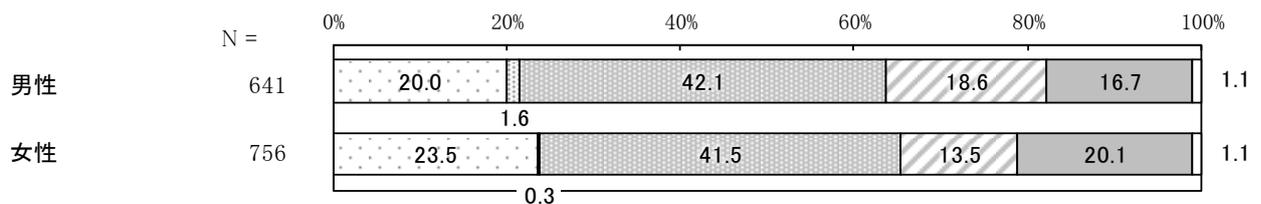
※コージェネレーションシステム(熱電併給)…天然ガス、石油等を燃料として発電し、その際に
生じる廃熱も同時に回収し、有効利用するシステム

2割が設置(予定含む)、設置したいも含めると6割

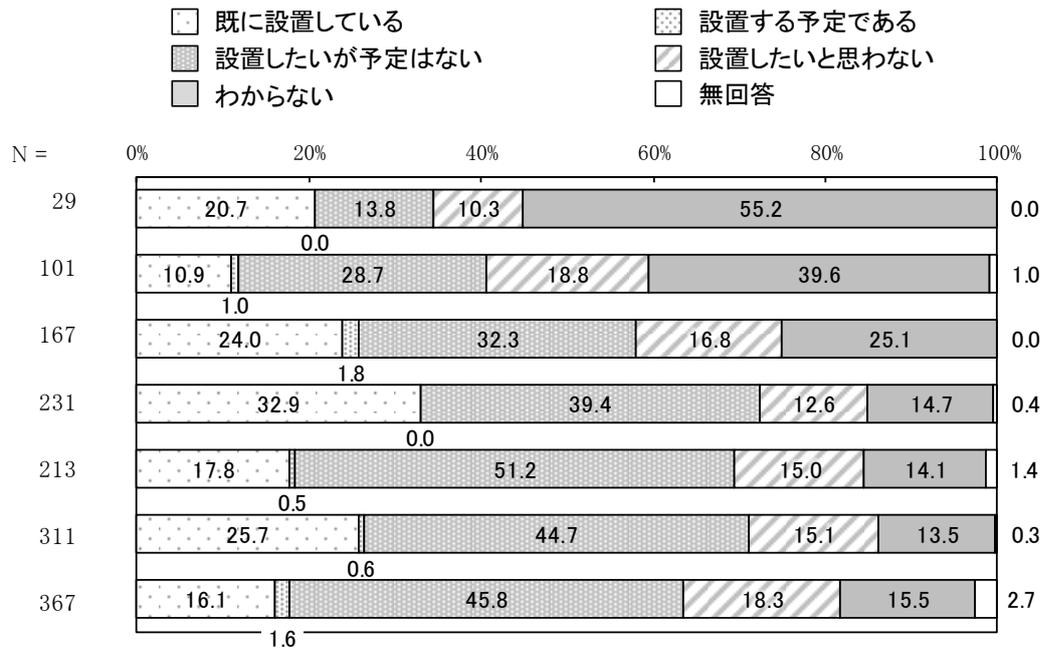
- ・ 自宅に再生可能エネルギー・省エネ設備を設置しているかについては、「既に設置している」が21.9%、「設置する予定である」が0.9%で、これらを合わせると22.8%となり、2割の人が設置しています(予定含む)。また、「設置したいが予定はない」は41.7%で、これも合わせると64.5%と6割になります。一方、「設置したいと思わない」は15.8%となっています。
- ・ 「既に設置している」と回答した人は、性別では男性より女性で、年代別では40歳代と60歳代で、居住地区別では建部地区、湖東地区、市辺地区、中野地区、蒲生地区、愛東地区で多くみられます。また、「設置する予定である」と「設置したいが予定はない」も含めた設置希望者は、年代別では40歳代と60歳代で、居住地区別では建部地区、永源寺地区、湖東地区で7割以上(建部地区は9割以上)となっています。



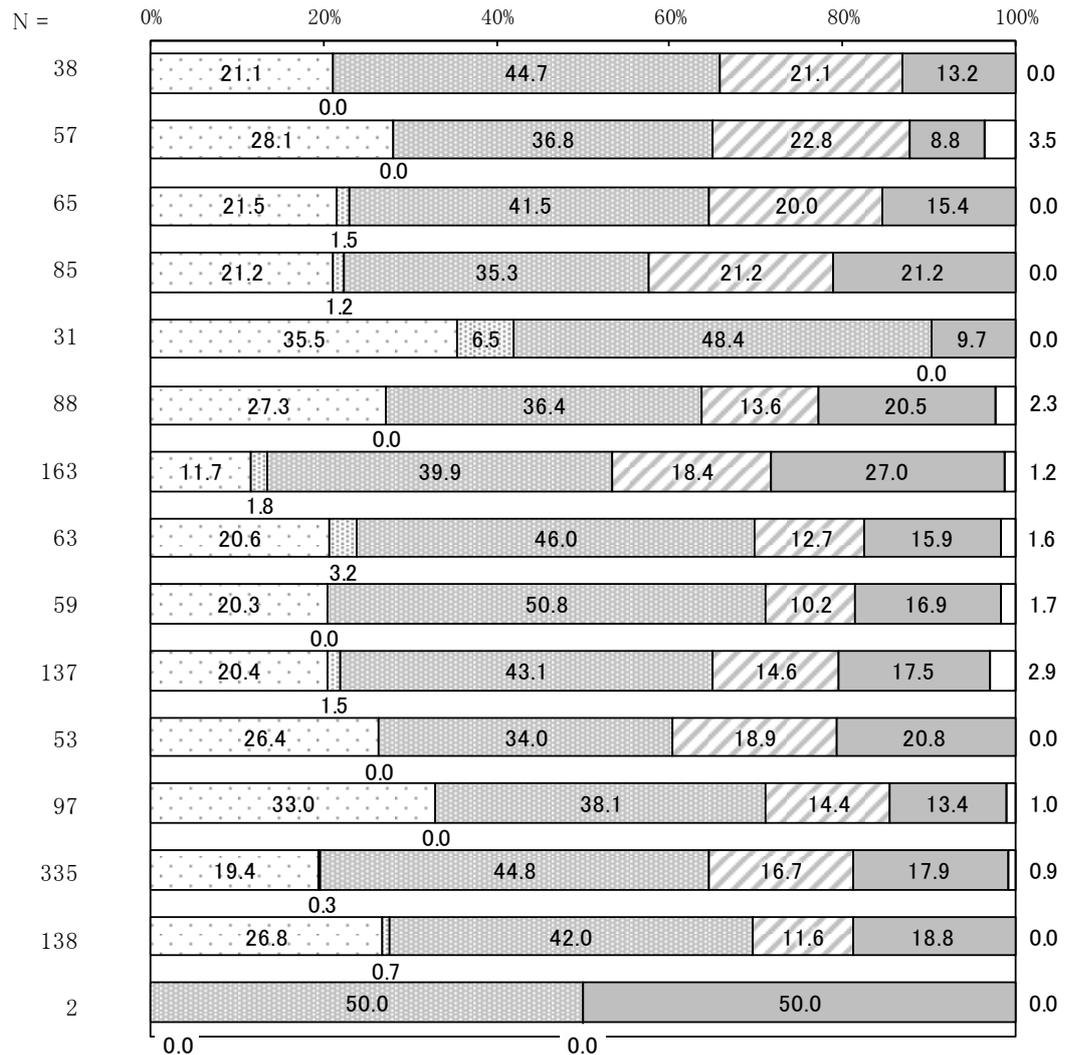
【性別】



【年代別】



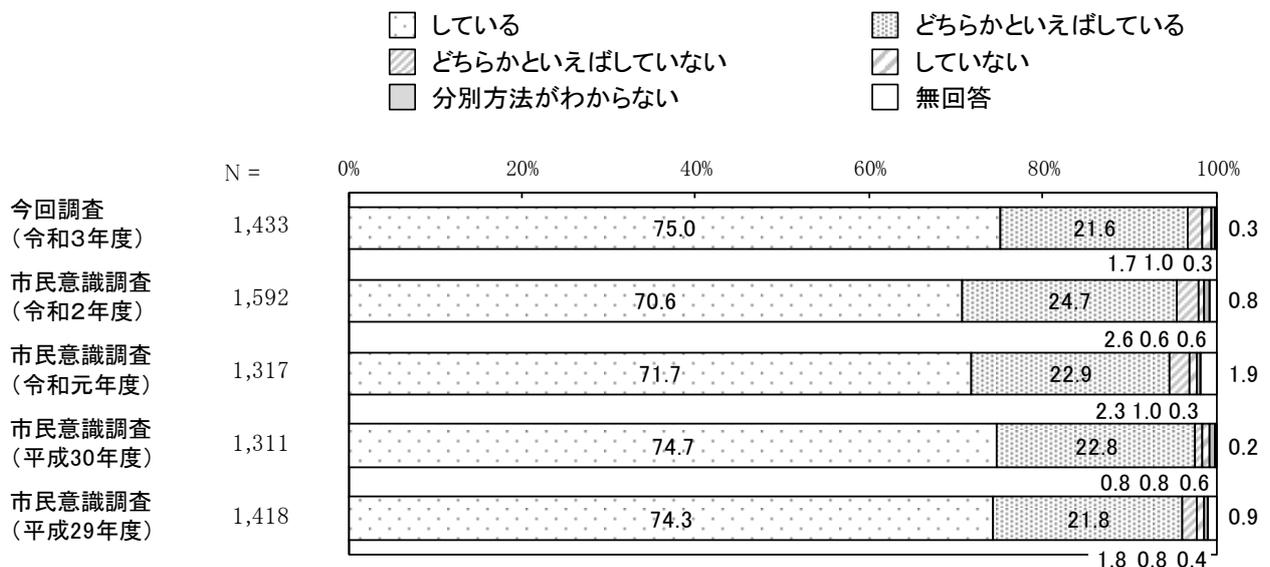
【居住地区別】



問 23 あなたは、ごみと資源の分別をしていますか。《○1つ》

ほとんどの人がごみと資源の分別をしている

- ・ ごみと資源の分別をしているかについては、「している」が75.0%と最も多く、次の「どちらかといえばしている」の21.6%と合わせると96.6%となり、ほとんどの人が分別をしています。一方、「どちらかといえばしていない」、「していない」、「分別方法がわからない」の3つを合わせても、わずか3.0%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、ごみと資源の分別を「している」人の割合は、平成30年度以降やや減少していましたが、今年度増加し、8割近くとなっています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では60歳以上で、居住地区別では市辺地区、蒲生地区で、ごみと資源の分別を「している」人が多くみられます。



単位：%

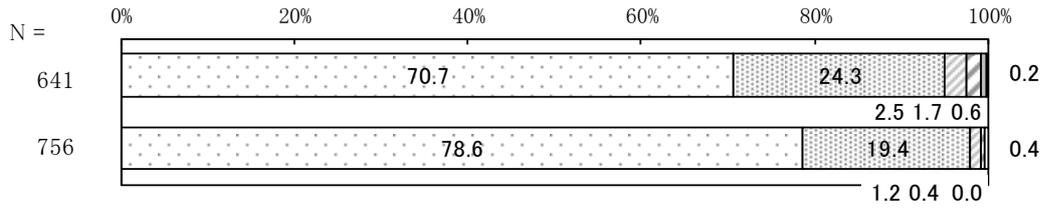
	している*	していない*	差
①今回調査(令和3年度)	96.6	3.0	93.6
②市民意識調査(令和2年度)	95.3	3.8	91.5
③市民意識調査(令和元年度)	94.6	3.6	91.0
④市民意識調査(平成30年度)	97.5	2.2	95.3
⑤市民意識調査(平成29年度)	96.1	3.0	93.1
①-⑤	0.5	-0.0	0.5

*している:「している」と「どちらかといえばしている」の合計

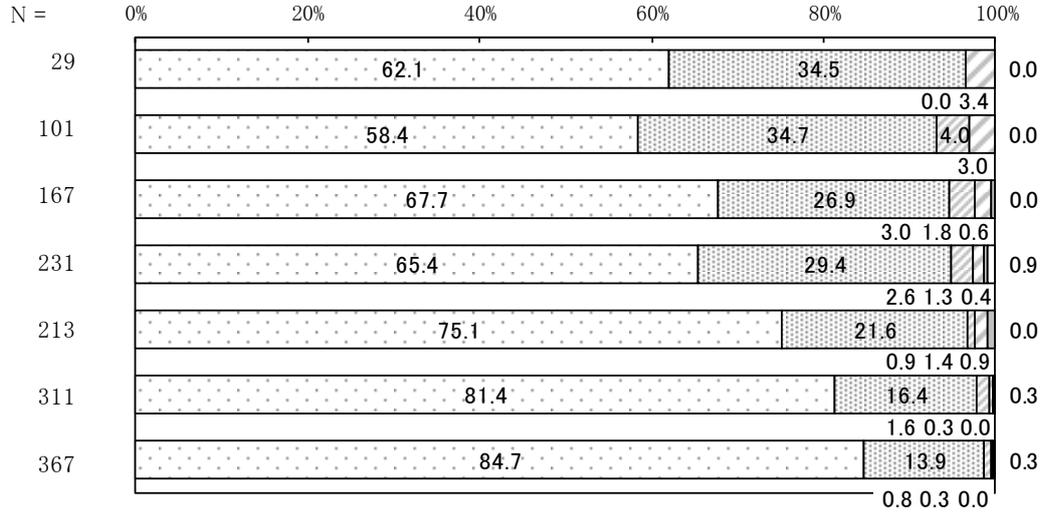
*していない:「どちらかといえばしていない」、「していない」、「分別方法がわからない」の合計

- している
- どちらかといえばしている
- どちらかといえばしていない
- していない
- 分別方法がわからない
- 無回答

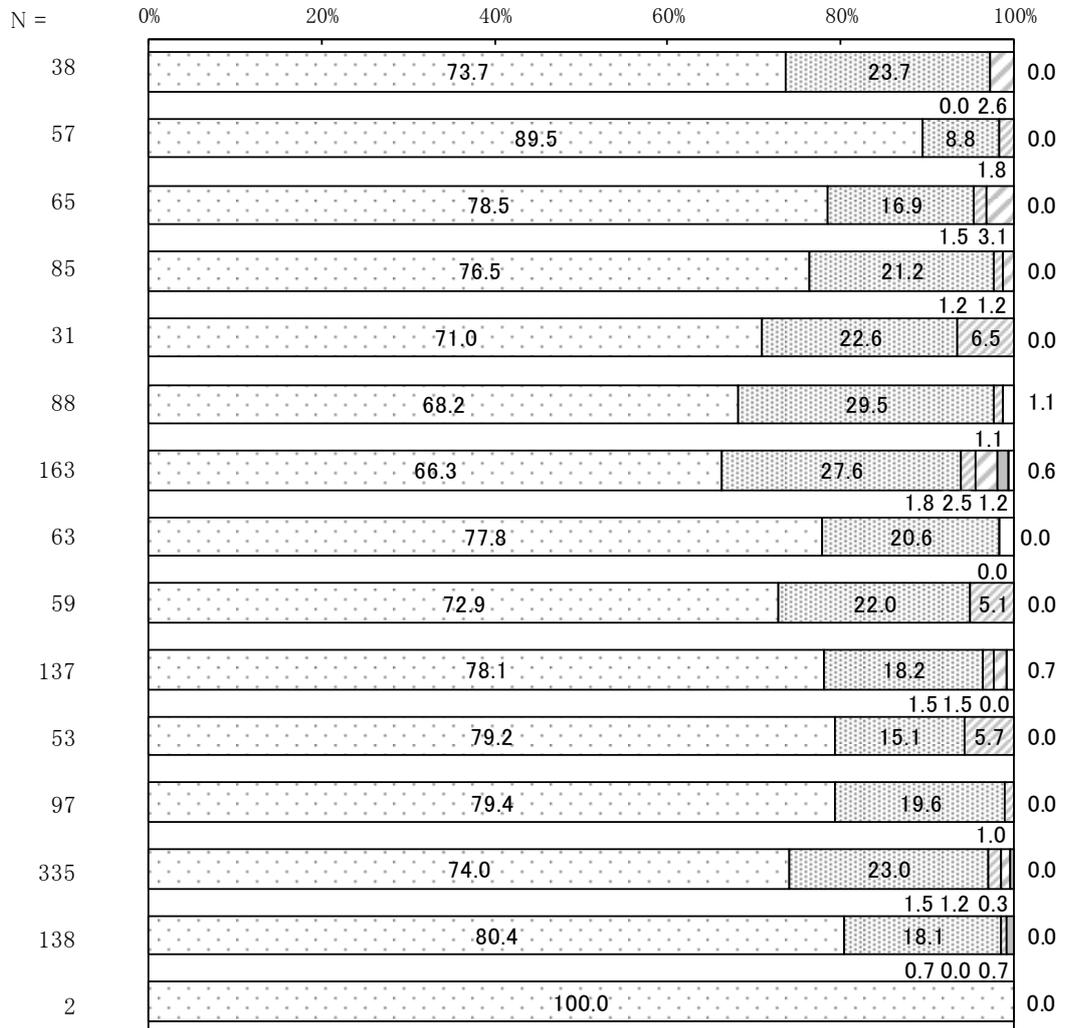
【性別】



【年代別】



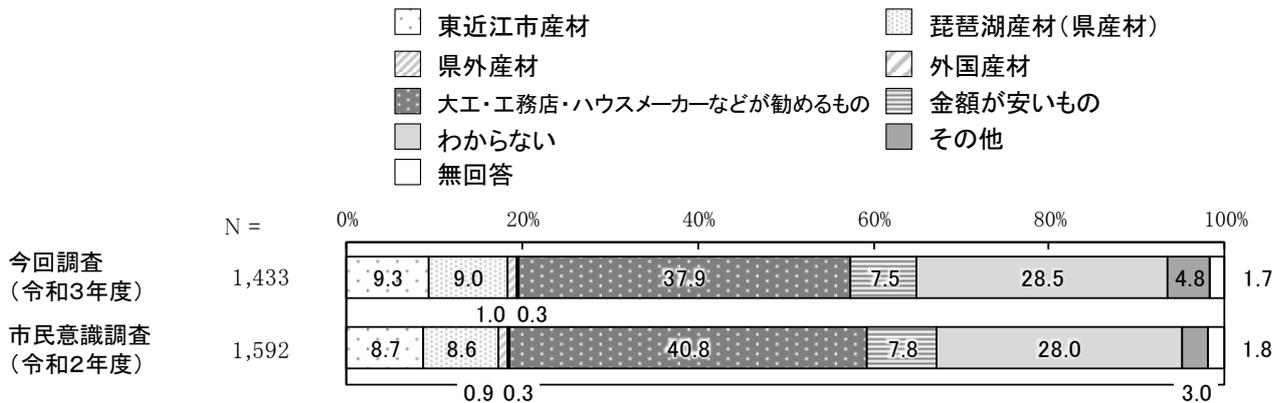
【居住地区別】



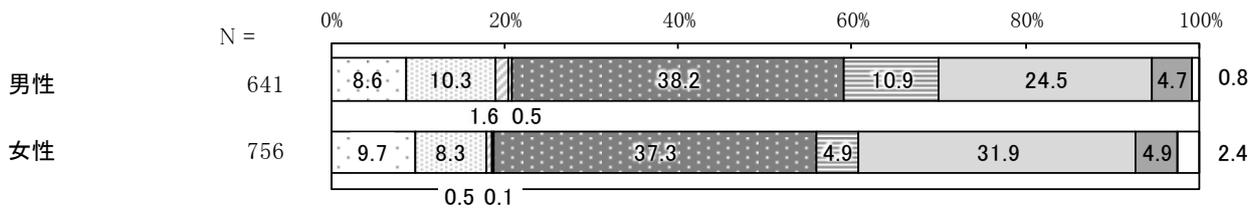
問 24 あなたは、御自身で今後木造住宅を建てるとしたら、材料にはどのようなものを選びたいと思いますか。《○1つ》

4割近くが大工・工務店等が勧めるもの、県産材も含む地元産材は2割近く

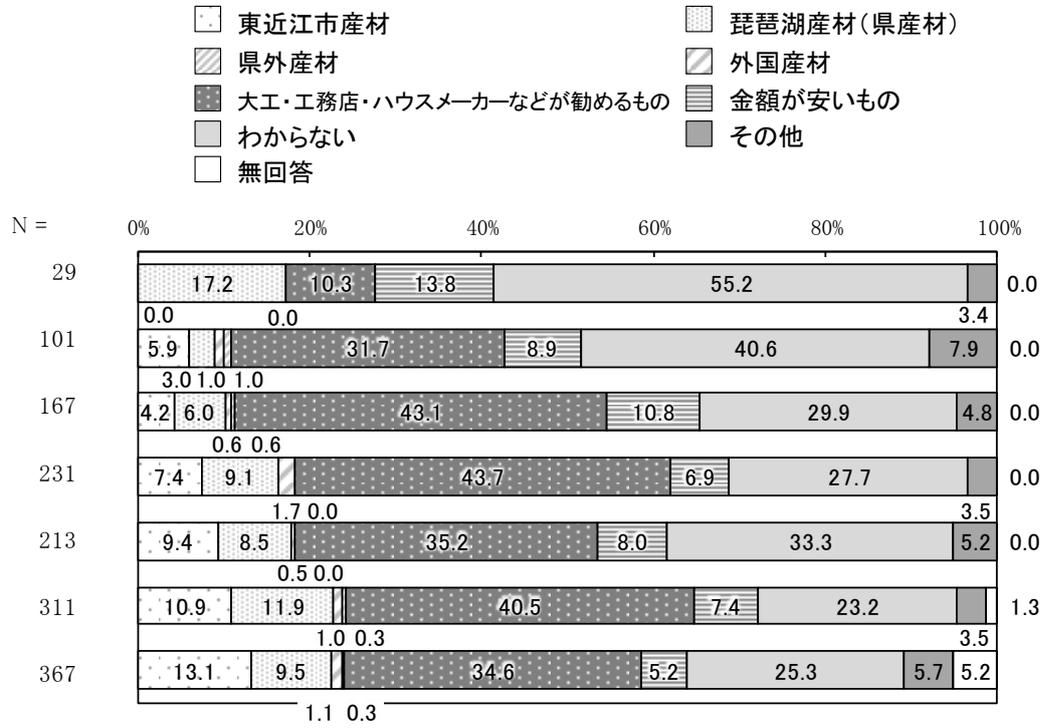
- 今後木造住宅を建てるとしたら、どのような材料を選びたいかを聞いたところ、「大工・工務店・ハウスメーカーなどが勧めるもの」が37.9%と最も多く、次いで「わからない」が28.5%と続きます。
- 具体的にあげられた材料としては、「東近江市産材」が9.3%と最も多く、次いで「琵琶湖産材（県産材）」が9.0%、「金額が安いもの」が7.5%となっています。「東近江市産材」と「琵琶湖産材（県産材）」を合わせた地元産材は18.3%になります。
- 年代別では、10～20歳代で「わからない」が、そのほかの年代で「大工・工務店・ハウスメーカーなどが勧めるもの」が最も多くなっています。「東近江市産材」は60歳以上で、「琵琶湖産材（県産材）」は10歳代と60歳代で1割以上みられます。
- 居住地区別では、平田地区、蒲生地区、八日市地区で「わからない」が、そのほかの地区で「大工・工務店・ハウスメーカーなどが勧めるもの」が最も多くなっています。「東近江市産材」は永源寺地区、南部地区で2割前後、玉緒地区、御園地区、五個荘地区で1割以上、「琵琶湖産材（県産材）」は建部地区で2割近く、五個荘地区、八日市地区、能登川地区で1割以上みられます。



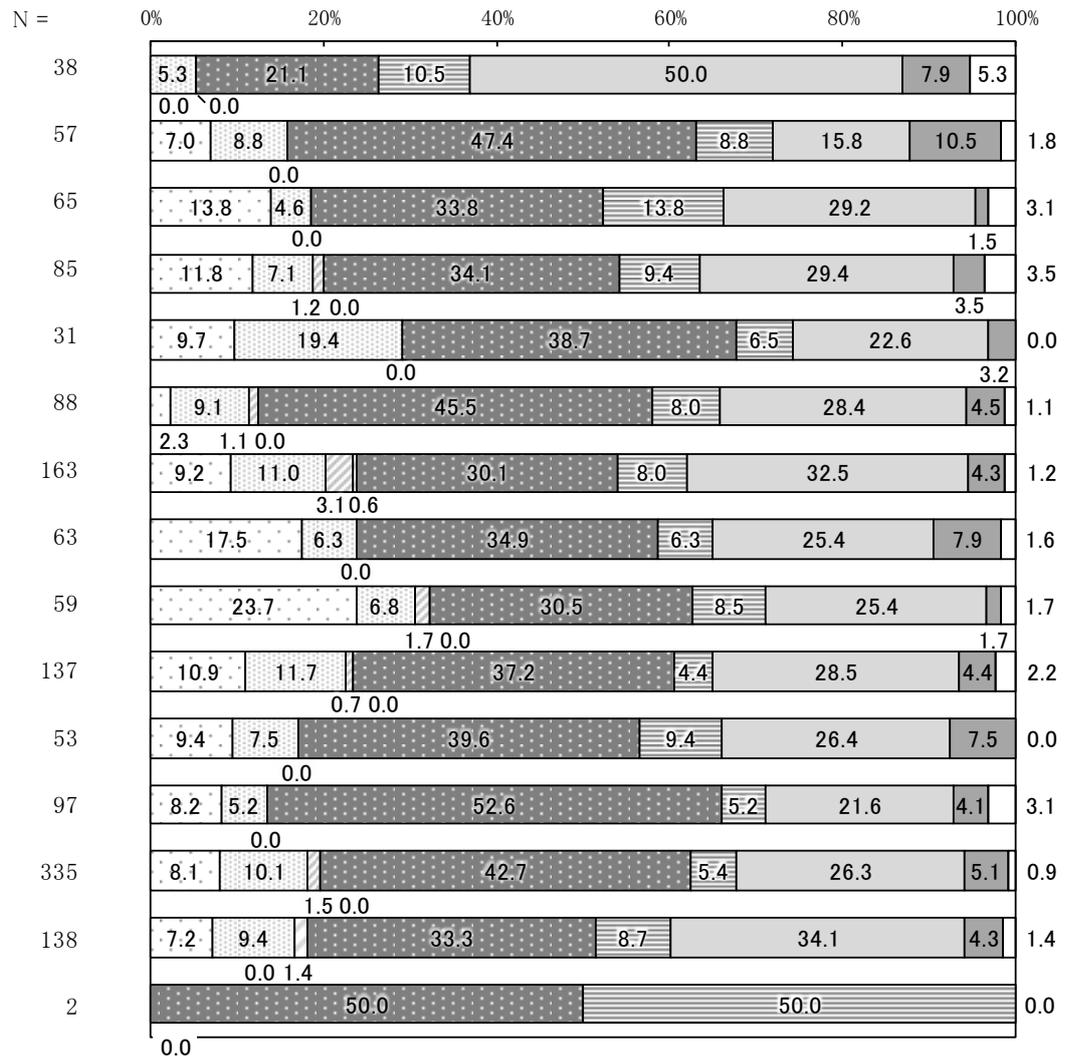
【性別】



【年代別】



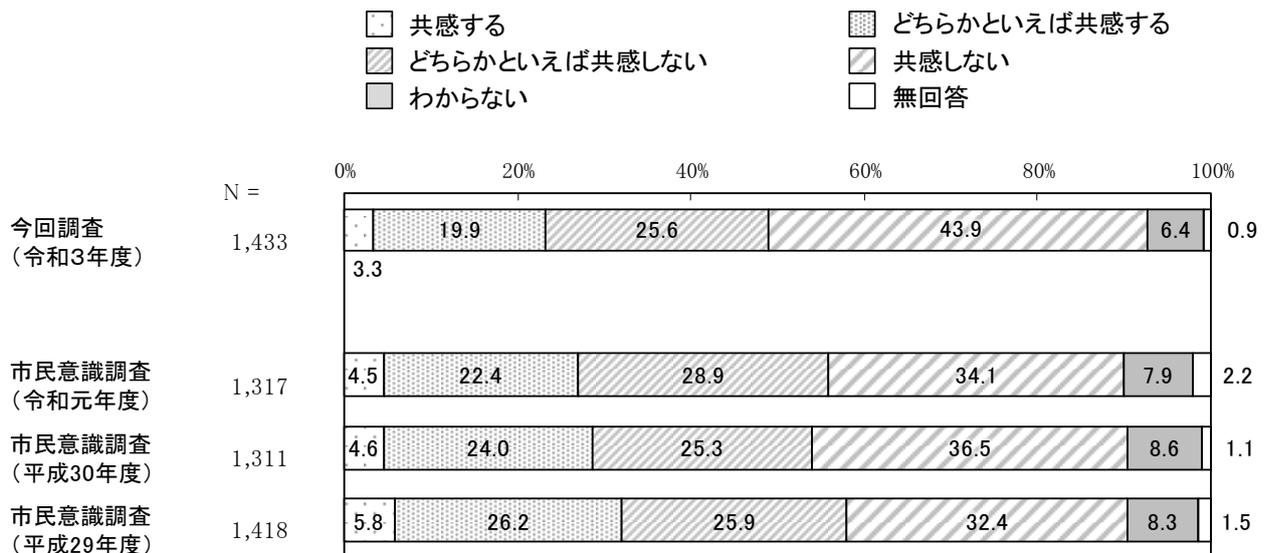
【居住地区別】



問 25 あなたは、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。《○1つ》

7割近くが「男は仕事、女は家事・育児」という考え方に共感しない

- ・ 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、「どちらかといえば共感しない」が 25.6%、「共感しない」が 43.9%で、これらを合わせると 69.5%となり、7割近くが共感しないと回答しています。一方、「共感する」と「どちらかといえば共感する」を合わせると 23.2%となり、2割となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、共感しない人（「どちらかといえば共感しない」と「共感しない」の合計）の割合は年々増加しており、変動はありますが、共感する人（「共感する」と「どちらかといえば共感する」の合計）の割合は減少しています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方に共感しない人（前述）が共感する人（前述）よりも多くなっています。
- ・ 性別では男性より女性で、年代別では10歳代、30歳代、50歳代で、居住地区別では玉緒地区、蒲生地区で、共感しない人（前述）が多くみられます。一方で、共感する人（前述）は、男性で3割近く、70歳以上で4割近くみられます。



※令和2年度は、この設問による調査を行っていないため空欄となっている。

単位：%

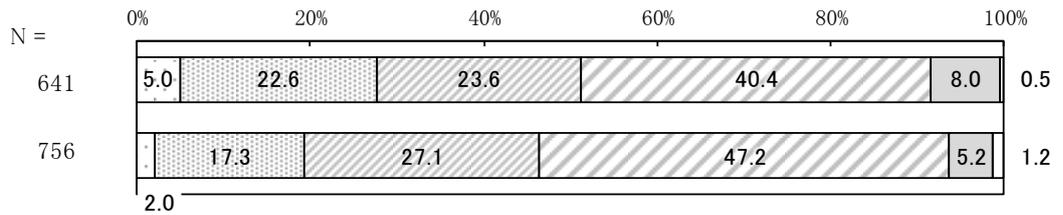
	共感する	共感しない	差
①今回調査(令和3年度)	23.2	69.5	-46.3
②市民意識調査(令和2年度)	—	—	—
③市民意識調査(令和元年度)	26.9	63.0	-36.1
④市民意識調査(平成30年度)	28.6	61.8	-33.2
⑤市民意識調査(平成29年度)	32.0	58.3	-26.3
①-⑤	-8.8	11.2	-20.0

* 共感する:「共感する」と「どちらかといえば共感する」の合計

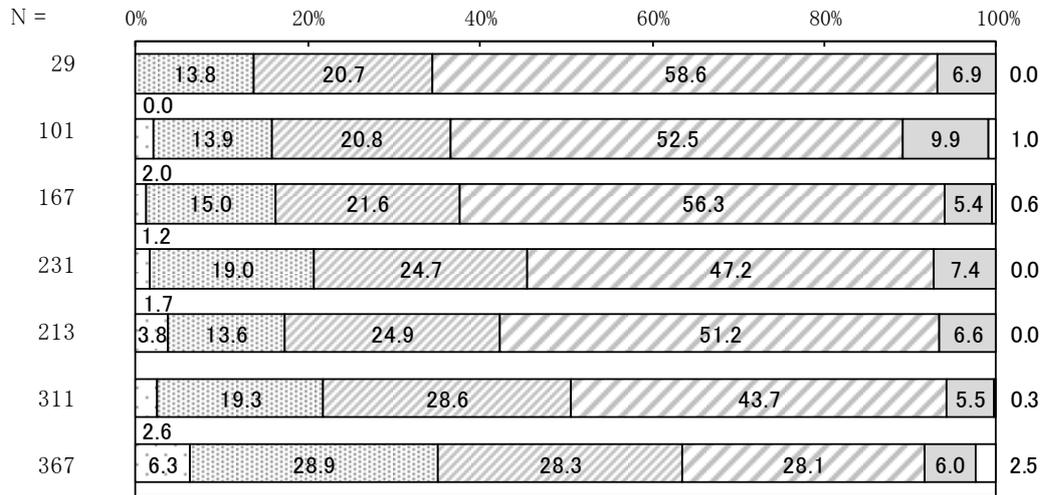
* 共感しない:「どちらかといえば共感しない」と「共感しない」の合計



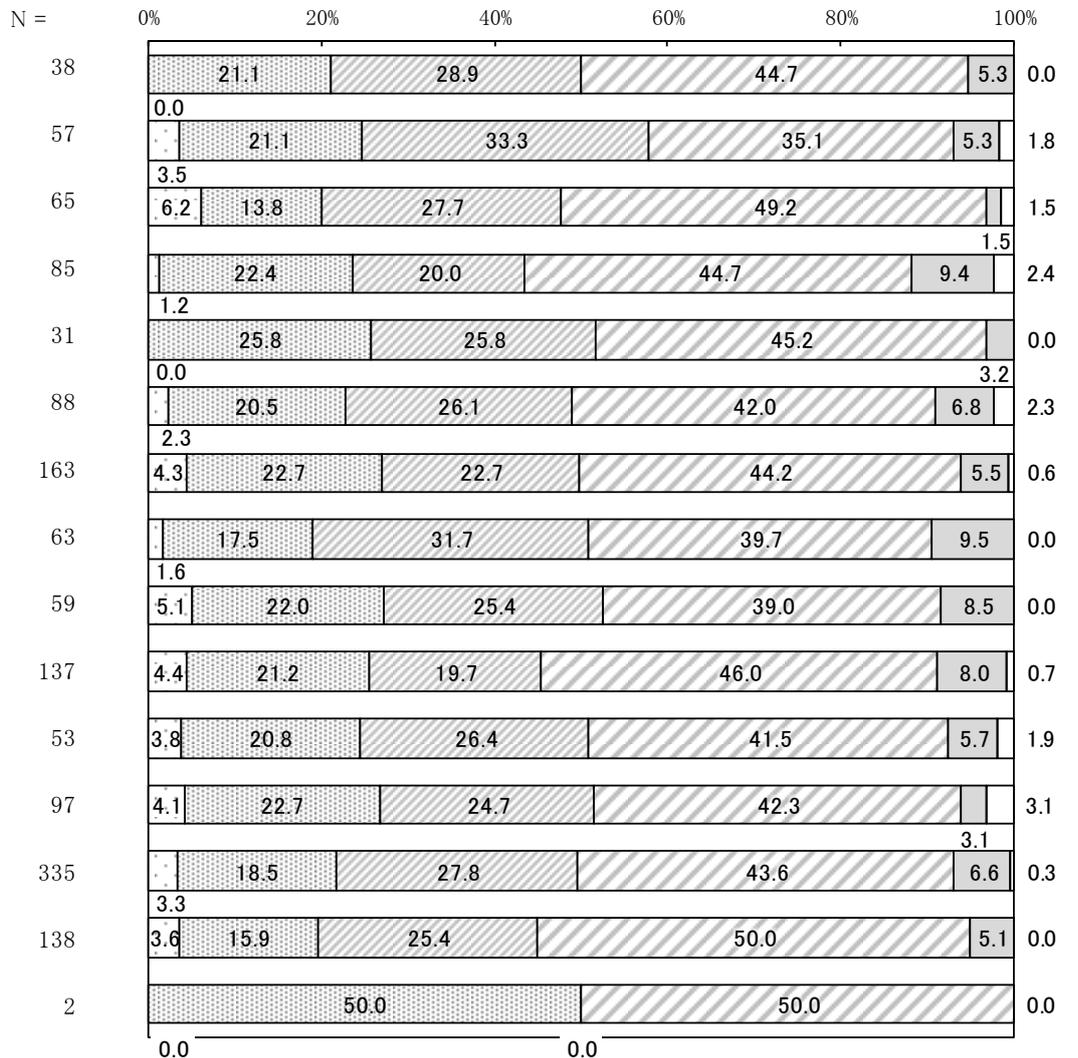
【性別】



【年代別】



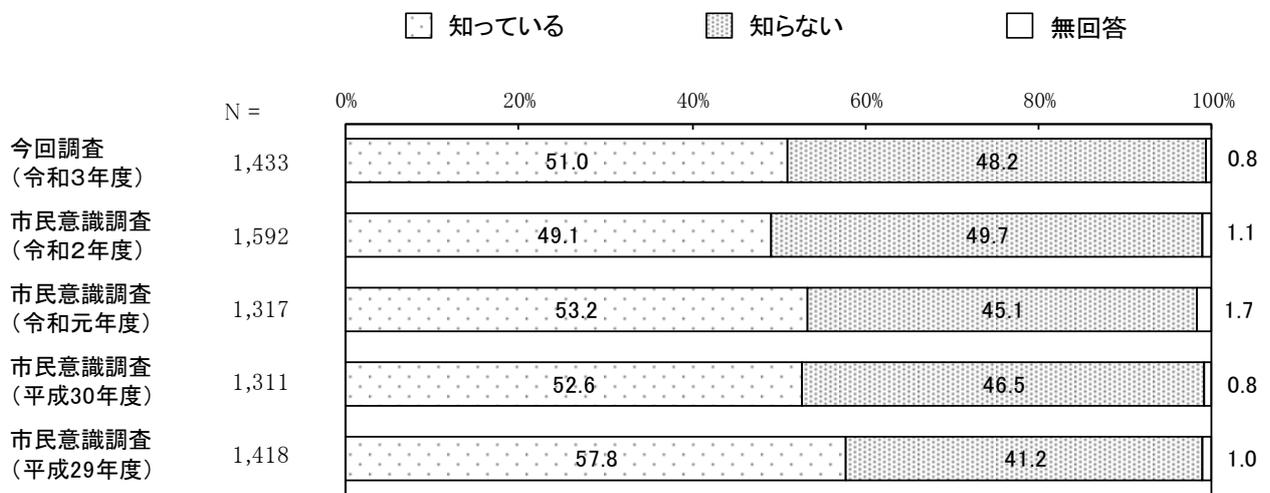
【居住地区別】



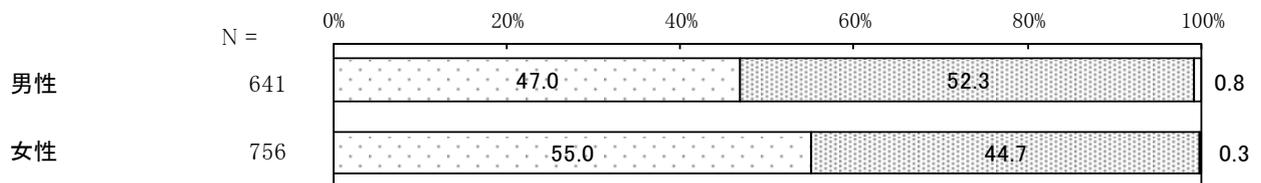
問 26 あなたは、消費者トラブルに巻きこまれたときや、多重債務に陥ったときの相談窓口として、市役所内に消費生活センターがあることを知っていますか。《○1つ》

半数以上が「知っている」、認知度は51.0%

- ・ 市役所内に消費生活センターがあることを知っているかについては、「知っている」が51.0%、「知らない」が48.2%と、半数以上の人が知っています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、認知度は低下しています。
- ・ 性別では、男性より女性で「知っている」人の割合が高く、6割近くの認知度となっています。
- ・ 年代別では、10歳代の認知度が2割未満で最も低く、年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向がみられます。
- ・ 居住地区別では、建部地区で7割近く、南部地区、湖東地区で6割前後と認知度が高くなっています。一方、「知らない」と回答した人の割合は、市辺地区で6割近くと高くなっています。

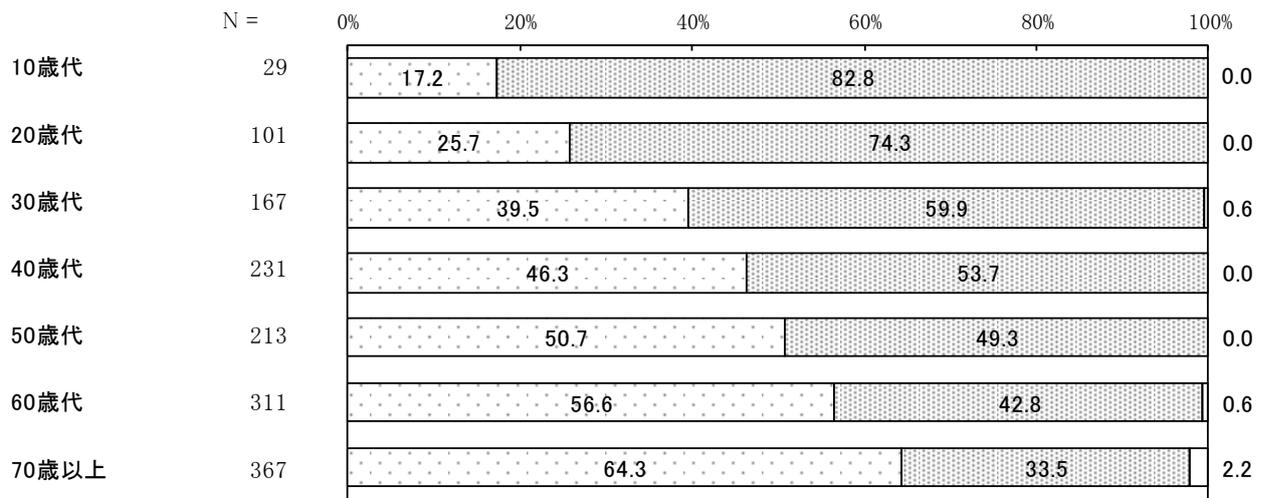


【性別】

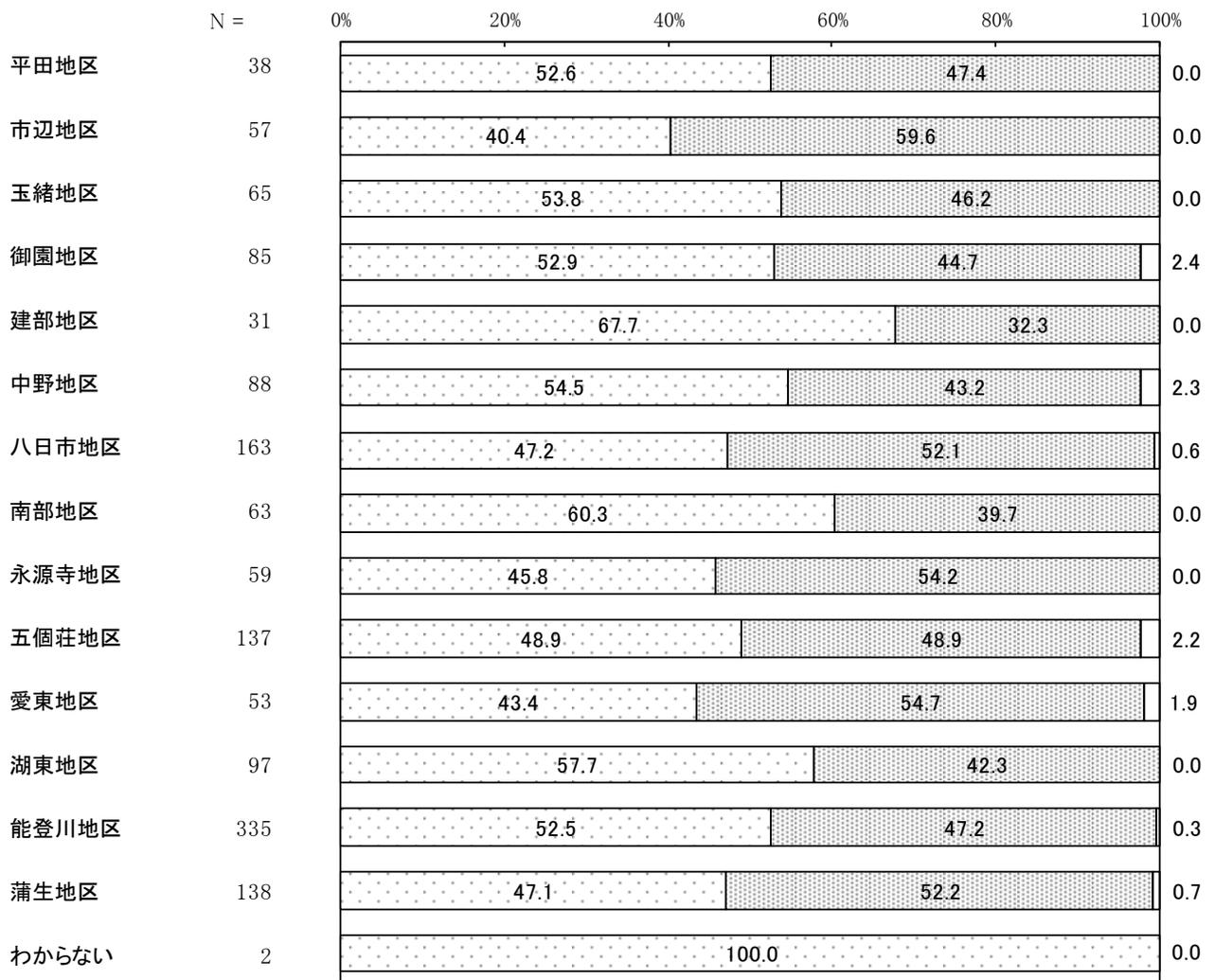


【年代別】

□ 知っている □ 知らない □ 無回答



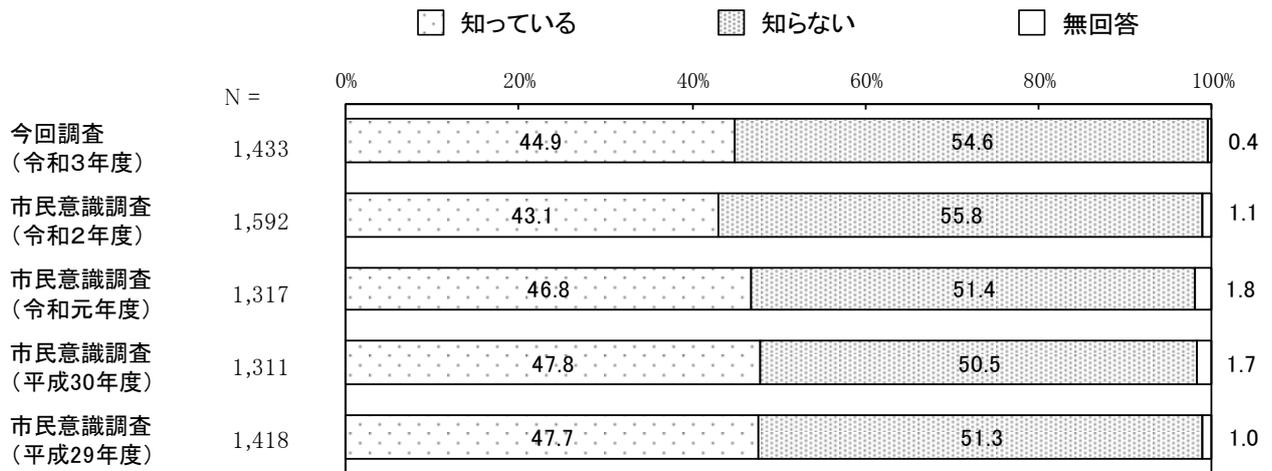
【居住地区別】



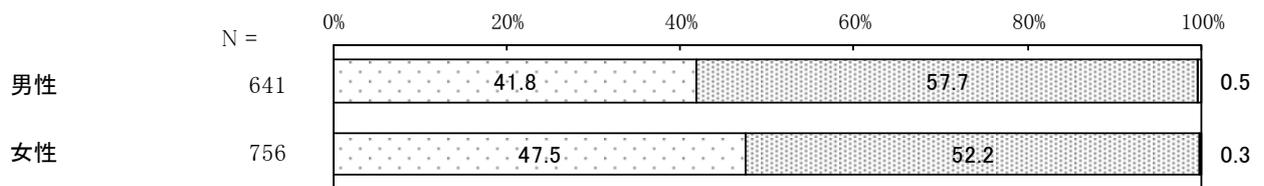
問 27 あなたは、市役所内の市民生活相談課で、暮らしの困りごとに関して法律相談や登記相談等を受けられることを知っていますか。《○1つ》

半数が「知らない」、認知度は44.9%

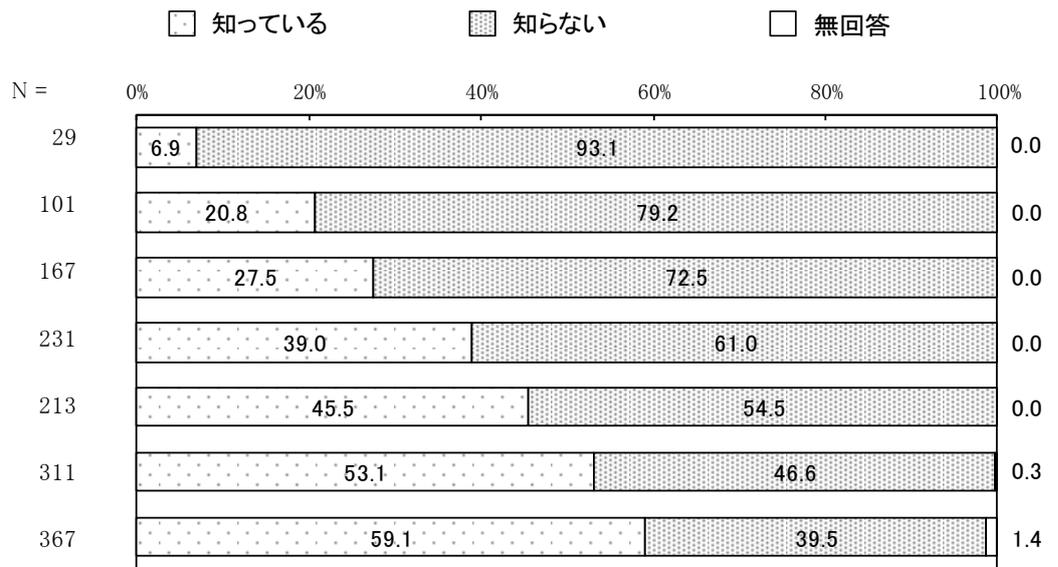
- ・ 市役所内の市民生活相談課で法律相談や登記相談等を受けられることについては、「知っている」が44.9%、「知らない」が54.6%と、知らない人が多くなっています。
- ・ 性別では男性より女性で認知度が高く、年代別では10歳代の認知度が1割未満で最も低く、年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向がみられます。
- ・ 居住地区別では、湖東地区で6割近く、建部地区で半数以上と認知度が高く、蒲生地区で3割、愛東地区で4割未満と低くなっています。



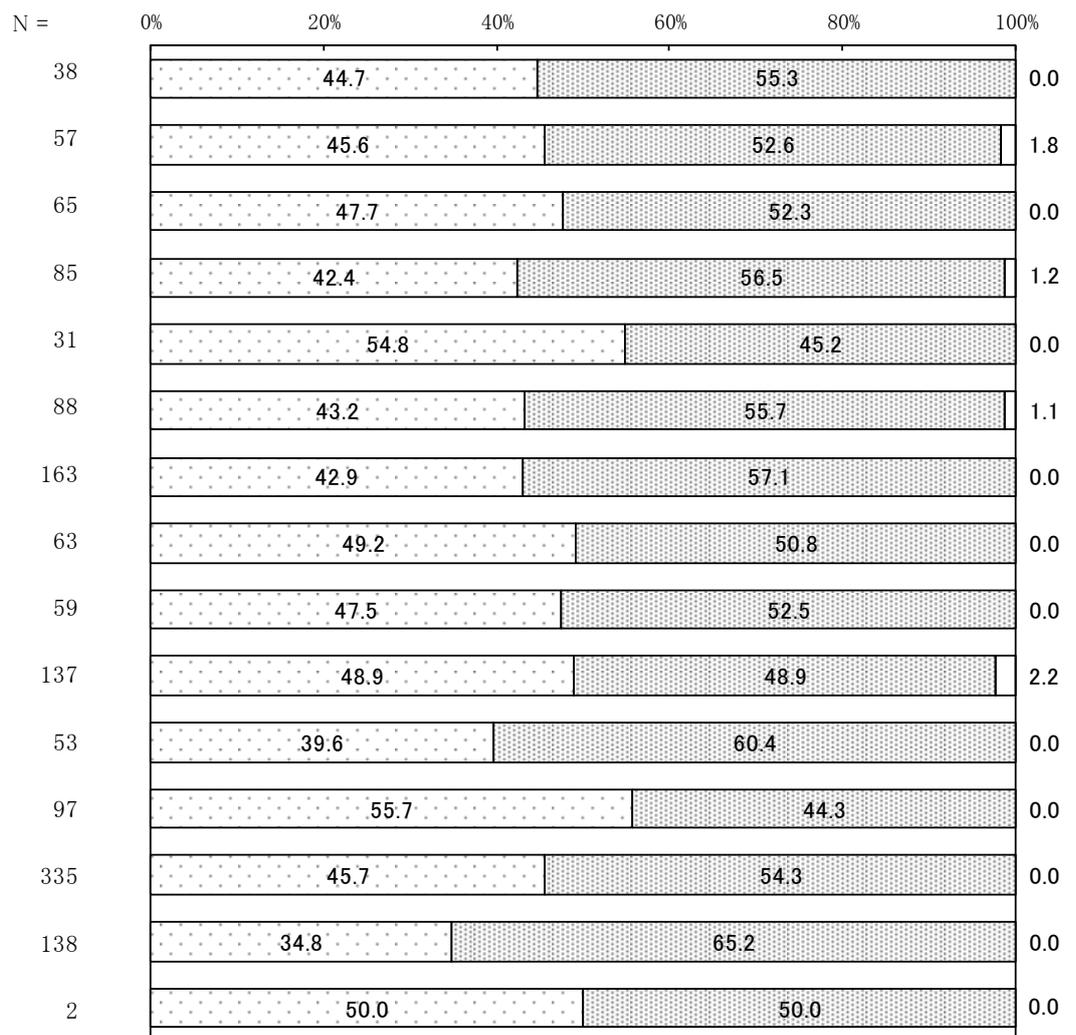
【性別】



【年代別】



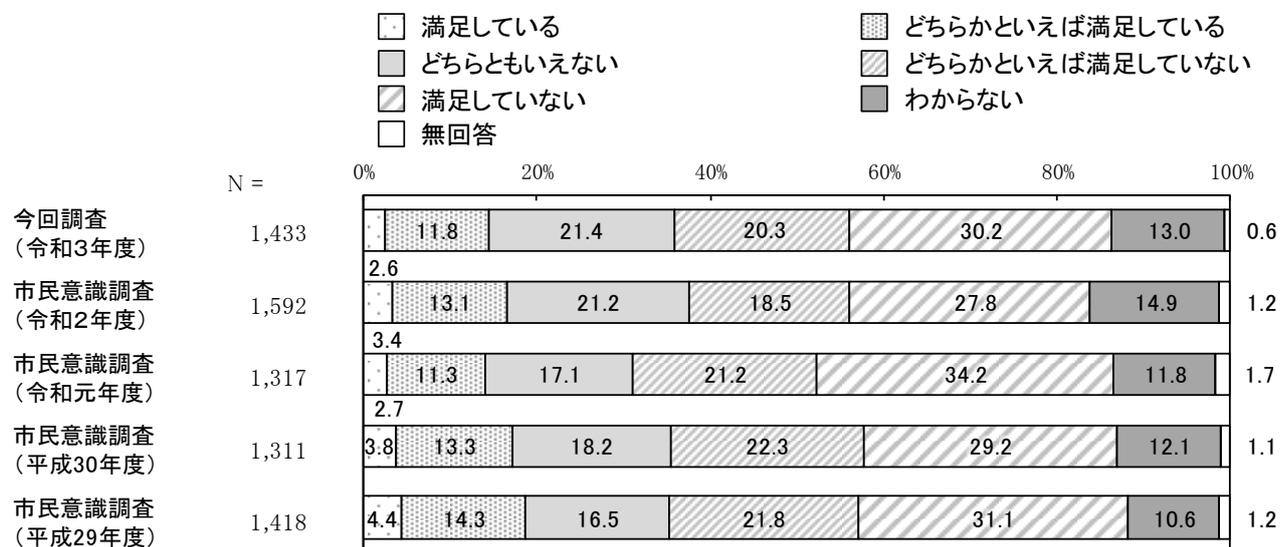
【居住地区別】



問 28 あなたは、市内の鉄道やバス等の公共交通に対して満足していますか。《○1つ》

半数が満足していない

- ・ 公共交通に対する満足度については、「満足していない」が30.2%、「どちらかといえば満足していない」が20.3%で、これらを合わせると50.5%となり、半数の人が満足していないと回答しています。一方、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると14.4%となり、1割は満足しています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、満足している人（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合が減少しています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも、満足している人（前述）の割合よりも満足していない人（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合が高くなっています。
- ・ 年代別では20～50歳代（特に50歳代）で、居住地区別では特に湖東地区、蒲生地区で満足していない人（前述）の割合が高くなっています。

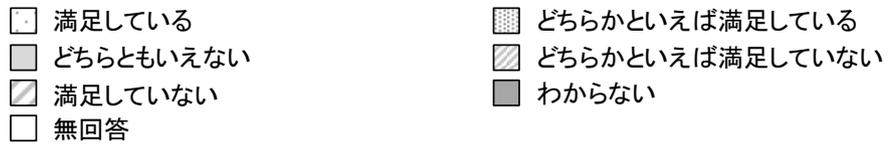


単位：%

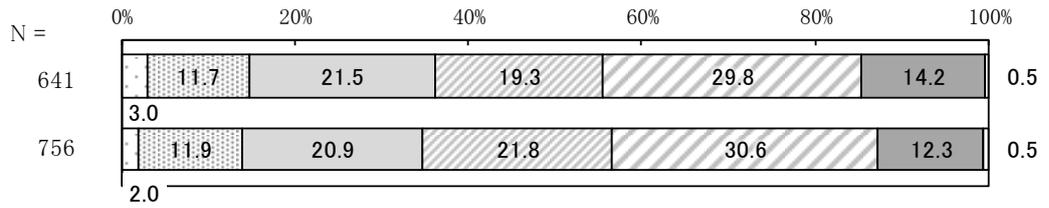
	満足*	不満*	差
①今回調査(令和3年度)	14.4	50.5	-36.1
②市民意識調査(令和2年度)	16.5	46.3	-29.8
③市民意識調査(令和元年度)	14.0	55.4	-41.4
④市民意識調査(平成30年度)	17.1	51.5	-34.4
⑤市民意識調査(平成29年度)	18.7	52.9	-34.2
①-⑤	-4.3	-2.4	-1.9

* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

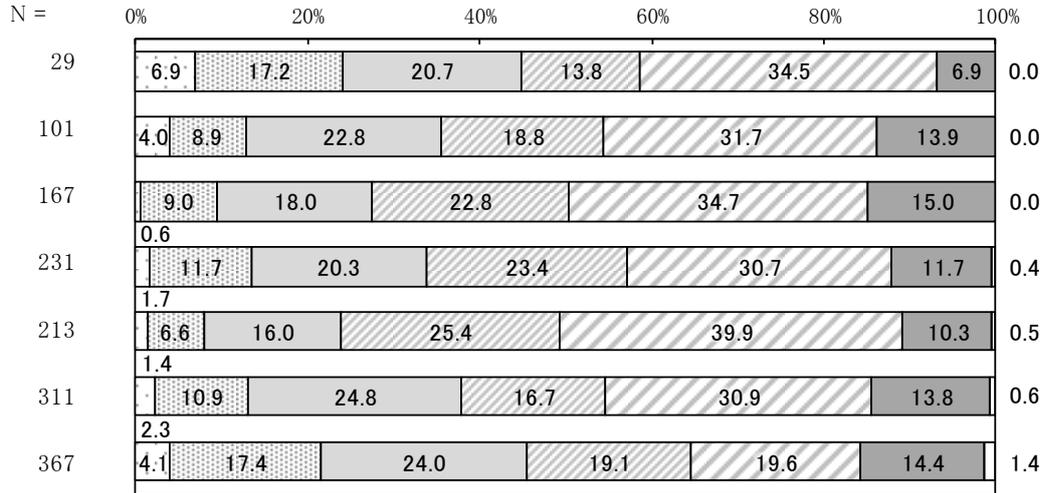
* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計



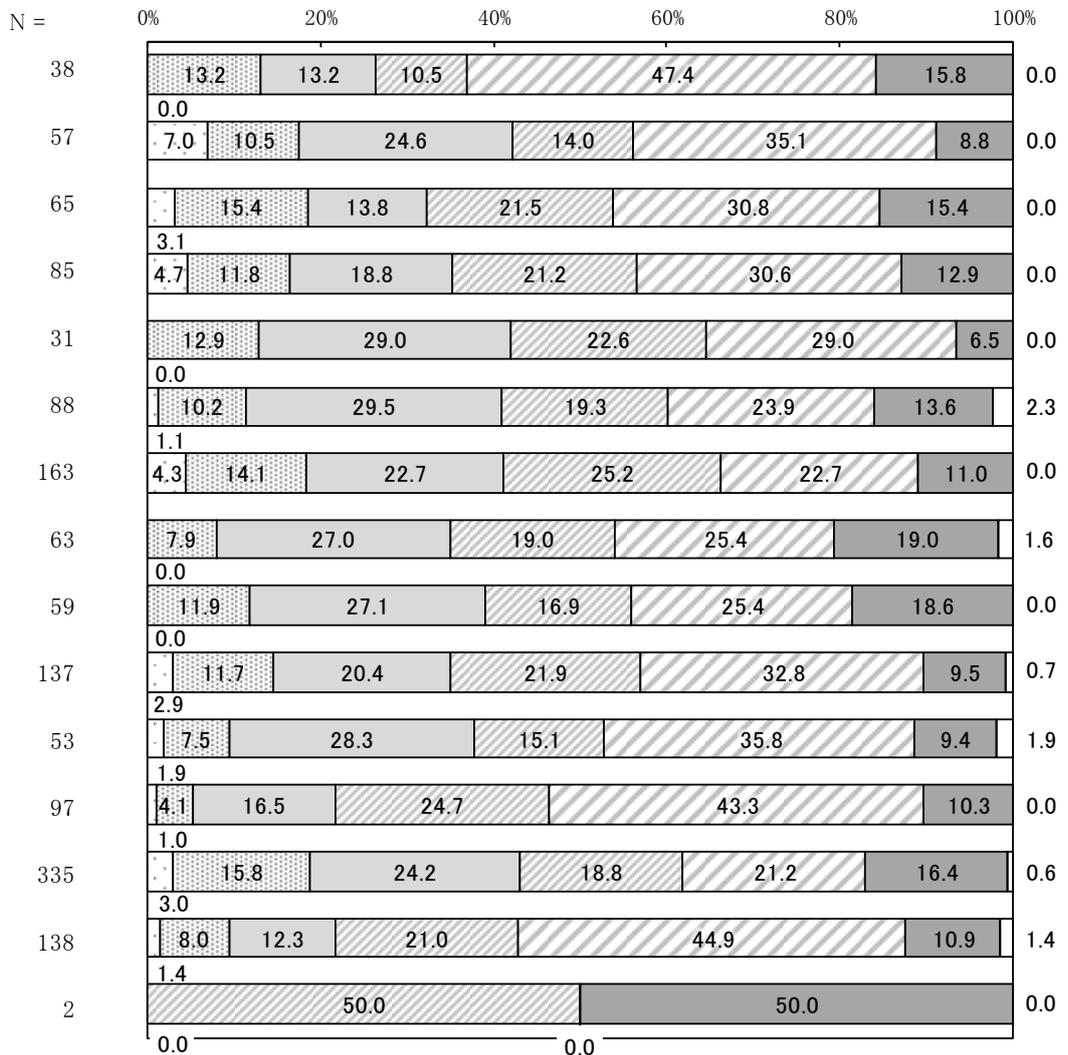
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

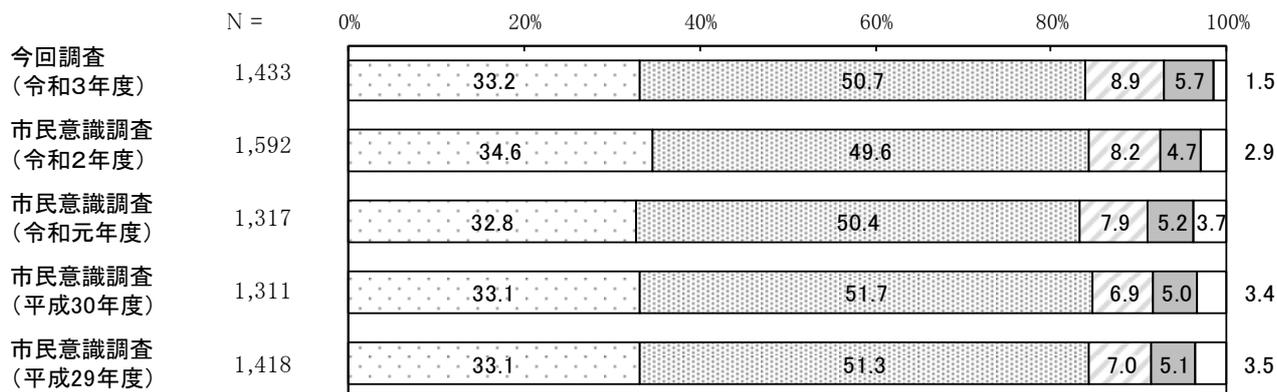
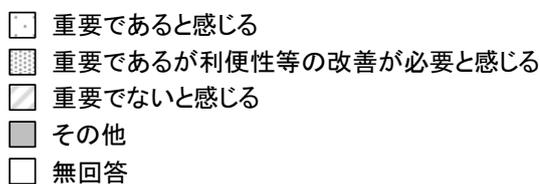


問 29 市内には近江鉄道の駅が13箇所あり、全線を将来にわたって存続させていくために、令和元年11月から、事業者、県及び沿線の市や町などが一緒になって、様々な議論をしているところです。

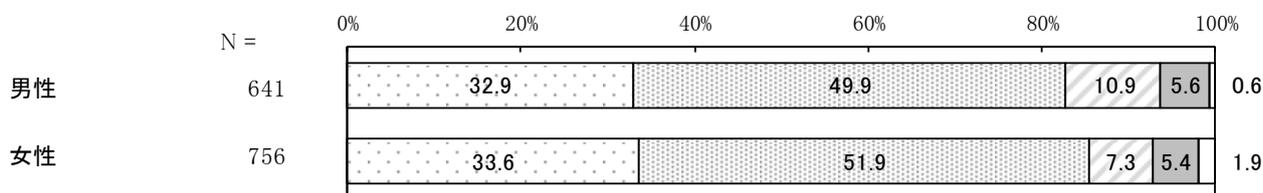
あなたは、近江鉄道線についてどう感じていますか。《○1つ》

8割が重要と感じている、半数が改善を望む

- ・ 近江鉄道線については、「重要であるが利便性等の改善が必要と感じる」が50.7%と最も多く、次いで「重要であると感じる」が33.2%と続きます。これらを合わせると83.9%となり、8割の人が近江鉄道線は重要であると考えています。
- ・ 年代別では30～50歳代で、居住地区別では愛東地区、建部地区、市辺地区、御園地区、南部地区、中野地区で、重要であると感じている人（「重要であると感じる」と「重要であるが利便性等の改善が必要と感じる」の合計）が多くみられます。

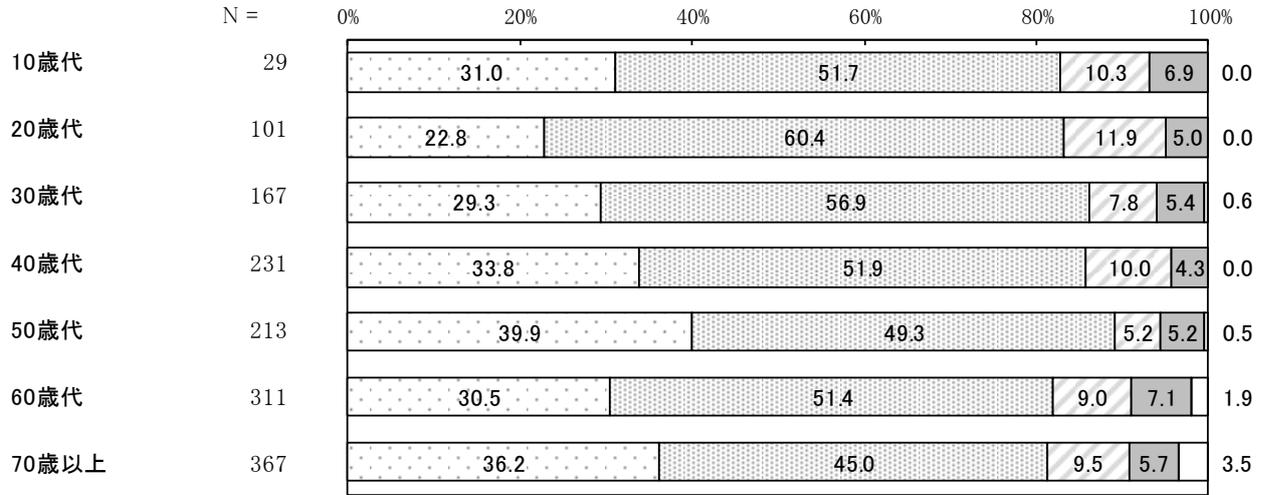


【性別】

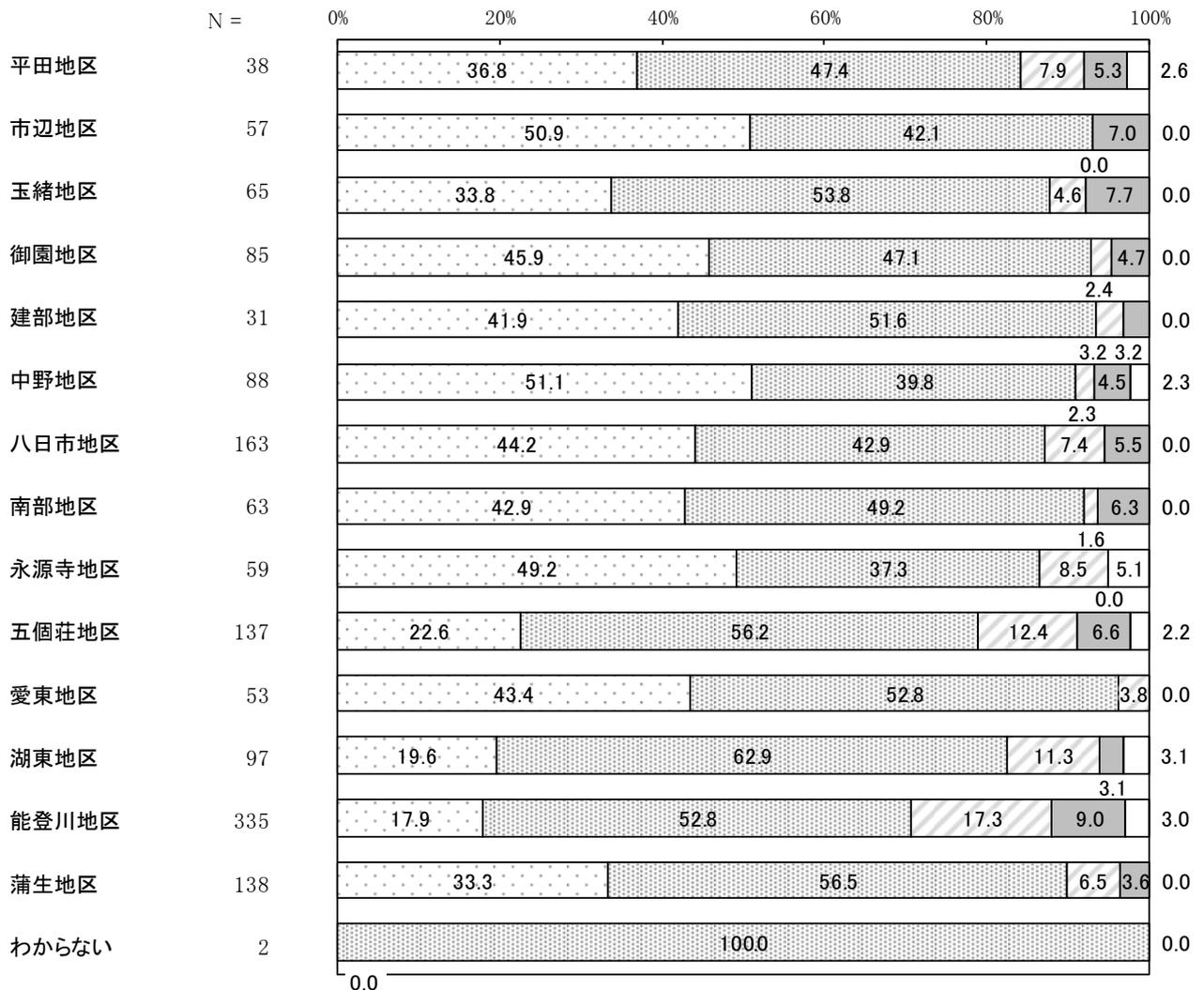


- 重要であると感じる
- 重要であるが利便性等の改善が必要と感じる
- 重要でないと感じる
- その他
- 無回答

【年代別】



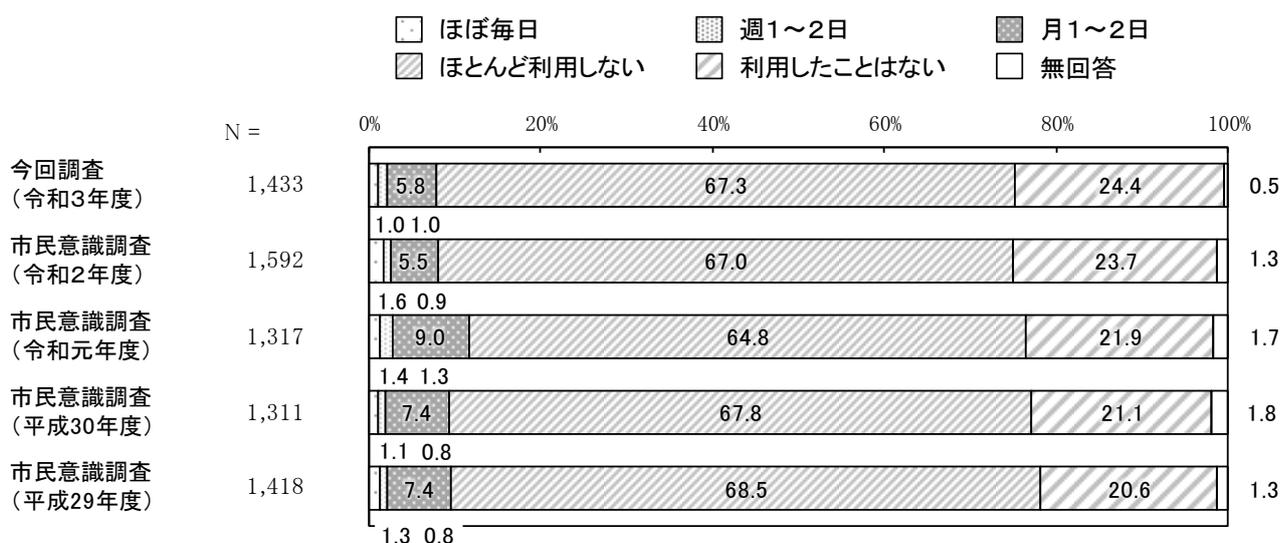
【居住地区別】



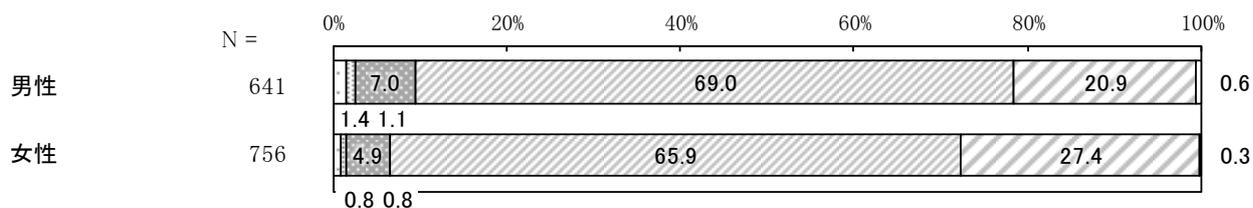
問 30 あなたは、近江鉄道をどの程度利用しますか。《○1つ》

9割が利用していない

- ・ 近江鉄道の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が67.3%と最も多く、次の「利用したことはない」の24.4%を合わせると91.7%となり、9割の人が利用していないと回答しています。一方、利用している人は7.8%で、その内訳は「月1～2日」が5.8%と最も多く、次いで「ほぼ毎日」と「週1～2日」がそれぞれ1.0%となっています。
- ・ 年代別では10歳代で3割、居住地区別では八日市地区、中野地区で2割前後と比較的多く利用されています。

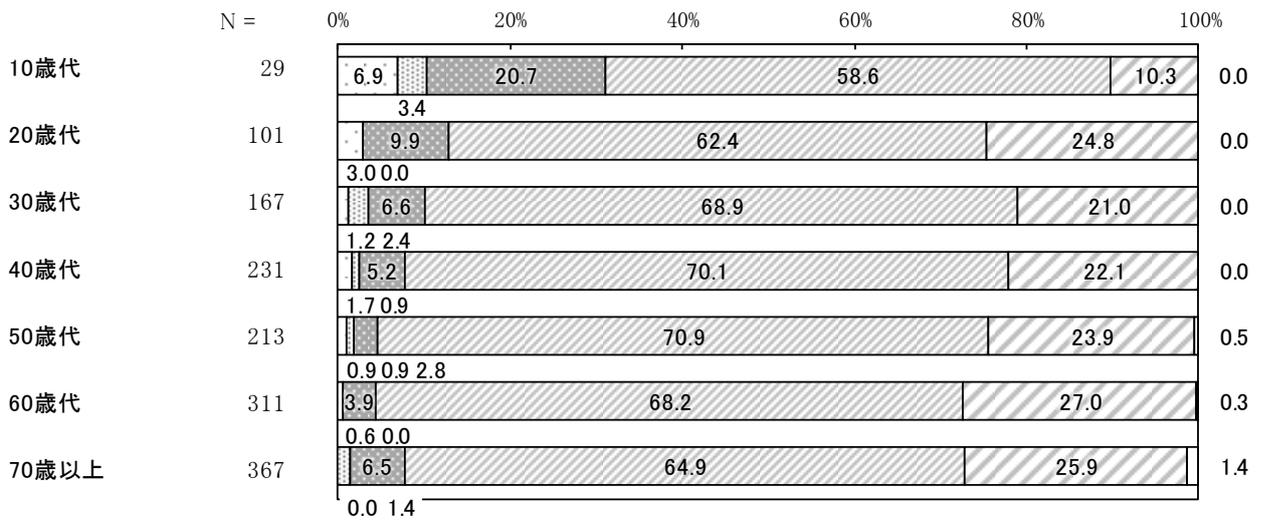


【性別】

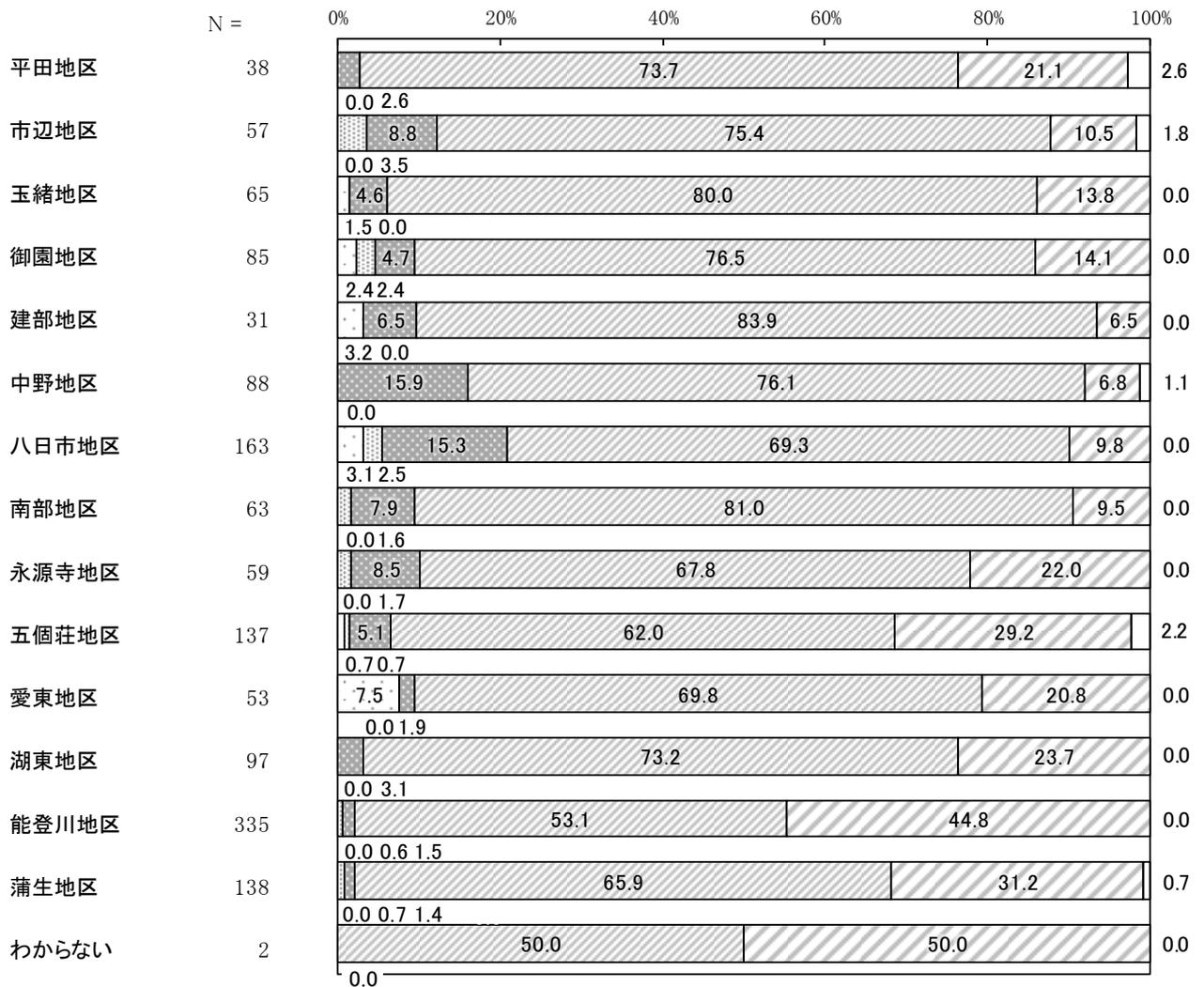


【年代別】

ほぼ毎日
 週1~2日
 月1~2日
 ほとんど利用しない
 利用したことはない
 無回答



【居住地区別】

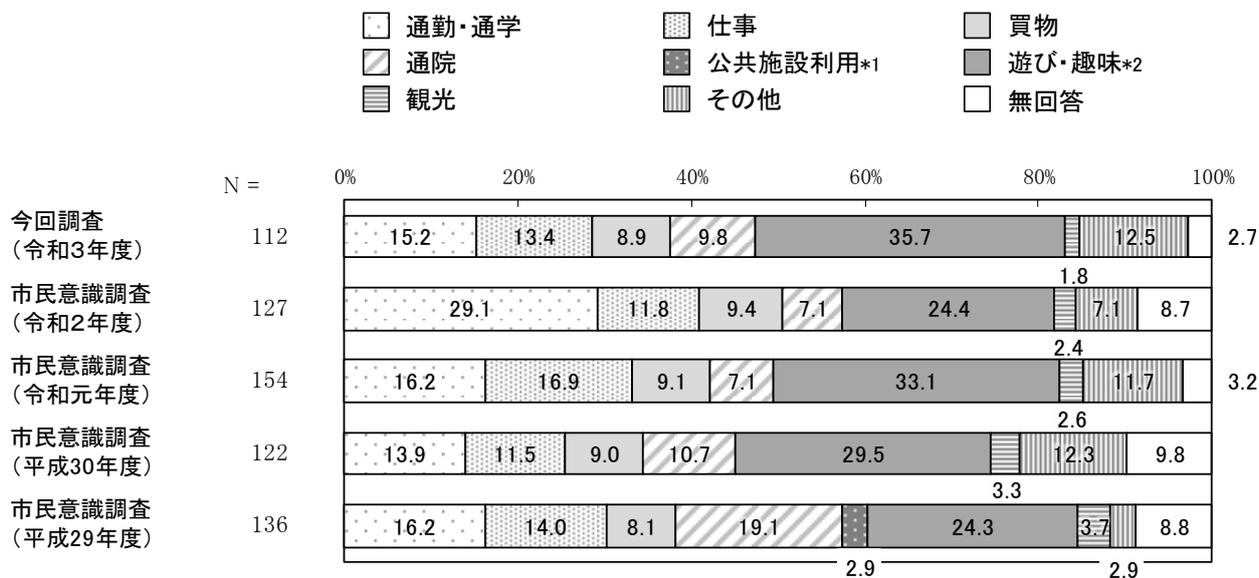


問 30-1 問 30 で「1. ほぼ毎日」「2. 週 1～2 日」「3. 月 1～2 日」とお答えの方におたずね
 します。

近江鉄道を利用する目的は何ですか。《○1つ》

近江鉄道の利用目的は「遊び・趣味」、「通勤・通学」、「仕事」

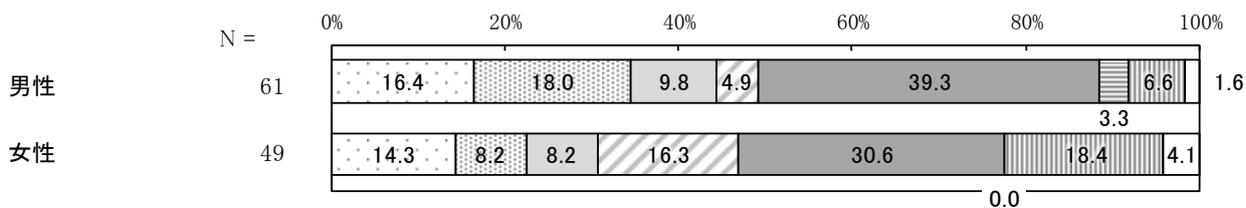
- ・ 近江鉄道の利用目的は、「遊び・趣味」が 35.7%と最も多く、次いで「通勤・通学」が 15.2%、「仕事」が 13.4%、「その他」が 12.5%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、令和 2 年度は若い世代の回答が増加したことにより「通勤・通学」の割合が大きく増加しましたが、この年度を除くと、「遊び・趣味」の割合が増加傾向にあります。
- ・ 性別では、男女ともに「遊び・趣味」での利用が最も多くなっていますが、男性は女性より「仕事」での利用が、女性は男性より「通院」などでの利用が多くみられます。
- ・ 年代別では、有効回答数が少ないため単純比較はできませんが、10 歳代で「通勤・通学」が、20 歳以上は「遊び・趣味」が最も多くなっています。50 歳代は「通勤・通学」、60 歳代は「通院」も同様に最も多くあげられています。そのほか、30～50 歳代では「仕事」、40～50 歳代では「買物」もほかの年代より多くみられます。



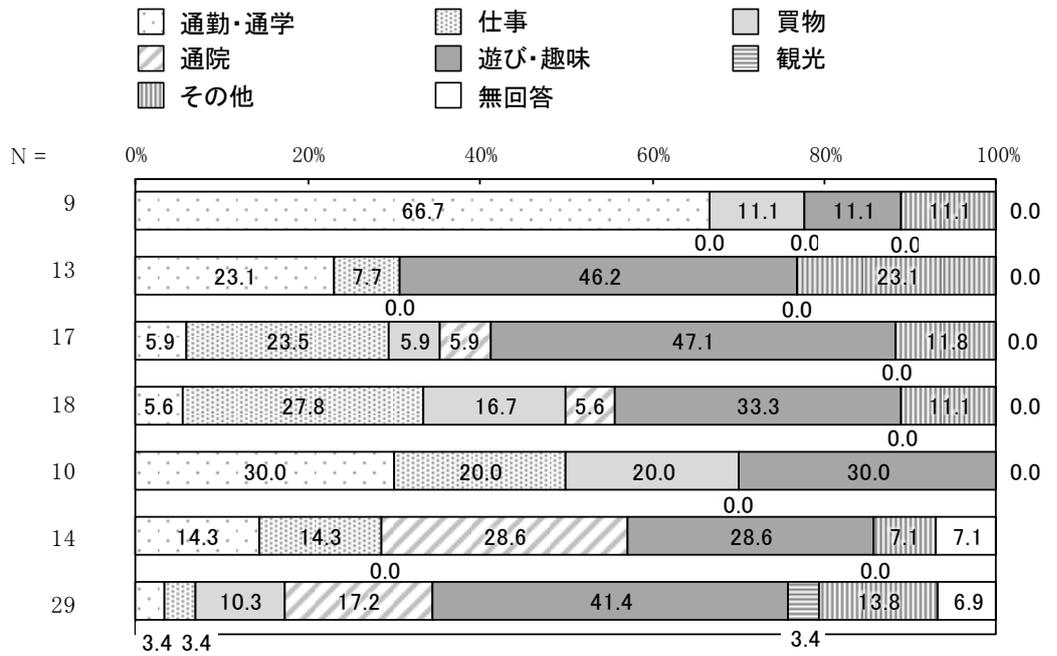
*1 平成30年度以降は「公共施設利用」の選択肢を削除

*2 令和2年度までは「遊び・趣味等」

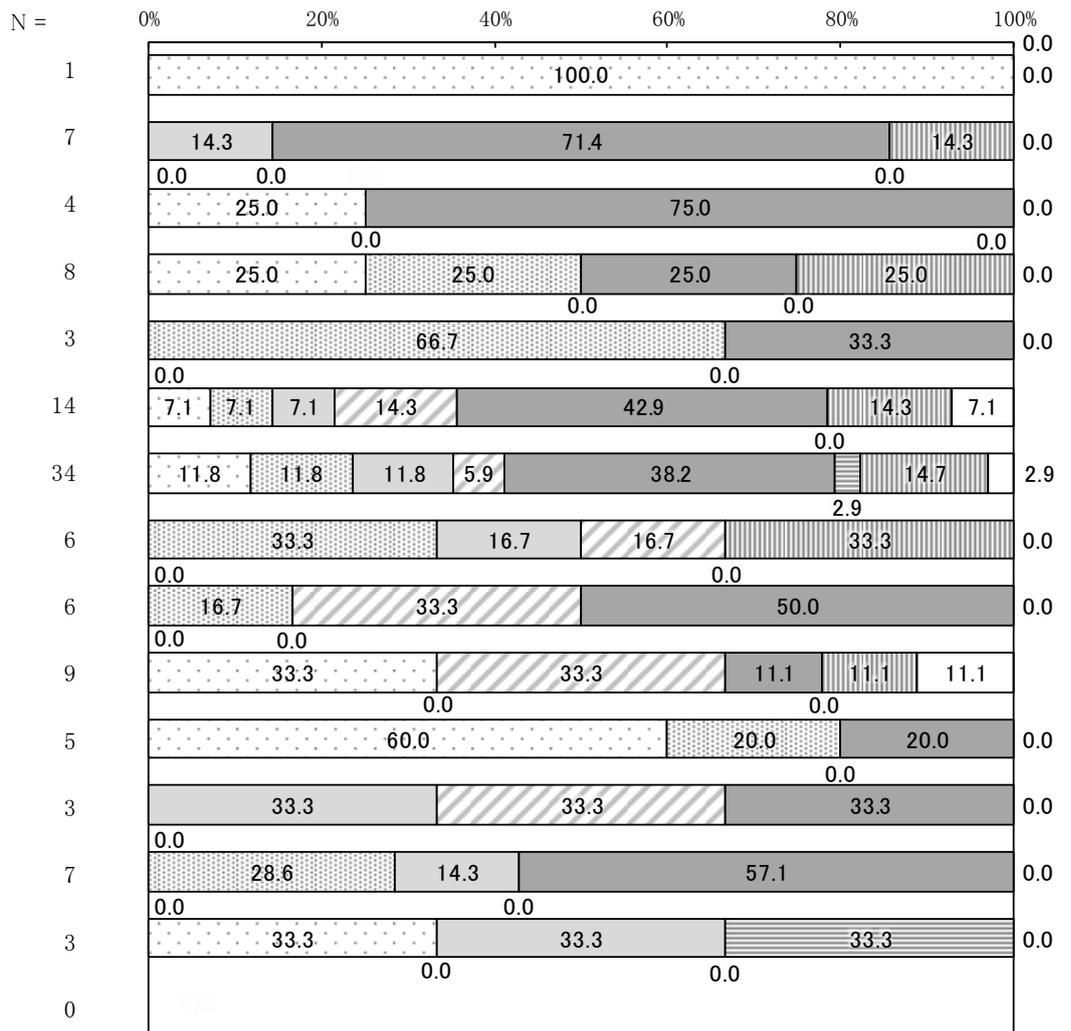
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

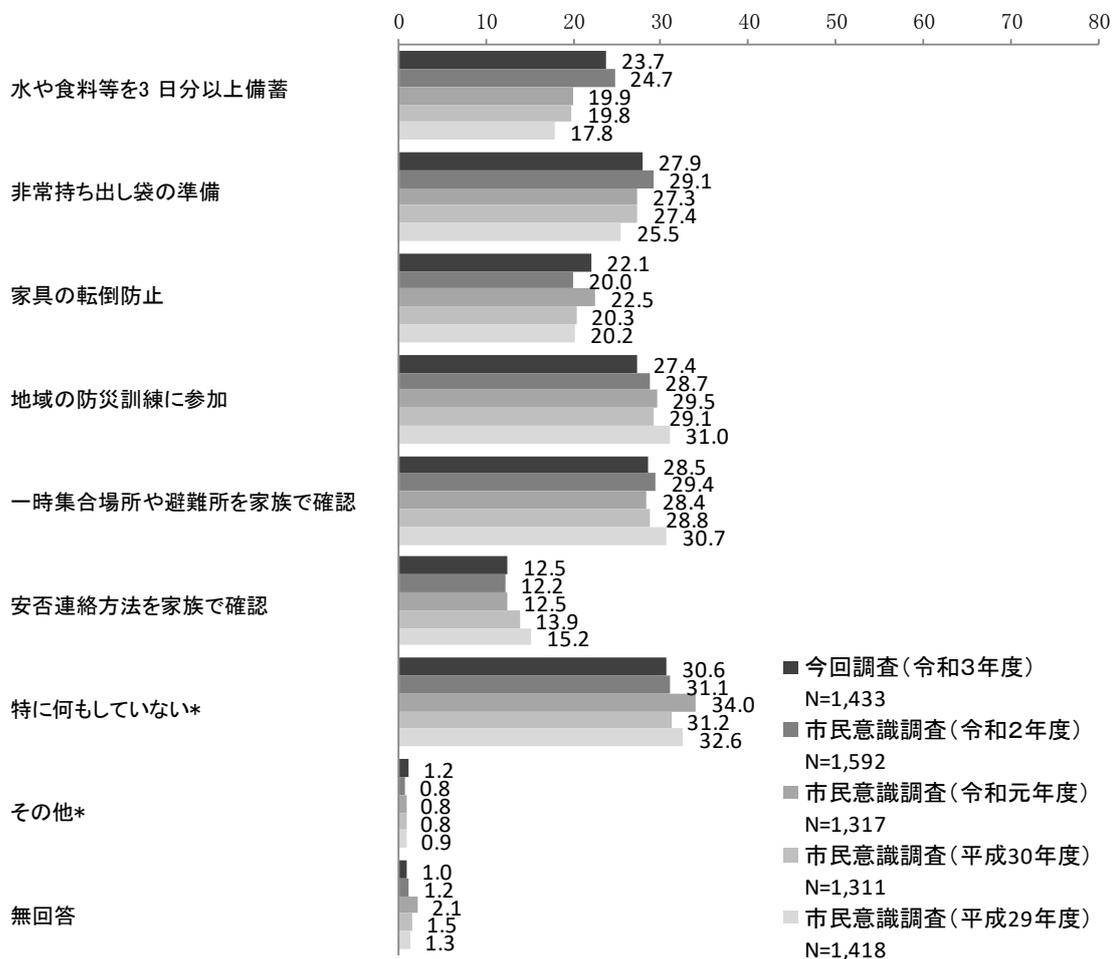


問 31 あなたは、地震等の災害に備えてどのような準備をしていますか。《あてはまるものすべてに○》

7割近くが何らかの災害への備えをしている

- ・ 災害への備えについては、「特に何もしていない」が30.6%と最も多く、次いで「一時集合場所や避難所を家族で確認」が28.5%、「非常持ち出し袋の準備」が27.9%、「地域の防災訓練に参加」が27.4%、「水や食料等を3日分以上備蓄」が23.7%と続きます。何らかの災害への備えをしている人は68.4%*であり、7割近くとなっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、「水や食料等を3日分以上備蓄」などの割合が増加しています。
- ・ 性別では、男性は「特に何もしていない」が、女性は「一時集合場所や避難所を家族で確認」が最も多くあげられています。
- ・ 年代別では、40歳代までは「特に何もしていない」が、50歳代では「一時集合場所や避難所を家族で確認」が、60歳以上では「地域の防災訓練に参加」が最も多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、市辺地区で「水や食料等を3日分以上備蓄」が、南部地区で「非常持ち出し袋の準備」が、建部地区、玉緒地区で「家具の転倒防止」が、湖東地区、愛東地区、永源寺地区、能登川地区、五個荘地区で「地域の防災訓練に参加」が、平田地区で「一時集合場所や避難所を家族で確認」が、そのほかの地区で「特に何もしていない」が最も多くあげられています。能登川地区では「一時集合場所や避難所を家族で確認」、玉緒地区では「特に何もしていない」も同様に最も多くあげられています。

*「特に何もしていない」と「無回答」を除いた980件の有効回答数（1,433件）に対する割合 %



*令和2年度に順番入れ替え

【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	水や食料等を3日分以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所を家族で確認	安否連絡方法を家族で確認	特に何もしていない	その他	無回答
男性	641	22.3	26.1	21.4	28.1	27.0	12.2	33.4	1.2	0.5
女性	756	25.1	29.1	22.8	26.7	30.3	12.4	28.4	1.1	1.2

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	水や食料等を3日分以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所を家族で確認	安否連絡方法を家族で確認	特に何もしていない	その他	無回答
10歳代	29	17.2	13.8	6.9	3.4	13.8	3.4	62.1	0.0	0.0
20歳代	101	16.8	12.9	11.9	2.0	10.9	2.0	60.4	0.0	0.0
30歳代	167	28.1	21.6	15.6	12.0	18.6	8.4	38.9	0.6	0.0
40歳代	231	26.4	29.9	23.4	21.2	22.9	11.7	30.7	1.3	0.0
50歳代	213	23.0	25.8	20.2	29.1	32.9	12.2	31.0	1.4	0.5
60歳代	311	25.7	28.9	28.9	39.9	35.4	15.8	22.5	1.0	0.3
70歳以上	367	21.0	35.4	24.0	36.0	34.6	15.8	22.6	1.9	2.7

【居住地区別】

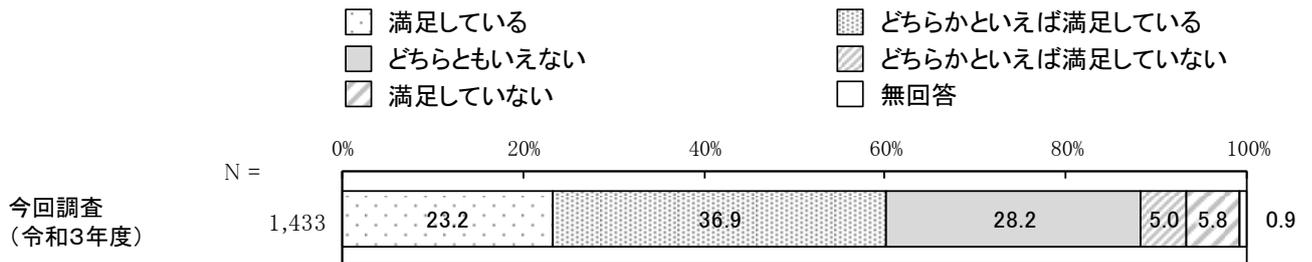
単位:%

区分	有効回答数(件)	水や食料等を3日分以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所を家族で確認	安否連絡方法を家族で確認	特に何もしていない	その他	無回答
平田地区	38	21.1	23.7	15.8	26.3	39.5	13.2	21.1	0.0	0.0
市辺地区	57	31.6	24.6	26.3	28.1	28.1	12.3	26.3	3.5	0.0
玉緒地区	65	27.7	26.2	32.3	21.5	24.6	15.4	32.3	0.0	1.5
御園地区	85	25.9	23.5	11.8	9.4	23.5	14.1	37.6	0.0	2.4
建部地区	31	19.4	32.3	41.9	25.8	32.3	12.9	35.5	3.2	0.0
中野地区	88	17.0	25.0	23.9	6.8	14.8	5.7	42.0	3.4	2.3
八日市地区	163	21.5	24.5	23.9	15.3	18.4	9.2	37.4	1.2	0.6
南部地区	63	27.0	46.0	9.5	20.6	36.5	20.6	27.0	0.0	0.0
永源寺地区	59	22.0	20.3	18.6	44.1	30.5	8.5	30.5	0.0	1.7
五個荘地区	137	25.5	29.2	23.4	31.4	22.6	15.3	30.7	1.5	1.5
愛東地区	53	30.2	34.0	13.2	47.2	37.7	11.3	17.0	0.0	0.0
湖東地区	97	16.5	25.8	18.6	47.4	36.1	12.4	23.7	1.0	2.1
能登川地区	335	23.9	32.2	25.4	37.0	37.0	15.8	24.8	0.9	0.9
蒲生地区	138	26.8	24.6	21.0	16.7	23.2	8.0	33.3	2.2	0.0
わからない	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

問 32 あなたは、東近江市の水道水の水質に満足していますか。《○1つ》

6割が満足、3割近くが「どちらともいえない」

- ・ 東近江市の水道水の水質については、「どちらかといえば満足している」が36.9%で最も多く、「満足している」の23.2%と合わせると、60.1%となり6割の人が満足しています。
- ・ 一方、「どちらともいえない」が28.2%と2番目に多くなっていますが、満足していない人（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）は10.8%とわずかでした。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では20歳代と60歳以上で、居住地区別では玉緒地区、永源寺地区、市辺地区で、満足している人（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合が高くなっています。



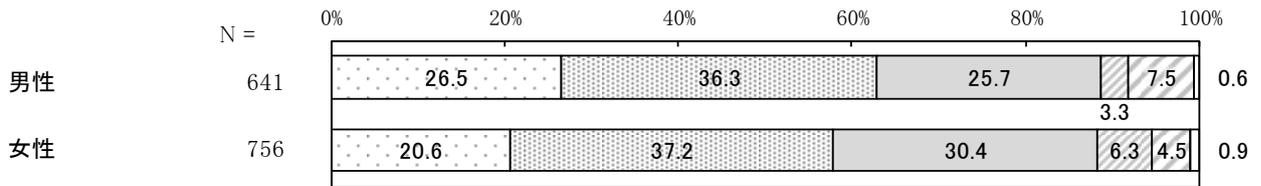
単位：％

	満足*	不満*	差
①今回調査(令和3年度)	60.1	10.8	49.3

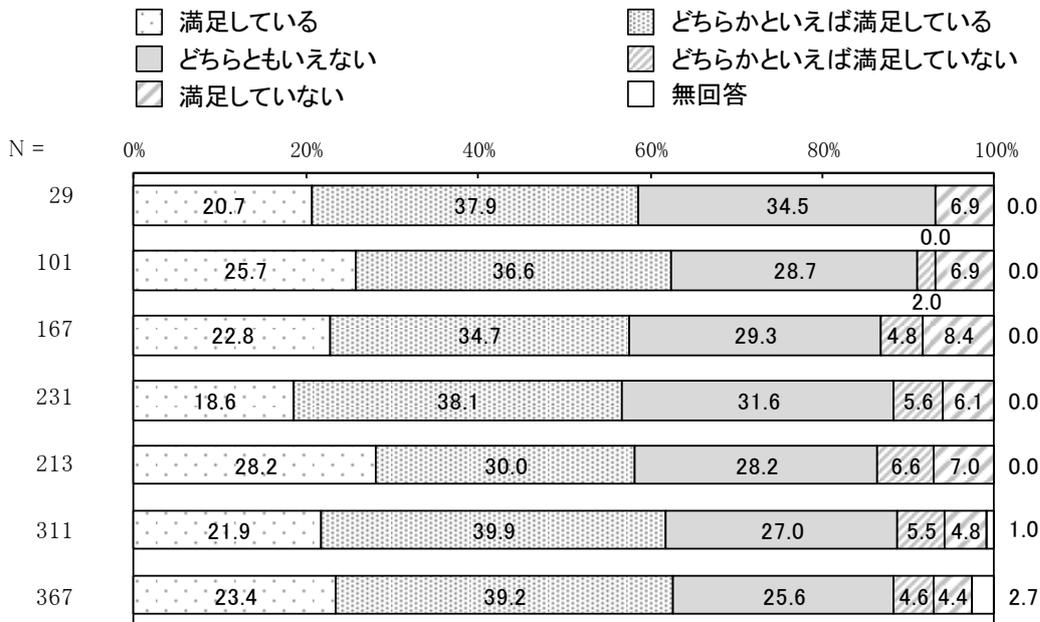
* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

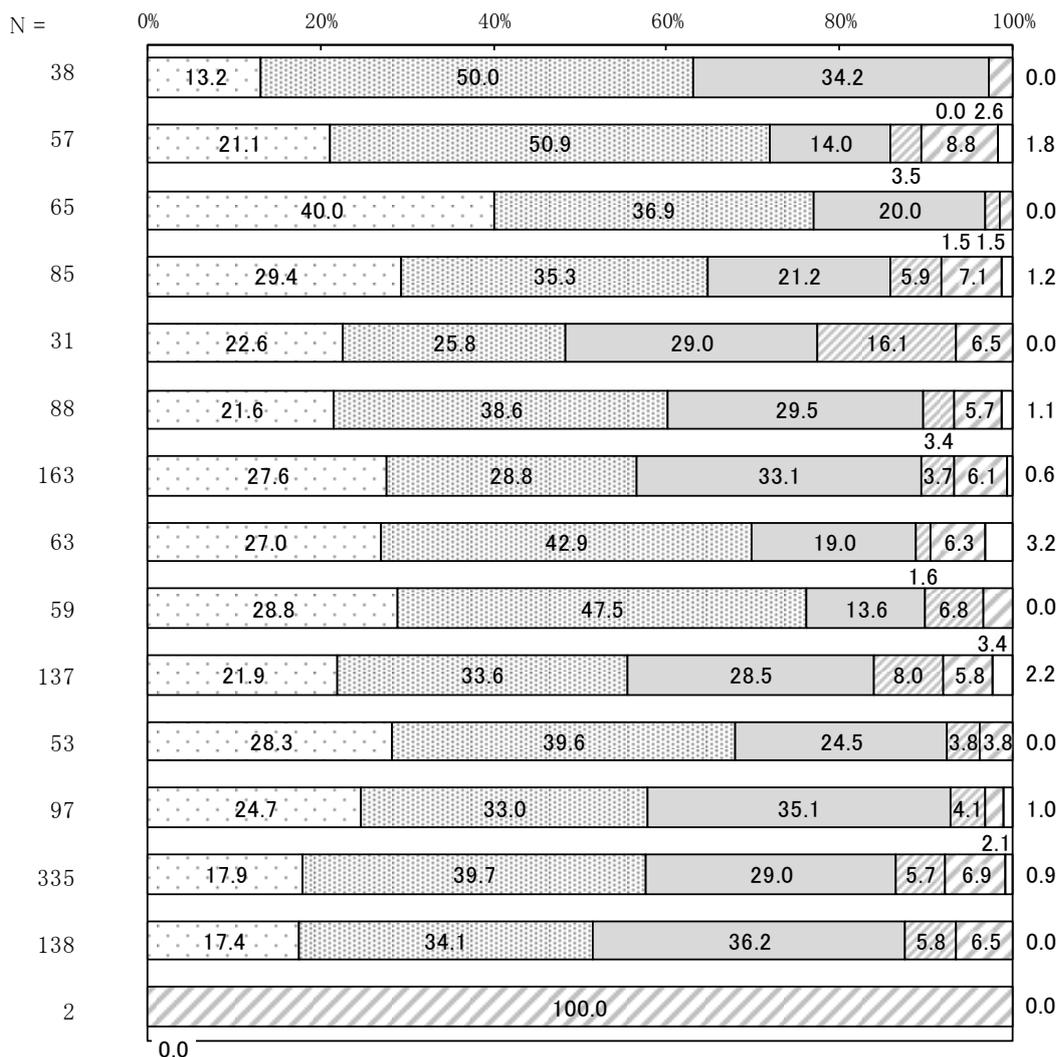
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

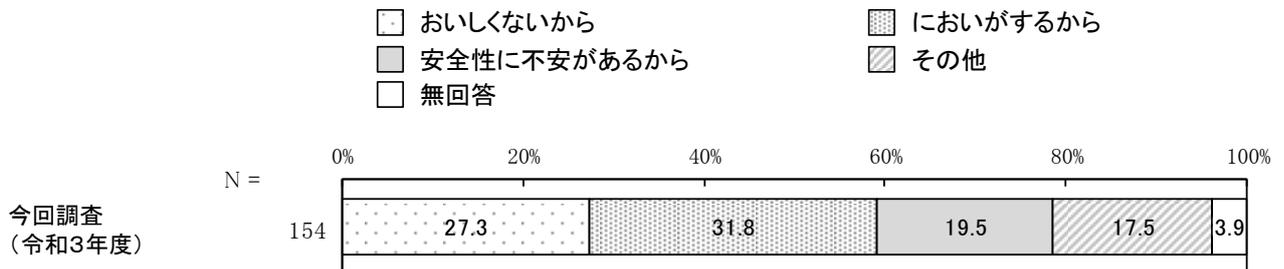


問 32-1 問 32 で「4. どちらかといえば満足していない」「5. 満足していない」とお答えの方
におたずねします。

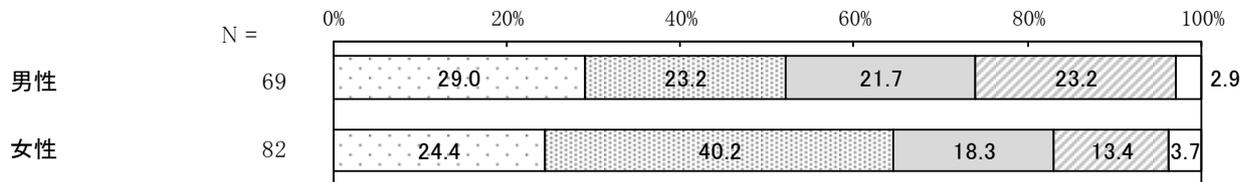
その理由はどのようなことですか。《○1つ》

満足していない理由は、におい、おいしさなど

- ・ 水道水の水質に満足していない理由としては、「においがするから」が 31.8%で最も多く、次いで「おいしくないから」が 27.3%、「安全性に不安があるから」が 19.5%、「その他」が 17.5%と続きます。
- ・ 水道の水質に満足していない人が 1 割程度のため、回答数も少なくなっています。
- ・ 性別では、男性は「おいしくないから」が、女性は「においがするから」が最も多くなっています。

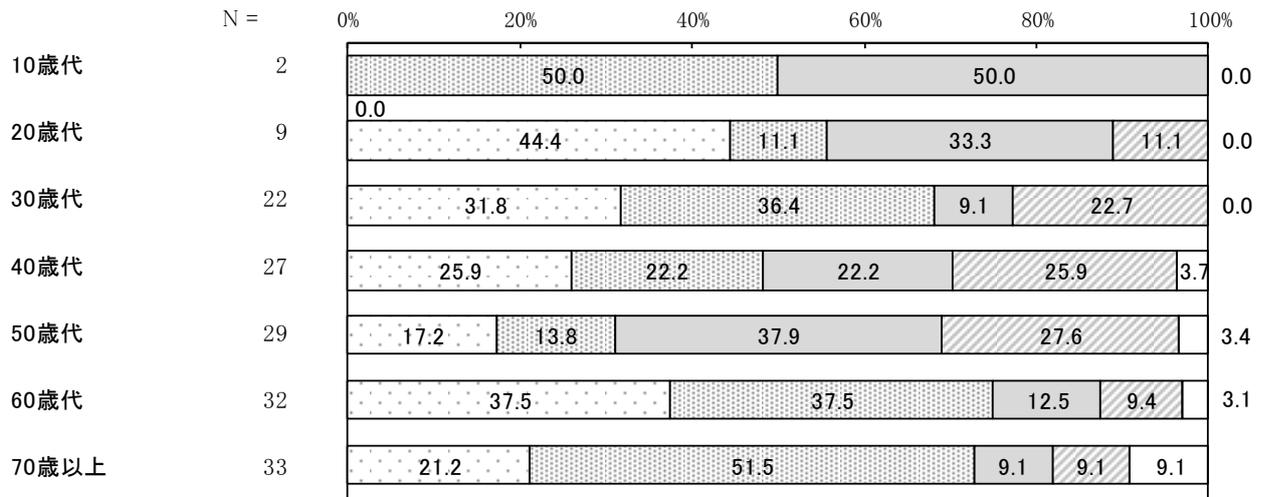


【性別】

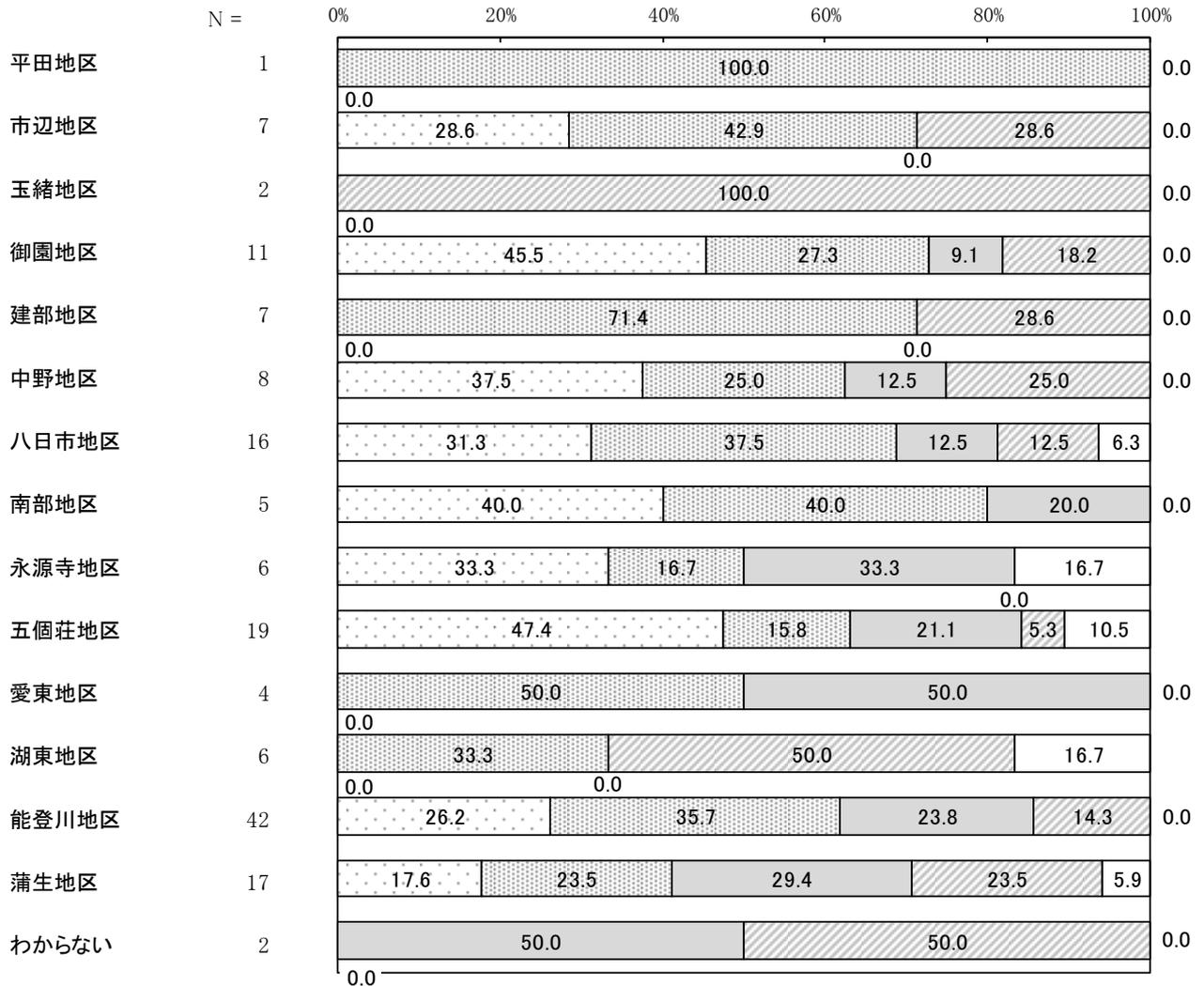


【年代別】

おいしいから においがするから
 安全性に不安があるから その他
 無回答



【居住地区別】

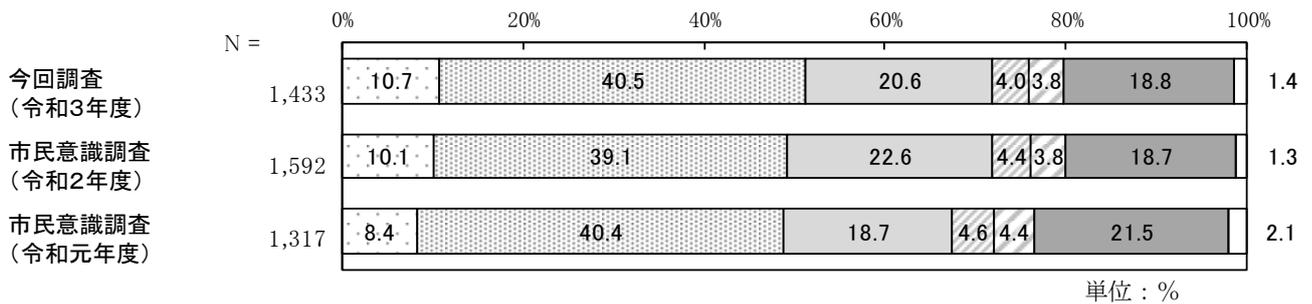
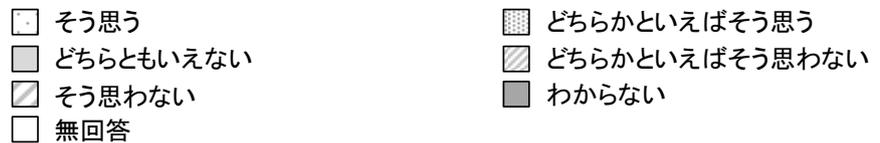


(5) 子育てや教育関連の取組について

問 33 あなたは、東近江市は子育てをするのに良い環境であると思いますか。《○1つ》

半数以上が子育てをするのに良い環境だと思っている

- ・ 東近江市が子育てをするのに良い環境かどうかについては、「そう思う」が10.7%、「どちらかといえばそう思う」が40.5%で、これらを合わせると51.2%となり、半数以上の人が子育てをするのに良い環境であると思うと回答しています。
- ・ 一方で、4割近くが「わからない」又は「どちらともいえない」と回答しています。
- ・ 年代別では、30～40歳代の子育て世代の6割近くが子育てをするのに良い環境だと思う（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）と回答しています。一方、10～20歳代は「わからない」と回答した人の割合が3割と高くなっています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、愛東地区で7割近く、永源寺地区で6割が子育てをするのに良い環境だと思う（前述）と回答しています。

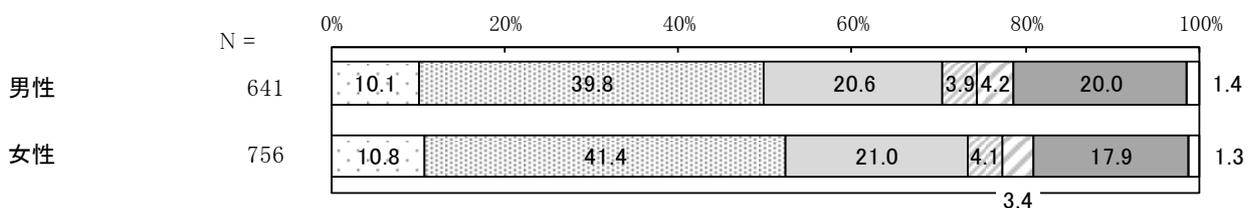


	そう思う*	そう思わない*	差
①今回調査(令和3年度)	51.2	7.8	43.4
②市民意識調査(令和2年度)	49.2	8.2	41.0
③市民意識調査(令和元年度)	48.8	9.0	39.8
①－③	2.4	-1.2	3.6

* そう思う: 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

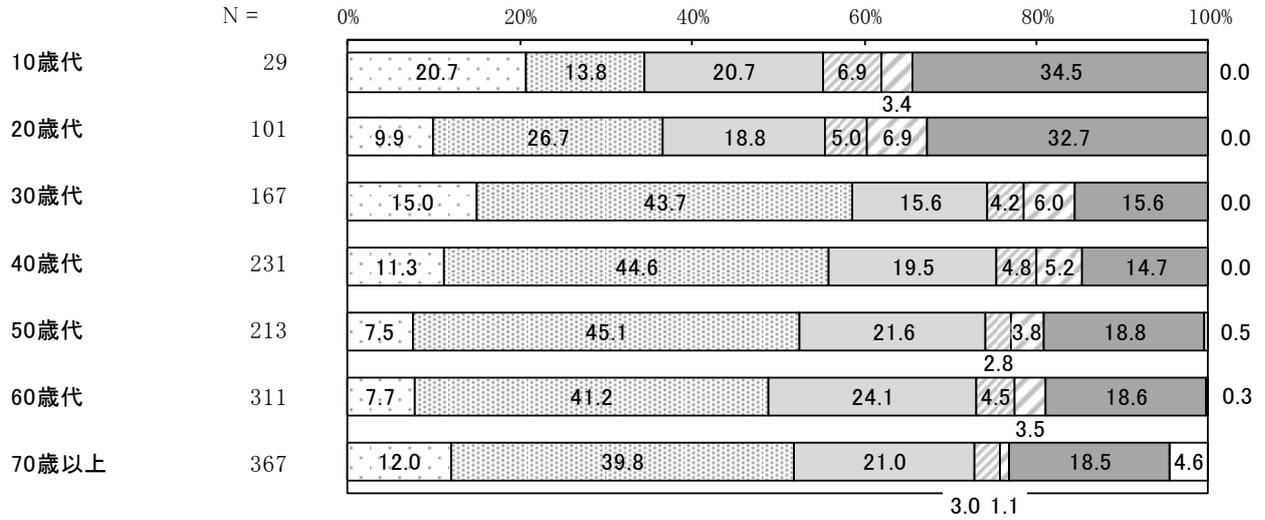
* そう思わない: 「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計

【性別】

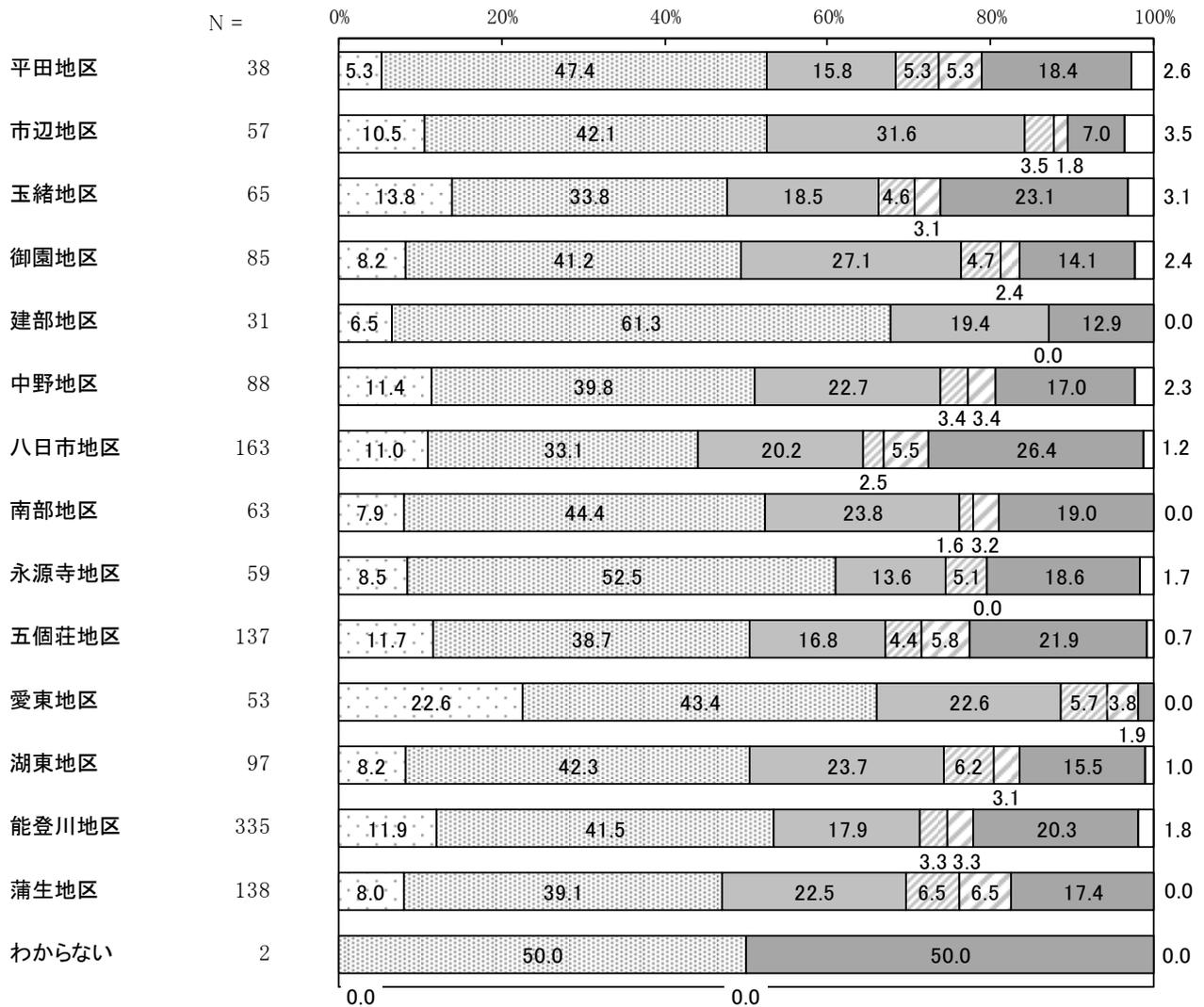


【年代別】

- そう思う
- どちらともいえない
- ▨ そう思わない
- 無回答
- ▩ どちらかといえばそう思う
- ▨ どちらかといえばそう思わない
- わからない



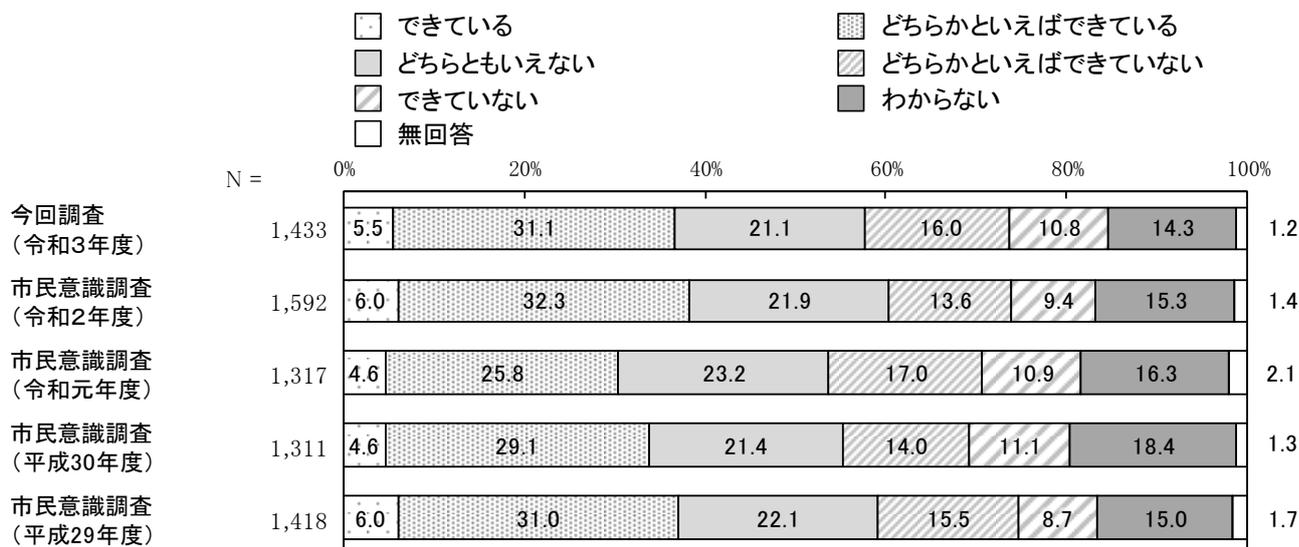
【居住地区別】



問 34 あなたは、市内において児童・生徒の通学路の安全は確保できていると思いますか。《○1つ》

4割近くが通学路の安全は確保できている

- ・ 通学路の安全確保については、「できている」と「どちらかといえばできている」を合わせると36.6%となり、4割近くの人ができていると考えています。「どちらかといえばできていない」と「できていない」を合わせると26.8%であり、通学路の安全確保はできていると考えている人の割合が高くなっています。
- ・ 年代別では、30歳代と50歳代で通学路の安全確保ができていない（「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計）と考えている人が、できている（「できている」と「どちらかといえばできている」の合計）と考えている人より多くなっています。一方、40歳代と60歳以上で通学路の安全確保ができている（前述）と考えている人が多くなっています。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、平田地区、市辺地区でできている（前述）と考えている人が多く、湖東地区でできていない（前述）と考えている人ができている（前述）と考えている人より多くなっています。

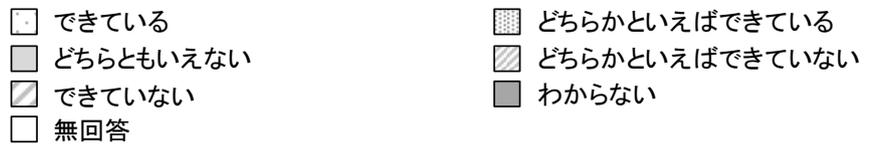


単位：%

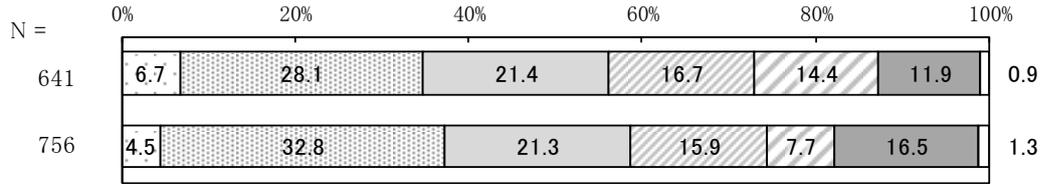
	できている*	できていない*	差
①今回調査(令和3年度)	36.6	26.8	9.8
②市民意識調査(令和2年度)	38.3	23.0	15.3
③市民意識調査(令和元年度)	30.4	27.9	2.5
④市民意識調査(平成30年度)	33.7	25.1	8.6
⑤市民意識調査(平成29年度)	37.0	24.2	12.8
①-⑤	-0.4	2.6	-3.0

*できている:「できている」と「どちらかといえばできている」の合計

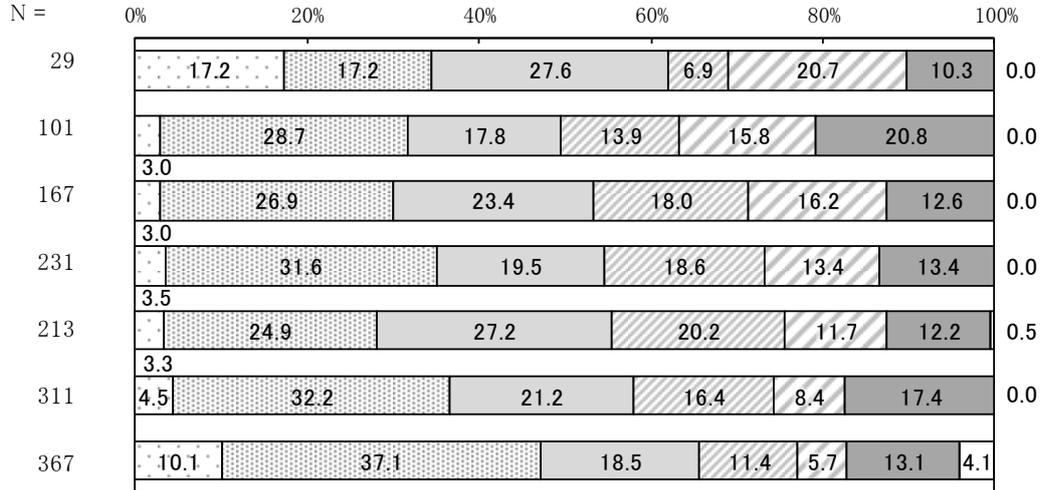
*できていない:「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計



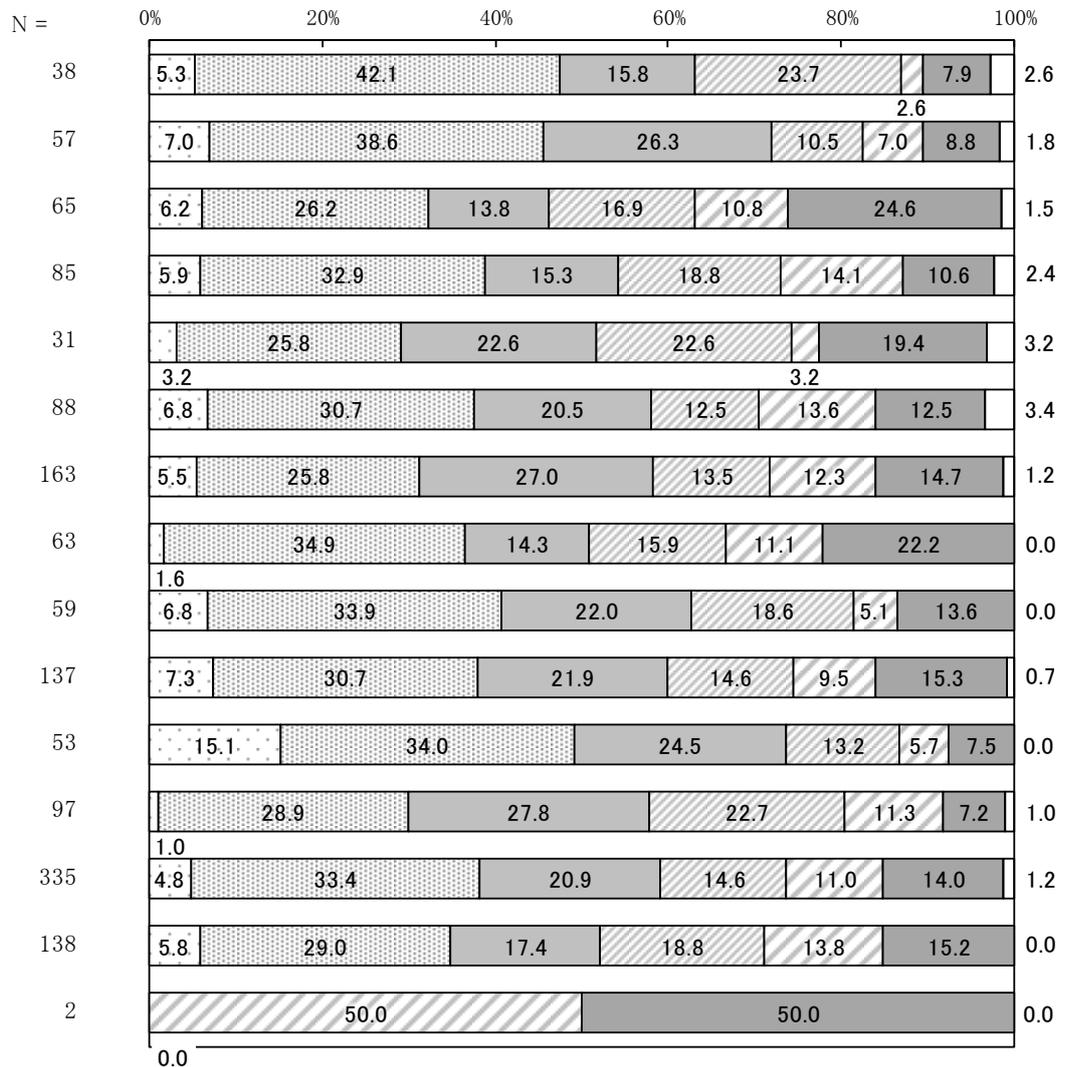
【性別】



【年代別】



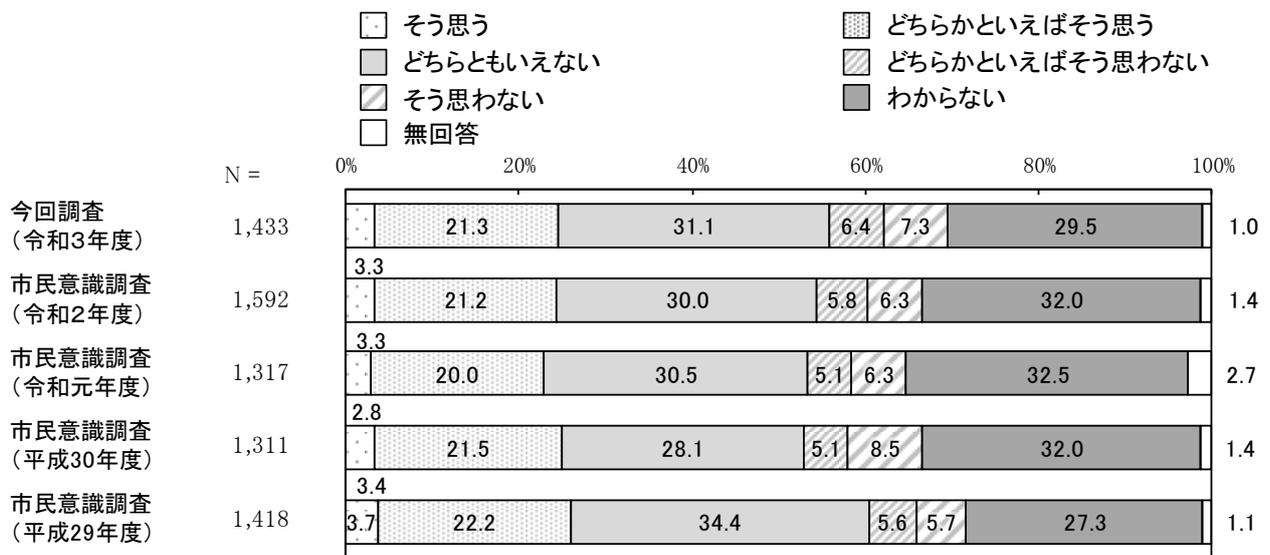
【居住地区別】



問 35 あなたは、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。《○1つ》

2割が人権が尊重されるまちに「なっている」、6割が「どちらともいえない」又は「わからない」

- ・ 東近江市は人権が尊重されるまちになっていると思う（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）人の割合は24.6%で、そう思わない（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）人の割合（13.7%）より高くなっています。一方、人権が尊重されるまちになっているかについて、「どちらともいえない」と回答した人は、31.1%と最も多く、「わからない」と回答した人も29.5%みられ、これらを合計すると60.6%になります。
- ・ 年代別では70歳以上で3割以上、居住地区別では平田地区で4割以上、湖東地区で3割が、人権が尊重されるまちになっていると思う（前述）と回答しています。一方、中野地区、蒲生地区、五個荘地区では、そう思わない（前述）人の割合がほかの地区よりやや高くなっています。



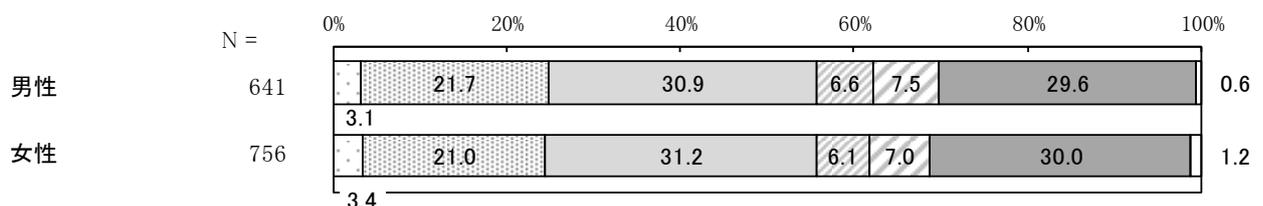
単位：%

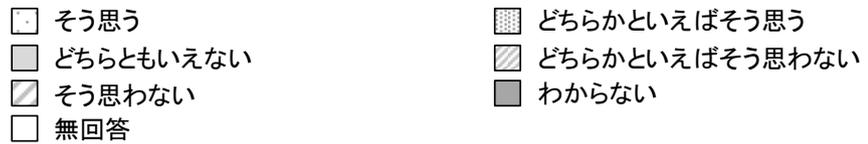
	そう思う*	そう思わない*	差
①今回調査(令和3年度)	24.6	13.7	10.9
②市民意識調査(令和2年度)	24.5	12.1	12.4
③市民意識調査(令和元年度)	22.8	11.4	11.4
④市民意識調査(平成30年度)	24.9	13.6	11.3
⑤市民意識調査(平成29年度)	25.9	11.3	14.6
①-⑤	-1.3	2.4	-3.7

* そう思う:「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

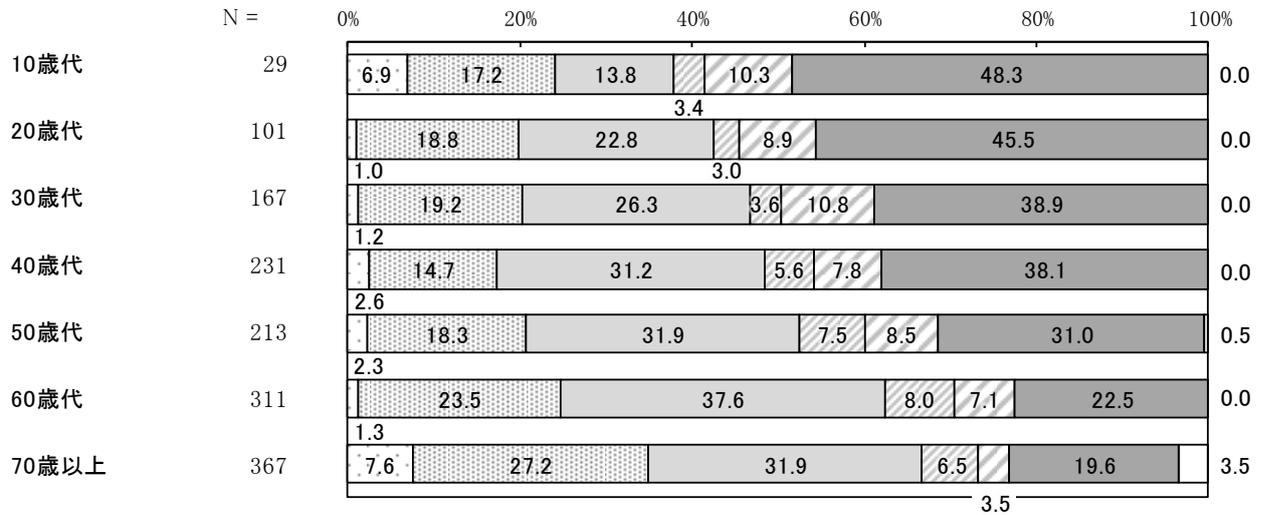
* そう思わない:「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計

【性別】

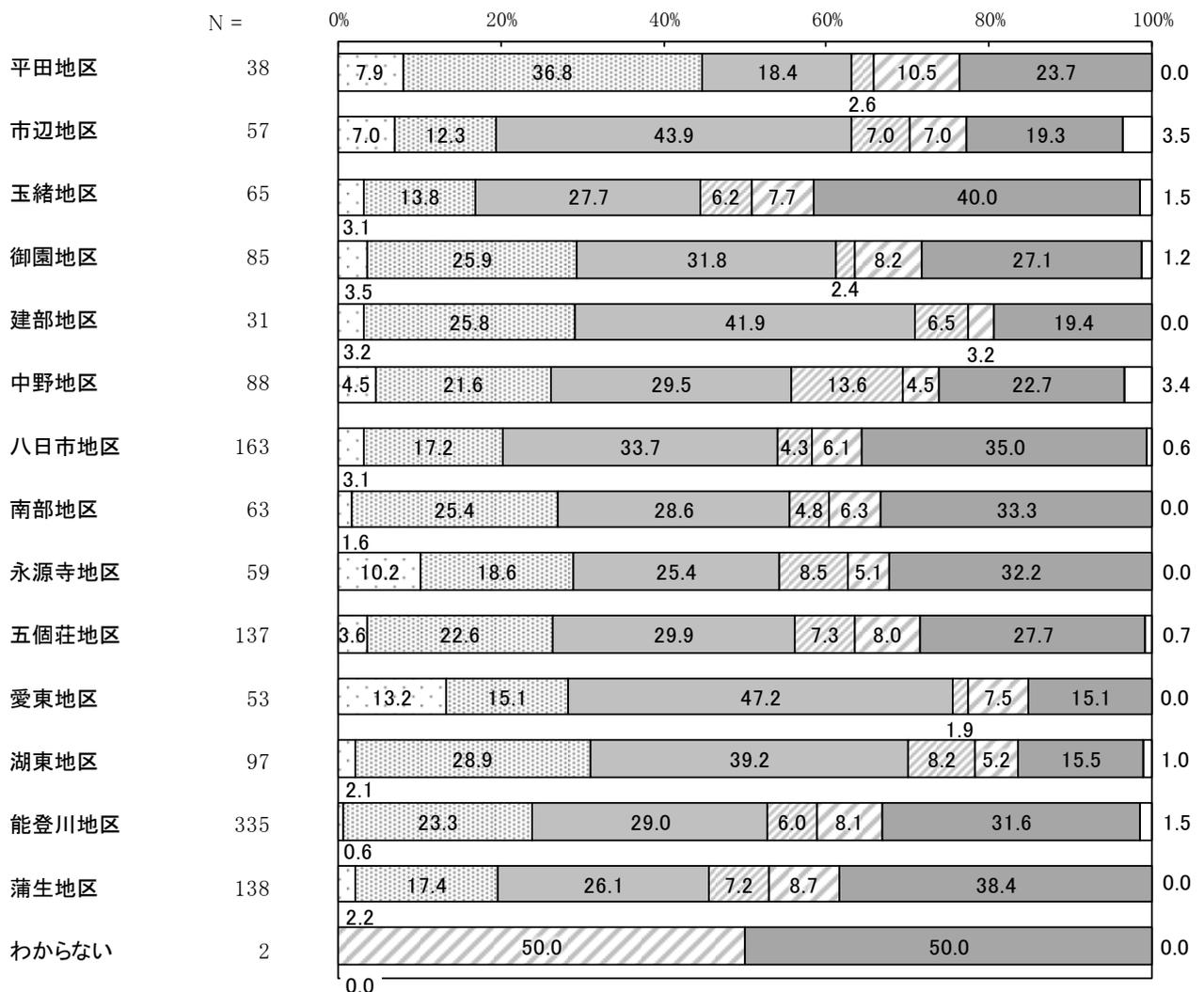




【年代別】



【居住地区別】

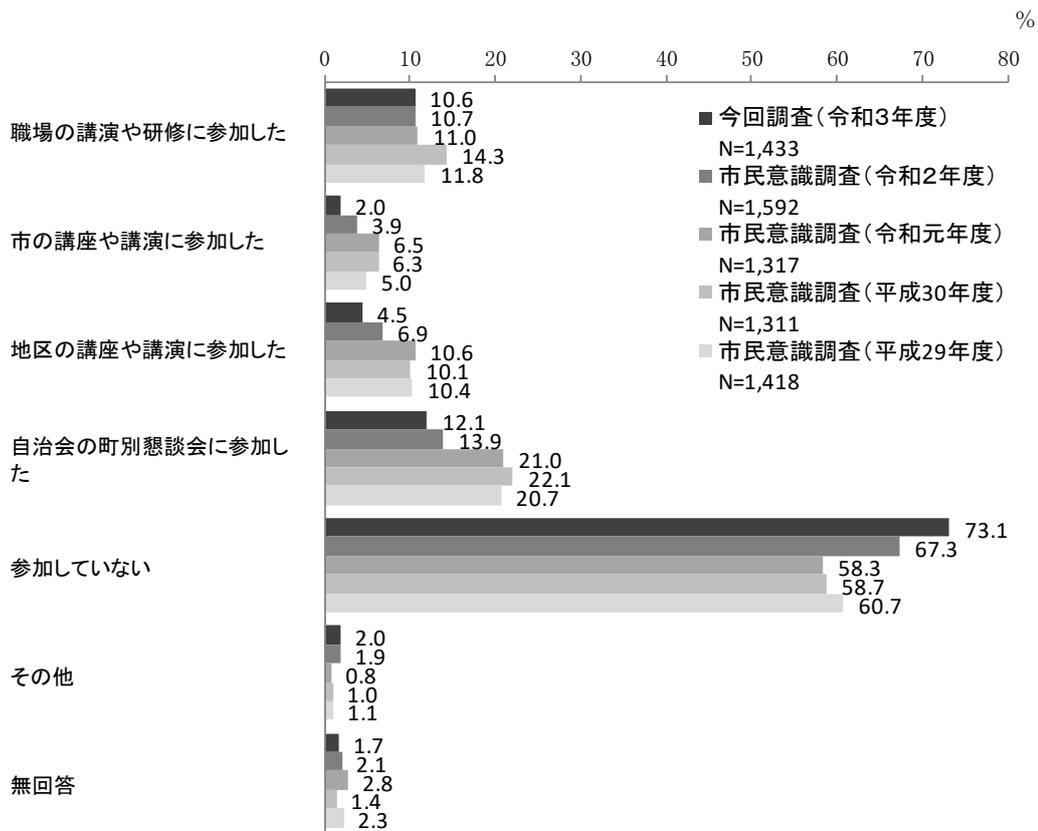


問 36 あなたは、この1年間に職場、市又は地区等が開催する人権に関する講座や講演、研修等に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

講座や講演、研修等に参加した人は3割近く

- この1年間に人権に関する講座や講演、研修等に参加したかどうかについては、参加した人の割合*は25.1%、「参加していない」が73.1%、無回答が1.7%となっています。参加した講座等の内容は、「自治会の町別懇談会」が12.1%と最も多く、次いで「職場の講演や研修」が10.6%、「地区の講座や講演」が4.5%、「市の講座や講演」が2.0%と続きます。
- 過去の調査と比較すると、「参加していない」の割合は徐々に減少していましたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染防止のため講座等の開催が見送られたことなどもあり、その割合は増加しています。「その他」の回答でも、コロナで中止又は開催されなかった、といった回答が多くみられました。
- 性別では、女性より男性で人権に関する講座等に参加した人の割合が高く、自治会の町別懇談会などへの参加が多くみられます。
- 年代別では、年齢が上がるほど人権に関する講座等に参加した人の割合が高く、その中でも自治会の町別懇談会などへの参加割合が高くなる傾向がみられます。特に30～50歳代は職場の講演や研修への参加が多くみられます。

*「参加していない」と「無回答」を除いた360件の有効回答数（1,433件）に対する割合



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	職場の講演や研修に参加した	市の講座や講演に参加した	地区の講座や講演に参加した	自治会の町別懇談会に参加した	参加していない	その他	無回答
男性	641	12.6	3.0	5.3	16.1	68.0	1.7	1.2
女性	756	9.1	1.1	4.0	7.8	78.3	2.0	2.0

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	職場の講演や研修に参加した	市の講座や講演に参加した	地区の講座や講演に参加した	自治会の町別懇談会に参加した	参加していない	その他	無回答
10歳代	29	13.8	0.0	0.0	6.9	79.3	0.0	0.0
20歳代	101	12.9	0.0	1.0	4.0	82.2	0.0	0.0
30歳代	167	16.2	1.2	1.8	4.2	77.2	1.2	0.6
40歳代	231	17.7	0.0	2.6	4.3	76.2	0.9	0.9
50歳代	213	16.0	2.8	4.7	8.9	74.2	1.4	0.5
60歳代	311	9.6	2.3	7.1	18.6	69.5	3.2	1.3
70歳以上	367	7.1	3.3	6.3	19.3	69.5	2.7	4.4

【居住地区別】

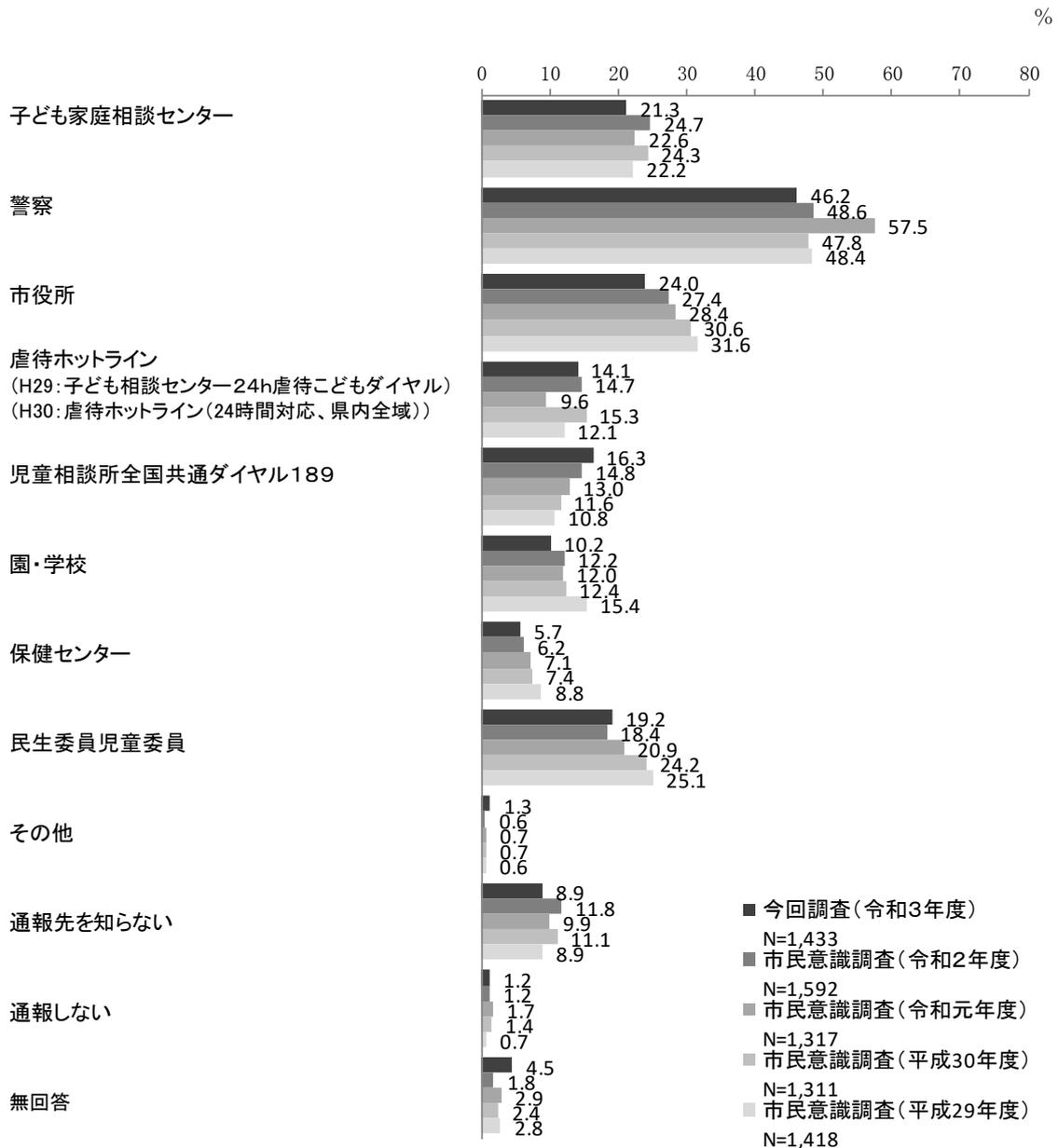
単位:%

区分	有効回答数(件)	職場の講演や研修に参加した	市の講座や講演に参加した	地区の講座や講演に参加した	自治会の町別懇談会に参加した	参加していない	その他	無回答
平田地区	38	10.5	0.0	5.3	10.5	78.9	0.0	2.6
市辺地区	57	12.3	1.8	1.8	22.8	61.4	3.5	5.3
玉緒地区	65	13.8	3.1	10.8	13.8	70.8	1.5	1.5
御園地区	85	11.8	0.0	1.2	10.6	76.5	3.5	1.2
建部地区	31	9.7	0.0	0.0	22.6	71.0	0.0	3.2
中野地区	88	15.9	2.3	1.1	11.4	72.7	4.5	4.5
八日市地区	163	10.4	0.6	5.5	8.0	77.9	3.1	1.8
南部地区	63	17.5	1.6	4.8	11.1	71.4	1.6	0.0
永源寺地区	59	18.6	1.7	1.7	10.2	69.5	0.0	3.4
五個荘地区	137	7.3	1.5	7.3	11.7	76.6	0.7	1.5
愛東地区	53	15.1	7.5	11.3	22.6	60.4	1.9	0.0
湖東地区	97	11.3	2.1	7.2	19.6	63.9	3.1	1.0
能登川地区	335	12.8	2.7	4.5	11.0	73.7	1.2	1.5
蒲生地区	138	13.0	2.2	1.4	5.8	78.3	1.4	0.7
わからない	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

問 37 あなたは、児童虐待が疑われるときに、どこに通報しますか。《あてはまるものすべてに○》

通報先は、警察、市役所、子ども家庭相談センター、民生委員児童委員等

- ・ 児童虐待が疑われるときの通報先については、「警察」が46.2%と最も多く、次いで「市役所」が24.0%、「子ども家庭相談センター」が21.3%、「民生委員児童委員」が19.2%と続きます。一方、「通報先を知らない」は8.9%と1割未満、「通報しない」は1.2%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、「市役所」、「民生委員児童委員」などの割合が減少傾向にあり、「児童相談所全国共通ダイヤル189」の割合が増加傾向にあります。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも、「警察」が最も多くなっています。
- ・ 性別では、女性で「民生委員児童委員」などが男性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、「警察」は10～20歳代で、「市役所」は40歳以上で、「虐待ホットライン」は30～40歳代で、「児童相談所全国共通ダイヤル189」は20～30歳代で、「民生委員児童委員」は60歳以上でほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、「警察」は南部地区、建部地区、平田地区で6割前後みられ、玉緒地区で「市役所」が、永源寺地区、愛東地区、平田地区で「民生委員児童委員」が、ほかの地区より多くあげられています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	子ども家庭相談センター	警察	市役所	虐待ホットライン	児童相談所全国共通ダイヤル189	園・学校	保健センター	民生委員児童委員	その他	通報先を知らない	通報しない	無回答
男性	641	21.1	50.5	25.4	13.9	15.4	7.8	3.1	14.8	1.4	9.0	1.2	4.2
女性	756	21.8	42.5	22.5	14.3	16.9	12.4	7.9	23.0	1.1	8.7	1.2	4.4

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	子ども家庭相談センター	警察	市役所	虐待ホットライン	児童相談所全国共通ダイヤル189	園・学校	保健センター	民生委員児童委員	その他	通報先を知らない	通報しない	無回答
10歳代	29	20.7	65.5	6.9	13.8	10.3	10.3	0.0	0.0	0.0	13.8	3.4	0.0
20歳代	101	27.7	58.4	14.9	16.8	25.7	10.9	10.9	3.0	1.0	6.9	3.0	2.0
30歳代	167	22.8	50.3	12.6	21.0	24.6	14.4	9.6	4.2	0.0	10.8	0.6	1.8
40歳代	231	20.3	41.1	25.1	24.7	15.2	11.7	7.4	4.8	2.2	10.4	1.3	2.2
50歳代	213	18.3	46.0	26.8	14.6	18.3	10.8	4.2	13.1	0.5	9.9	0.9	4.7
60歳代	311	20.3	48.2	29.6	11.3	14.5	10.3	2.9	30.5	1.9	6.1	1.6	4.5
70歳以上	367	21.8	40.9	25.9	5.7	11.2	6.8	4.9	35.7	1.4	9.3	0.5	8.2

【居住地区別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	子ども家庭相談センター	警察	市役所	虐待ホットライン	児童相談所全国共通ダイヤル189	園・学校	保健センター	民生委員児童委員	その他	通報先を知らない	通報しない	無回答
平田地区	38	26.3	55.3	28.9	13.2	13.2	7.9	2.6	26.3	0.0	2.6	0.0	2.6
市辺地区	57	22.8	43.9	33.3	7.0	8.8	5.3	3.5	19.3	1.8	5.3	0.0	8.8
玉緒地区	65	21.5	49.2	36.9	15.4	13.8	6.2	7.7	16.9	1.5	12.3	0.0	4.6
御園地区	85	32.9	42.4	21.2	7.1	21.2	12.9	4.7	12.9	1.2	4.7	1.2	5.9
建部地区	31	22.6	58.1	29.0	22.6	16.1	9.7	16.1	19.4	0.0	9.7	0.0	6.5
中野地区	88	20.5	36.4	23.9	13.6	9.1	10.2	2.3	9.1	0.0	14.8	2.3	5.7
八日市地区	163	22.7	50.9	21.5	18.4	19.6	6.1	7.4	8.0	0.6	10.4	0.6	4.3
南部地区	63	22.2	61.9	33.3	15.9	14.3	4.8	3.2	17.5	4.8	6.3	1.6	0.0
永源寺地区	59	13.6	50.8	30.5	8.5	13.6	20.3	6.8	33.9	0.0	3.4	0.0	5.1
五個荘地区	137	16.8	45.3	20.4	9.5	10.9	9.5	2.2	20.4	2.2	9.5	2.2	7.3
愛東地区	53	24.5	34.0	26.4	17.0	15.1	11.3	3.8	28.3	0.0	5.7	0.0	3.8
湖東地区	97	24.7	37.1	27.8	11.3	19.6	10.3	4.1	21.6	2.1	5.2	1.0	3.1
能登川地区	335	20.0	47.5	19.7	14.3	17.0	13.1	6.3	24.8	1.2	10.7	1.5	4.5
蒲生地区	138	18.8	43.5	19.6	20.3	21.0	9.4	8.0	19.6	1.4	10.1	1.4	2.9
わからない	2	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(6) 都市整備について

問 38 市内の都市基盤の整備に対する満足度をお答えください。《①～⑤それぞれの項目に○1つ》

総合評価は、主要幹線道路、雨水排水、河川、公園、地域の生活道路の順

- ・ 都市基盤の整備に対する満足度については、満足（「満足」と「どちらかといえば満足」の合計）の割合と、不満（「どちらかといえば不満」と「不満」の合計）の割合を比べると、いずれも満足の割合が高くなっています。
- ・ 満足（前述）とする人が多い順に並べると、①主要幹線道路の整備、②地域の生活道路の整備、⑤公園の整備、④雨水排水の整備、③河川の整備となっています。一方、不満（前述）とする人が多い項目は②地域の生活道路の整備、⑤公園の整備、①主要幹線道路の整備となっています。
- ・ 満足と不満の両方からみた総合的な評価（加重平均）の高い順は、①主要幹線道路の整備、④雨水排水の整備、③河川の整備、⑤公園の整備、②地域の生活道路の整備となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、総合評価では、変動はあるものの、すべての項目で評価が上がっており、特に①主要幹線道路の整備、②地域の生活道路の整備で大きく、マイナス評価が続いていた②地域の生活道路の整備はプラス評価へと転じています。

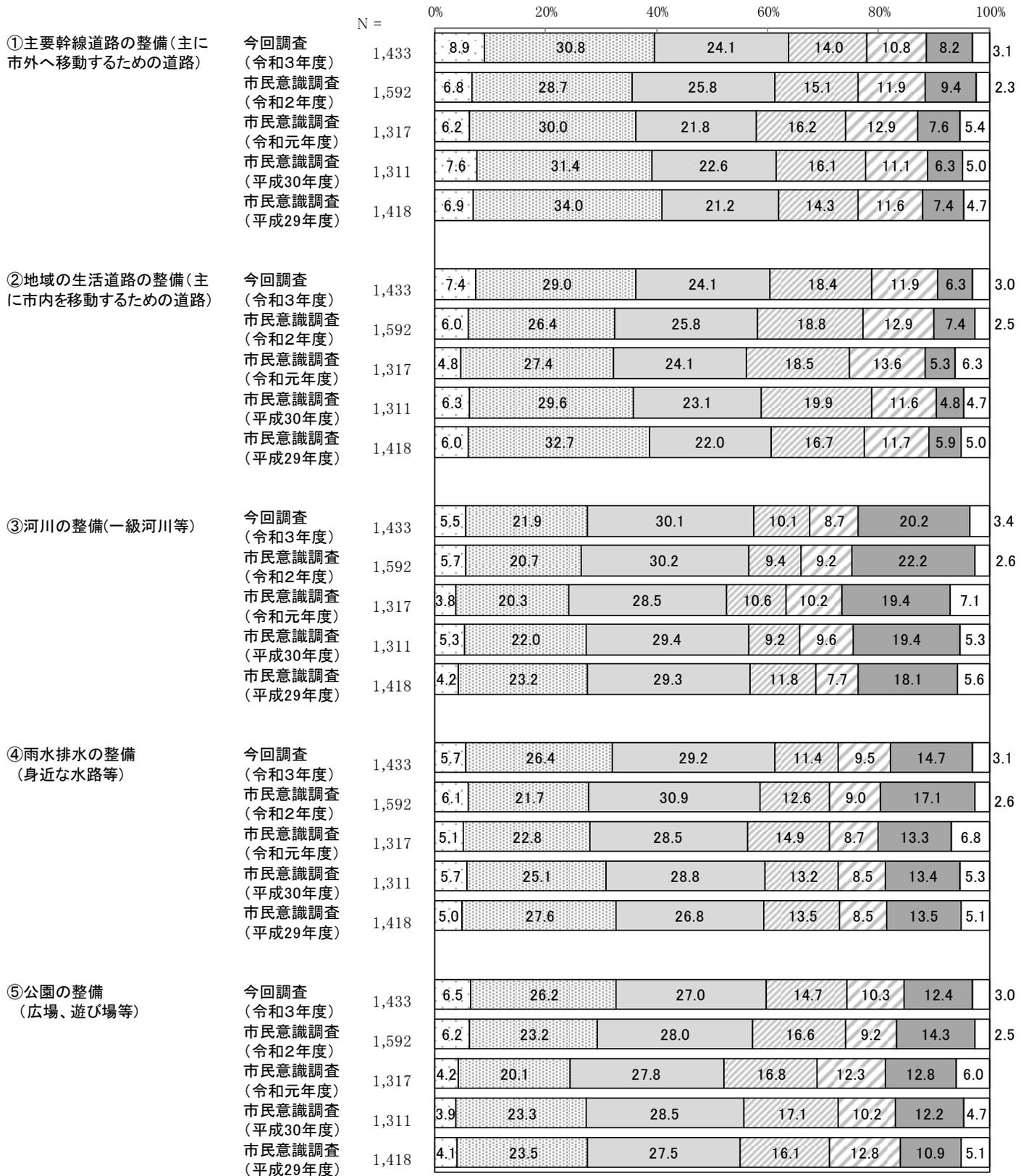
	満足*	不満*	加重平均*
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)	39.7% (+4.2)	24.8% (-2.2)	0.130 (+0.097)
②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)	36.4% (+4.0)	30.3% (-1.4)	0.017 (+0.079)
③河川の整備(一級河川等)	27.4% (+1.0)	18.8% (+0.2)	0.055 (+0.013)
④雨水排水の整備(身近な水路等)	32.1% (+4.3)	20.9% (-0.7)	0.073 (+0.042)
⑤公園の整備(広場、遊び場等)	32.7% (+3.3)	25.0% (-0.8)	0.039 (+0.033)

* 満足:「満足」と「どちらかといえば満足」の合計

* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

* 加重平均:「満足」は+2点、「どちらかといえば満足」は+1点、「どちらかといえば不満」は-1点、「不満」は-2点、「どちらともいえない」と「わからない」は0点として加算し、その平均値を出したもの。値が大きいほど満足度が高く、値が小さいほど満足度が低いといえる。

※()内の数値は令和2年度調査との差を示している。



①主要幹線道路の整備

- ・ 性別では、女性の満足度（加重平均による総合評価、以下同様）が男性より高くなっています（男性はマイナス評価）。
- ・ 年代別では、20～30歳代で満足度が高く、40～60歳代で満足度が低くなっています（50歳代はマイナス評価）。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、市辺地区などで満足度が高く、平田地区、南部地区などで満足度が低く（マイナス評価）なっています。

②地域の生活道路の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています（男性はマイナス評価）。
- ・ 年代別では、30歳代までで年齢が若いほど満足度が高く、40～60歳代で満足度が低く（マイナス評価）なっています。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区、建部地区、市辺地区で満足度が高く、平田地区、能登川地区、南部地区、蒲生地区などで満足度が低く（マイナス評価）なっています。

③河川の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています（男性はマイナス評価）。
- ・ 年代別では、40歳代までで満足度が高く（20歳代が最も高い）、50歳以上で満足度が低く（マイナス評価）なっています。
- ・ 居住地区別では、八日市地区、建部地区で満足度が高く、玉緒地区、御園地区、愛東地区、平田地区、能登川地区などで満足度が低く（マイナス評価）なっています。

④雨水排水の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています（男女ともにプラス評価）。
- ・ 年代別では、20～30歳代で満足度が高く、50～60歳代で満足度が低く（マイナス評価）なっています。
- ・ 居住地区別では、市辺地区、湖東地区、八日市地区で満足度が高く、御園地区、南部地区、中野地区、玉緒地区、蒲生地区などで満足度が低く（マイナス評価）なっています。

⑤公園の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています（男性はマイナス評価）。
- ・ 年代別では、20歳代で満足度が高く、50～60歳代で満足度が低く（マイナス評価）なっています。
- ・ 居住地区別では、五個荘地区、湖東地区で満足度が高く、南部地区、建部地区、御園地区、蒲生地区、平田地区、永源寺地区、愛東地区で満足度が低く（マイナス評価）なっています。

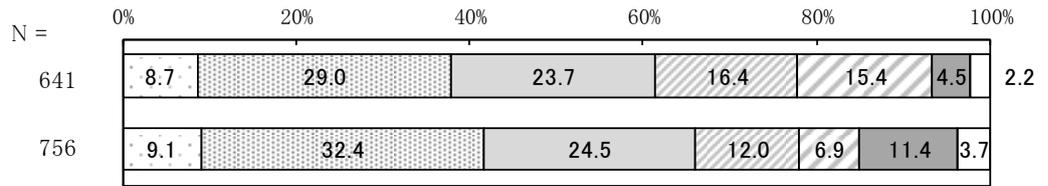
■性別・年代別・居住地区別の比較(加重平均)

	①主要幹線道路	②地域の生活道路	③河川	④雨水排水	⑤公園
全体	0.130	0.017	0.055	0.073	0.039
男性	-0.008	-0.080	-0.006	0.053	-0.017
女性	0.249	0.091	0.118	0.091	0.087
10歳代	0.241	0.345	0.207	0.103	0.138
20歳代	0.396	0.218	0.356	0.426	0.218
30歳代	0.371	0.018	0.234	0.251	0.102
40歳代	0.087	-0.043	0.177	0.048	0.069
50歳代	-0.005	-0.150	-0.005	-0.047	-0.019
60歳代	0.023	-0.058	-0.106	-0.055	-0.113
70歳以上	0.139	0.136	-0.011	0.090	0.101
平田地区	-0.158	-0.342	-0.026	0.079	-0.105
市辺地区	0.351	0.263	0.193	0.383	0.140
玉緒地区	0.062	0.108	-0.123	-0.015	0.046
御園地区	0.082	0.000	-0.106	-0.176	-0.165
建部地区	0.032	0.290	0.258	0.032	-0.194
中野地区	0.091	0.091	0.034	-0.102	0.148
八日市地区	0.196	0.104	0.288	0.202	0.006
南部地区	-0.032	-0.127	0.095	-0.143	-0.206
永源寺地区	0.186	0.407	0.085	0.051	-0.051
五個荘地区	0.234	0.153	0.066	0.197	0.314
愛東地区	0.396	0.189	-0.057	0.170	-0.019
湖東地区	0.134	0.072	0.175	0.268	0.299
能登川地区	0.128	-0.170	-0.009	0.087	0.087
蒲生地区	0.007	-0.065	0.014	-0.007	-0.152

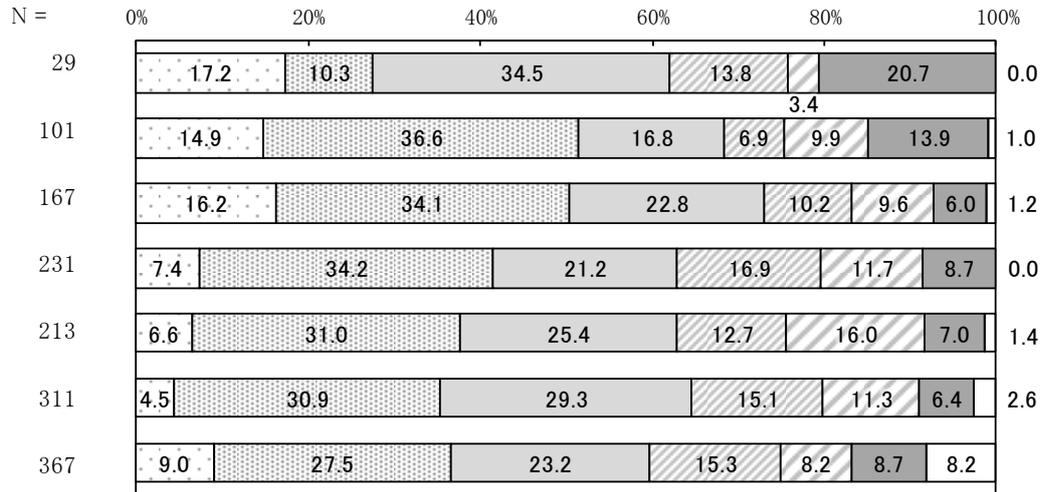
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)



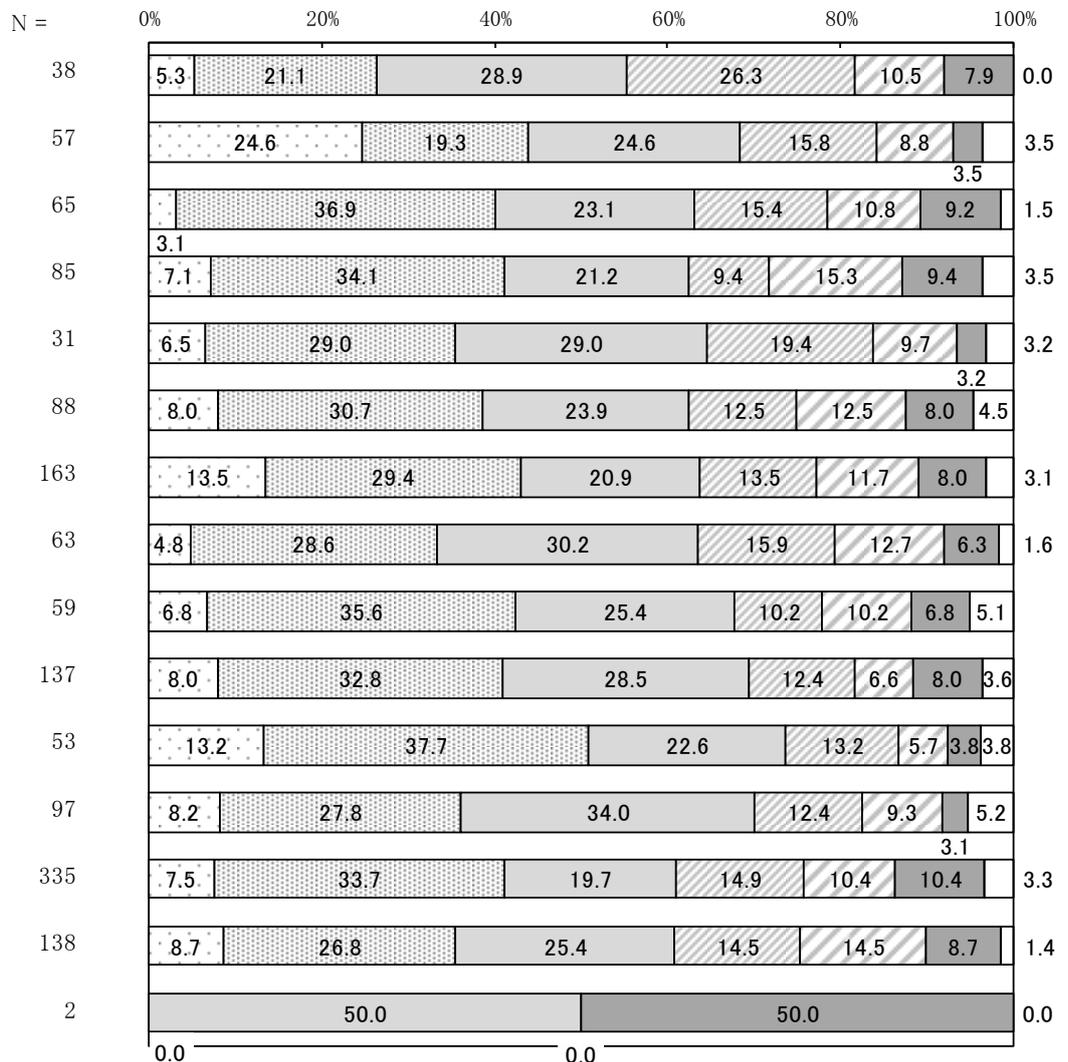
【性別】



【年代別】



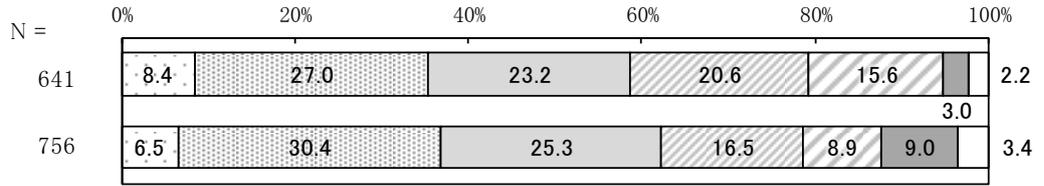
【居住地区別】



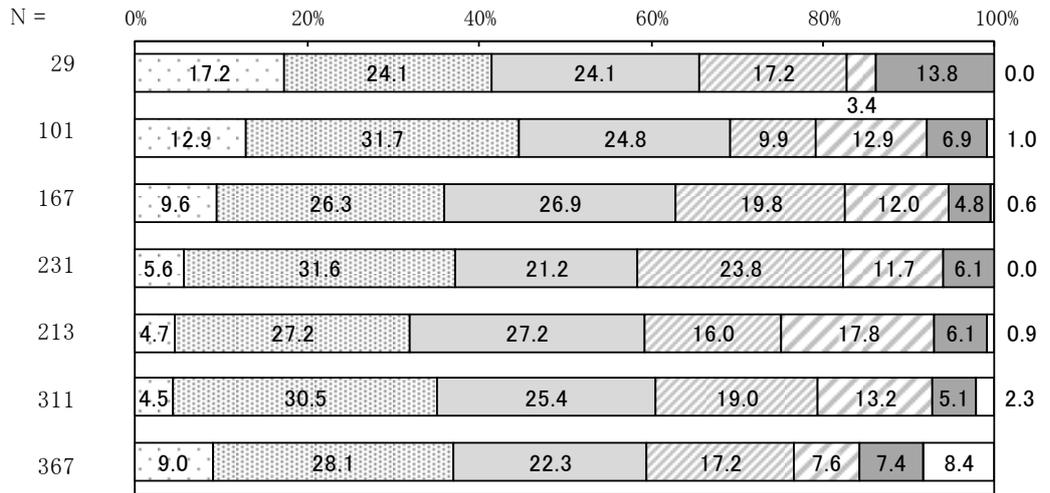
②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)



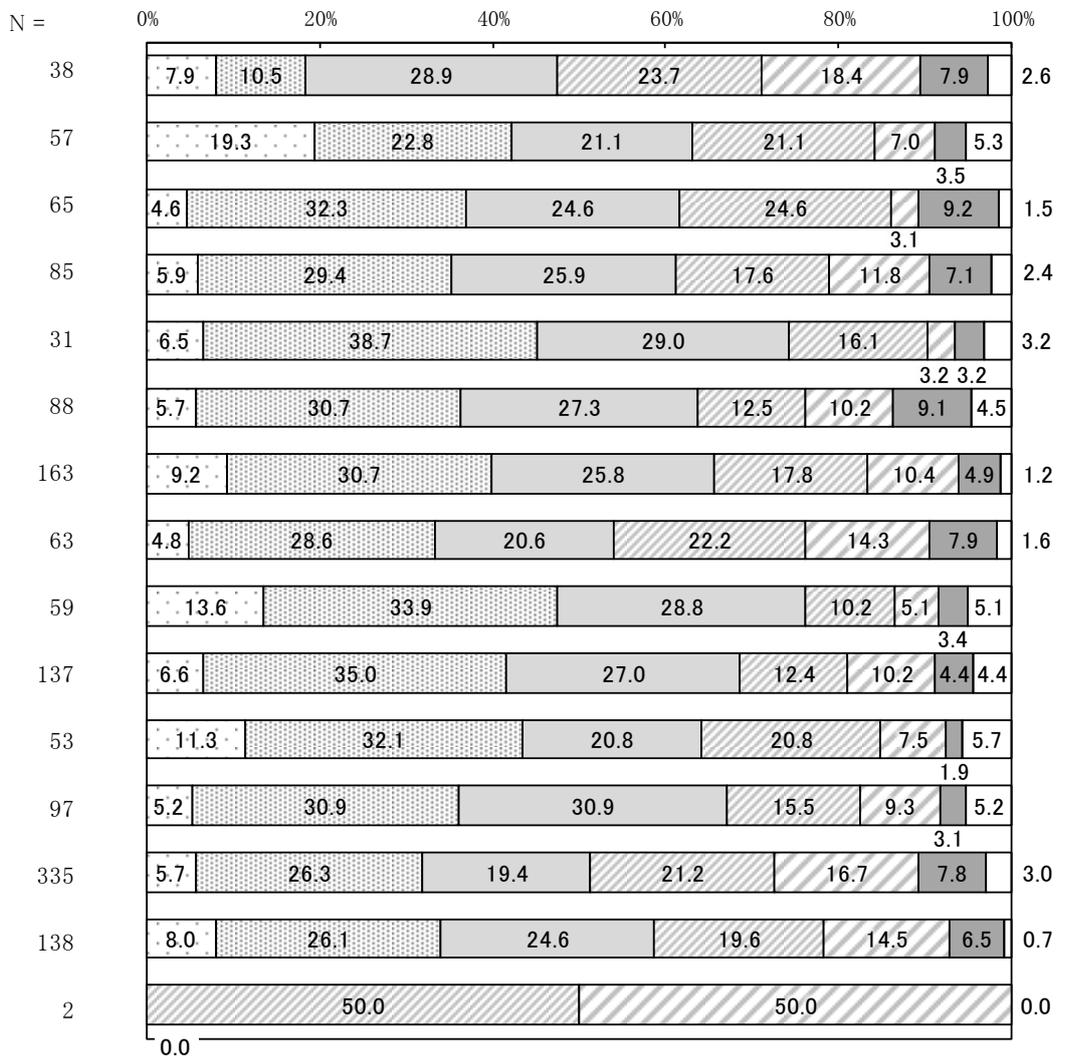
【性別】



【年代別】



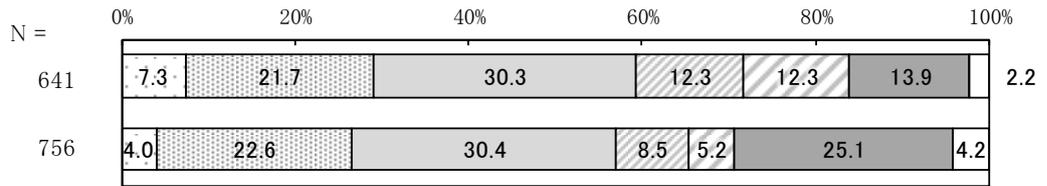
【居住地区別】



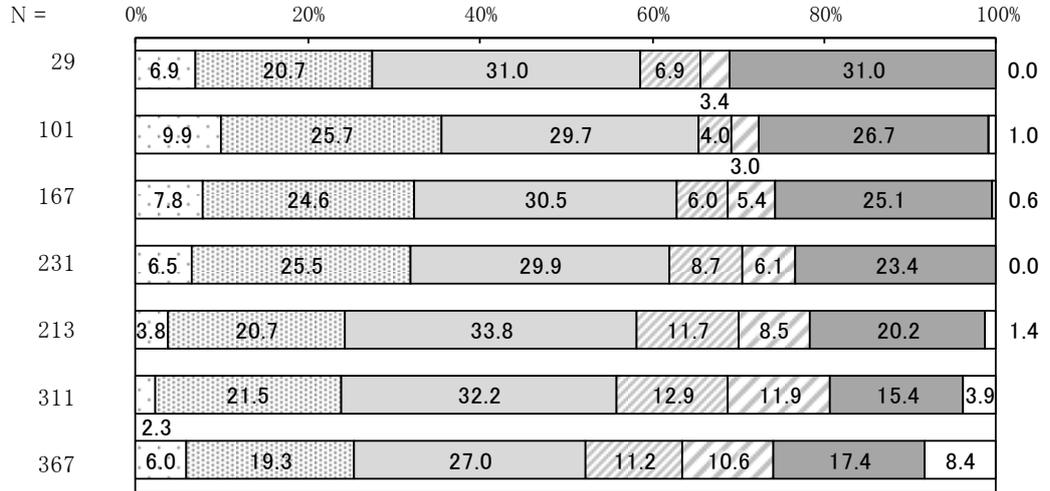
③河川の整備(一級河川等)



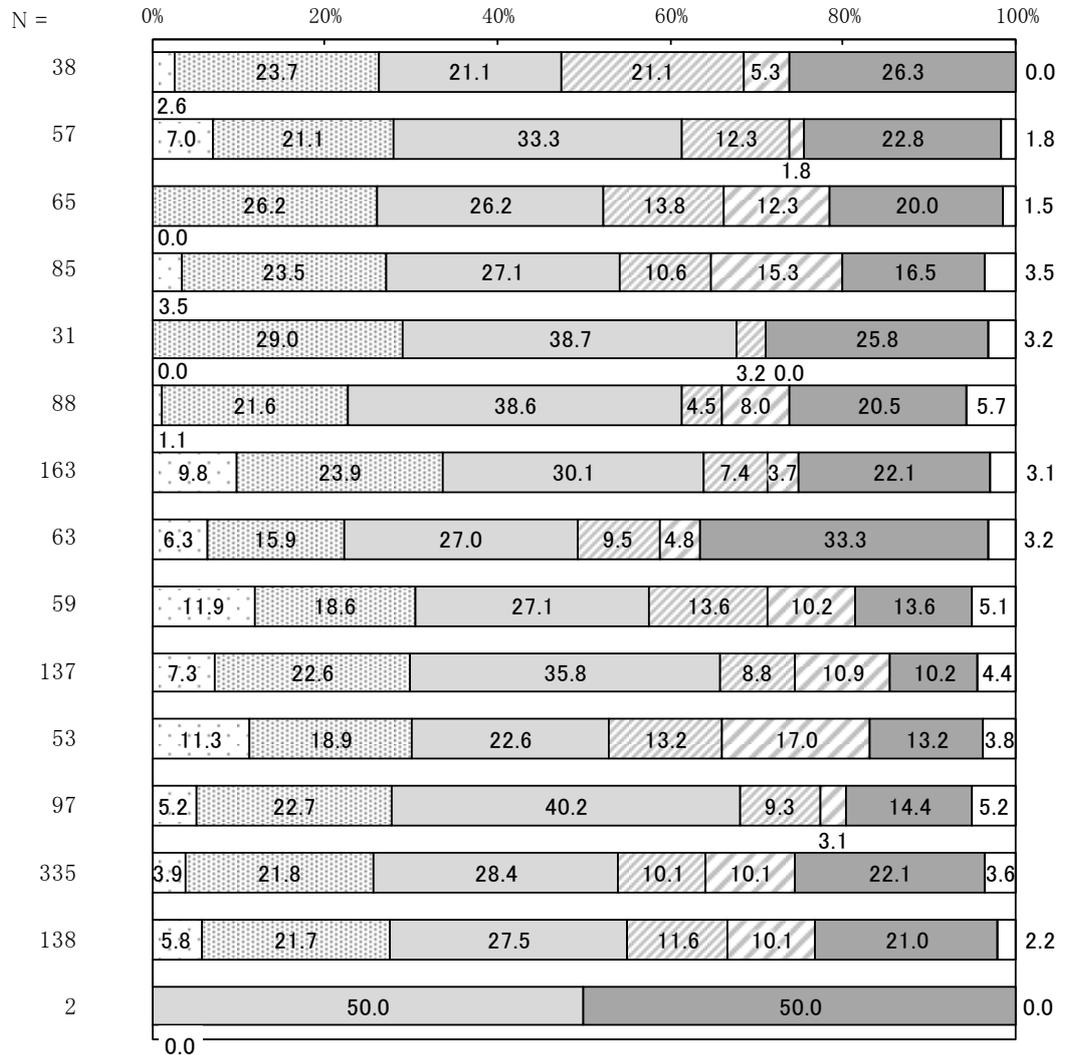
【性別】



【年代別】



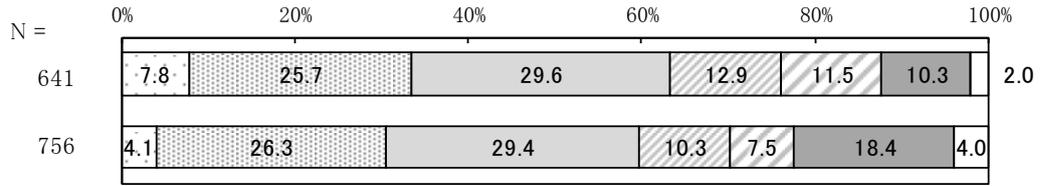
【居住地区別】



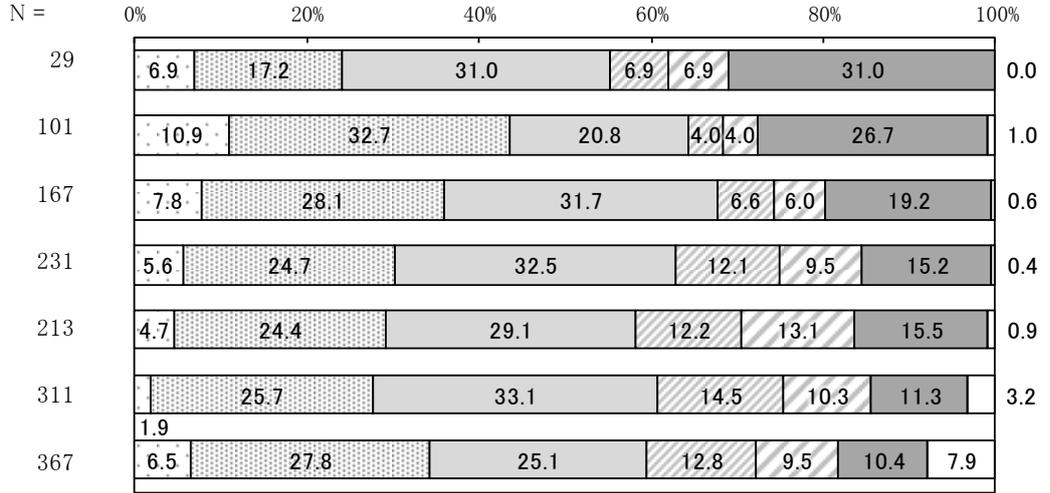


④雨水排水の整備(身近な水路等)

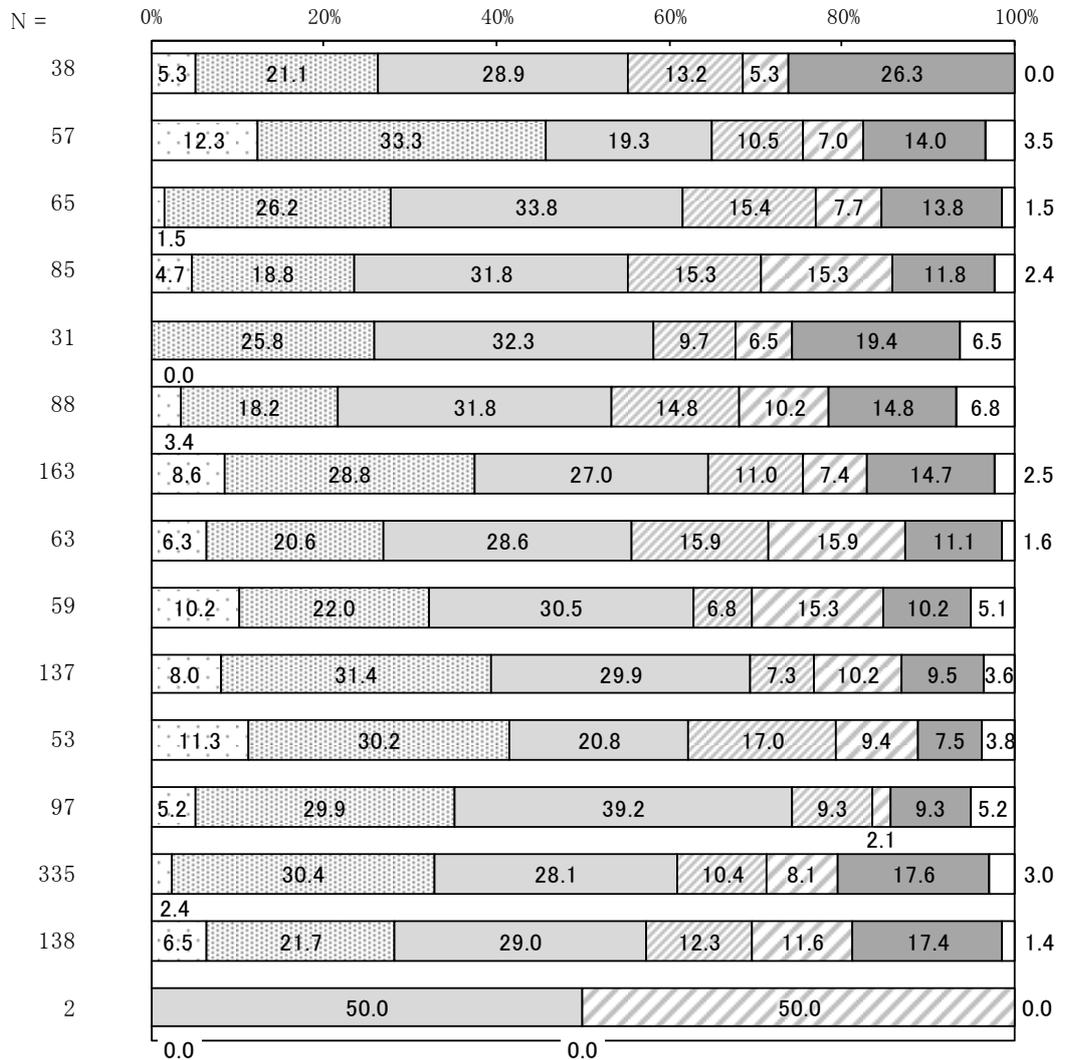
【性別】



【年代別】



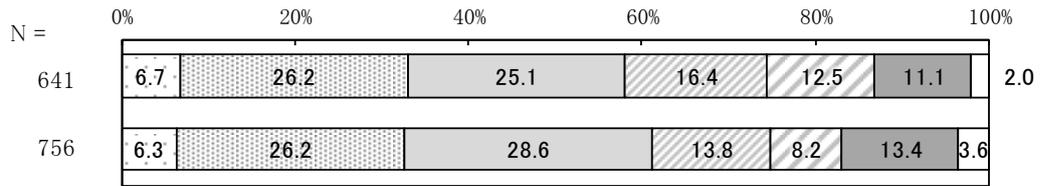
【居住地区別】



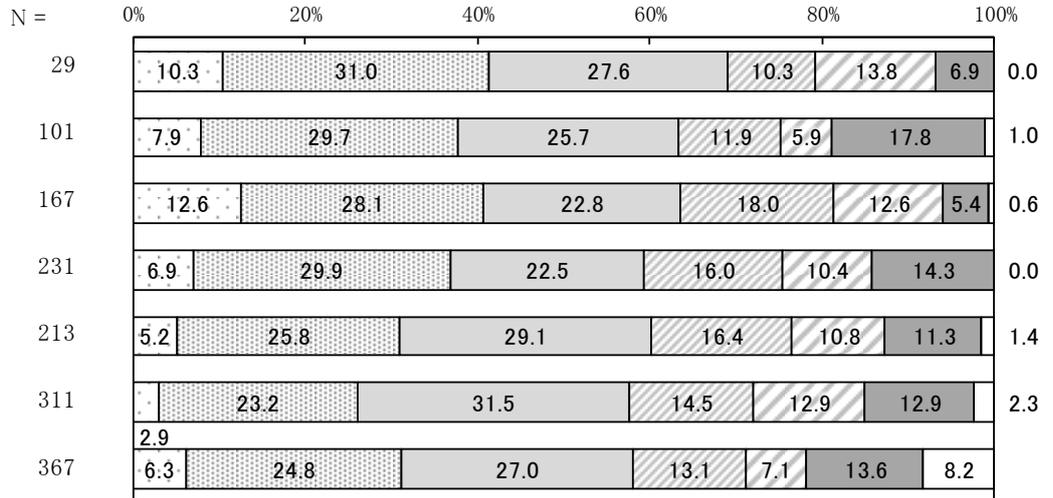
⑤公園の整備(広場、遊び場等)

- 満足
- どちらともいえない
- ▨ 不満
- 無回答
- ▩ どちらかといえば満足
- ▧ どちらかといえば不満
- わからない

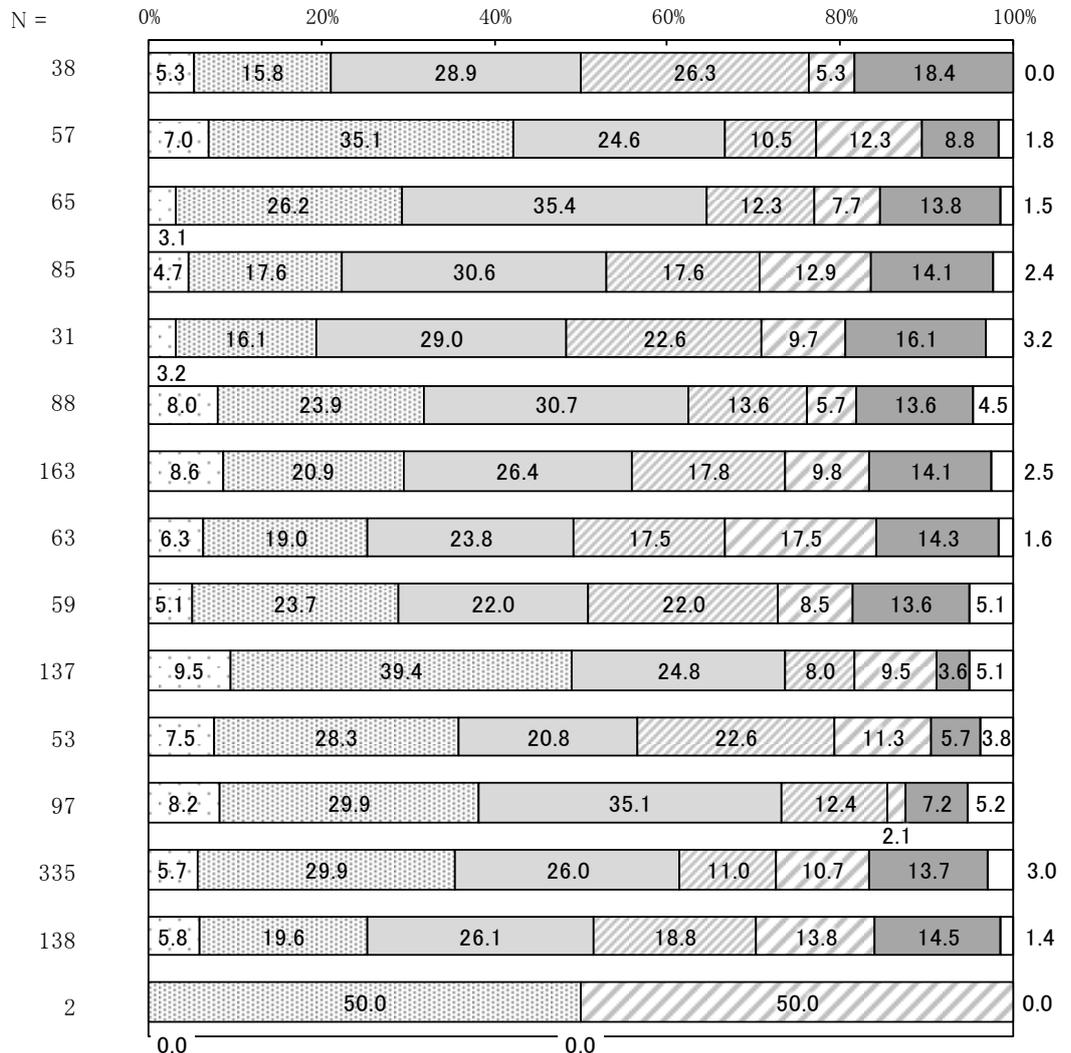
【性別】



【年代別】



【居住地区別】



(7) 購買状況等について

問 39 あなたは、日頃、食品や日用雑貨品、衣料品を主にどこで購入しますか。《①～③それぞれの項目に○1つ》

食品は8割、日用雑貨品は7割が市内で購入、衣料品は4割が市外で購入

- 食品、日用雑貨品、衣料品の購入先は、主に「東近江市内」で購入している人が①食品は8割(81.5%)、②日用雑貨品は7割(73.6%)となっています。一方、③衣料品については、4割(43.8%)が市外(カタログ通販やネットショッピング、その他を除く)で購入しており、その内訳としては「近江八幡市」が16.6%、「その他県内市町」が14.8%、「彦根市」が5.2%、「県外」が4.4%などとなっています。
- 過去の調査と比較すると、変動があるものの、特に③衣料品の購入先で、減少傾向にあった「市内」の割合が今年度やや増加しました。また、②日用雑貨品や③衣料品の購入先として、「ネットショッピング」の割合の増加も注目されます。

単位：%

		全体	市内	近江八幡市	彦根市	甲賀市	その他 県内市町	県外	カタログ 通販	ネット ショッピング	その他	無回答
①食品	今回調査 (令和3年度)	1,433	81.5	4.2	2.4	2.5	5.2	0.0	0.3	0.4	1.1	2.4
	市民意識調査 (令和2年度)	1,592	82.7	3.2	2.1	2.2	5.4	0.3	0.4	0.2	0.8	2.8
	市民意識調査 (令和元年度)	1,317	81.5	3.2	2.7	2.2	3.6	0.2	0.5	0.4	1.4	4.3
	市民意識調査 (平成30年度)	1,311	79.8	3.2	2.4	2.6	4.1	0.3	0.5	0.5	0.9	5.6
	市民意識調査 (平成29年度)	1,418	84.1	2.5	2.3	2.0	3.7	0.3	0.4	0.1	0.6	4.1
②日用雑貨品	今回調査 (令和3年度)	1,433	73.6	6.3	3.3	2.7	6.6	0.3	0.2	3.7	0.8	2.6
	市民意識調査 (令和2年度)	1,592	74.3	5.5	2.9	2.4	6.5	0.6	0.5	2.9	0.6	3.8
	市民意識調査 (令和元年度)	1,317	73.3	6.2	2.9	1.7	6.1	0.4	0.4	3.0	1.1	5.1
	市民意識調査 (平成30年度)	1,311	70.9	5.9	4.0	2.9	5.3	1.1	0.4	2.2	0.8	6.5
	市民意識調査 (平成29年度)	1,418	76.1	6.1	3.7	2.1	4.7	0.6	0.4	1.1	0.6	4.6
③衣料品	今回調査 (令和3年度)	1,433	38.0	16.6	5.2	2.8	14.8	4.4	2.7	9.4	1.4	4.7
	市民意識調査 (令和2年度)	1,592	35.5	19.0	5.3	1.5	15.9	5.7	2.6	8.5	1.1	4.9
	市民意識調査 (令和元年度)	1,317	36.6	14.2	6.2	1.7	16.7	6.9	2.6	6.1	1.9	7.1
	市民意識調査 (平成30年度)	1,311	39.8	14.6	4.9	2.1	14.1	6.0	2.7	4.9	1.1	9.7
	市民意識調査 (平成29年度)	1,418	42.7	15.7	6.0	1.6	14.6	6.7	2.0	4.2	1.0	5.5

①食品

- 性別、年代別、平田地区を除く居住地区別のいずれも「市内」が最も多くなっています。平田地区では「近江八幡市」が最も多くなっています。
- 年代別では、市内で購入している人の割合が、70歳以上で9割近く、10歳代、30歳代、60歳代で8割となっています。
- 居住地区別では、市内で購入している人の割合が、建部地区、南部地区、玉緒地区、愛東地区、八日市地区、御園地区で9割以上となっています。そのほか、蒲生地区で「甲賀市」が、湖東地区、蒲生地区、永源寺地区で「その他県内市町」が、ほかの地区より多くみられます。

②日用雑貨品

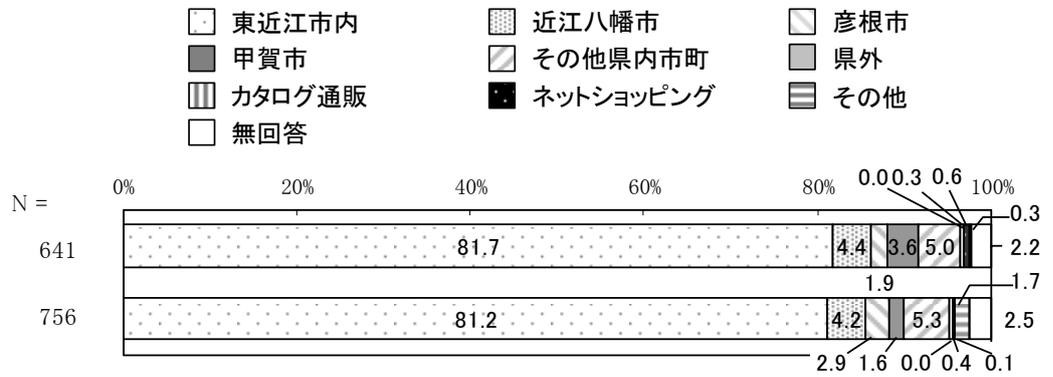
- ・ 性別、年代別、平田地区を除く居住地区別のいずれも「市内」が最も多くなっています。平田地区では「近江八幡市」が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、市内で購入している人の割合が、60歳以上は8割前後となっています。そのほか、10～20歳代で「近江八幡市」が、50歳代で「その他県内市町」がほかの年代より多くみられます。
- ・ 居住地区別では、市内で購入している人の割合が、南部地区、御園地区、愛東地区、建部地区で9割以上となっています。そのほか、蒲生地区で「甲賀市」が、湖東地区、蒲生地区で「その他県内市町」が、ほかの地区より多くみられます。

③衣料品

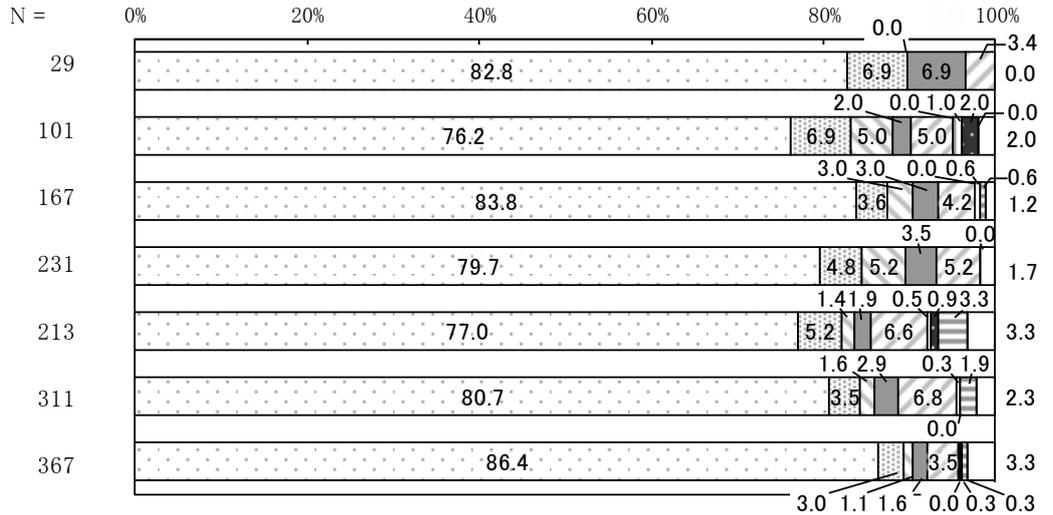
- ・ 年代別では、30歳代までで「近江八幡市」が、50歳以上で「市内」が、40歳代は両者が最も多くなっています。20歳以上で年齢が上がるほど市内の割合が高くなる傾向があり、70歳以上は6割となっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区で「近江八幡市」が、そのほかの地区で「市内」が最も多くなっています。そのほか、能登川地区、中野地区でも「近江八幡市」が、能登川地区で「彦根市」が、蒲生地区で「甲賀市」が、蒲生地区、愛東地区で「その他県内市町」がほかの地区より多くみられます。

①食品

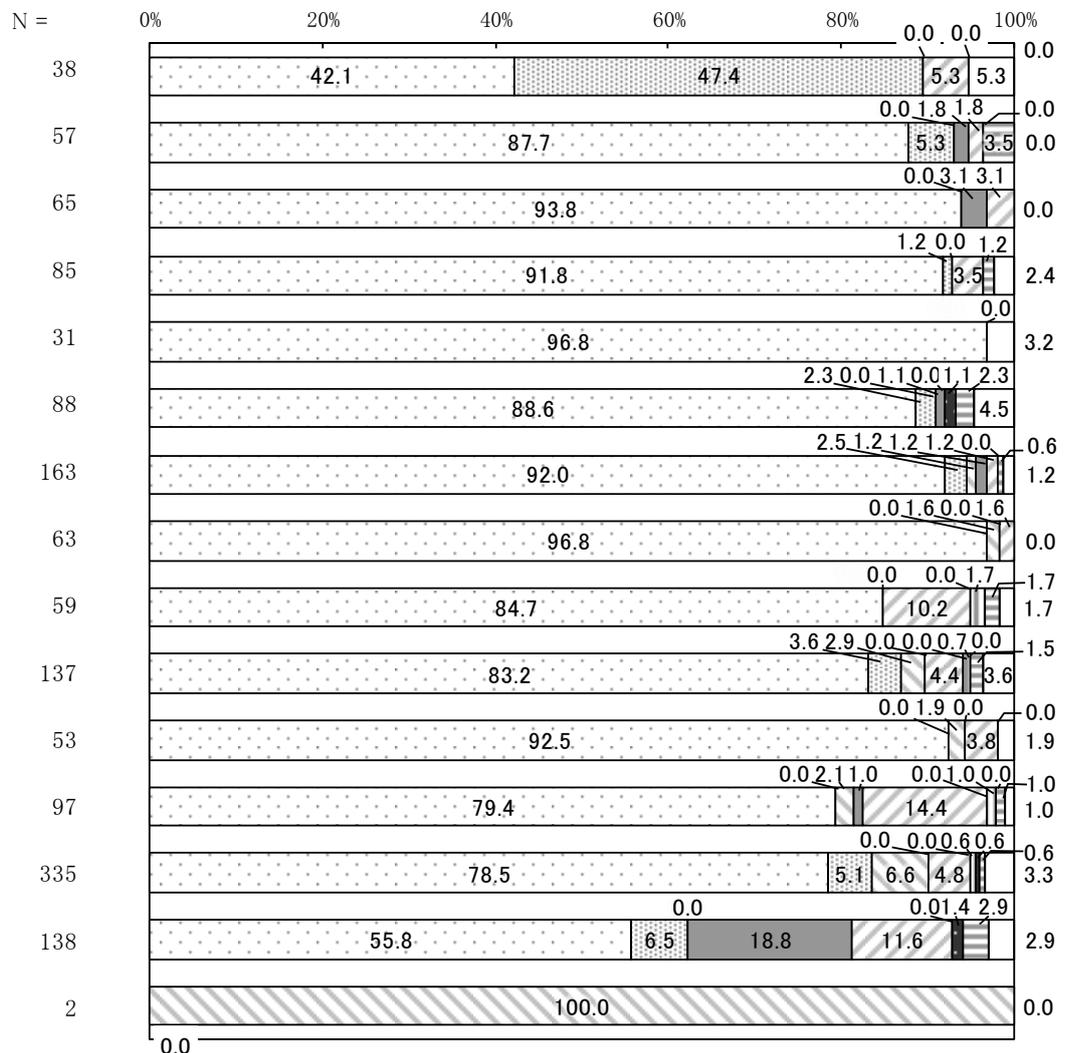
【性別】



【年代別】

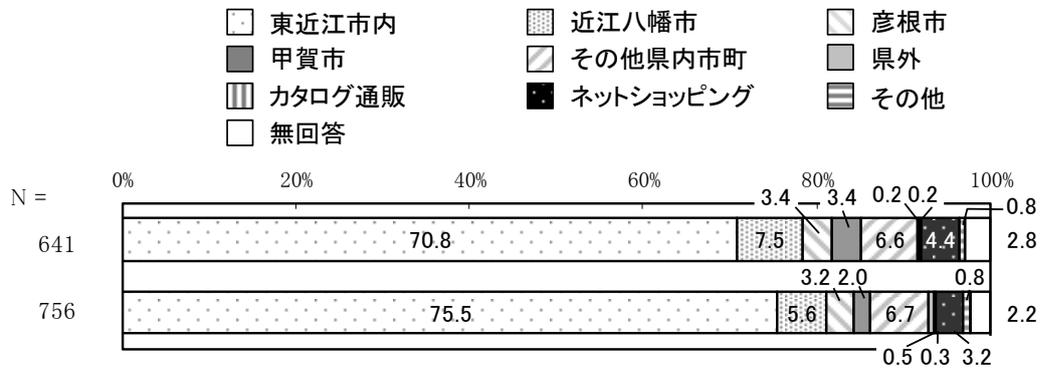


【居住地区別】

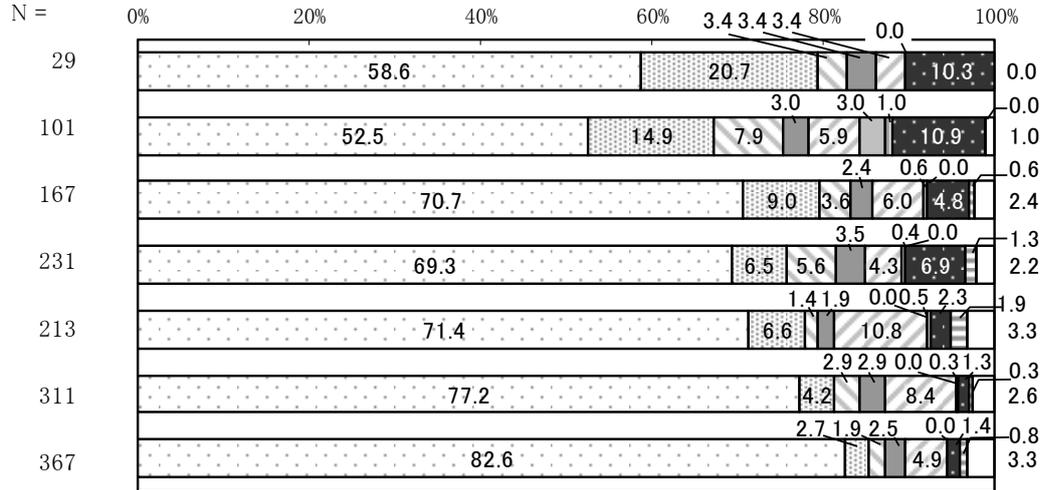


②日用雑貨品

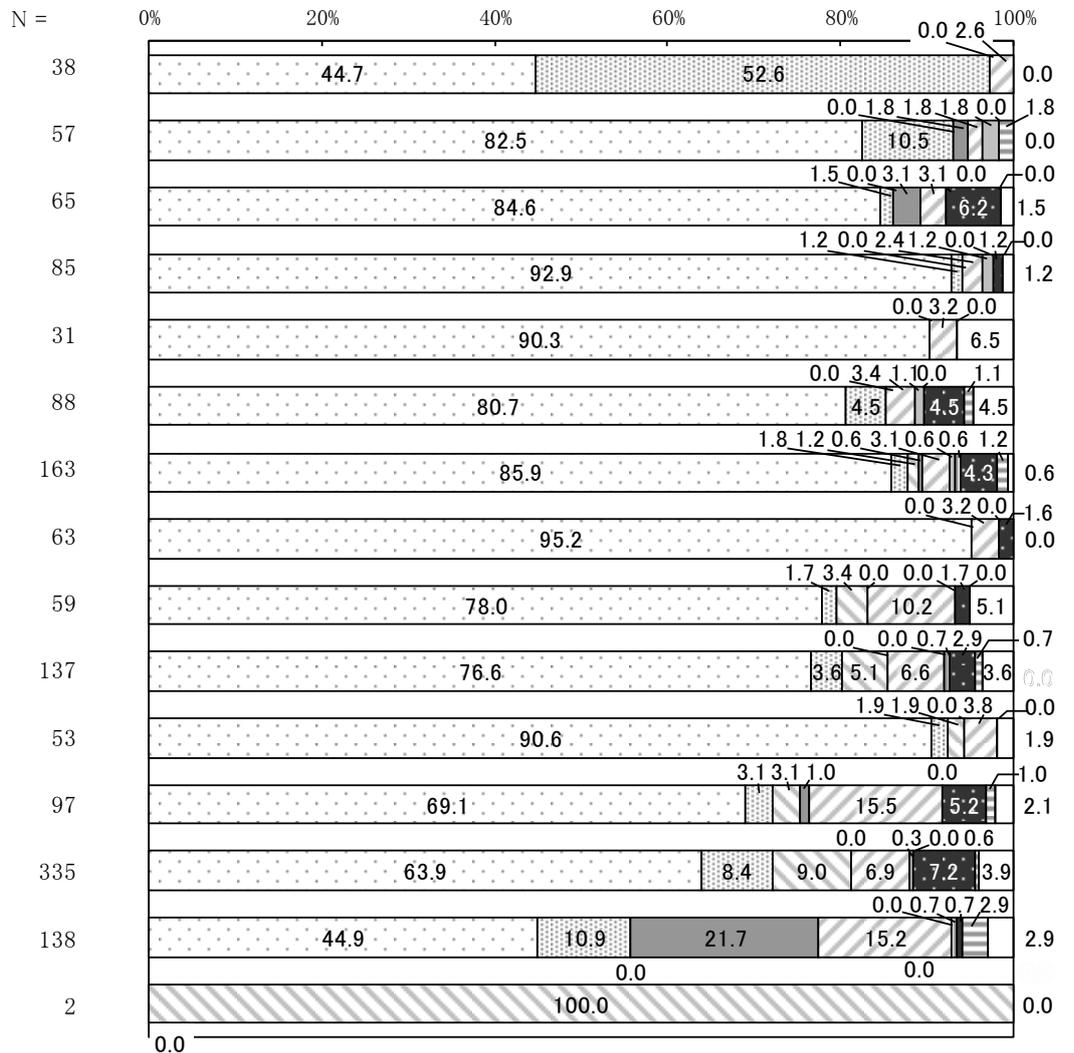
【性別】



【年代別】

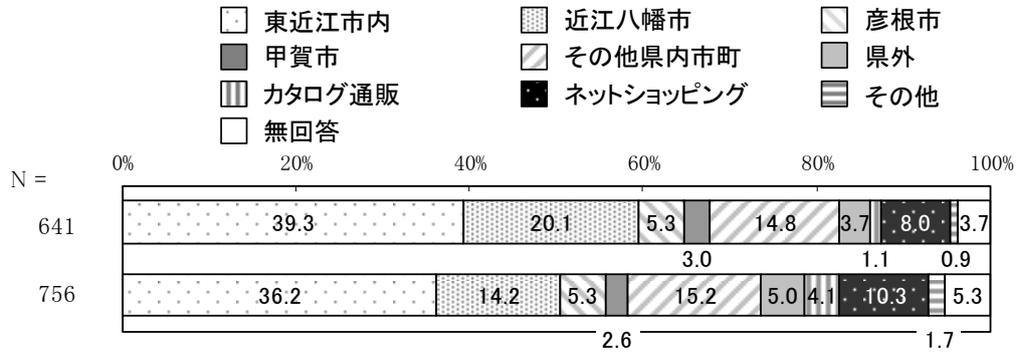


【居住地区別】

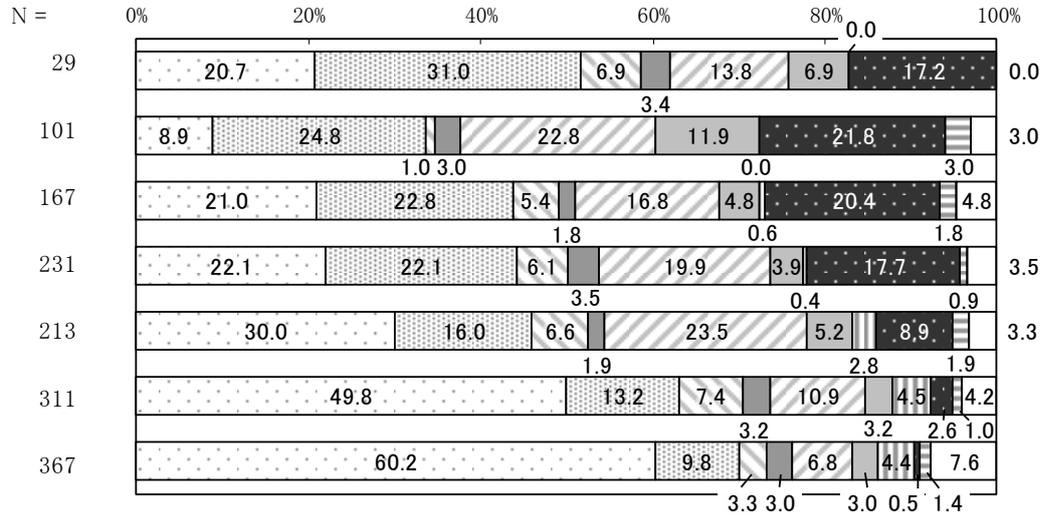


③衣料品

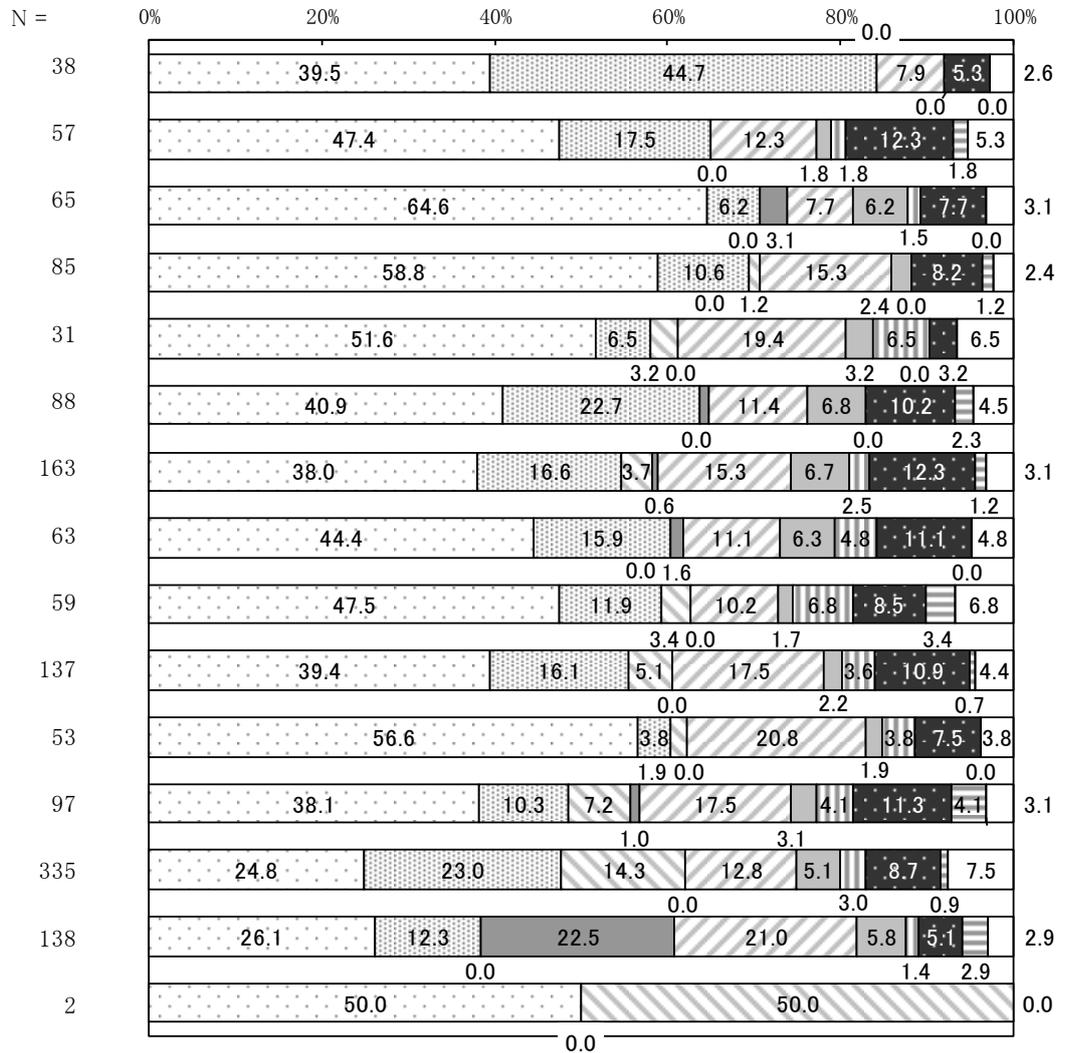
【性別】



【年代別】



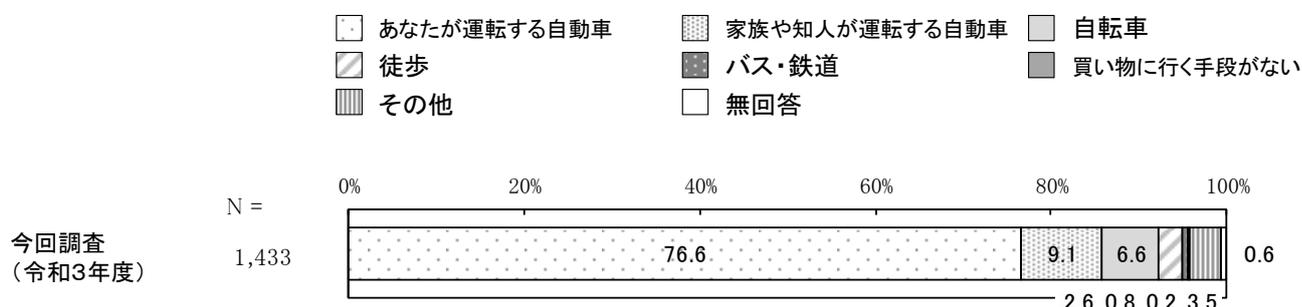
【居住地区別】



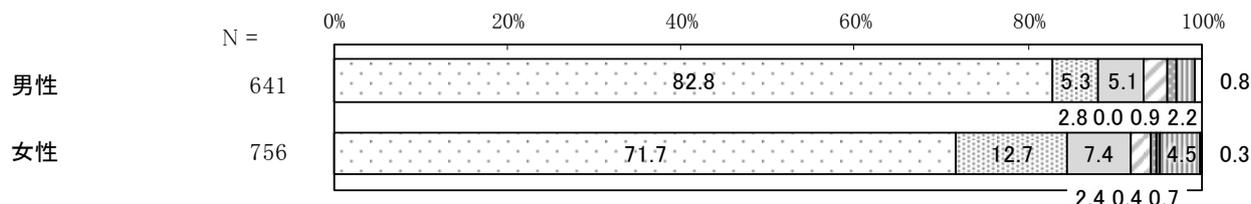
問 40 あなたは、主にどのような交通手段で食品を買いに行きますか。《○1つ》

9割近くが自動車、そのほとんどが自分で運転

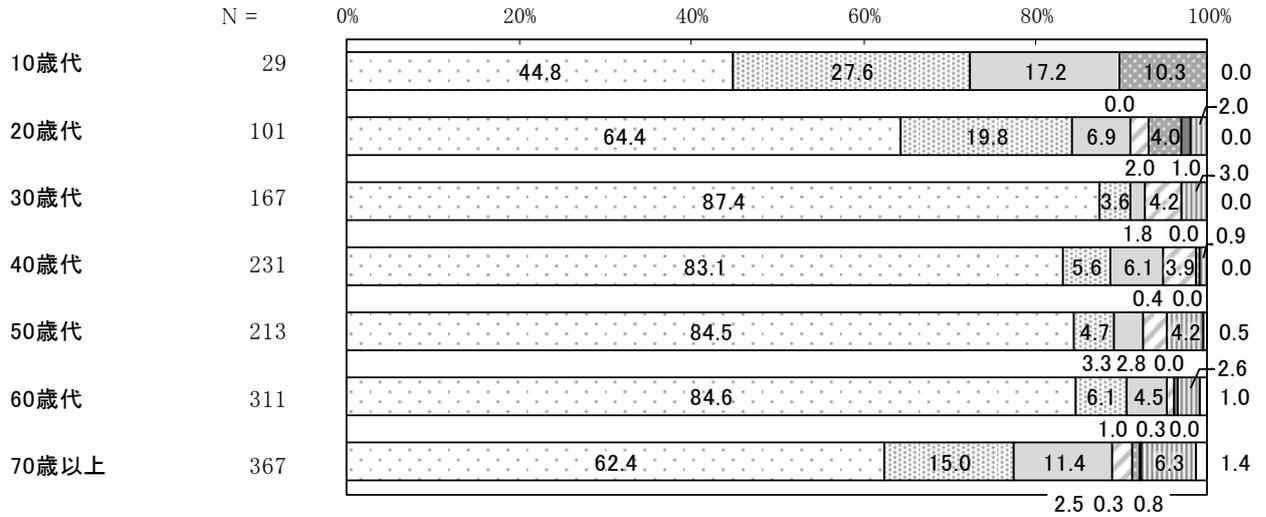
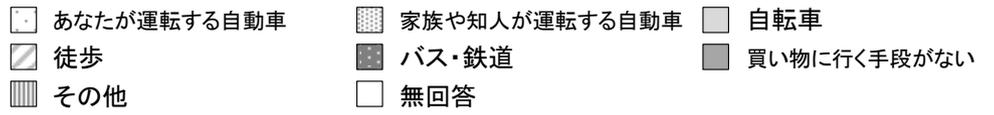
- ・ 食品を買いに行くときの主な交通手段としては、「あなたが運転する自動車」が76.6%で最も多く、「家族や知人が運転する自動車」の9.1%を合わせると、85.7%と9割近くの人が自動車を利用してしています。
- ・ そのほかには、「自転車」が6.6%、「徒歩」が2.6%で、「バス・鉄道」はわずか0.8%でした。また、「買い物に行く手段がない」と回答した人は0.2%でした。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも「あなたが運転する自動車」が最も多くなっています。
- ・ 性別では、男女ともに「あなたが運転する自動車」が最も多くなっていますが、女性は「家族や知人が運転する自動車」が男性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、30歳代は9割近く、40～60歳代は8割が「あなたが運転する自動車」をあげていますが、10～20歳代と70歳以上は「家族や知人が運転する自動車」も多くあげられています。また、10歳代と70歳以上で「自転車」が、10歳代で「バス・鉄道」がほかの年代より多くみられます。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、平田地区、建部地区、玉緒地区で9割前後が「あなたが運転する自動車」をあげています。また、市辺地区、能登川地区、五個荘地区、御園地区、湖東地区で「家族や知人が運転する自動車」が、八日市地区、南部地区で「自転車」がほかの地区より多くみられます。



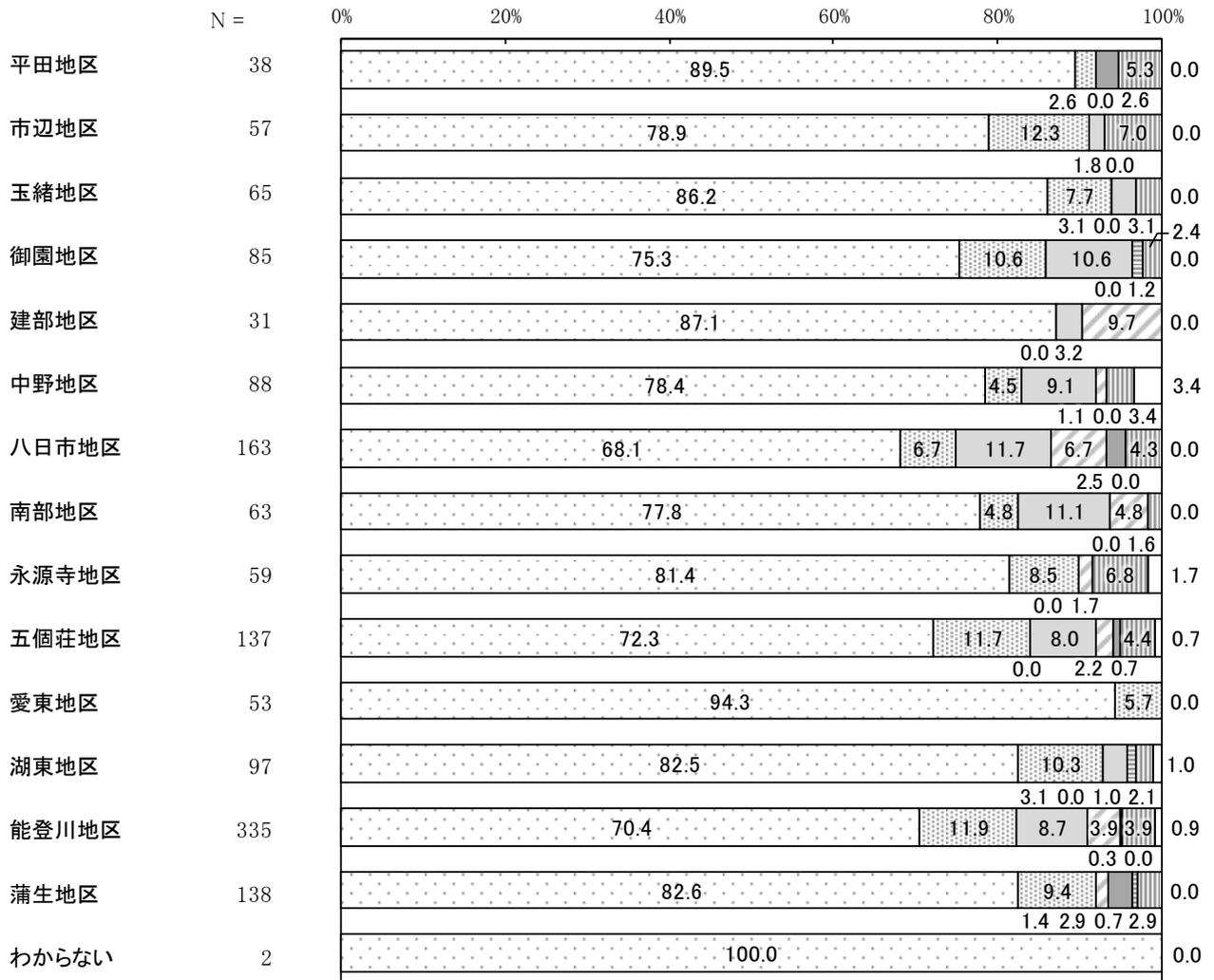
【性別】



【年代別】



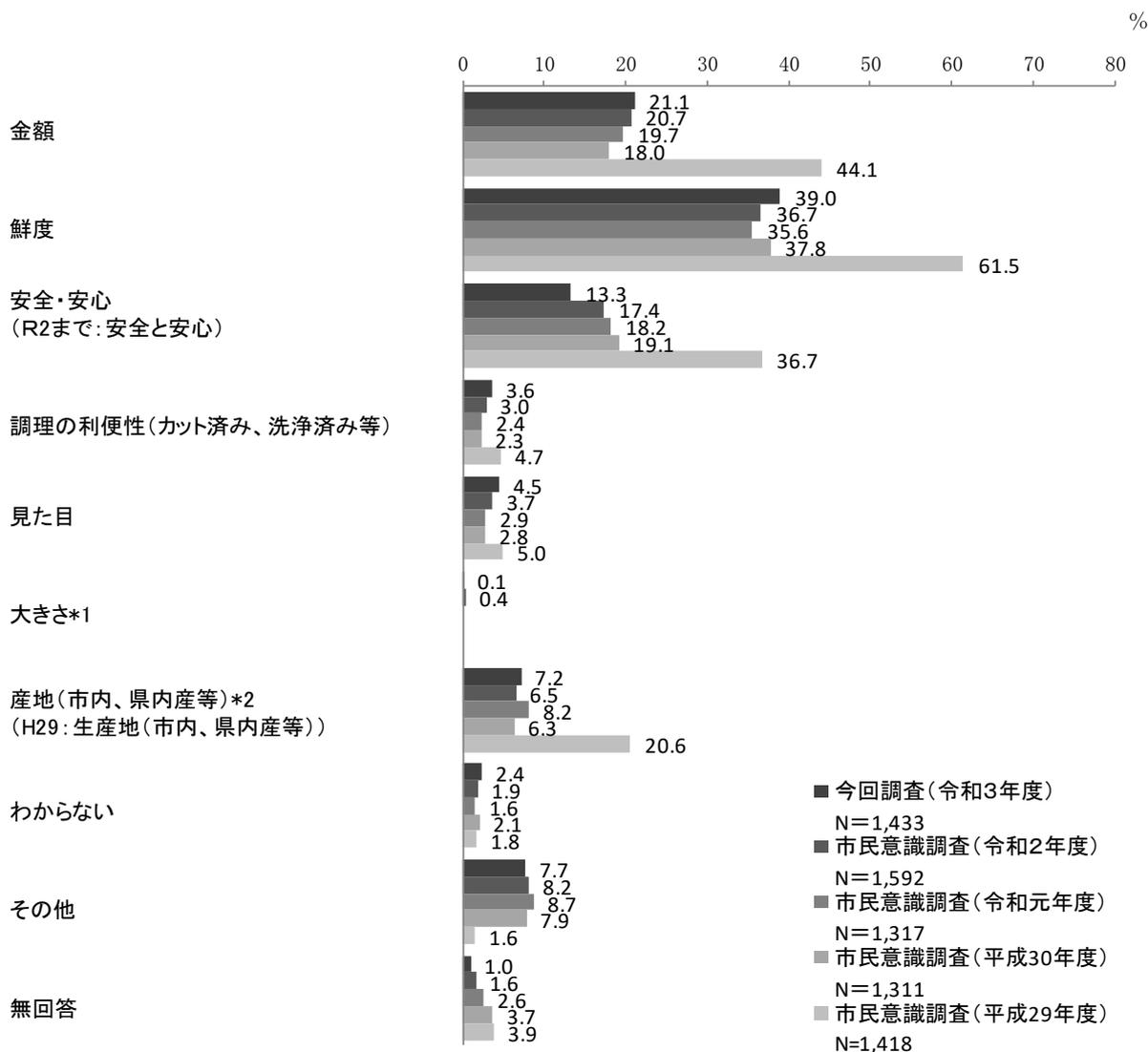
【居住地区別】



問 41 あなたの家庭では野菜等を購入するとき、主に何を基準に選んでいますか。(自作している方も不足する野菜を購入する場合)《〇1つ》

野菜等を購入する際の基準は「鮮度」、「金額」、「安全・安心」

- 野菜等を購入する際の基準としては、「鮮度」が39.0%と最も多く、次いで「金額」が21.1%、「安全・安心」が13.3%と続きます。調理の利便性や見た目より、これらが重視されていることがわかります。
- 性別では、男女ともに「鮮度」が最も多くあげられています。男性より女性で多くなっています。
- 年代別では、30歳代は「金額」が、10歳代と40歳以上は「鮮度」が、20歳代は両者が最も多くあげられています。「金額」については、20～40歳代の比較的若い世代で重要な基準となっていることがわかります。
- 居住地区別では、すべての地区で「鮮度」が最も多くなっていますが、南部地区、平田地区、中野地区で「金額」が、建部地区、中野地区で「安全・安心」が、永源寺地区、愛東地区、平田地区で「産地（市内、県内産等）」が、ほかの地区より多くみられます。



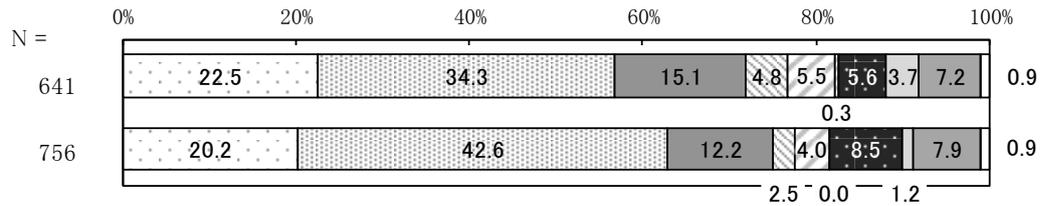
*1 令和2年度より「大きさ」を追加

*2 平成29年度以降「見た目」と「産地」を追加

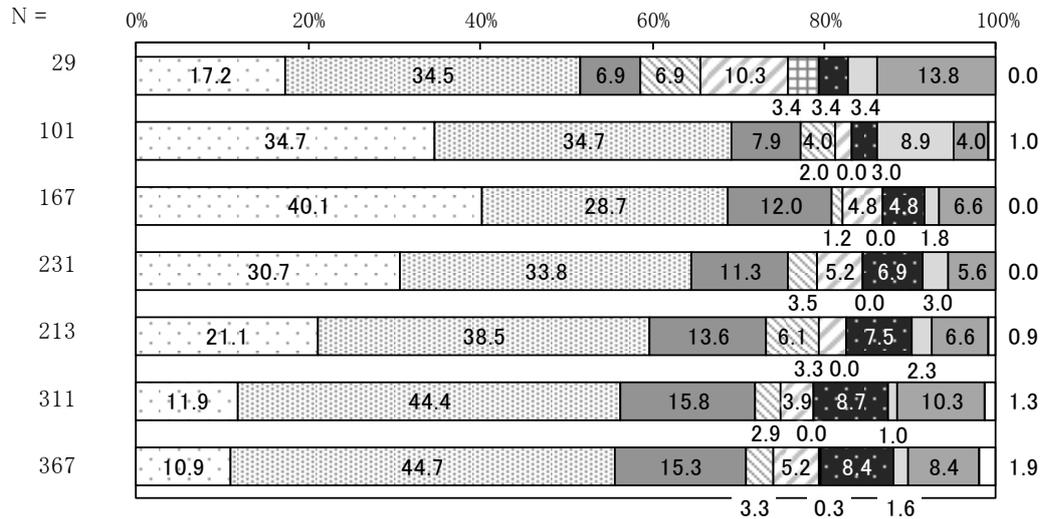
※平成29年度のみ2つ選択



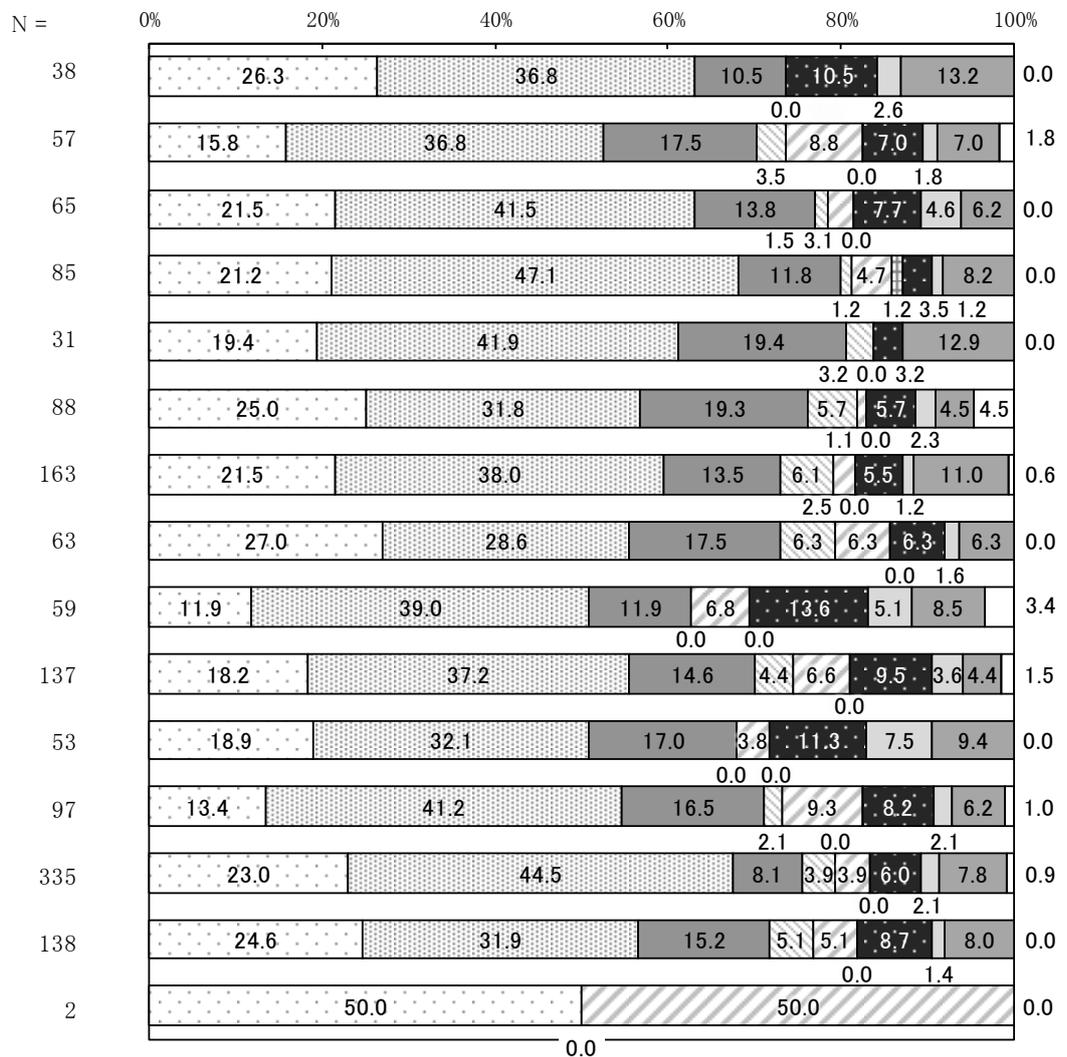
【性別】



【年代別】



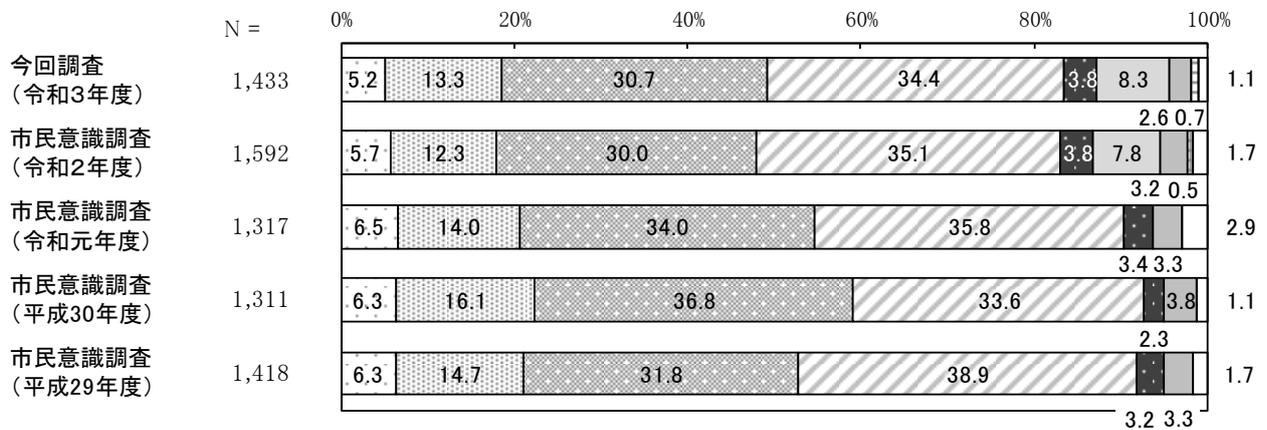
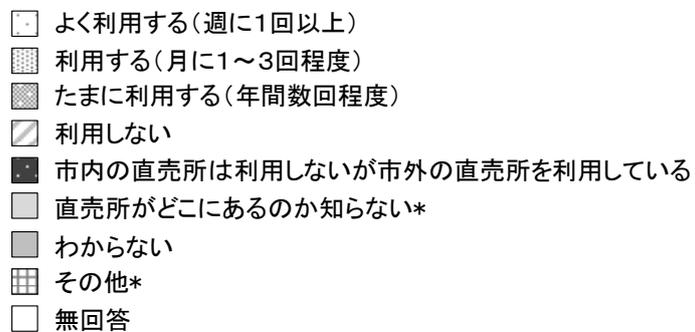
【居住地区別】



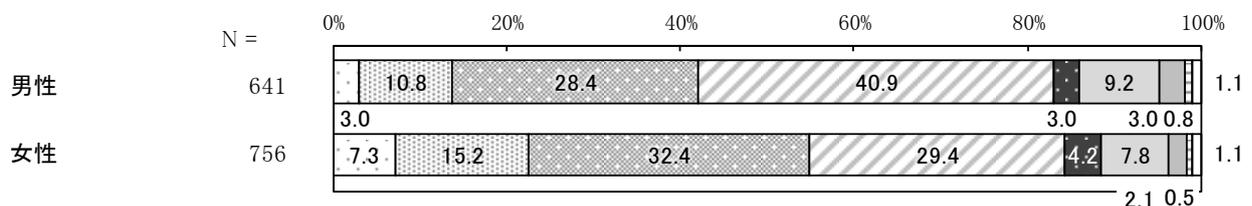
問 42 あなたの家庭では、市内の農産物直売所（青空市、無人販売所を含む）を利用しますか。
《○1つ》

半数近くが市内の直売所を利用、年間数回程度の利用が最も多い

- ・ 市内の農産物直売所の利用状況については、「利用しない」が34.4%と最も多く、次いで「たまに利用する（年間数回程度）」が30.7%、「利用する（月に1～3回程度）」が13.3%、「よく利用する（週に1回以上）」が5.2%と続きます。利用している人の合計は49.2%と半数近くみられ、市外も含めると農産物直売所の利用率は53.0%になります。
- ・ 一方、「直売所がどこにあるのか知らない」と回答した人は8.3%と1割近くみられます。
- ・ 性別では女性で、年代別では60歳以上で利用している人が多くみられます。一方、10～20歳代は、「利用しない」人が利用している人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、利用する人が愛東地区で7割、湖東地区、建部地区で6割となっています。一方、平田地区、市辺地区、八日市地区、中野地区では「利用しない」人が利用している人よりも多くみられます。

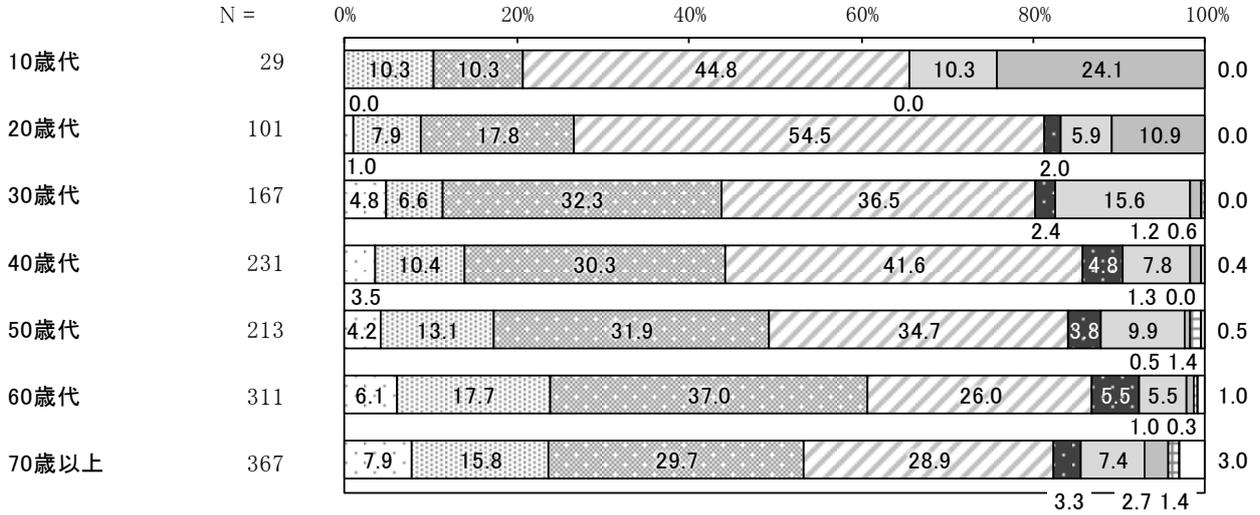


【性別】

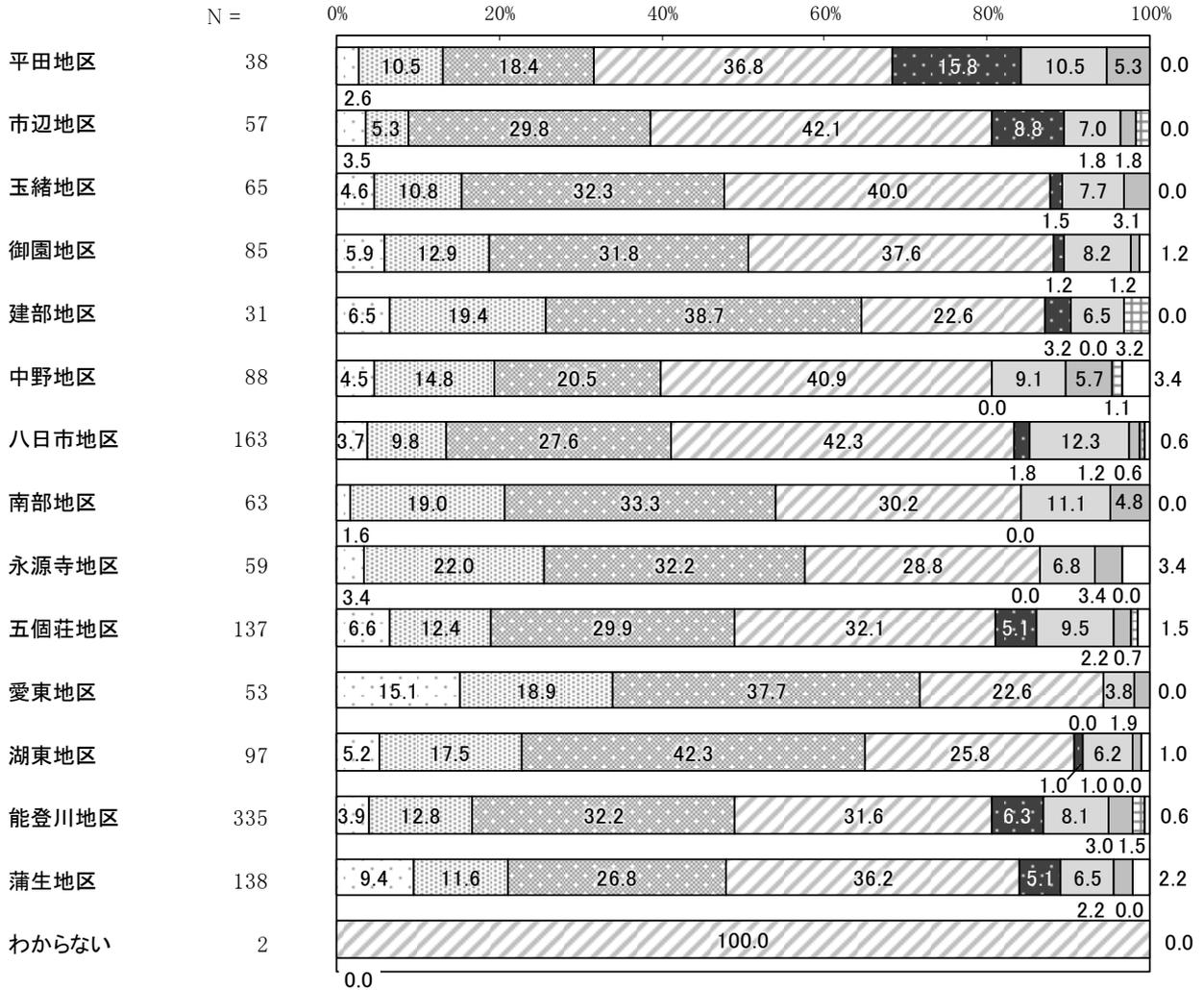


- よく利用する(週に1回以上)
- 利用する(月に1~3回程度)
- たまに利用する(年間数回程度)
- 利用しない
- 市内の直売所は利用しないが市外の直売所を利用している
- 直売所がどこにあるのか知らない
- わからない
- その他
- 無回答

【年代別】



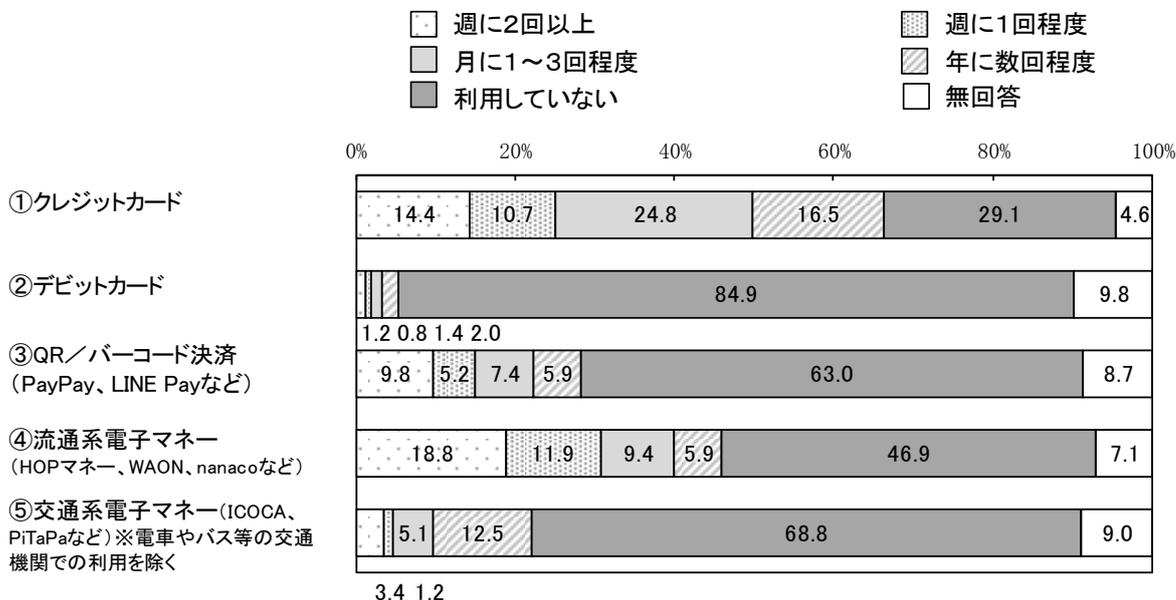
【居住地区別】



問 43 あなたは、次のキャッシュレス決済をどの程度利用していますか。《①～⑥それぞれの項目に○1つ》

流通系電子マネー、クレジットカードは3割前後が週1回以上利用

- ・ キャッシュレス決済を週1回以上利用する人の割合は、「④流通系電子マネー（HOP マネー、WAON、nanaco など）」が 30.7%で最も高く、次いで「①クレジットカード」が 25.1%、「③QR／バーコード決済（PayPay、LINE Pay など）」が 15.0%、「⑤交通系電子マネー（ICOCA、PiTaPa など）」が 4.6%、「②デビットカード」が 2.0%となっています。「週に2回以上」利用する人の割合も、同様の順です。
- ・ 「月に1～3回程度」や「年に数回程度」の利用も含めた利用したことがある人の割合は、「①クレジットカード」が 66.4%で最も高く、次いで「④流通系電子マネー（HOP マネー、WAON、nanaco など）」が 46.0%、「③QR／バーコード決済（PayPay、LINE Pay など）」が 28.3%、「⑤交通系電子マネー（ICOCA、PiTaPa など）」が 22.2%、「②デビットカード」は 5.4%とわずかです。



単位：%

	週1回以上利用	利用したことがある	利用していない
①クレジットカード	25.1	66.4	29.1
②デビットカード	2.0	5.4	84.9
③QR／バーコード決済 (PayPay、LINE Pay など)	15.0	28.3	63.0
④流通系電子マネー (HOP マネー、WAON、nanaco など)	30.7	46.0	46.9
⑤交通系電子マネー (ICOCA、PiTaPa など) ※電車やバス等の交通機関での利用を除く	4.6	22.2	68.8

「⑥その他」の内訳（現金などキャッシュレス決済以外のものや利用していないを除くと 13 件）

週2回以上	ID カード、Edy、QuicPay など
週に1回程度	店のチャージ型プリペイドカード、ID カード、QuicPay など
月に1～3回程度	ID カード、d払い
年に数回程度	ETC、ギフト券

① クレジットカード

- ・ 性別では女性より男性で、年代別では20～60歳代（特に30歳代で9割近く）で利用したことがある人の割合が高くなっています。週2回以上の利用は、20～40歳代で2割前後となっています。一方、10歳代では7割が利用していません。
- ・ 居住地区別では、特に建部地区、南部地区で利用したことがある人の割合が高くなっています。

② デビットカード

- ・ 年代別では、10歳代で2割、20歳代で1割が利用したことがあるものの、そのほかの年代では1割未満にとどまっています。週2回以上の利用は、すべての年代で1割未満となっています。

③ QR/バーコード決済（PayPay、LINE Pay など）

- ・ 年代別では、利用したことがある人の割合は、30～40歳代で半数以上と高く、60歳以上で低くなっています。週に2回以上の利用は、40歳代までで2割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、八日市地区、建部地区で利用したことがある人の割合が4割前後で、週2回以上の利用は建部地区でほかの地区より多くみられます。

④ 流通系電子マネー（HOP マネー、WAON、nanaco など）

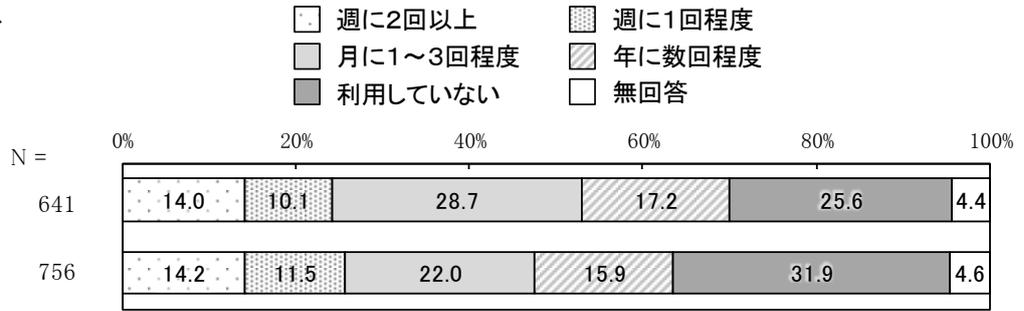
- ・ 性別では、利用したことがある人の割合が男性より女性で高くなっています。
- ・ 性別では、40～50歳代で利用したことがある人が6割、週2回以上の利用も3割近くと、この年齢層で高くなっています。
- ・ 居住地区別では、利用したことがある人の割合が平田地区、能登川地区、五個荘地区で高く、週2回以上の利用は中野地区、湖東地区、御園地区、蒲生地区、南部地区、能登川地区でほかの地区より多くみられます。

⑤ 交通系電子マネー（ICOCA、PiTaPa など）

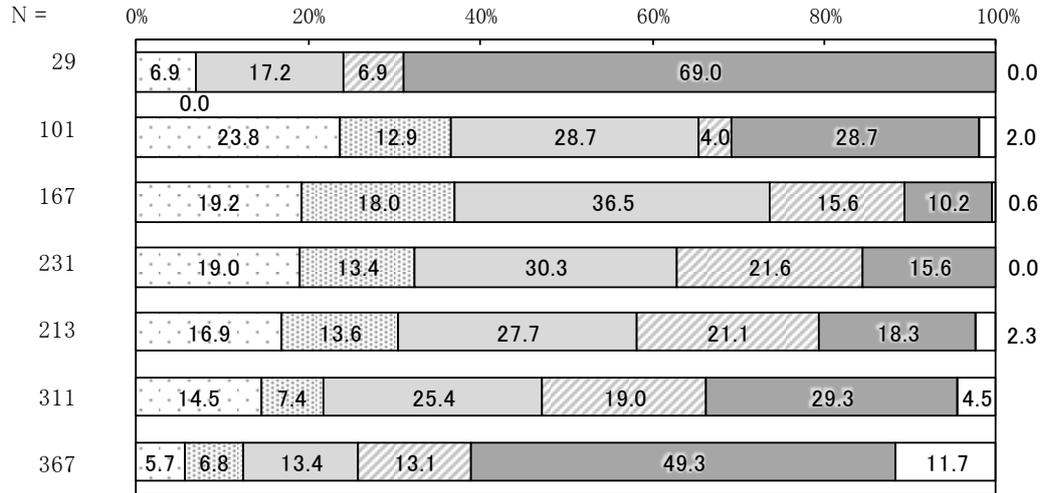
- ・ 年代別では、利用したことがある人の割合が10歳代で半数、20歳代で4割となっています。週2回以上の利用は、ほかの年代が1割未満の中、10歳代で2割となっています。

①クレジットカード

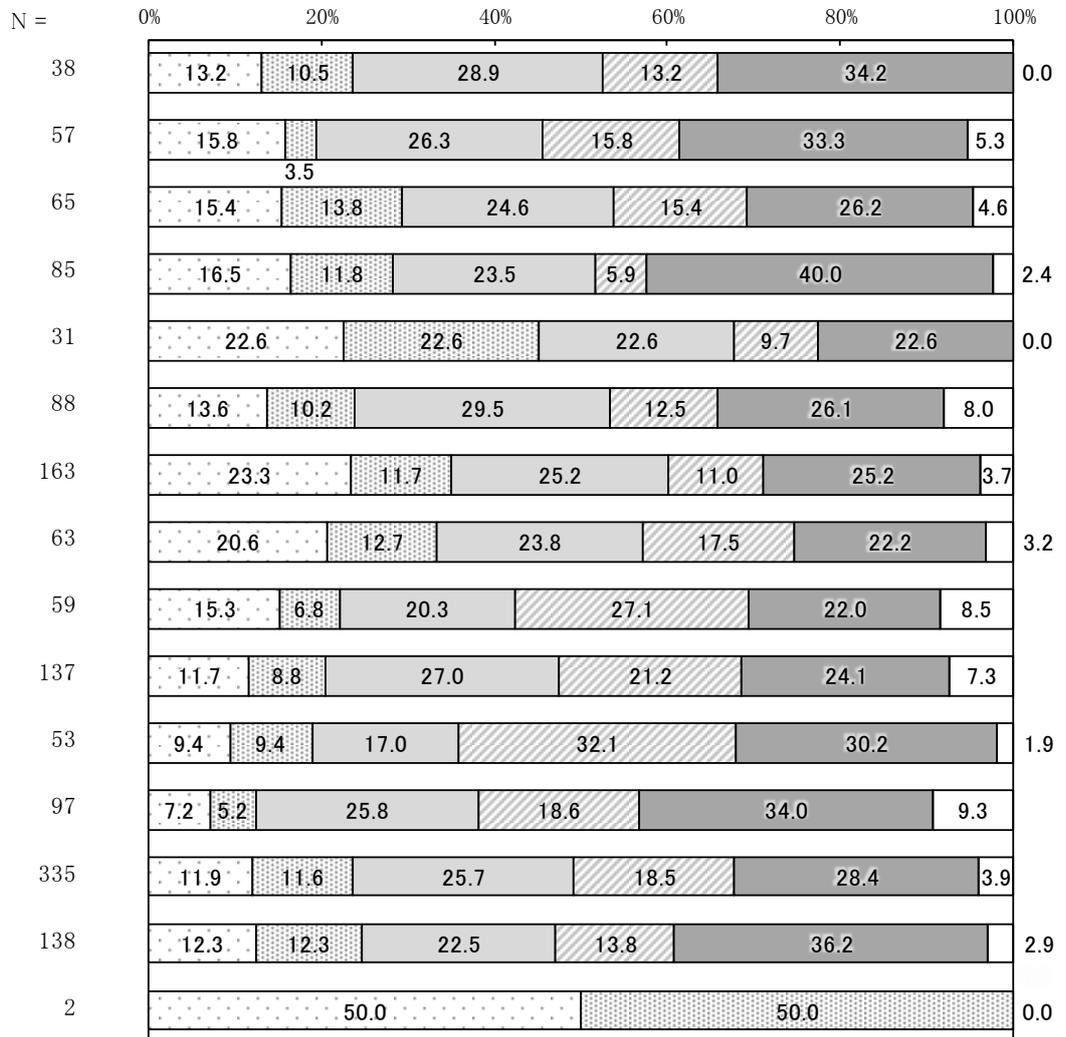
【性別】



【年代別】

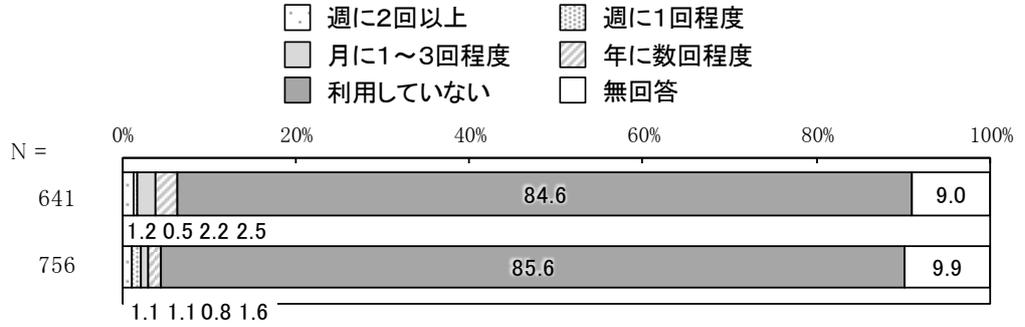


【居住地区別】

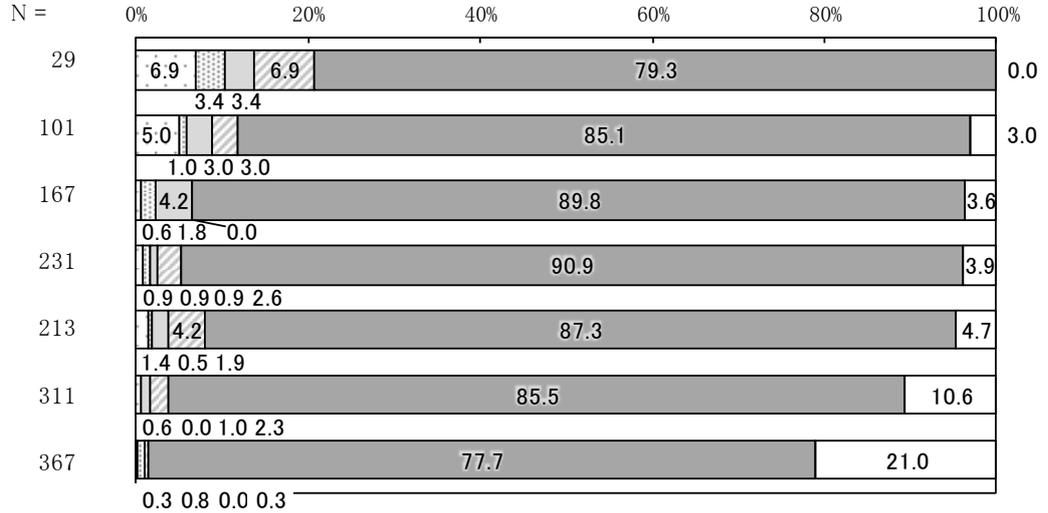


②デビットカード

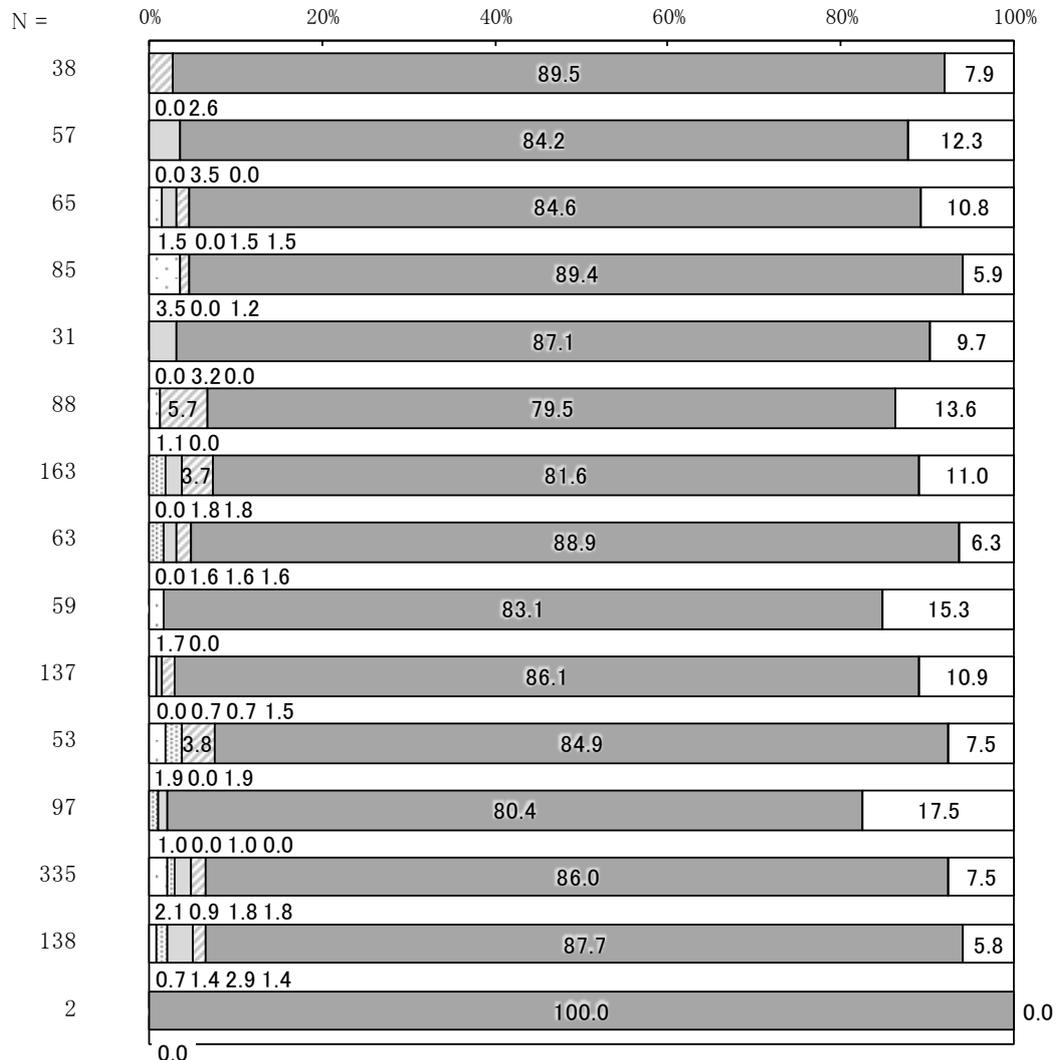
【性別】



【年代別】

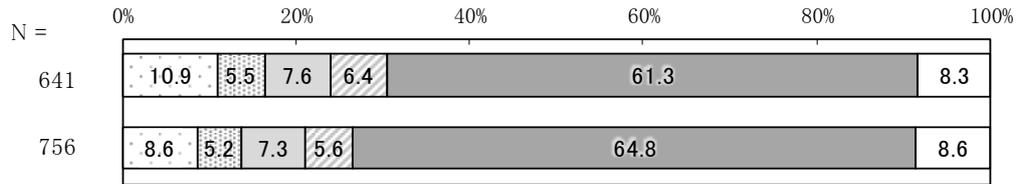
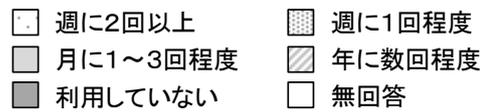


【居住地区別】

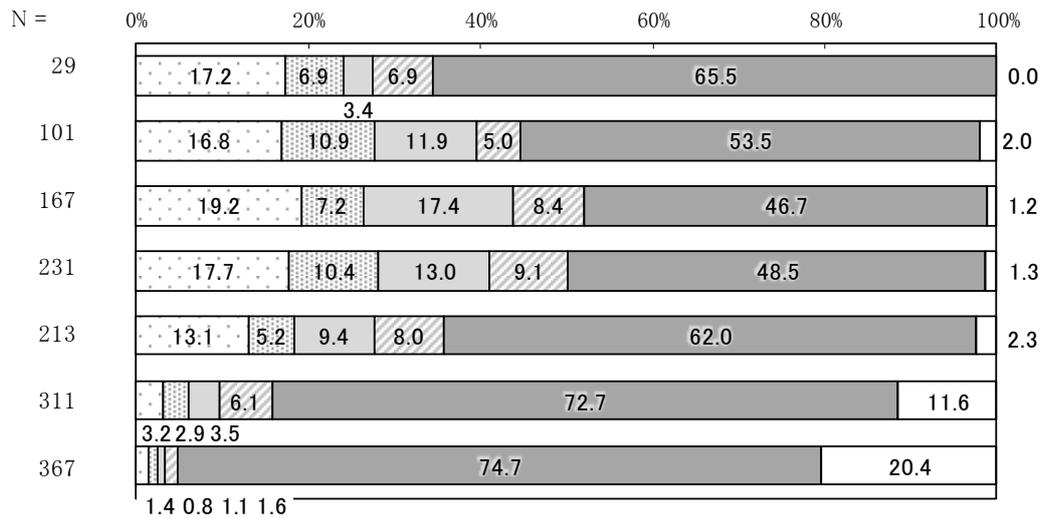


③QR/バーコード決済 (PayPay、LINE Pay など)

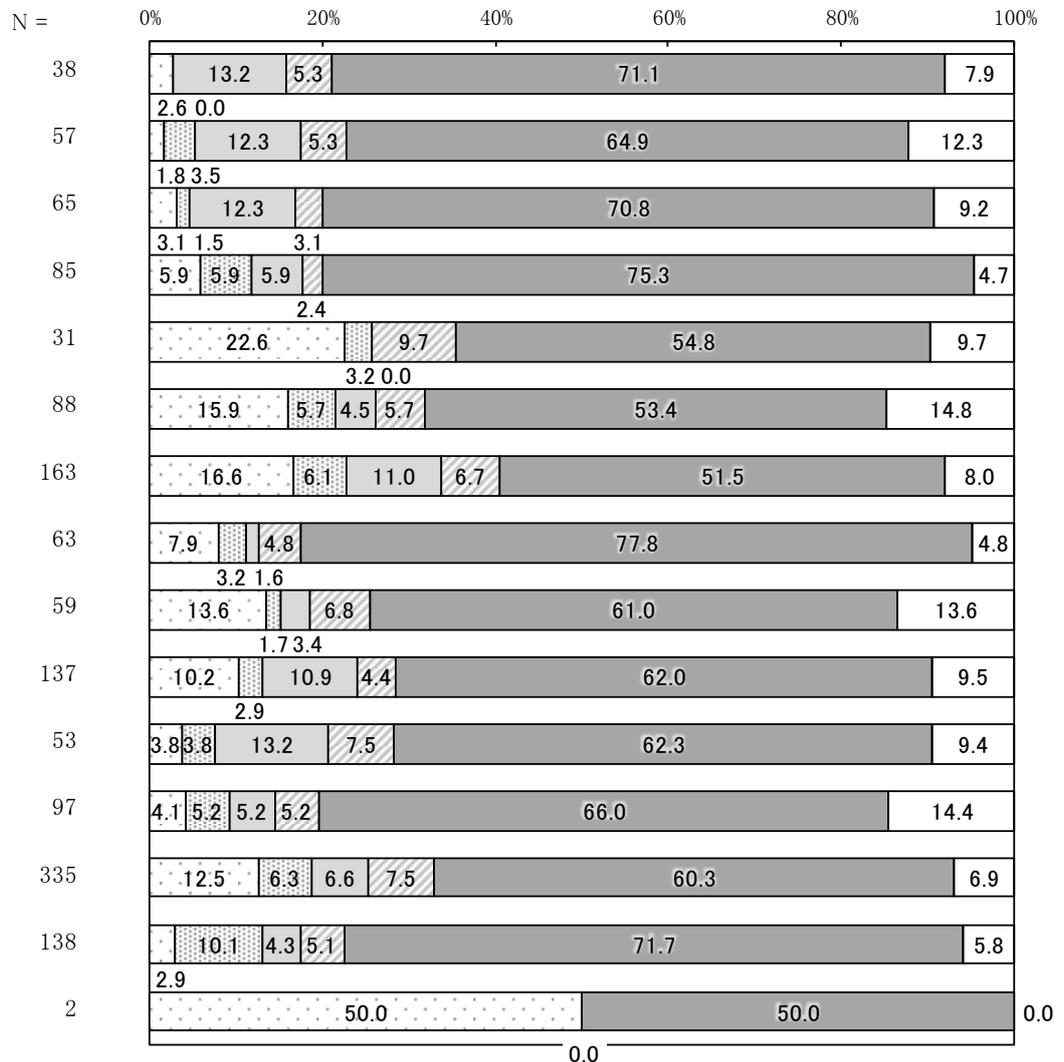
【性別】



【年代別】

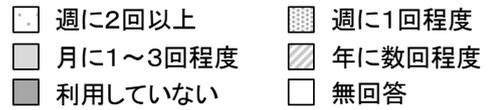


【居住地区別】

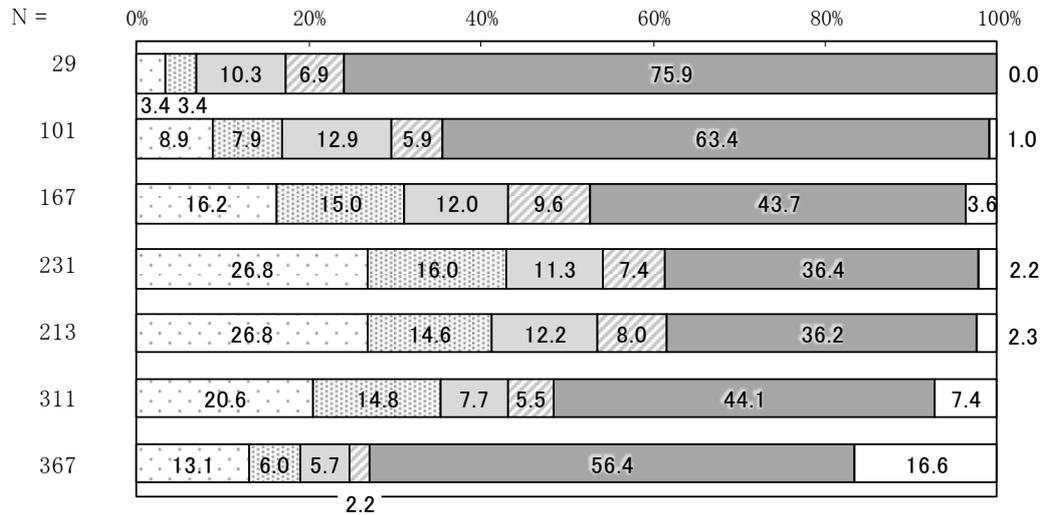


④流通系電子マネー（HOP マネー、WAON、nanaco など）

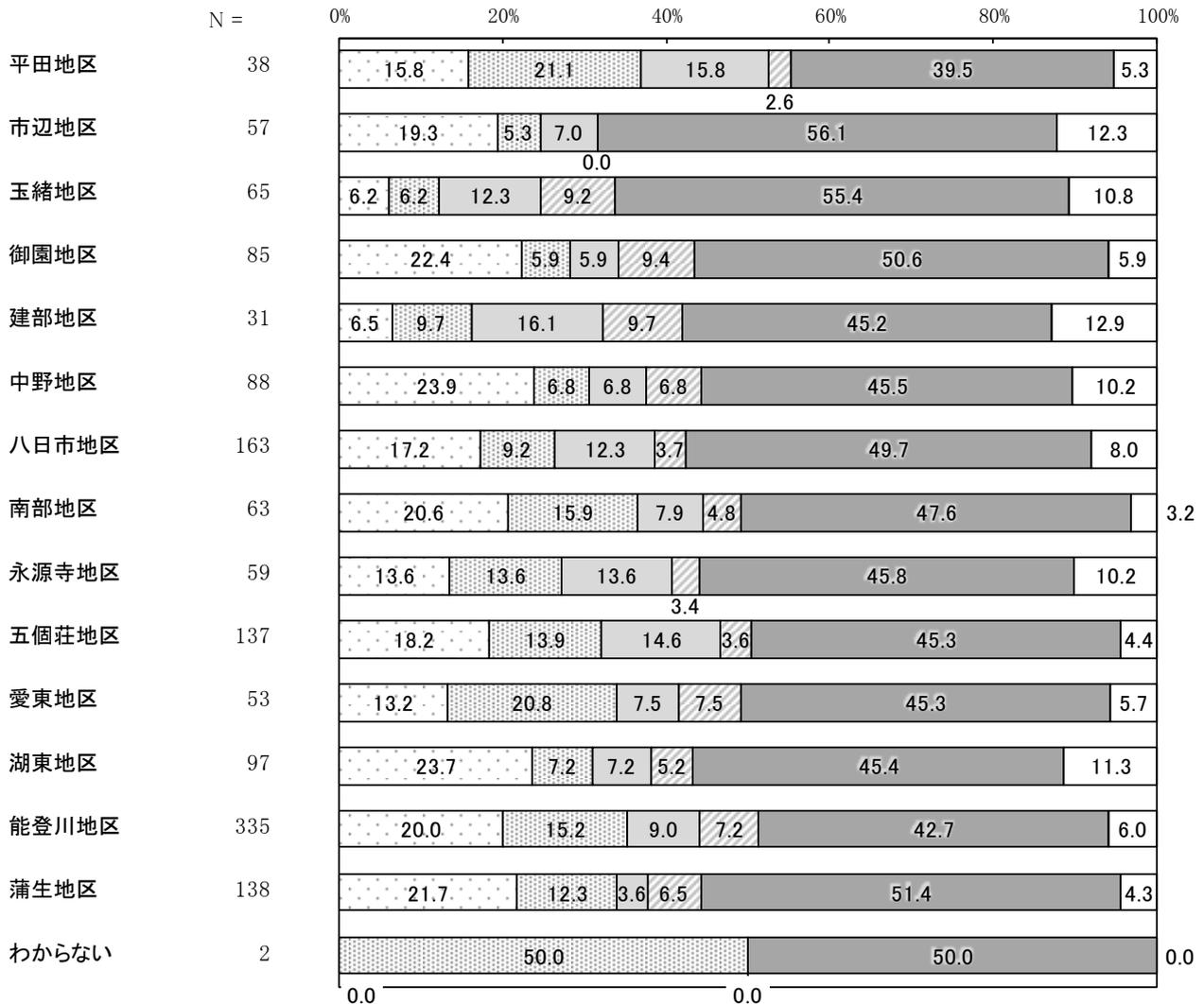
【性別】



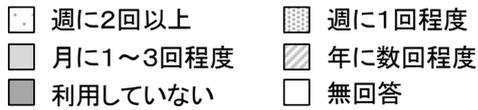
【年代別】



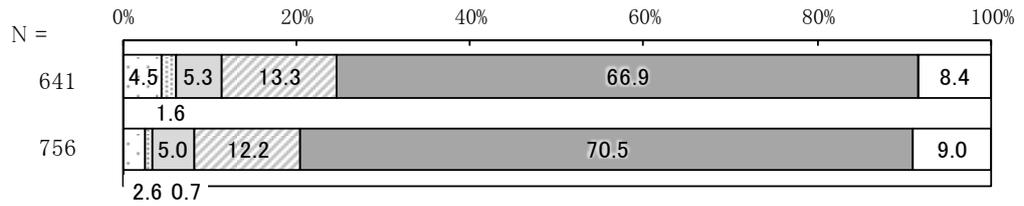
【居住地区別】



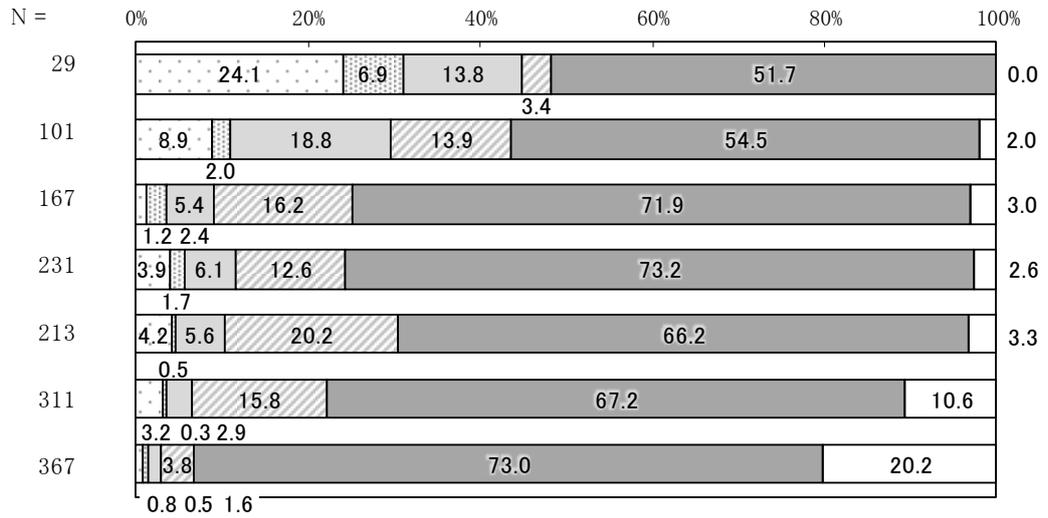
⑤交通系電子マネー（ICOCA、PiTaPa など）



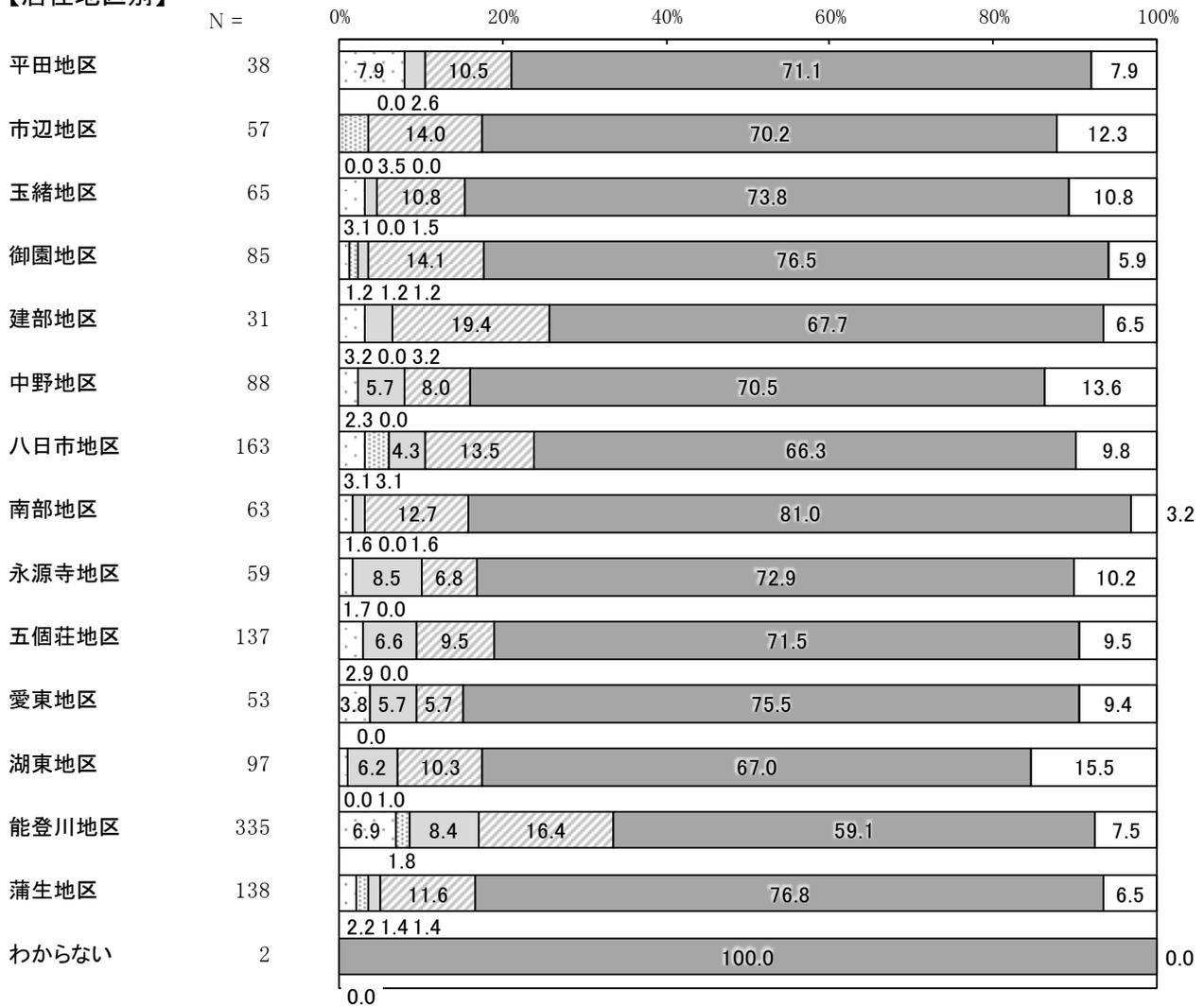
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

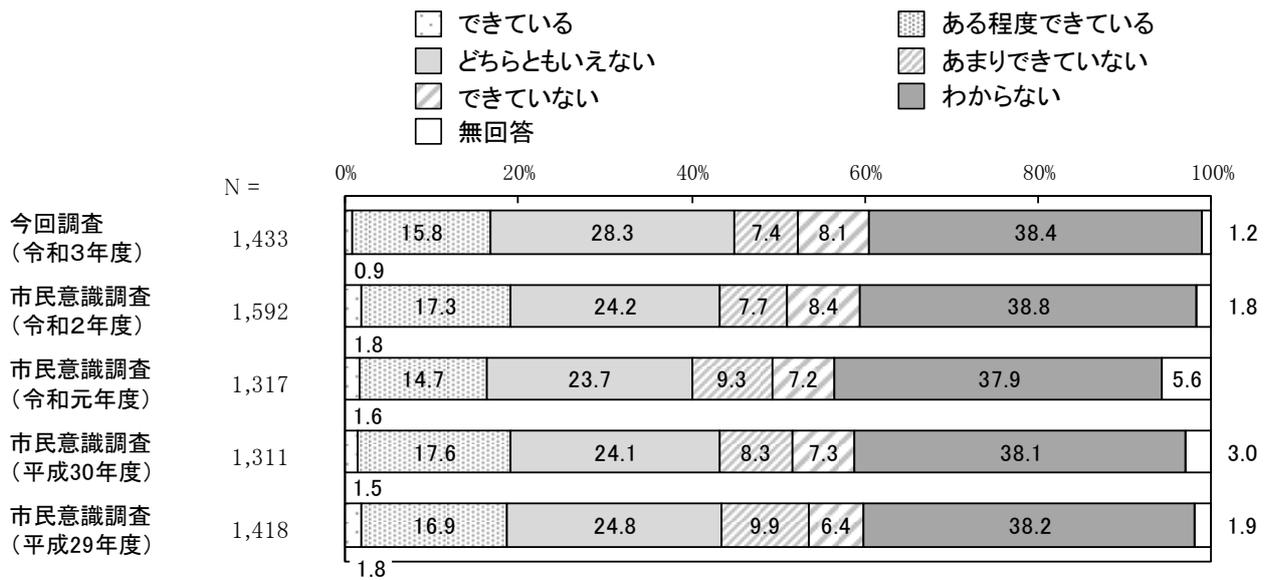


(8) 協働のまちづくりについて

問 44 あなたは、東近江市では市民、企業、行政等が共に考え、力を合わせた協働のまちづくりができていると思いますか。《○1つ》

4割近くが「わからない」

- ・ 協働のまちづくりができていると思うかについては、「わからない」が38.4%と最も多くなっています。次いで、「どちらともいえない」が28.3%、「ある程度できている」が15.8%と続きます。できている（「できている」と「ある程度できている」の合計）の割合は16.7%で、できていない（「あまりできていない」と「できていない」の合計）の割合（15.5%）よりやや高くなっています。
- ・ 性別では、女性より男性で、できていない（前述）と思う人の割合が高くなっています。
- ・ 年代別では、10歳代と50～60歳代で、できていない（前述）と思う人ができている（前述）と思う人より多くなっています。一方、70歳以上はできている（前述）と思う人が2割、10～20歳代は「わからない」が半数以上みられます。
- ・ 居住地区別では、中野地区でできている（前述）と思う人が3割近くみられますが、建部地区、御園地区、平田地区、蒲生地区、能登川地区は、できていない（前述）と思う人ができている（前述）と思う人より多くなっています。



単位：%

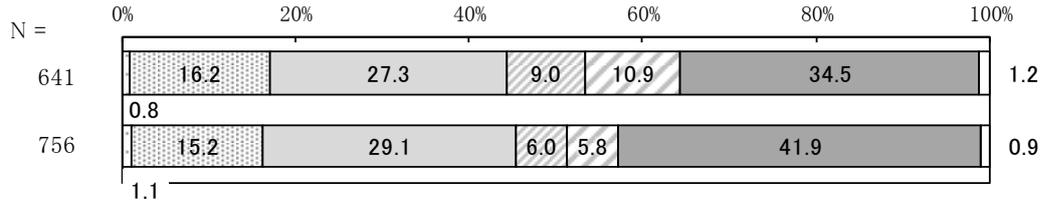
	できている*	できていない*	差
①今回調査(令和3年度)	16.7	15.5	1.2
②市民意識調査(令和2年度)	19.1	16.1	3.0
③市民意識調査(令和元年度)	16.3	16.5	-0.2
④市民意識調査(平成30年度)	19.1	15.6	3.5
⑤市民意識調査(平成29年度)	18.7	16.3	2.4
①-⑤	-2.0	-0.8	-1.2

* できている:「できている」と「ある程度できている」の合計

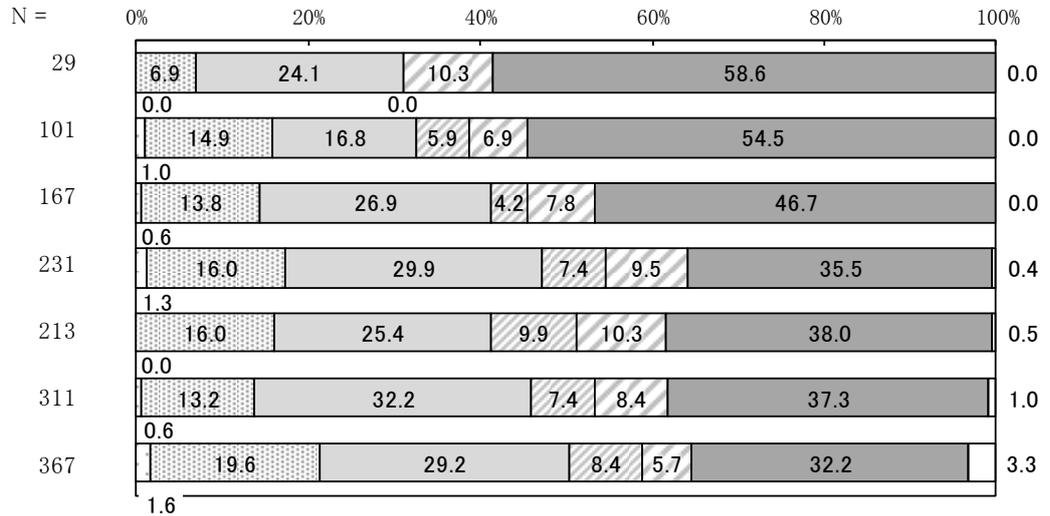
* できていない:「あまりできていない」と「できていない」の合計



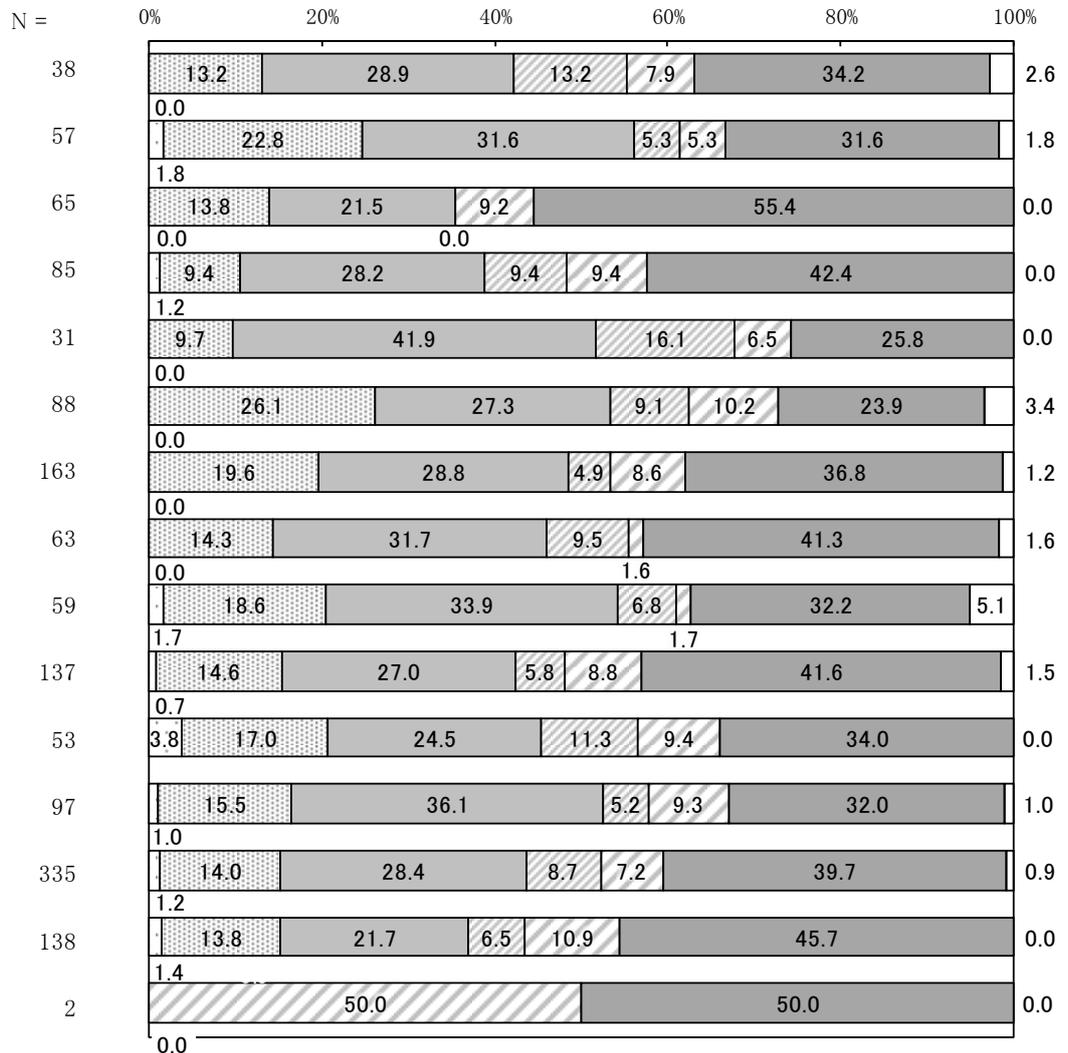
【性別】



【年代別】



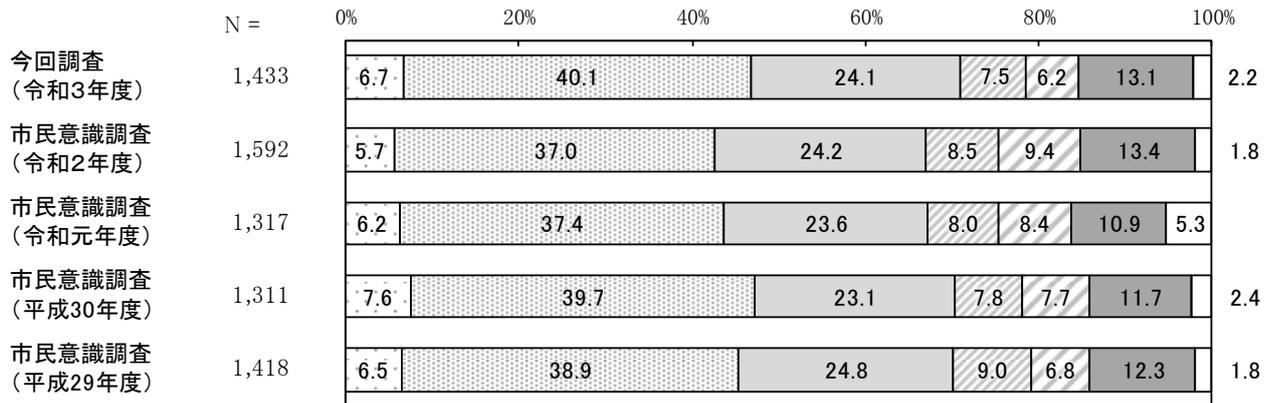
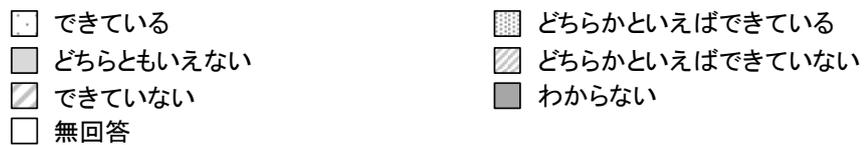
【居住地区別】



問 45 あなたの身近な地域では、住民同士の助け合いができていますか。《○1つ》

半数近くが住民同士の助け合いはできている

- 地域での住民同士の助け合いができていると思うかについては、「どちらかといえばできている」が40.1%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が24.1%、「わからない」が13.1%と続きます。できている（「できている」と「どちらかといえばできている」の合計）の割合が46.8%で、できていない（「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計）の割合（13.7%）より高くなっています。
- 年代別では60歳以上で、居住地区別では愛東地区、永源寺地区、平田地区で、住民同士の助け合いができている（前述）と思う人が多くみられます。一方、居住地区別では八日市地区、平田地区、南部地区で、できていない（前述）と思う人が多くみられます。

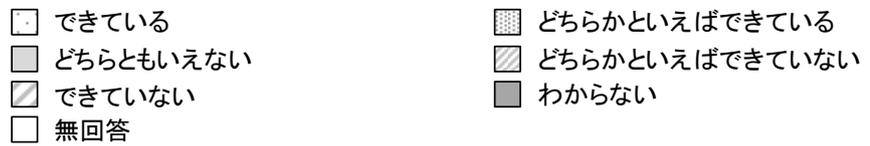


単位：%

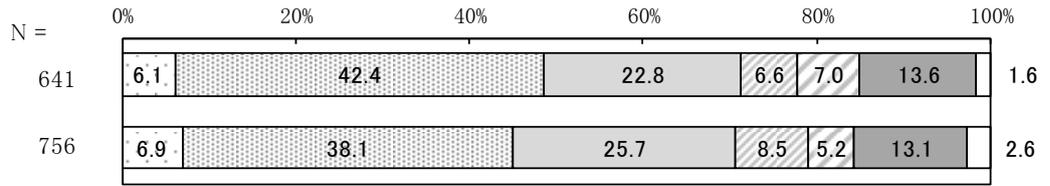
	できている*	できていない*	差
①今回調査(令和3年度)	46.8	13.7	33.1
②市民意識調査(令和2年度)	42.7	17.9	24.8
③市民意識調査(令和元年度)	43.6	16.4	27.2
④市民意識調査(平成30年度)	47.3	15.5	31.8
⑤市民意識調査(平成29年度)	45.4	15.8	29.6
①-⑤	1.4	-2.1	3.5

* できている:「できている」と「どちらかといえばできている」の合計

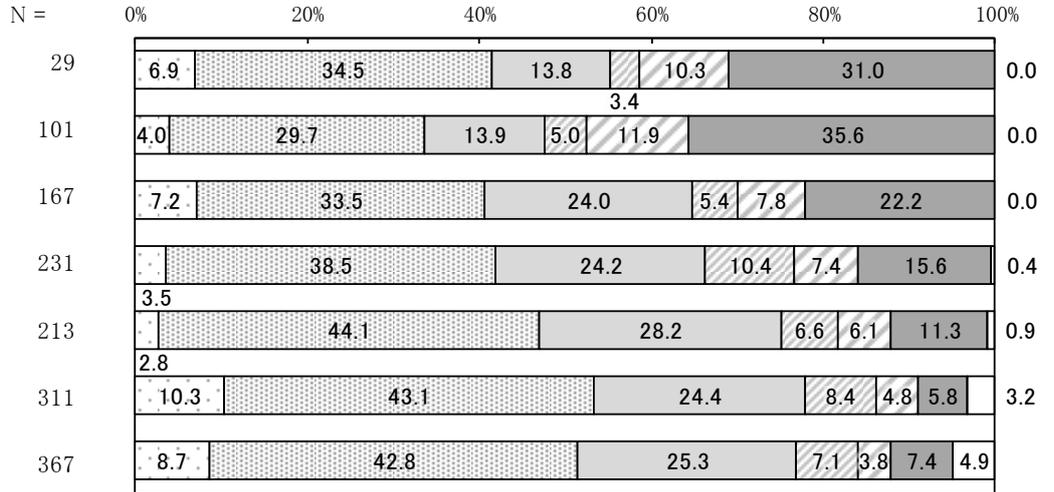
* できていない:「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計



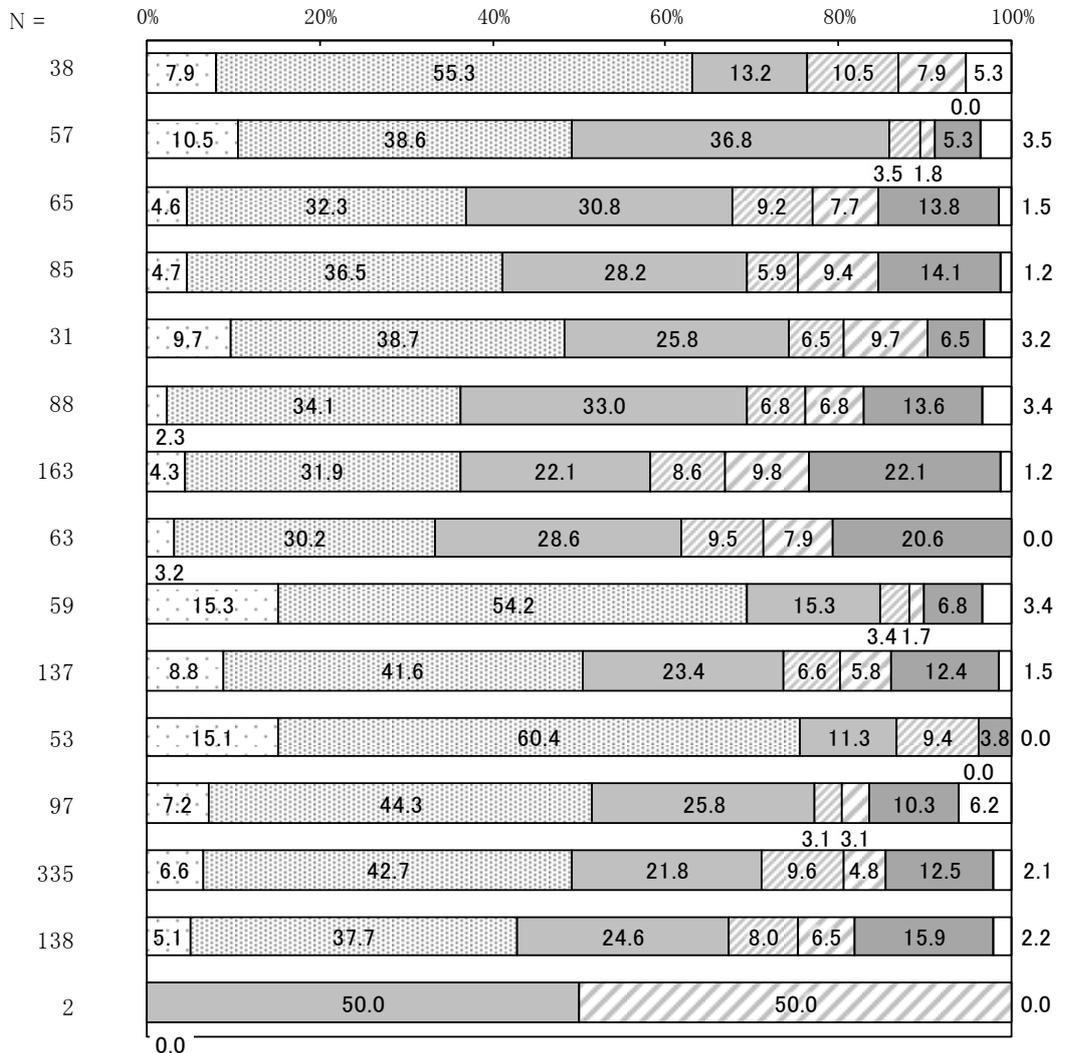
【性別】



【年代別】



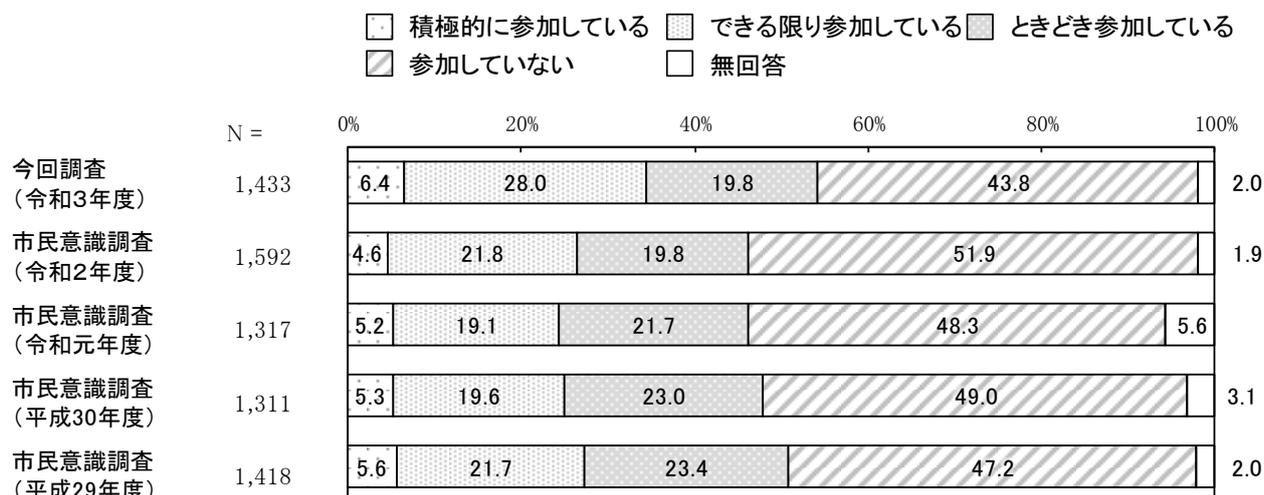
【居住地区別】



問 46 あなたは、自治会やまちづくり協議会等の地域活動又はNPOやボランティア等の活動にどの程度参加していますか。《○1つ》

半数以上が活動に参加している

- ・ 地域活動又はNPOやボランティア等の活動への参加頻度については、参加している人が54.2%と半数以上で、その内訳は、「できる限り参加している」が28.0%、「ときどき参加している」が19.8%、「積極的に参加している」が6.4%となっています。一方、「参加していない」は43.8%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、地域活動又はNPOやボランティア等の活動に参加している人の割合は減少傾向を示していましたが、今年度は増加しました。
- ・ 性別では女性より男性で、年代別では10歳代と70歳以上を除いて年齢が上がるほど、参加している人が多くみられます。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、市辺地区、湖東地区で参加している人が7割前後いる一方、八日市地区では参加していない人が7割近くみられます。



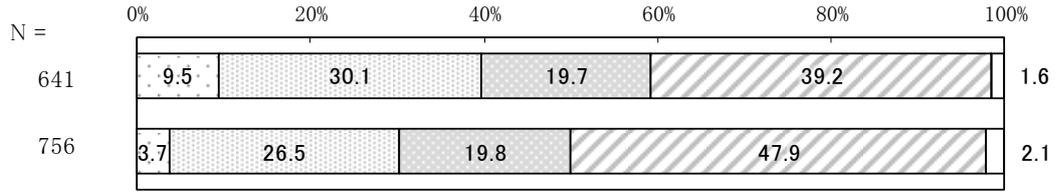
単位：%

	参加している*	参加していない	差
①今回調査(令和3年度)	54.2	43.8	10.4
②市民意識調査(令和2年度)	46.2	51.9	-5.7
③市民意識調査(令和元年度)	46.0	48.3	-2.3
④市民意識調査(平成30年度)	47.9	49.0	-1.1
⑤市民意識調査(平成29年度)	50.7	47.2	3.5
①-⑤	3.5	-3.4	6.9

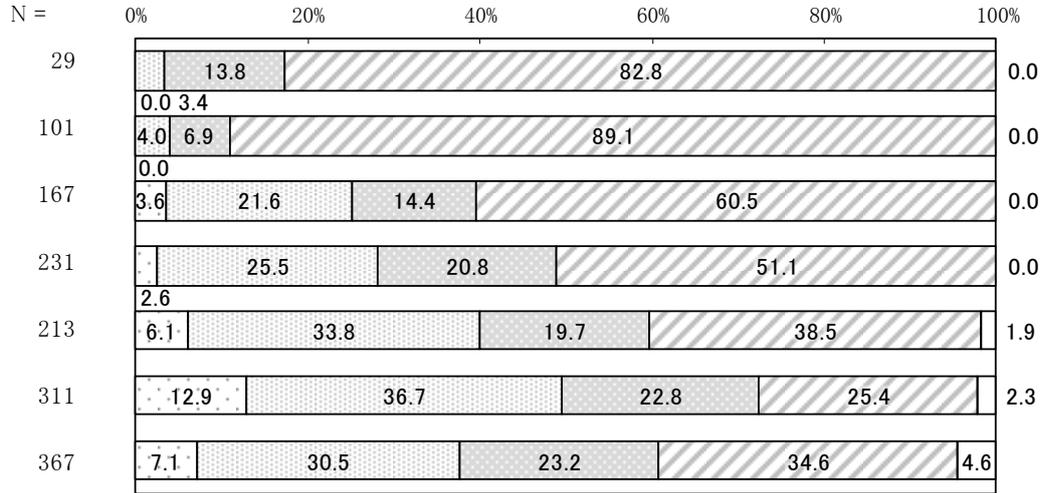
*参加している:「積極的に参加している」と「できる限り参加している」と「ときどき参加している」の合計

積極的に参加している
 できる限り参加している
 ときどき参加している
 参加していない
 無回答

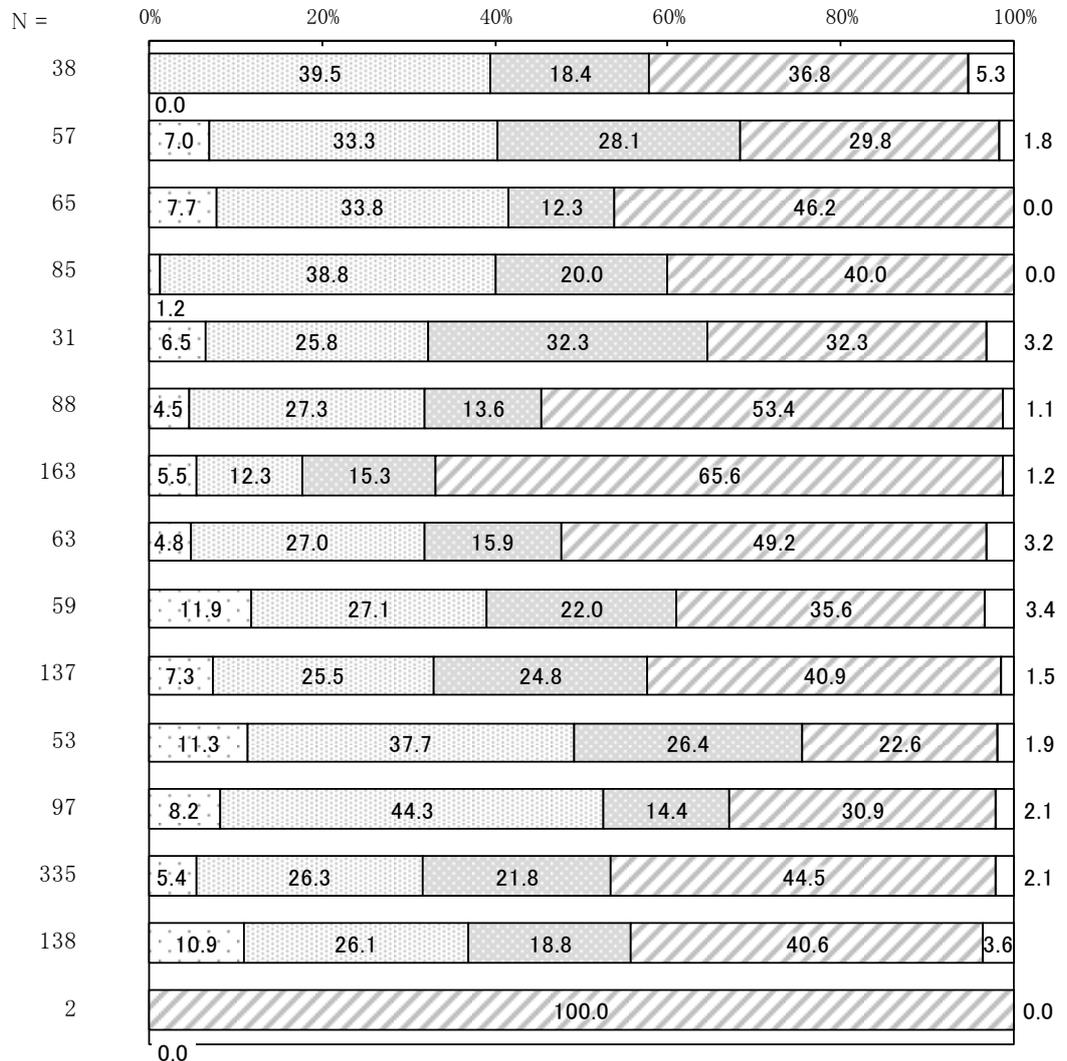
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

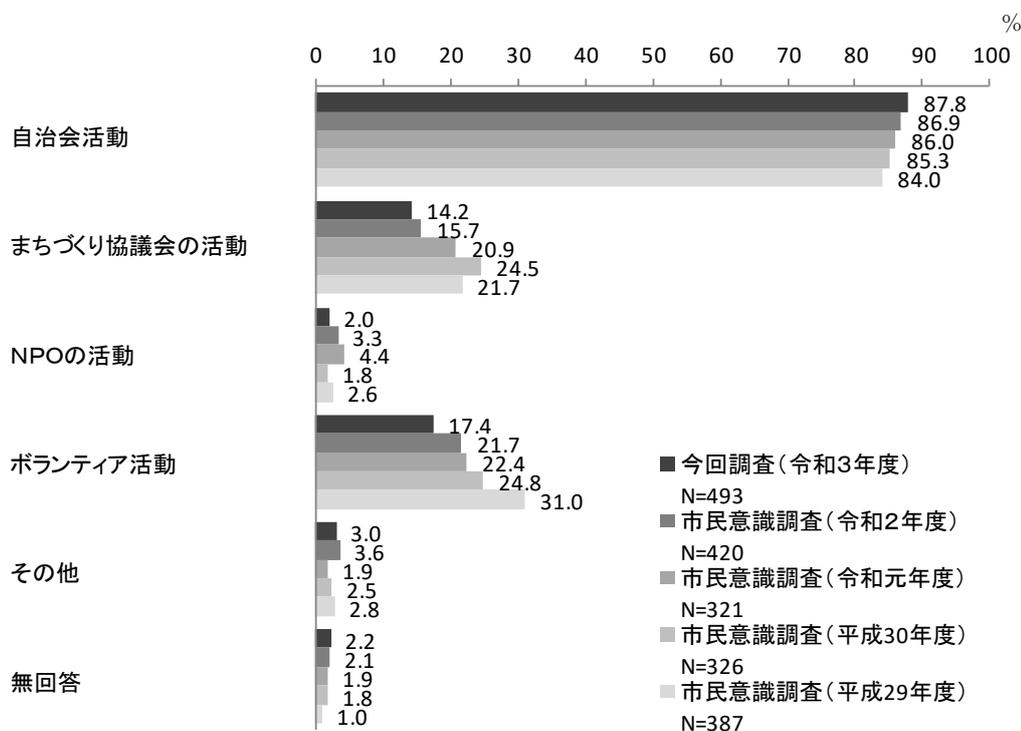


問 46-1 問 46 で「1. 積極的に参加している」「2. できる限り参加している」とお答えの方に
おたずねします。

この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

9割近くが「自治会活動」に参加、ボランティア活動への参加も2割近く

- ・ この1年間にどのような活動に参加したかについては、「自治会活動」が87.8%と最も多く、次いで「ボランティア活動」が17.4%、「まちづくり協議会の活動」が14.2%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、「ボランティア活動」の割合が年々減少する一方で、「自治会活動」の割合が年々増加しています。また、平成30年度以降「まちづくり協議会の活動」の割合も減少しています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも「自治会活動」が最も多くあげられています。
- ・ 性別では、女性が「ボランティア活動」を男性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、60歳以上で「まちづくり協議会の活動」や「ボランティア活動」がほかの年代より多くみられます。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数 (件)	自治会活動	動まちづくり協議会の活	NPOの活動	ボランティア活動	その他	無回答
男性	254	91.7	13.8	2.0	15.0	2.0	1.6
女性	228	85.1	14.5	2.2	20.2	4.4	1.8

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数 (件)	自治会活動	動まちづくり協議会の活	NPOの活動	ボランティア活動	その他	無回答
10歳代	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
20歳代	4	75.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
30歳代	42	95.2	2.4	2.4	7.1	2.4	0.0
40歳代	65	90.8	7.7	1.5	7.7	4.6	0.0
50歳代	85	95.3	10.6	3.5	10.6	1.2	1.2
60歳代	154	87.7	18.2	1.9	23.4	3.9	1.9
70歳以上	138	80.4	18.8	1.4	23.2	2.2	5.1

【居住地区別】

単位:%

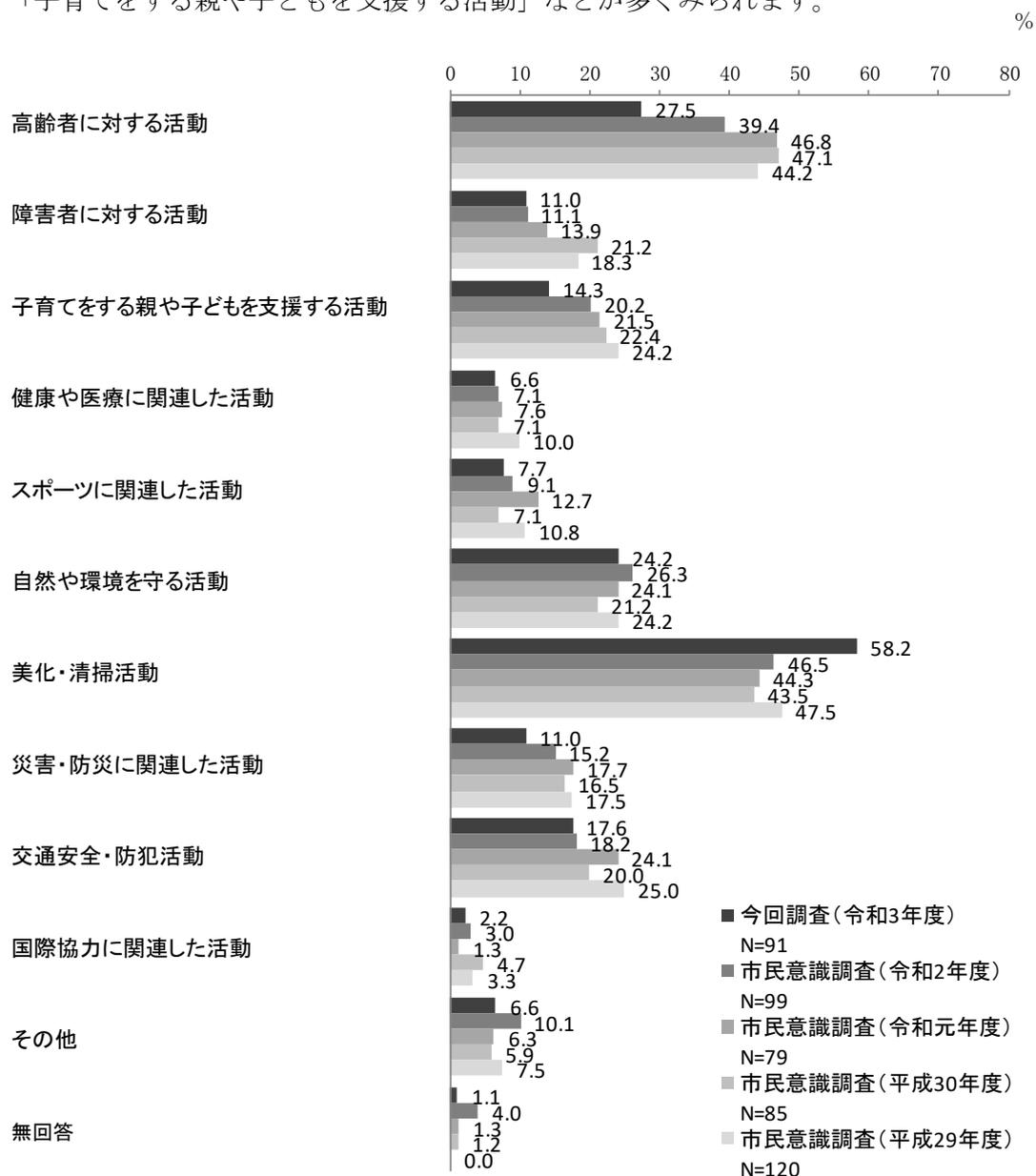
区分	有効回答数 (件)	自治会活動	動まちづくり協議会の活	NPOの活動	ボランティア活動	その他	無回答
平田地区	15	93.3	6.7	0.0	13.3	0.0	0.0
市辺地区	23	87.0	17.4	0.0	17.4	13.0	4.3
玉緒地区	27	85.2	14.8	0.0	22.2	3.7	0.0
御園地区	34	100.0	14.7	0.0	8.8	8.8	0.0
建部地区	10	90.0	30.0	0.0	20.0	10.0	0.0
中野地区	28	75.0	17.9	7.1	17.9	3.6	0.0
八日市地区	29	89.7	27.6	3.4	10.3	3.4	3.4
南部地区	20	75.0	10.0	10.0	20.0	0.0	10.0
永源寺地区	23	82.6	17.4	0.0	17.4	4.3	4.3
五個荘地区	45	93.3	26.7	2.2	22.2	0.0	2.2
愛東地区	26	88.5	19.2	0.0	15.4	3.8	0.0
湖東地区	51	84.3	11.8	2.0	23.5	0.0	3.9
能登川地区	106	86.8	4.7	1.9	13.2	2.8	2.8
蒲生地区	51	94.1	11.8	2.0	23.5	0.0	0.0
わからない	0	-	-	-	-	-	-

問 46-2 問 46-1 で「3. NPOの活動」「4. ボランティア活動」とお答えの方におたずねします。

この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

「美化・清掃活動」が6割近く、「高齢者に対する活動」も3割近く

- ・ どのような活動に参加したかについては、「美化・清掃活動」が58.2%と最も多く、次いで「高齢者に対する活動」が27.5%と3割近くの方があげています。そのほか、「自然や環境を守る活動」が24.2%と2割以上の方があげています。
- ・ 条件が同じである平成30年度以降の調査と比較すると、特に「美化・清掃活動」の割合が大きく増加する一方で、「高齢者に対する活動」や「障害者に対する活動」などの割合が減少しています。令和2年度以降は、新型コロナウイルスの感染拡大により、人と接する活動を中心に活動の機会自体が減少したことなども影響していると考えられます。
- ・ 性別では、男女ともに「美化・清掃活動」が最も多くなっていますが、男性は女性より「自然や環境を守る活動」、「スポーツに関連した活動」などが、女性は男性より「高齢者に対する活動」、「子育てをする親や子どもを支援する活動」などが多くみられます。



※平成29年度は、「ボランティア活動」に参加している人のみが回答

【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	高齢者に対する活動	障害者に対する活動	子育てをする親や子どもを支援する活動	健康や医療に関連した活動	スポーツに関連した活動	自然や環境を守る活動	美化・清掃活動	活動・防災に関連した活動	交通安全・防犯活動	国際協力に関連した活動	その他	無回答
男性	41	19.5	7.3	7.3	9.8	17.1	39.0	58.5	12.2	22.0	2.4	4.9	0.0
女性	48	33.3	14.6	20.8	4.2	0.0	12.5	56.3	10.4	14.6	2.1	8.3	2.1

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	高齢者に対する活動	障害者に対する活動	子育てをする親や子どもを支援する活動	健康や医療に関連した活動	スポーツに関連した活動	自然や環境を守る活動	美化・清掃活動	活動・防災に関連した活動	交通安全・防犯活動	国際協力に関連した活動	その他	無回答
10歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	4	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	6	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	16.7	50.0	16.7	33.3	0.0	16.7	0.0
50歳代	9	0.0	33.3	33.3	0.0	11.1	33.3	44.4	11.1	22.2	0.0	11.1	0.0
60歳代	38	34.2	5.3	10.5	7.9	5.3	23.7	44.7	10.5	15.8	5.3	2.6	2.6
70歳以上	33	36.4	12.1	9.1	9.1	9.1	21.2	84.8	9.1	18.2	0.0	9.1	0.0

【居住地区別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	高齢者に対する活動	障害者に対する活動	子育てをする親や子どもを支援する活動	健康や医療に関連した活動	スポーツに関連した活動	自然や環境を守る活動	美化・清掃活動	活動・防災に関連した活動	交通安全・防犯活動	国際協力に関連した活動	その他	無回答
平田地区	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
市辺地区	4	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
玉緒地区	6	33.3	0.0	16.7	33.3	0.0	33.3	83.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
御園地区	3	33.3	0.0	66.7	33.3	33.3	33.3	66.7	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
建部地区	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中野地区	6	33.3	33.3	50.0	33.3	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
八日市地区	3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	66.7	100.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0
南部地区	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
永源寺地区	4	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
五個荘地区	10	30.0	10.0	20.0	0.0	20.0	30.0	60.0	10.0	30.0	0.0	0.0	0.0
愛東地区	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	100.0	100.0	25.0	0.0	0.0	0.0
湖東地区	13	38.5	23.1	15.4	0.0	7.7	7.7	53.8	7.7	23.1	0.0	7.7	0.0
能登川地区	15	26.7	6.7	0.0	0.0	0.0	26.7	53.3	6.7	26.7	0.0	0.0	6.7
蒲生地区	13	38.5	7.7	0.0	7.7	7.7	15.4	46.2	7.7	7.7	0.0	15.4	0.0
わからない	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

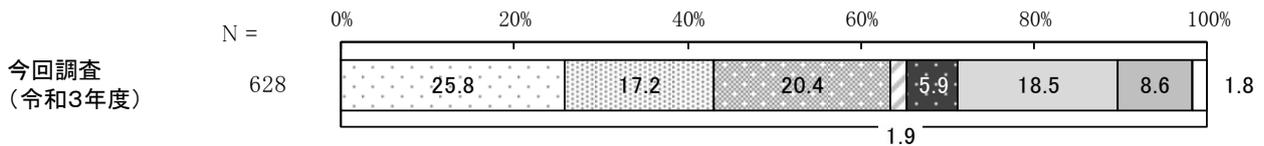
問 46-3 問 46 で「4. 参加していない」とお答えの方におたずねします。

参加していない理由をお聞かせください。《○1つ》

時間がない、内容がわからない、関心がないなど

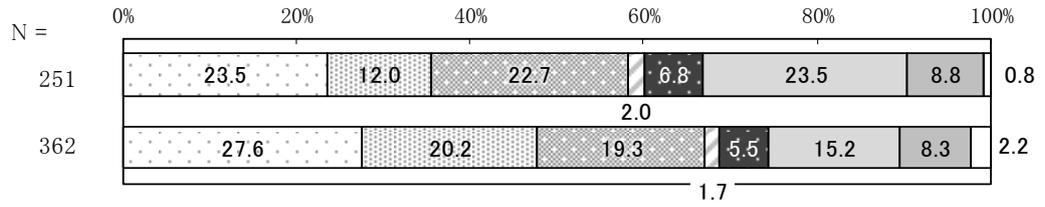
- ・ 地域活動又はNPOやボランティア等の活動に「参加していない」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「仕事や育児、家族の介護等のため忙しく時間に余裕がないから」が25.8%で最も多く、次いで「活動の情報が少なく、活動内容がわからないから」が20.4%、「関心がないから」が18.5%、「年齢・身体・健康上の理由から」が17.2%と続きます。
- ・ 「活動の情報が少なく、活動内容がわからないから」が2番目に多くあげられており、興味・関心がありながら参加していない（できていない）層に対して、わかりやすい情報発信・広報等が必要であると考えられます。
- ・ 性別では、男女ともに「仕事や育児、家族の介護等のため忙しく時間に余裕がないから」が最も多くあげられていますが、男性は「関心がないから」も同様に最も多くあげられています。女性は、「年齢・身体・健康上の理由から」も男性より多くみられます。
- ・ 年代別では、10歳代は「関心がないから」、20～60歳代は「仕事や育児、家族の介護等のため忙しく時間に余裕がないから」、70歳以上は「年齢・身体・健康上の理由から」が最も多くなっています。

- 仕事や育児、家族の介護等のため忙しく時間に余裕がないから
- 年齢・身体・健康上の理由から
- 活動の情報が少なく、活動内容がわからないから
- 既存の仕組み等に不満があるから
- 面倒だから
- 関心がないから
- その他
- 無回答

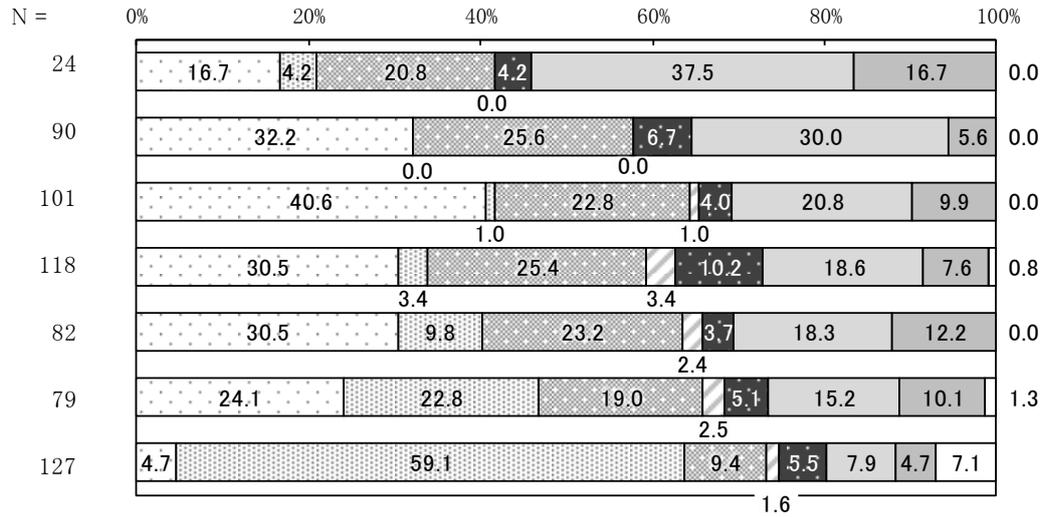


- 仕事や育児、家族の介護等のため忙しく時間に余裕がないから
- 年齢・身体・健康上の理由から
- 活動の情報が少なく、活動内容がわからないから
- 既存の仕組み等に不満があるから
- 面倒だから
- 関心がないから
- その他
- 無回答

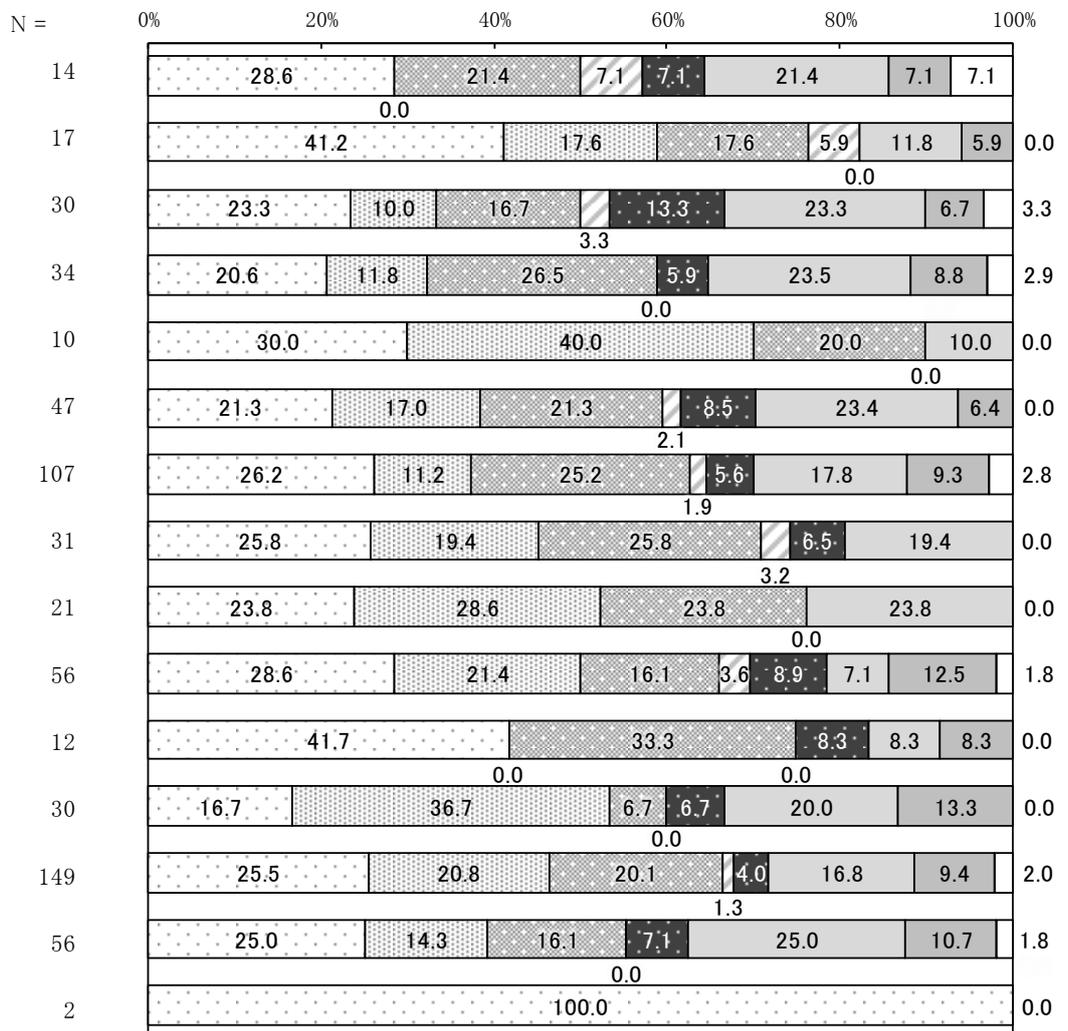
【性別】



【年代別】



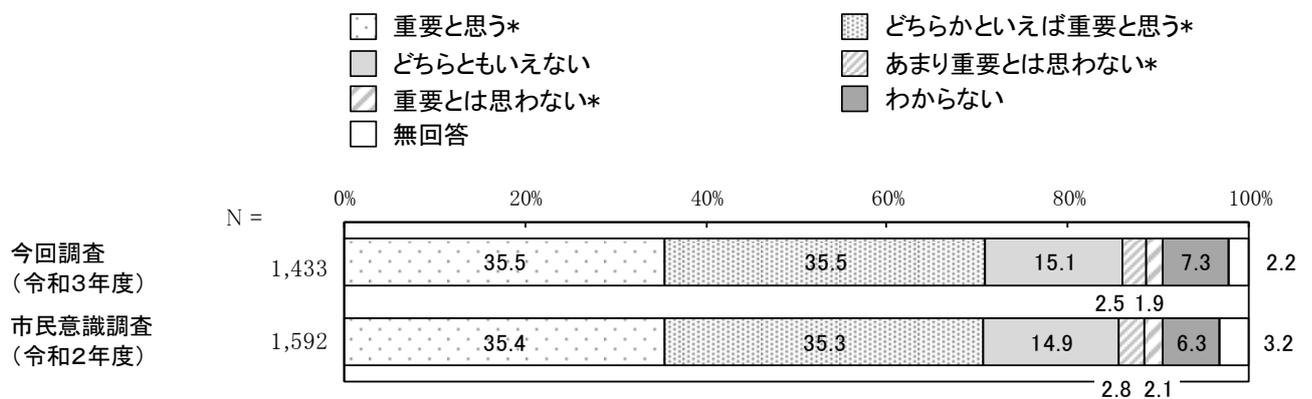
【居住地区別】



問 47 あなたは、国籍や民族の異なる人々が互いに認め合い、共に暮らす社会の実現についてどう思いますか。《○1つ》

7割が重要だと思っている

- ・ 国籍や民族の異なる人々が互いに認め合い、共に暮らす社会の実現については、「重要と思う」と「どちらかといえば重要と思う」が35.5%で最も多く、これらを合わせると71.0%となり、7割の人が重要だと思っています。
- ・ 年代別では、年齢が若いほど「重要と思う」と回答した人の割合が高くなる傾向があり、10歳代で6割近くとなっており、若い世代で認識が高いことがわかります。
- ・ 居住地区別では、玉緒地区、建部地区、中野地区で重要と思う（「重要と思う」と「どちらかといえば重要と思う」の合計）の割合が8割近くとなっています。



* 令和2年度は、「重要だと思う」、「どちらかといえば重要だと思う」、「あまり重要だとは思わない」、「重要だとは思わない」

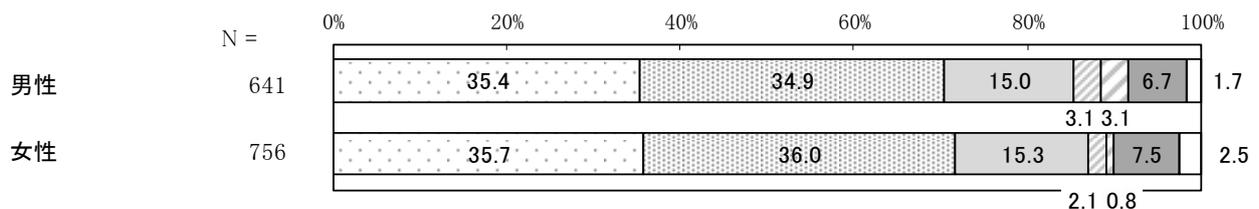
単位：%

	重要と思う*	重要とは思わない*	差
①今回調査(令和3年度)	71.0	4.4	66.6
②市民意識調査(令和2年度)	70.7	4.9	65.8
①-②	0.3	-0.5	0.8

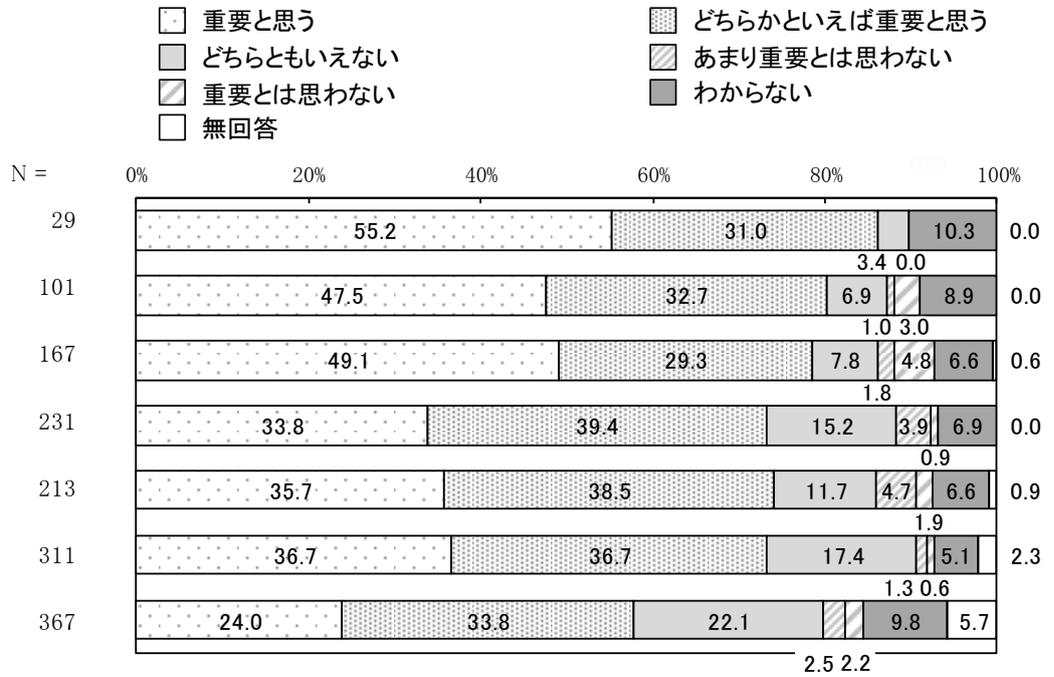
* 重要と思う:「重要と思う」と「どちらかといえば重要と思う」の合計

* 重要とは思わない:「あまり重要とは思わない」と「重要とは思わない」の合計

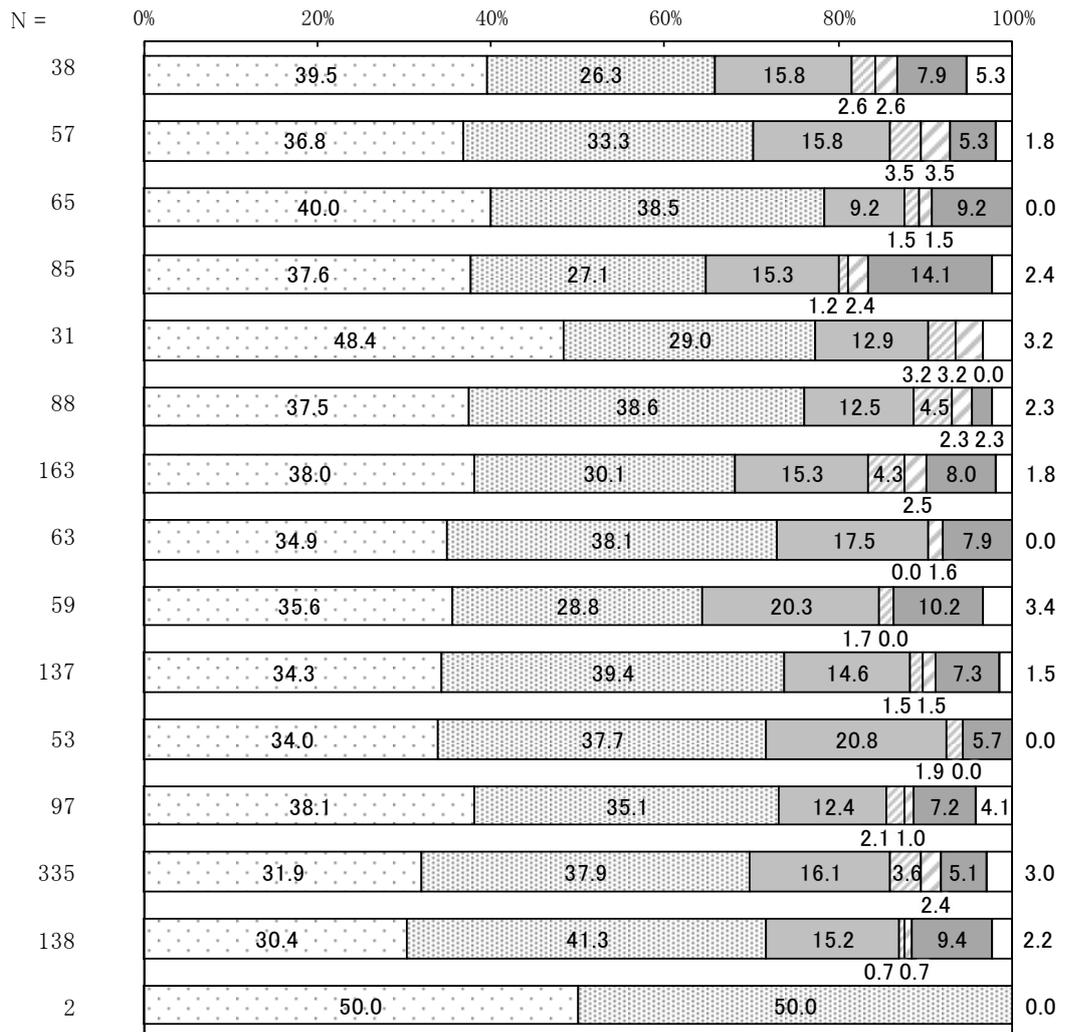
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

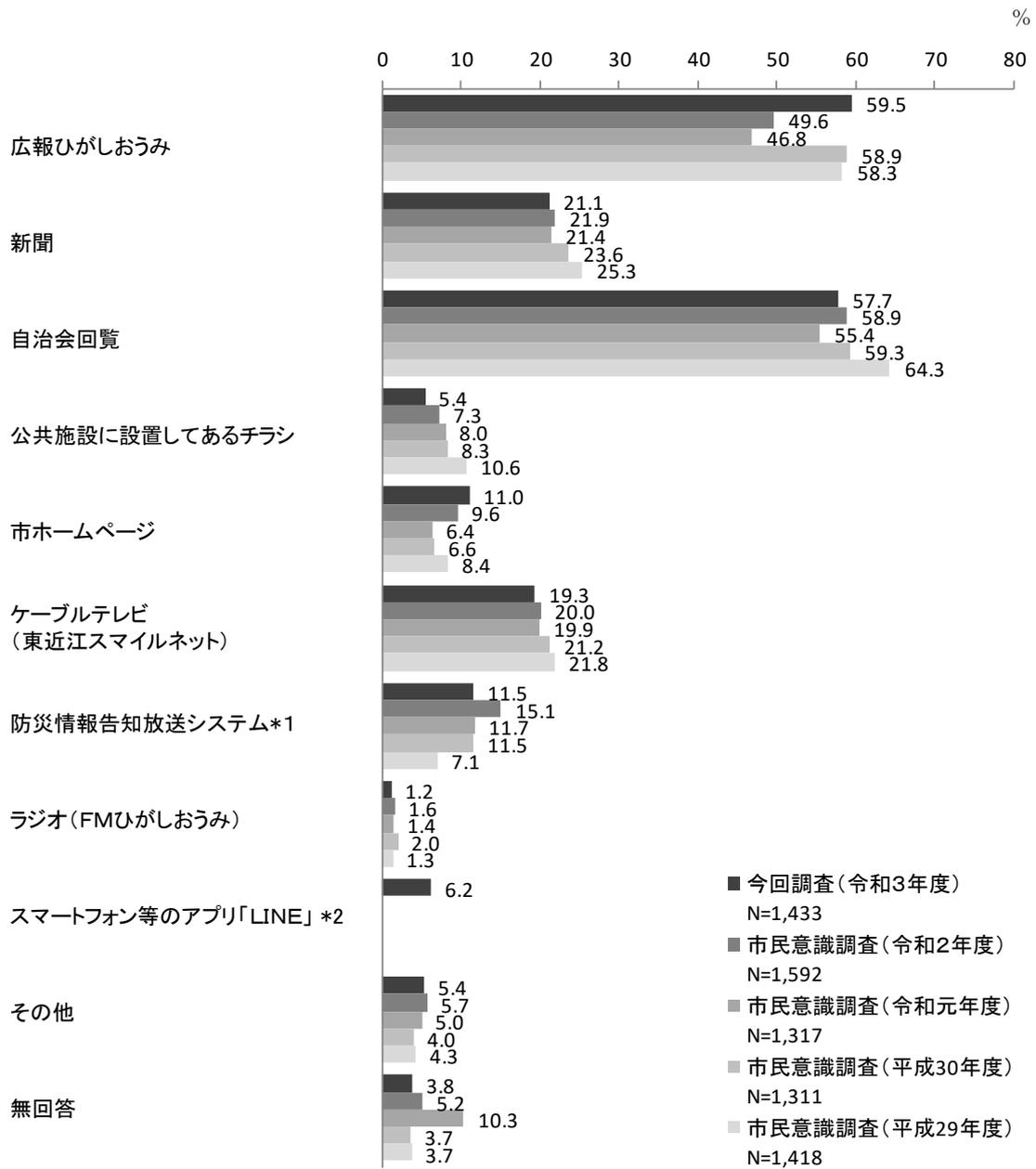


(9) 広報等の情報について

問 48 あなたは、市の情報（お知らせ）は主にどのような方法で取得していますか。《○3つまで》

6割近くが「広報ひがしおうみ」や「自治会回覧」で市の情報を取得

- ・ 市の情報（お知らせ）の主な取得方法については、「広報ひがしおうみ」が59.5%と最も多く、次いで「自治会回覧」が57.7%、「新聞」が21.1%、「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」が19.3%と続きます。
- ・ 過去の調査と比較すると、令和元年度以降、「広報ひがしおうみ」と「市ホームページ」の割合が増加しています。
- ・ 性別では、男性は「自治会回覧」が、女性は「広報ひがしおうみ」が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、20歳代と40～60歳代は「広報ひがしおうみ」が、70歳以上は「自治会回覧」が、30歳代は両者が最も多くあげられています。「市ホームページ」は50歳代までで、「新聞」、「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」、「防災情報告知放送システム」は50歳以上でほかの年代より多くみられます。
- ・ 居住地区別では、能登川地区、市辺地区、蒲生地区、玉緒地区、御園地区、南部地区は「自治会回覧」が、そのほかの地区では「広報ひがしおうみ」が最も多くあげられています（南部地区では、「広報ひがしおうみ」も同様に最も多くあげられています。）。そのほかに、建部地区で「新聞」が、愛東地区、永源寺地区、湖東地区で「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」が、ほかの地区より多くみられます。



*1 令和2年度まで「音声告知端末」

*2 今回調査で「スマートフォン等のアプリ「LINE」」を追加

【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	ケーブルテレビ(東近江スマートネット)	防災情報告知放送システム	うみ(ラジオFMひがしおうみ)	スマートフォン等のアプリ(LINE)	その他	無回答
男性	641	55.7	23.1	57.4	4.8	11.2	18.1	9.0	1.6	5.1	5.3	4.1
女性	756	63.0	19.0	58.3	6.2	10.8	20.2	13.9	0.8	6.9	5.6	3.6

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	ケーブルテレビ(東近江スマートネット)	防災情報告知放送システム	うみ(ラジオFMひがしおうみ)	スマートフォン等のアプリ(LINE)	その他	無回答
10歳代	29	24.1	24.1	24.1	3.4	17.2	24.1	3.4	0.0	10.3	13.8	3.4
20歳代	101	22.8	8.9	15.8	12.9	15.8	8.9	7.9	3.0	13.9	14.9	4.0
30歳代	167	42.5	9.0	42.5	11.4	20.4	10.8	7.8	1.2	9.6	8.4	3.6
40歳代	231	59.3	14.3	49.4	4.8	17.7	10.4	9.1	0.4	6.1	6.1	3.5
50歳代	213	63.4	21.1	58.7	3.8	15.0	16.9	14.6	2.8	5.6	4.2	1.9
60歳代	311	69.8	22.2	69.1	3.5	6.4	21.9	16.7	0.6	4.8	3.2	4.5
70歳以上	367	69.8	33.5	74.4	4.1	1.6	31.1	10.4	0.8	3.5	2.7	4.9

【居住地区別】

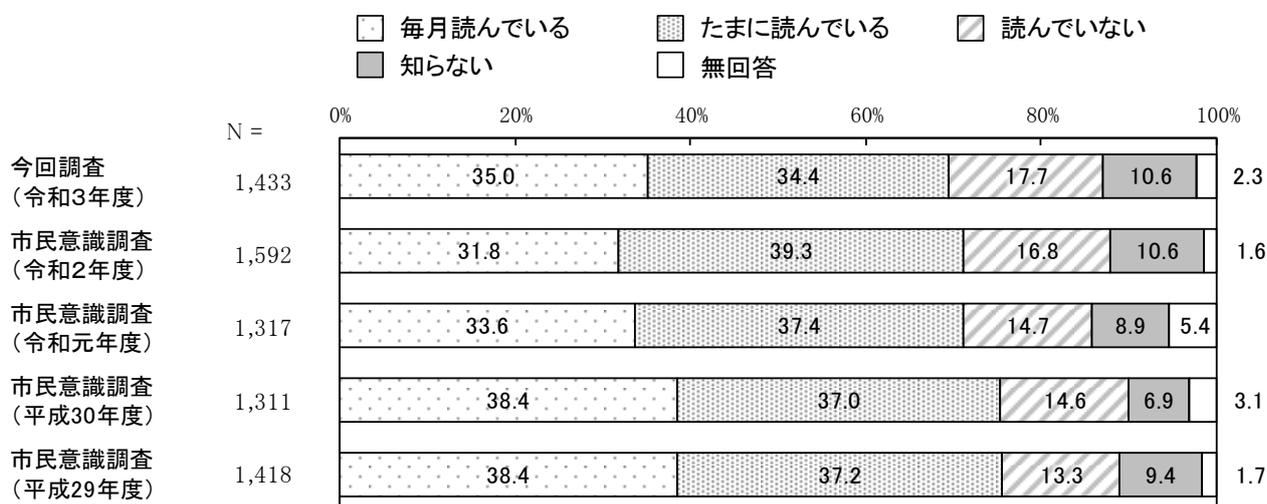
単位:%

区分	有効回答数(件)	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	ケーブルテレビ(東近江スマートネット)	防災情報告知放送システム	うみ(ラジオFMひがしおうみ)	スマートフォン等のアプリ(LINE)	その他	無回答
平田地区	38	71.1	23.7	60.5	5.3	5.3	34.2	10.5	0.0	2.6	7.9	7.9
市辺地区	57	57.9	28.1	64.9	1.8	10.5	15.8	12.3	0.0	7.0	3.5	1.8
玉緒地区	65	50.8	27.7	58.5	6.2	9.2	15.4	12.3	6.2	6.2	9.2	0.0
御園地区	85	57.6	24.7	57.6	9.4	14.1	23.5	15.3	2.4	3.5	3.5	0.0
建部地区	31	64.5	32.3	61.3	3.2	6.5	12.9	16.1	0.0	9.7	0.0	12.9
中野地区	88	59.1	19.3	56.8	2.3	12.5	15.9	5.7	0.0	3.4	5.7	2.3
八日市地区	163	46.0	19.6	39.3	9.8	18.4	9.8	10.4	1.8	9.2	9.8	4.9
南部地区	63	55.6	27.0	55.6	3.2	7.9	9.5	12.7	0.0	7.9	6.3	6.3
永源寺地区	59	61.0	22.0	45.8	3.4	3.4	42.4	6.8	5.1	5.1	3.4	8.5
五個荘地区	137	65.0	20.4	62.8	4.4	10.2	15.3	18.2	1.5	1.5	6.6	3.6
愛東地区	53	71.7	13.2	41.5	3.8	7.5	47.2	17.0	1.9	7.5	3.8	0.0
湖東地区	97	75.3	20.6	62.9	2.1	10.3	39.2	4.1	0.0	4.1	4.1	3.1
能登川地区	335	61.5	20.6	66.6	7.5	12.5	16.7	12.2	0.0	6.6	4.5	4.2
蒲生地区	138	56.5	15.9	62.3	3.6	5.1	11.6	10.1	1.4	8.0	2.2	4.3
わからない	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

問 49 あなたは、市の広報紙「広報ひがしおうみ」を読んでいますか。《○1つ》

7割近くが広報紙を読んでおり、4割近くは「毎月読んでいる」

- ・ 「広報ひがしおうみ」については、「毎月読んでいる」が35.0%と最も多く、次の「たまに読んでいる」の34.4%と合わせると69.4%となり、7割近くの人が読んでいると回答しています。一方、「読んでいない」が17.7%、「知らない」が10.6%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、今年度は「毎月読んでいる」人の割合がやや増加しましたが、広報紙を読んでいる人（「毎月読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計）の割合が減少し、読んでいない又は知らない人の割合が増加傾向にあります。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では10歳代を除いて年齢が上がるほど、広報紙を「毎月読んでいる」人の割合が高く、60歳以上は最も多い回答となっています。一方、30歳代までは「読んでいない」又は「知らない」人が読んでいる人（前述）より多くみられます。
- ・ 居住地区別では、湖東地区、愛東地区、平田地区、南部地区で広報紙を読んでいる人（前述）が8割前後みられる一方、八日市地区で「読んでいない」又は「知らない」人が多くみられます。



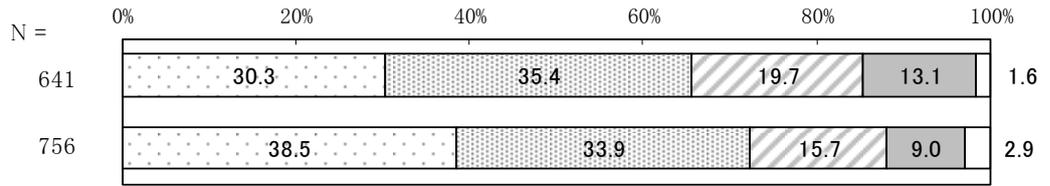
単位：%

	読んでいる*	読んでいない・知らない	差
①今回調査(令和3年度)	69.4	28.3	41.1
②市民意識調査(令和2年度)	71.1	27.4	43.7
③市民意識調査(令和元年度)	71.0	23.6	47.4
④市民意識調査(平成30年度)	75.4	21.5	53.9
⑤市民意識調査(平成29年度)	75.6	22.7	52.9
①-⑤	-6.2	5.6	-11.8

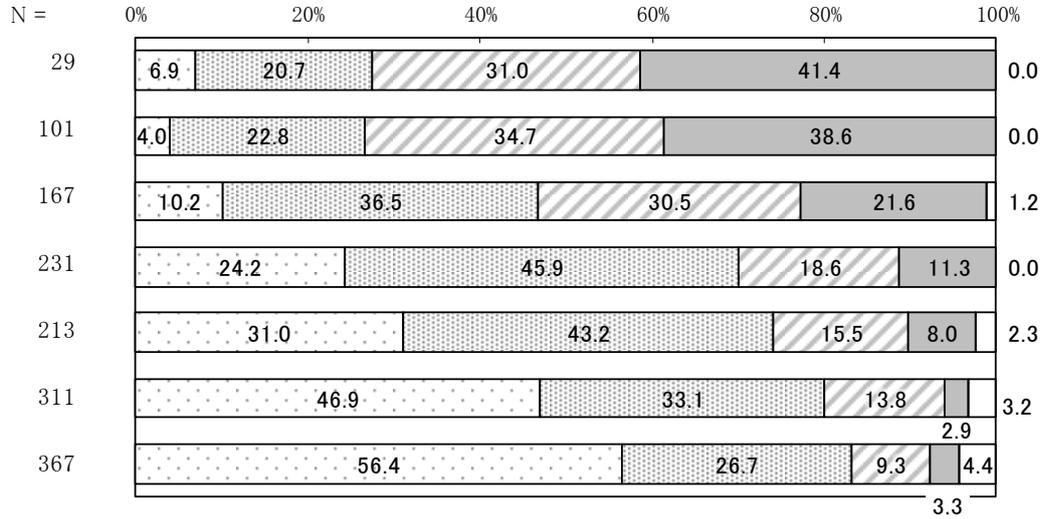
* 読んでいる:「毎月読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計

毎月読んでいる たまに読んでいる 読んでいない
 知らない 無回答

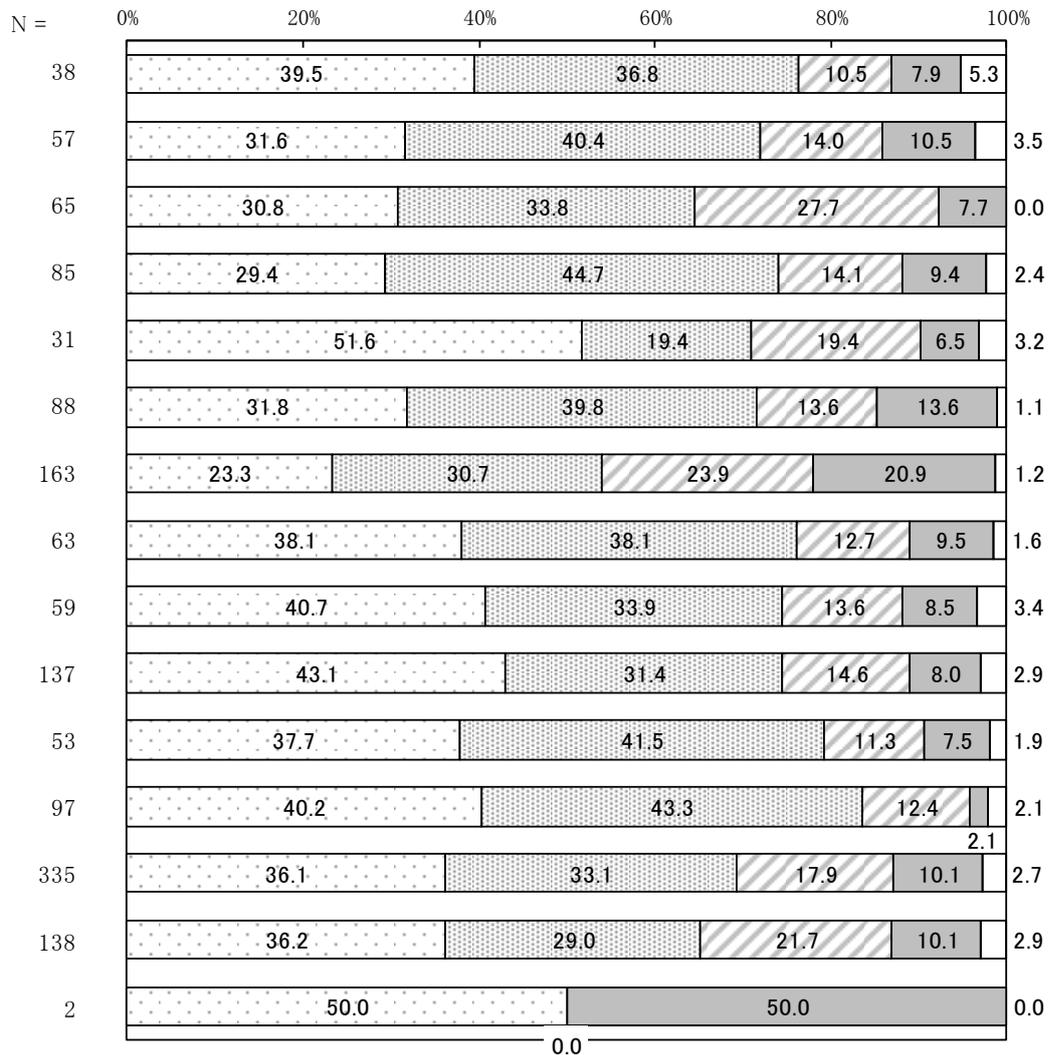
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

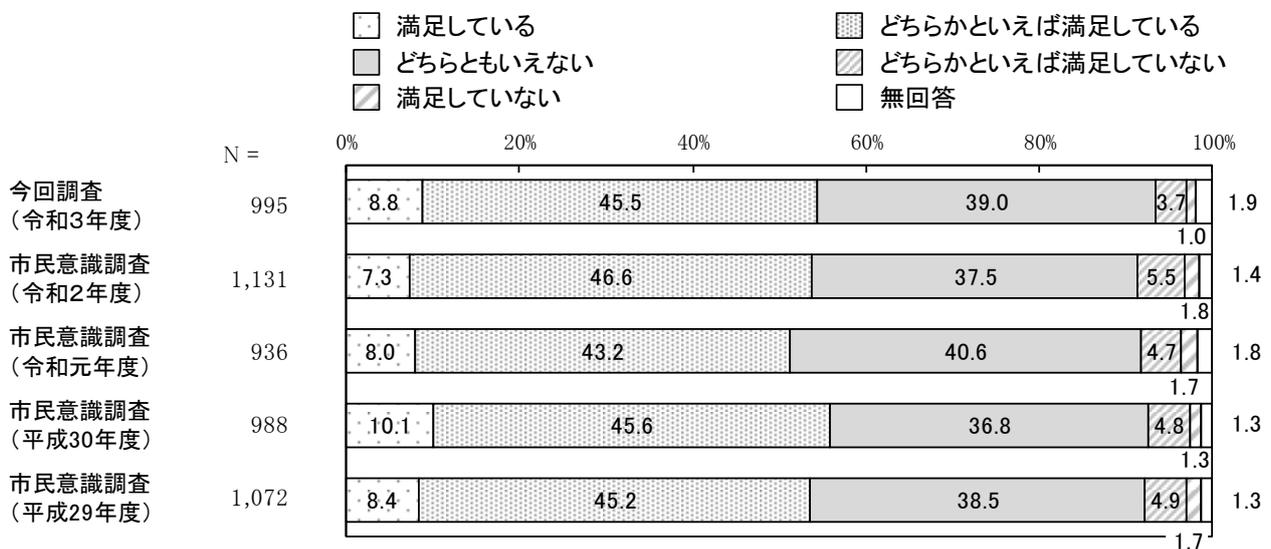


問 49-1 問 49 で「1. 毎月読んでいる」「2. たまに読んでいる」とお答えの方におたずねします。

あなたは、「広報ひがしおうみ」の内容について満足していますか。《○1つ》

半数が満足、4割近くが「どちらともいえない」

- 「広報ひがしおうみ」の満足度について広報紙を読んでいる人に聞いたところ、「どちらかといえれば満足している」が 45.5%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 39.0%と続きます。満足している（「満足している」と「どちらかといえれば満足している」の合計）が 54.3%に対し、満足していない（「どちらかといえれば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合は 4.7%となっています。
- 性別では男性より女性で、年代別では 40 歳代と 60 歳以上で、居住地区別では建部地区、五個荘地区、平田地区、玉緒地区、御園地区で、満足している人（前述）の割合が高くなっています。



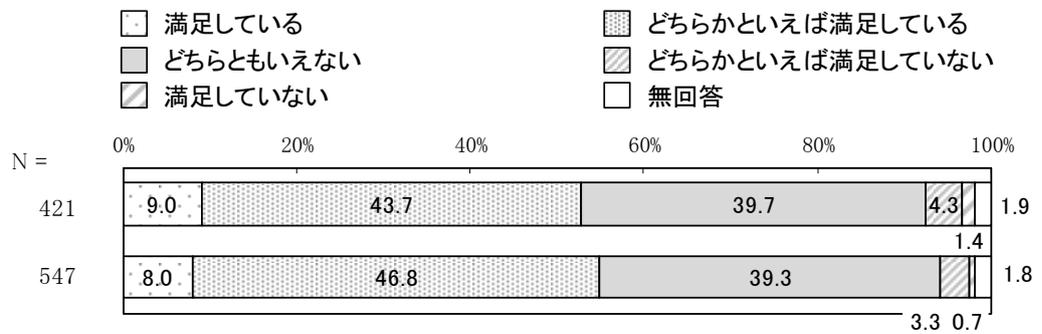
単位：%

	満足*	不満*	差
①今回調査(令和3年度)	54.3	4.7	49.6
②市民意識調査(令和2年度)	53.9	7.3	46.6
③市民意識調査(令和元年度)	51.2	6.4	44.8
④市民意識調査(平成30年度)	55.7	6.1	49.6
⑤市民意識調査(平成29年度)	53.6	6.6	47.0
①-⑤	0.7	-1.9	2.6

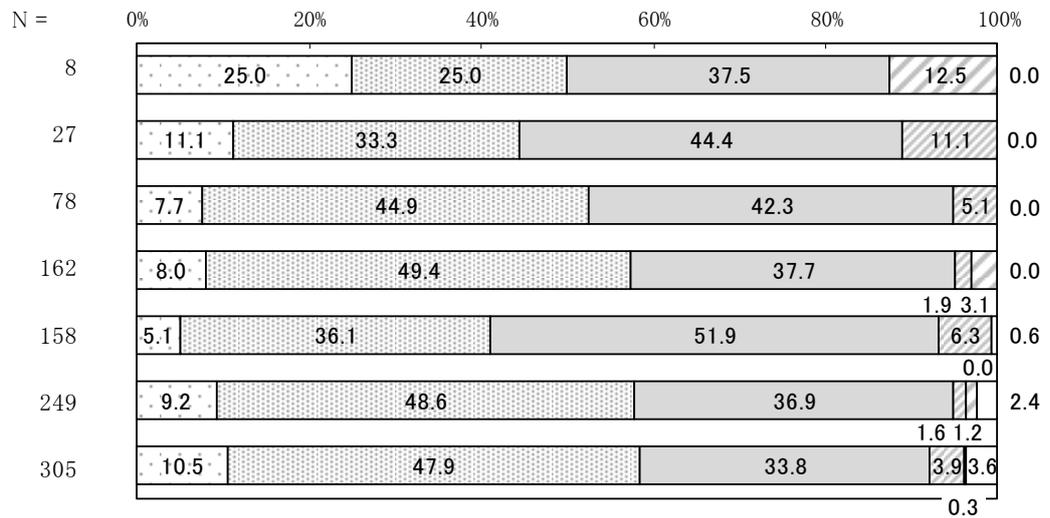
* 満足:「満足している」と「どちらかといえれば満足している」の合計

* 不満:「どちらかといえれば満足していない」と「満足していない」の合計

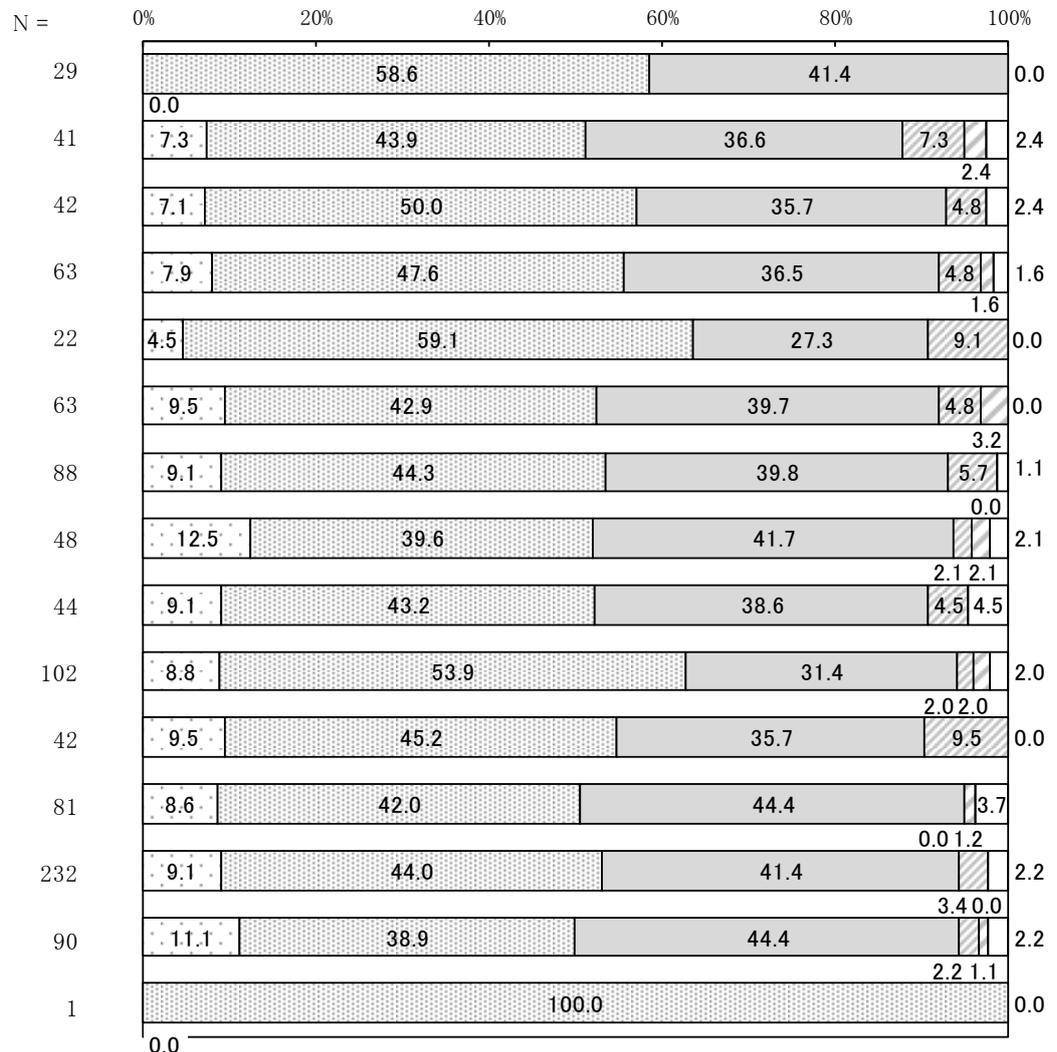
【性別】



【年代別】



【居住地区別】



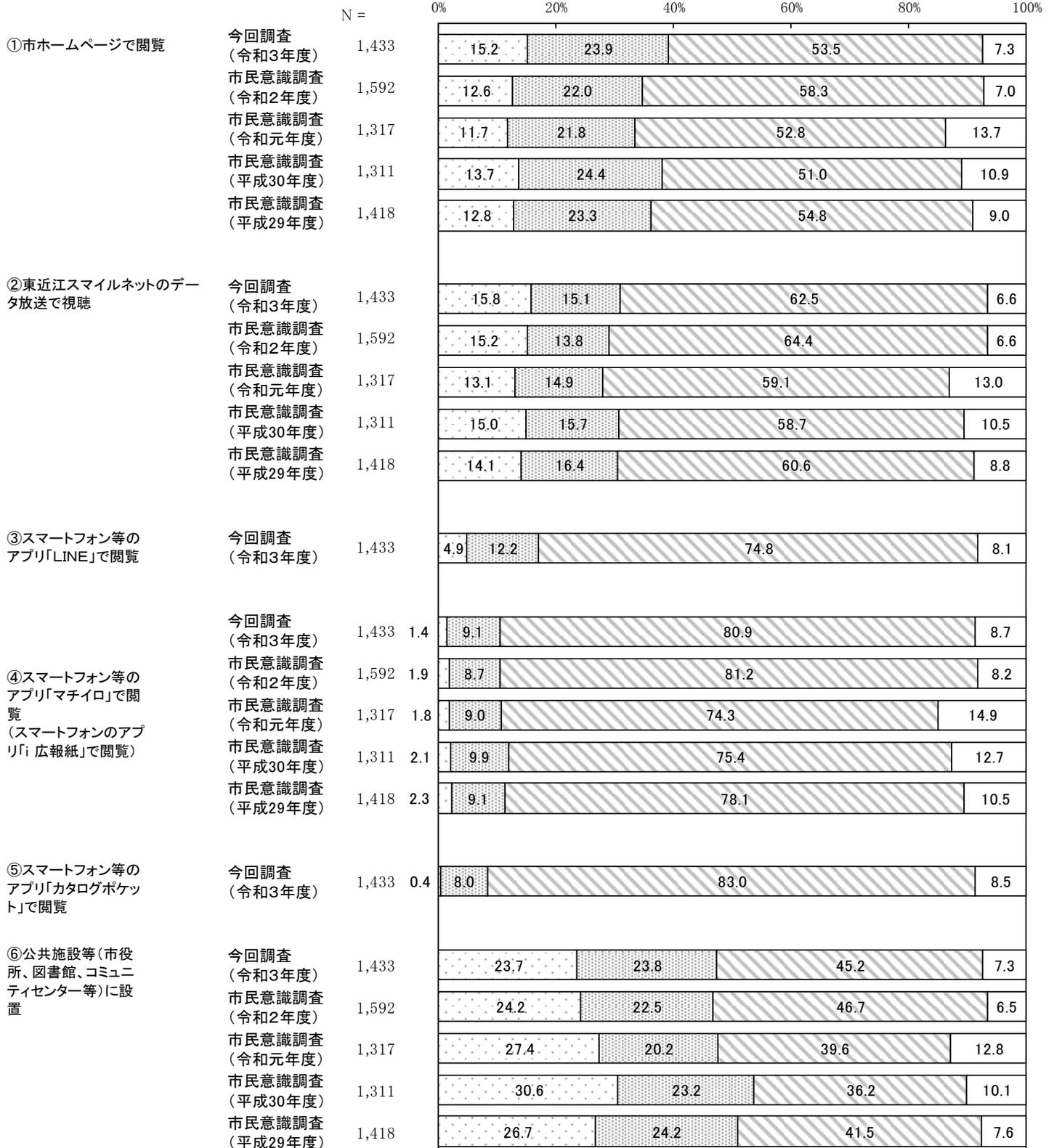
問 50 「広報ひがしおうみ」は、毎月新聞折込みによる配布のほかに次の方法で配信等を行っています。

あなたは、次の配信等の方法を知っていますか。《それぞれの項目に○1つ》

「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度は「公共施設等に設置」が最も高い

- ・ 「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度（「見たことがある」と「知っているが見たことはない」を合わせた割合）については、「⑥公共施設等に設置」が47.5%と最も高く、次いで「①市ホームページで閲覧」が39.1%、「②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴」が30.9%、「③スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧」が17.1%、「④スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧」が10.5%、「⑤スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧」が8.4%となっています。実際に「見たことがある」人が多かったのは、「⑥公共施設等に設置」が23.7%、「②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴」が15.8%、「①市ホームページで閲覧」が15.2%、「③スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧」が4.9%、「④スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧」が1.4%、「⑤スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧」が0.4%の順となり、市ホームページでの配信が知られているのに実際に見る人が少ないことが分かります。また、スマートフォン等のアプリは、いずれも1割未満となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、令和元年度以降「①市ホームページで閲覧」と「②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴」の認知度が向上、実際に見たことがある人の割合も増加傾向にあります。

見たことがある 知っているが見たことはない
 知らない 無回答



*「③スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧」と「⑤スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧」は、今回調査で追加。
 *今回調査での選択肢と同様の項目のみ掲載。

単位：%

		認知度*	知らない	差
①市ホームページで閲覧	今回調査(令和3年度)	39.1	53.5	-14.4
	市民意識調査(令和2年度)	34.6	58.3	-23.7
	市民意識調査(令和元年度)	33.5	52.8	-19.3
	市民意識調査(平成30年度)	38.1	51.0	-12.9
	市民意識調査(平成29年度)	36.1	54.8	-18.7
	差	3.0	-1.3	4.3
②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴	今回調査(令和3年度)	30.9	62.5	-31.6
	市民意識調査(令和2年度)	29.0	64.4	-35.4
	市民意識調査(令和元年度)	28.0	59.1	-31.1
	市民意識調査(平成30年度)	30.7	58.7	-28.0
	市民意識調査(平成29年度)	30.5	60.6	-30.1
	差	0.4	1.9	-1.5
③スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧	今回調査(令和3年度)	17.1	74.8	-57.7
	差	-	-	-
④スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧	今回調査(令和3年度)	10.5	80.9	-70.4
	市民意識調査(令和2年度)	10.6	81.2	-70.6
	市民意識調査(令和元年度)	10.8	74.3	-63.5
	市民意識調査(平成30年度)	12.0	75.4	-63.4
	市民意識調査(平成29年度)	11.4	78.1	-66.7
	差	-0.9	2.8	-3.7
⑤スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧	今回調査(令和3年度)	8.4	83.0	-74.6
	差	-	-	-
⑥公共施設等(市役所、図書館、コミュニティセンター等)に設置	今回調査(令和3年度)	47.5	45.2	2.3
	市民意識調査(令和2年度)	46.7	46.7	0.0
	市民意識調査(令和元年度)	47.6	39.6	8.0
	市民意識調査(平成30年度)	53.8	36.2	17.6
	市民意識調査(平成29年度)	50.9	41.5	9.4
	差	-3.4	3.7	-7.1

* 認知度:「見たことがある」「知っているが見たことはない」の合計

①市ホームページで閲覧

- ・ 年代別では、70歳以上を除き、年齢が上がるほど認知度が高く、年齢が低いほど知らない人が知っている人より多くなる傾向がみられます。
- ・ 居住地区別では、湖東地区、建部地区、五個荘地区を除くすべての地区で知らない人が知っている人より多く、特に愛東地区で知らない人が多くなっています。認知度は、建部地区、湖東地区、五個荘地区、南部地区の順に高くなっています。

②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴

- ・ 性別では、男性は「知らない」人の割合が女性より高く、女性の認知度が男性より高くなっています。年代別では、年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向がみられ、70歳以上を除いて知らない人が知っている人より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、湖東地区、愛東地区を除くすべての地区で知らない人が知っている人より多く、特に八日市地区で知らない人が多くなっています。認知度は、湖東地区、愛東地区、五個荘地区の順に高くなっています。

③スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧

- ・ 年代別では、すべての年代で知らない人が知っている人より多くなっていますが、30歳代と50歳以上でほかの年代より認知度が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、すべての地区で知らない人が知っている人より多くなっていますが、建部地区でほかの地区より認知度が高くなっています。一方、愛東地区の認知度は9.5%と最も低くなっています。

④スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧

- ・ 年代別では、すべての年代で知らない人が知っている人より多くなっていますが、30歳代と50歳以上でほかの年代より認知度が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、すべての地区で知らない人が知っている人より多くなっていますが、建部地区でほかの地区より認知度が高くなっています。一方、玉緒地区の認知度は4.6%と最も低くなっています。

⑤スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧

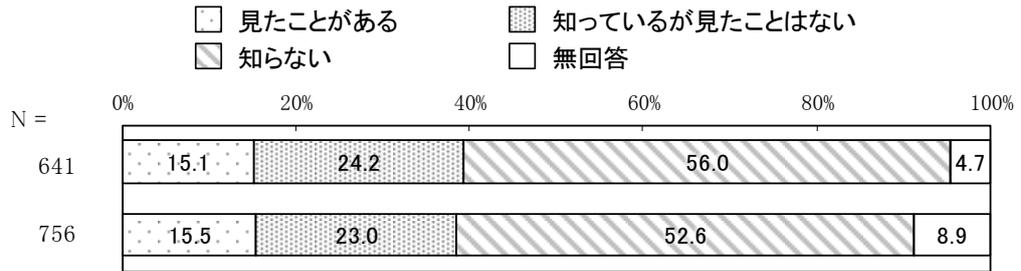
- ・ 年代別では、すべての年代で知らない人が知っている人より多くなっていますが、60歳以上でほかの年代より認知度が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、すべての地区で知らない人が知っている人より多くなっていますが、建部地区でほかの地区より認知度が高くなっています。一方、玉緒地区、中野地区の認知度は3%台と低くなっています。

⑥公共施設等（市役所、図書館、コミュニティセンター等）に設置

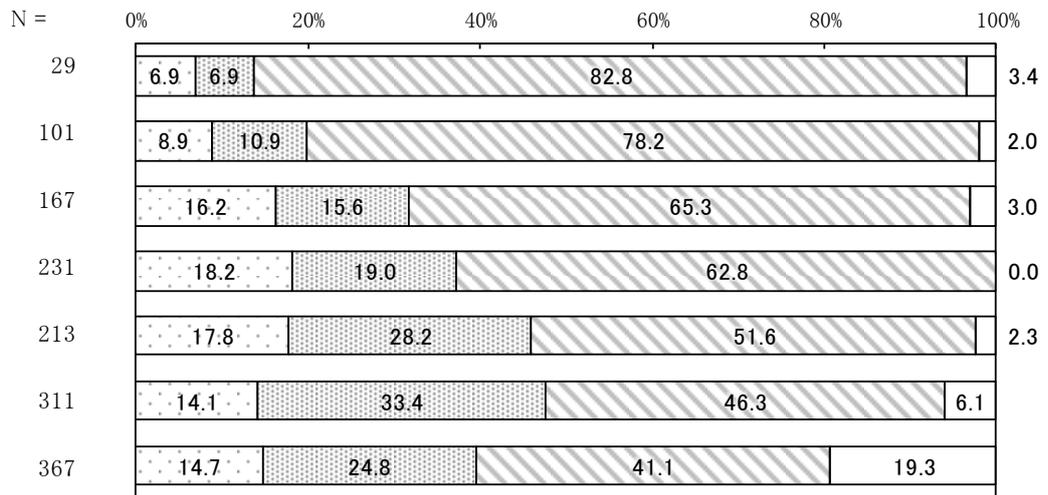
- ・ 性別では、男性で「知らない」人の割合が女性より高く、女性の認知度が男性より高くなっています。
- ・ 年代別では、50～60歳代で認知度が5割～6割近くと高くなっています。また、40歳代までは知らない人が知っている人より多く、20歳代でその差が大きくなっています。
- ・ 居住地区別では、湖東地区、永源寺地区で認知度が6割近くと高くなっています。また、中野地区、八日市地区、愛東地区、御園地区、平田地区では知らない人が知っている人より多く、中野地区でその差が大きくなっています。
- ・ 全体を通して、スマートフォン等のアプリなどを活用した多様な配信方法があるにも関わらず、その多くが若い世代を中心に知られていないことが大きな課題といえます。それぞれのターゲットを想定して、様々な機会を通じて広報・PRしていくこと、多くの人が利用したいと思う内容の充実等を図っていくことが望まれます。

①市ホームページで閲覧

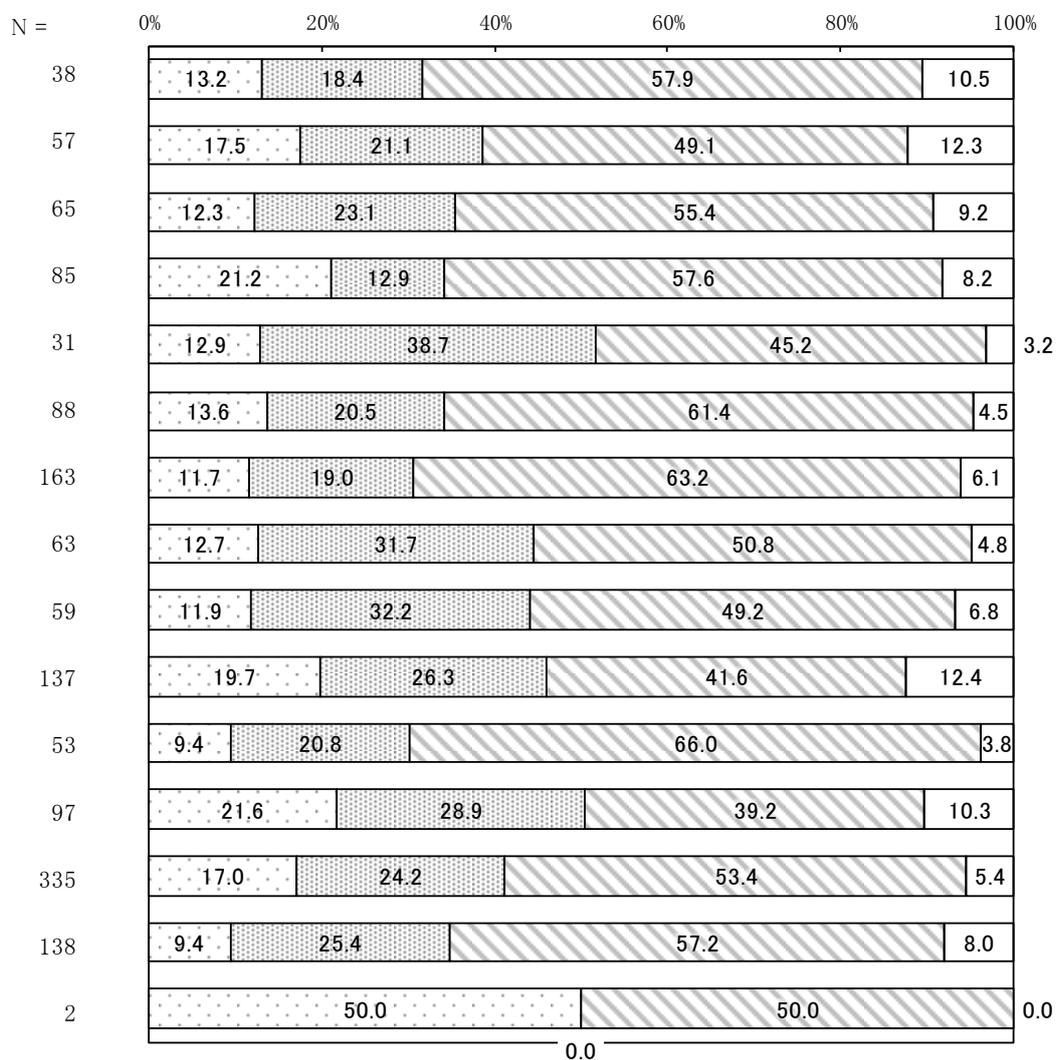
【性別】



【年代別】



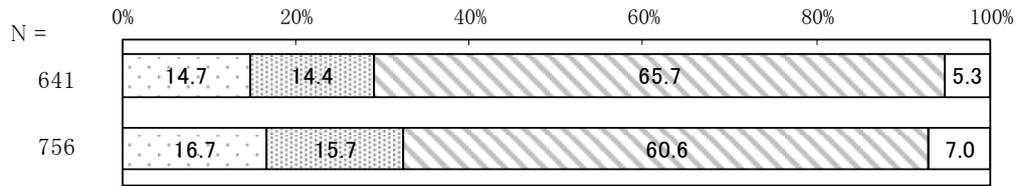
【居住地区別】



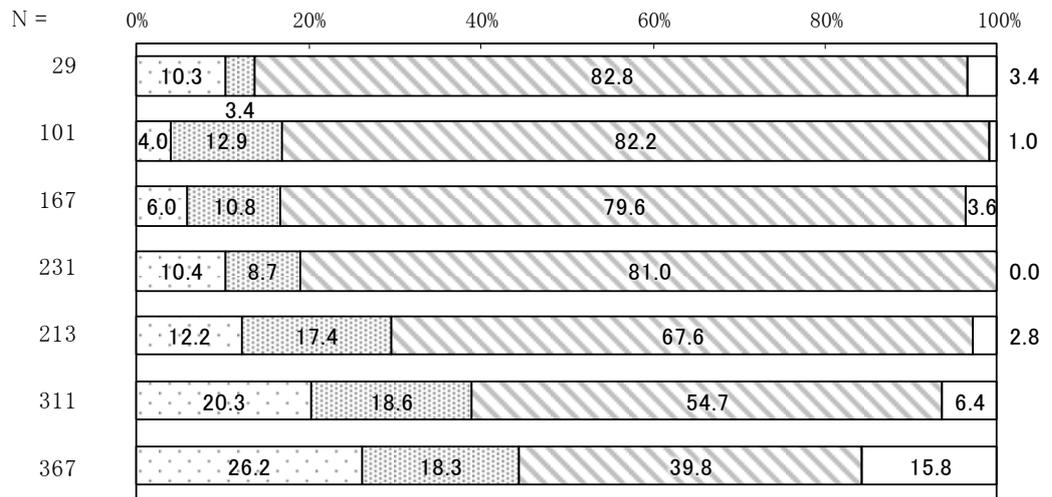
②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴

見たことがある
 知っているが見たことはない
 知らない
 無回答

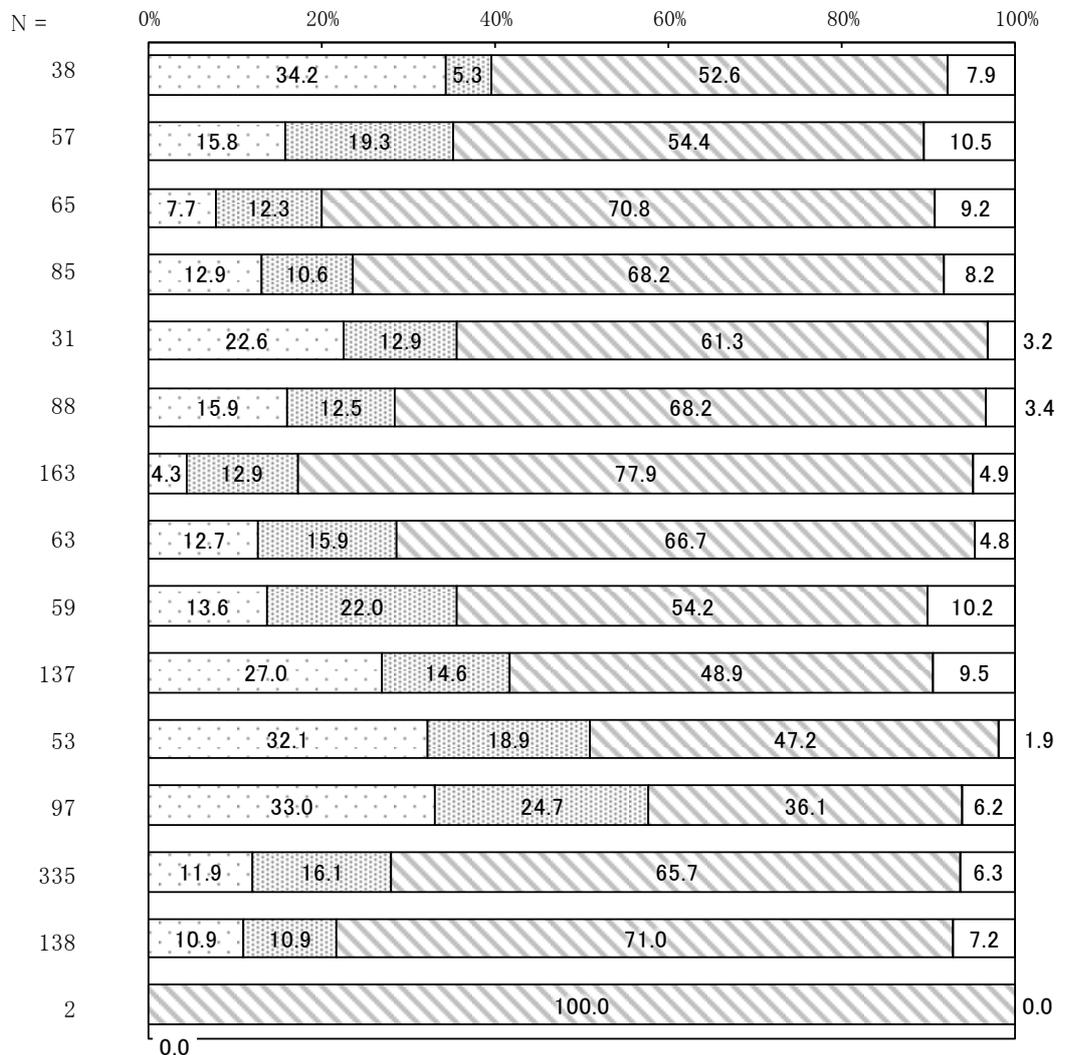
【性別】



【年代別】



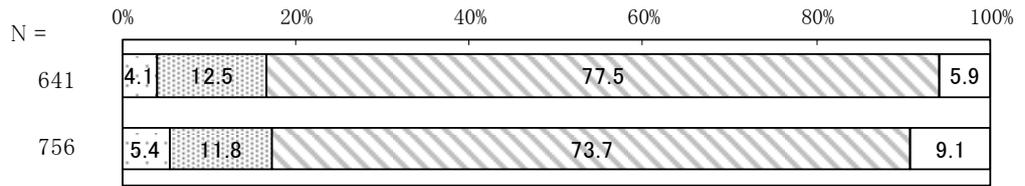
【居住地区別】



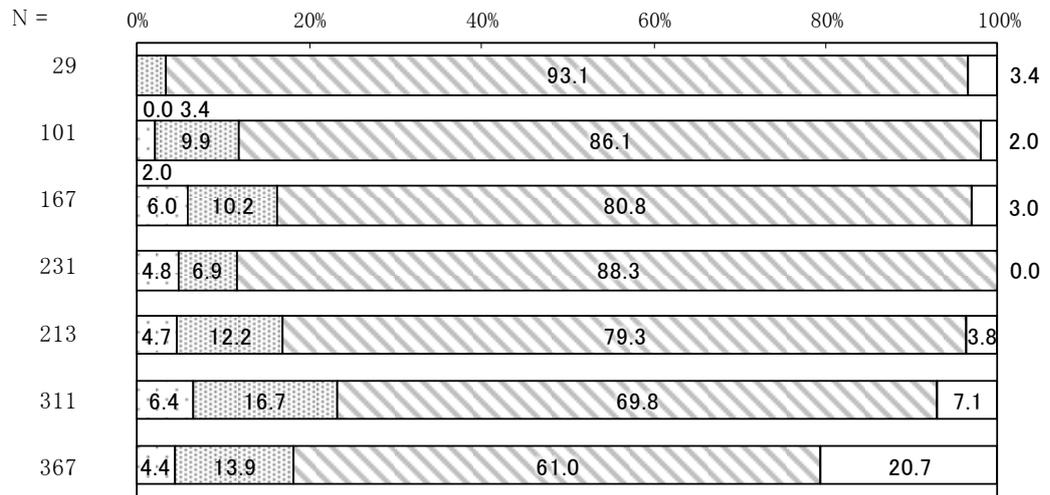
③スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧

見たことがある 知っているが見たことはない
 知らない 無回答

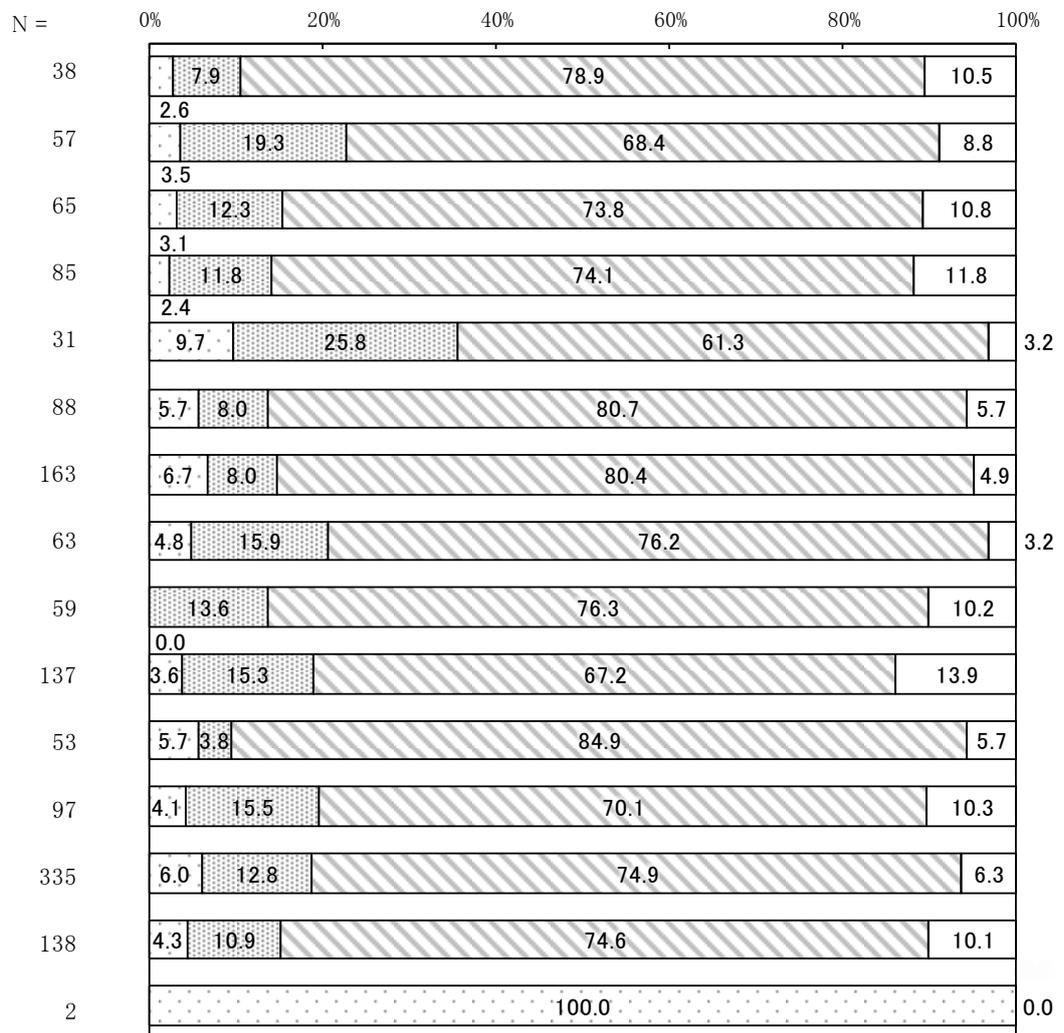
【性別】



【年代別】



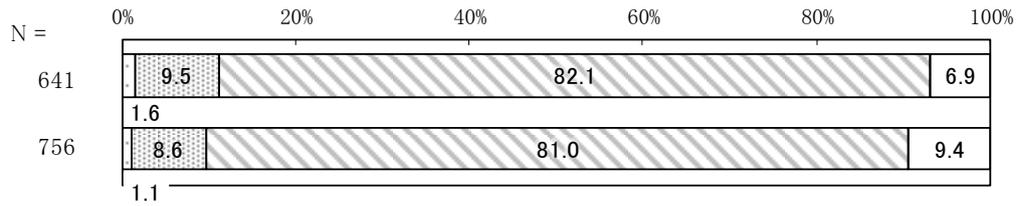
【居住地区別】



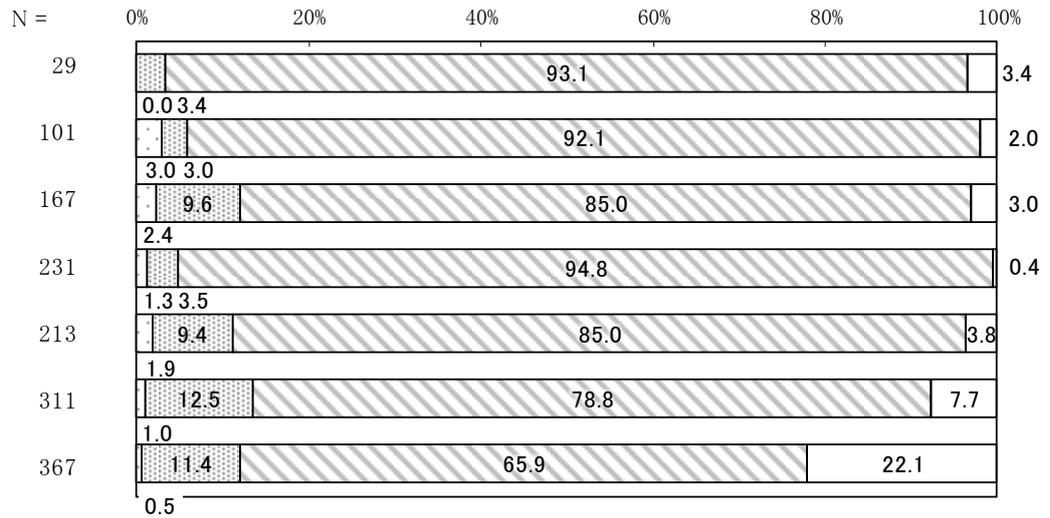
④スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧

見たことがある 知っているが見たことはない
 知らない 無回答

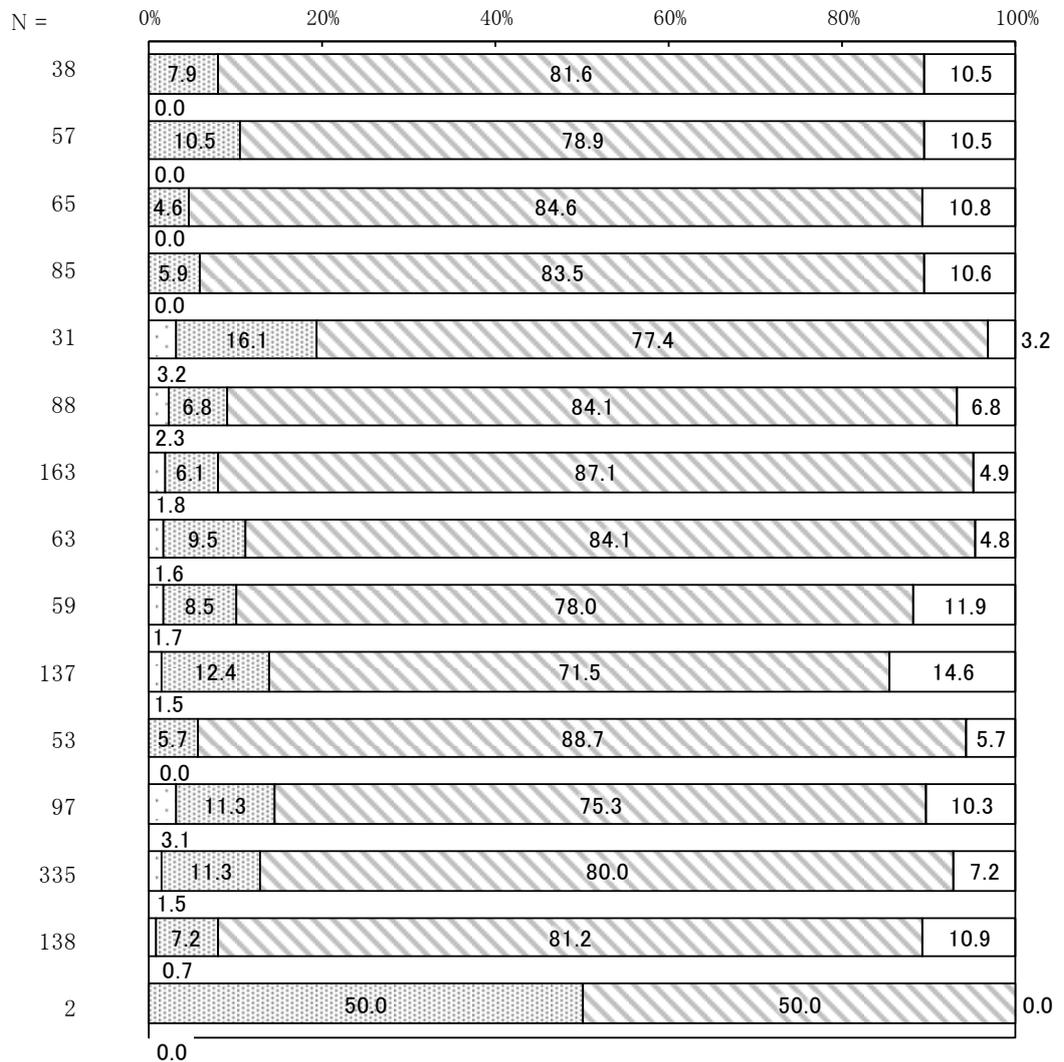
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

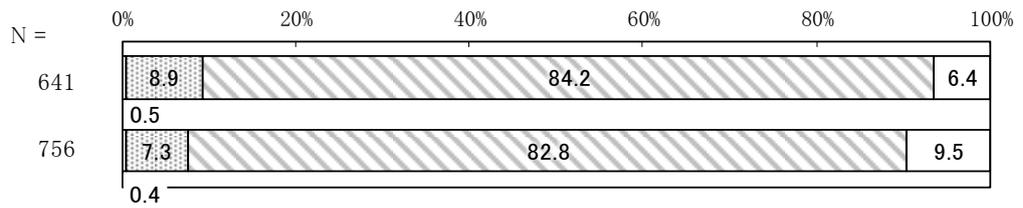


⑤スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧

□ 見たことがある
 □ 知らない

▨ 知っているが見たことはない
 □ 無回答

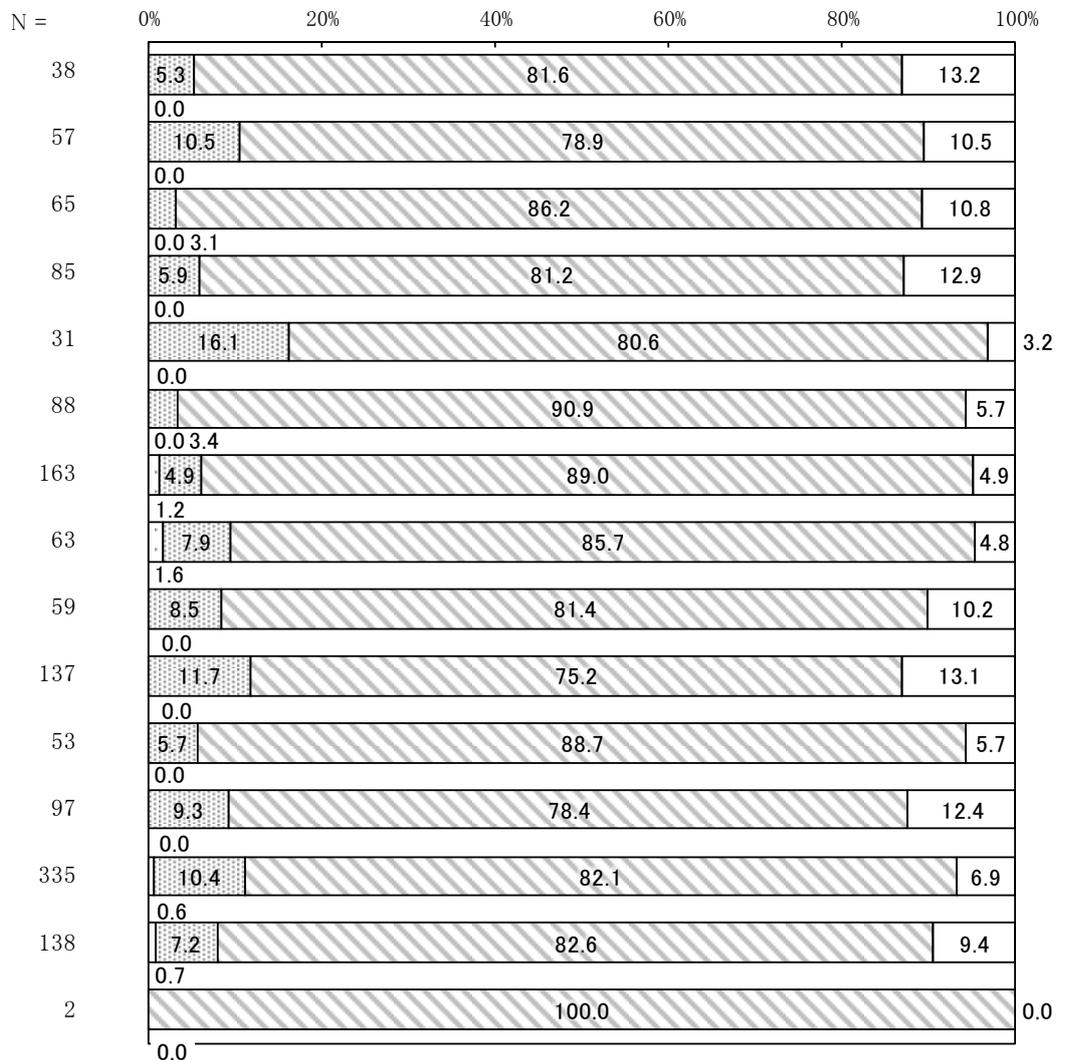
【性別】



【年代別】



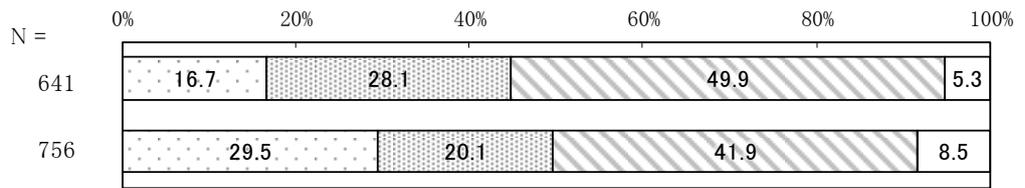
【居住地区別】



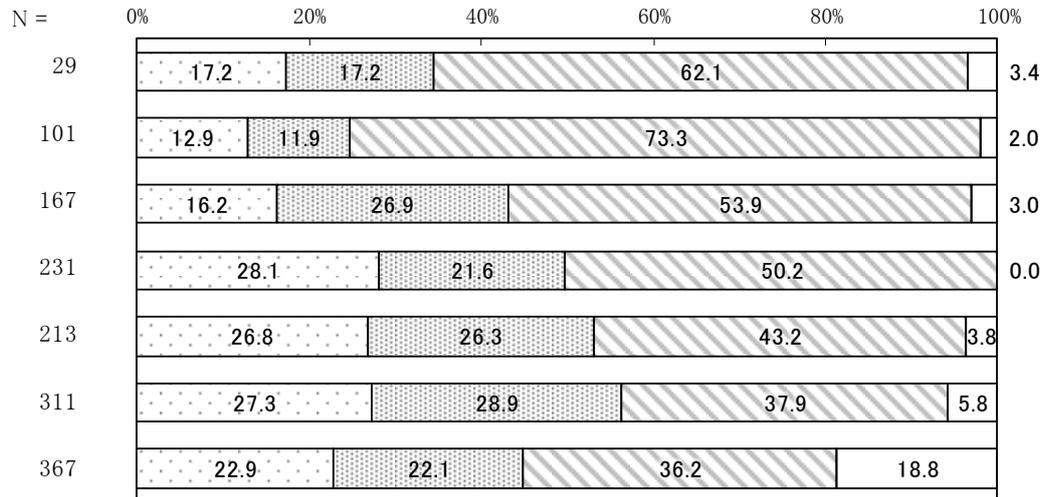
⑥公共施設等に設置

見たことがある 知っているが見たことはない
 知らない 無回答

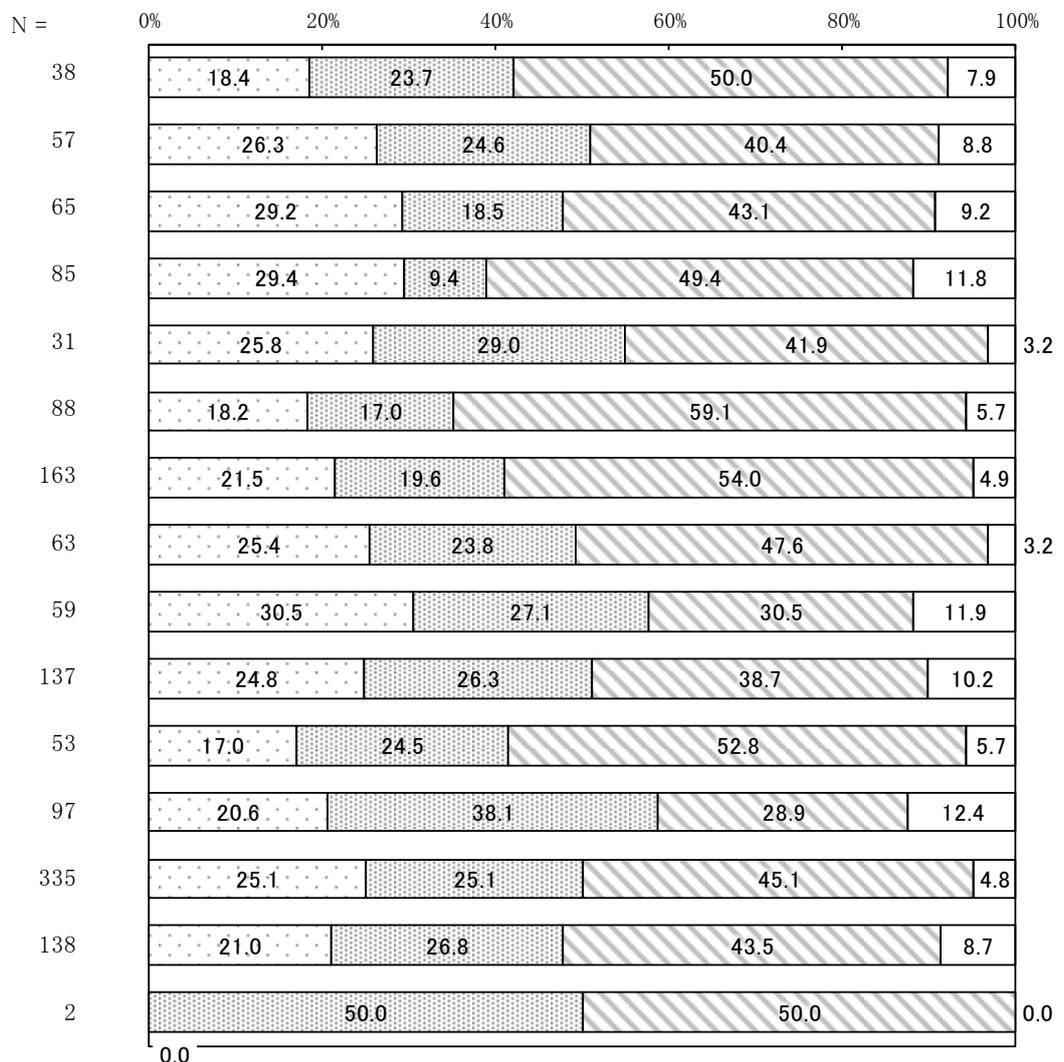
【性別】



【年代別】



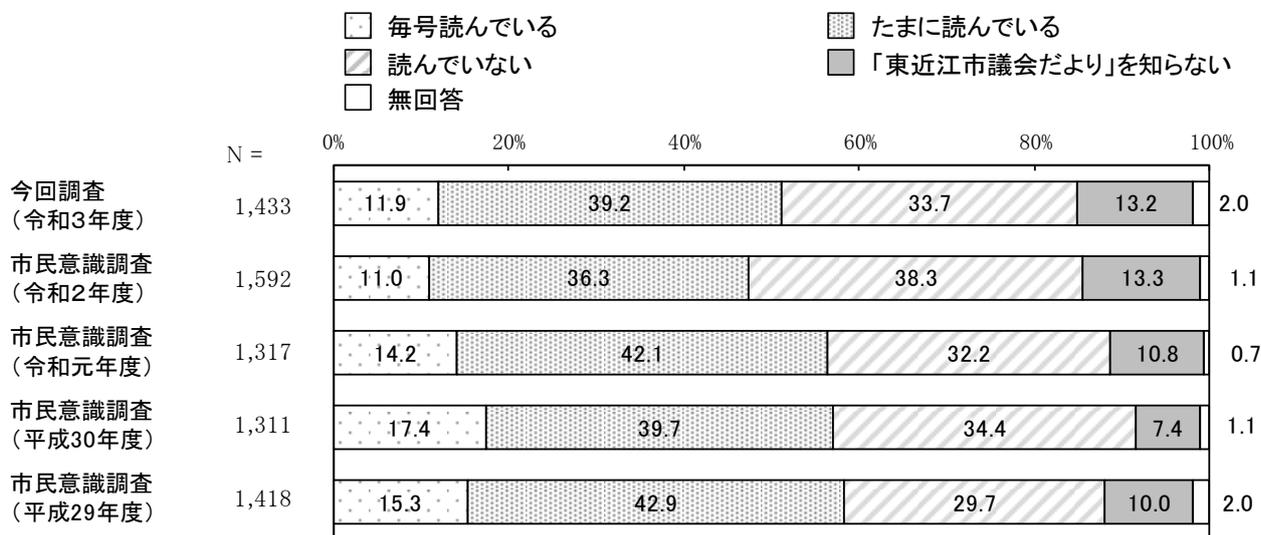
【居住地区別】



問 51 あなたは「東近江市議会だより」を読んでいますか。《○1つ》

半数が「東近江市議会だより」を読んでいる

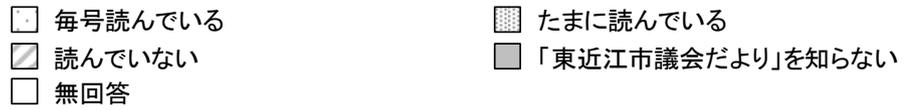
- ・ 「東近江市議会だより」については、「毎号読んでいる」が 11.9%、「たまに読んでいる」が 39.2%で、これらを合わせると 51.1%となり、半数の人が読んでいると回答しています。一方、「読んでいない」が 33.7%、「知らない」が 13.2%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、今年度やや増加しましたが、「東近江市議会だより」を読んでいる人（「毎号読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計）の割合が減少する一方で、「読んでいない」又は「知らない」人の割合が増加する傾向がみられます。
- ・ 性別では、男性より女性で「東近江市議会だより」を読んでいる人（前述）が多くみられます。
- ・ 年代別では、20 歳以上で年齢が上がるほど、「東近江市議会だより」を読んでいる人（前述）が多くみられます。また、40 歳代まででは、読んでいない又は知らない人が、読んでいる人（前述）より多く、20 歳代でその差が最も大きくなっています。



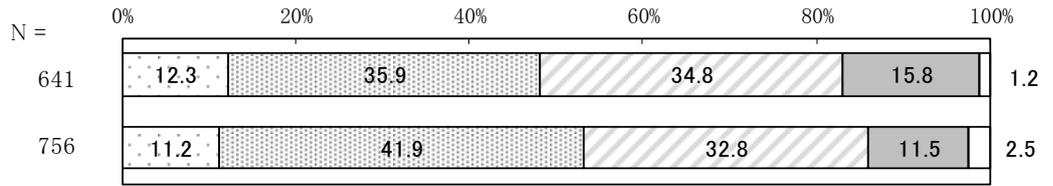
単位：%

	読んでいる*	読んでいない・知らない	差
①今回調査(令和3年度)	51.1	46.9	4.2
②市民意識調査(令和2年度)	47.3	51.6	-4.3
③市民意識調査(令和元年度)	56.3	43.0	13.3
④市民意識調査(平成30年度)	57.1	41.8	15.3
⑤市民意識調査(平成29年度)	58.2	39.7	18.5
①-⑤	-7.1	7.2	-14.3

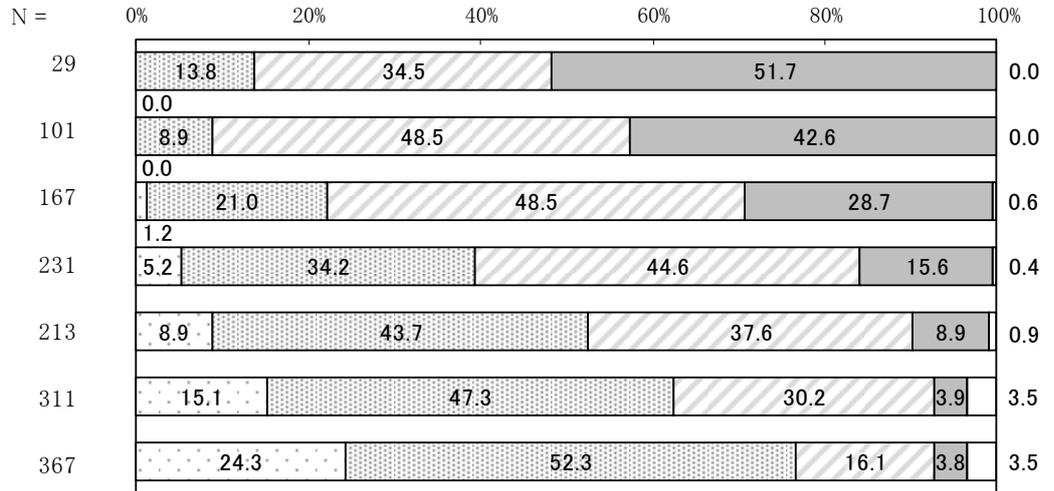
* 読んでいる:「毎号読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計



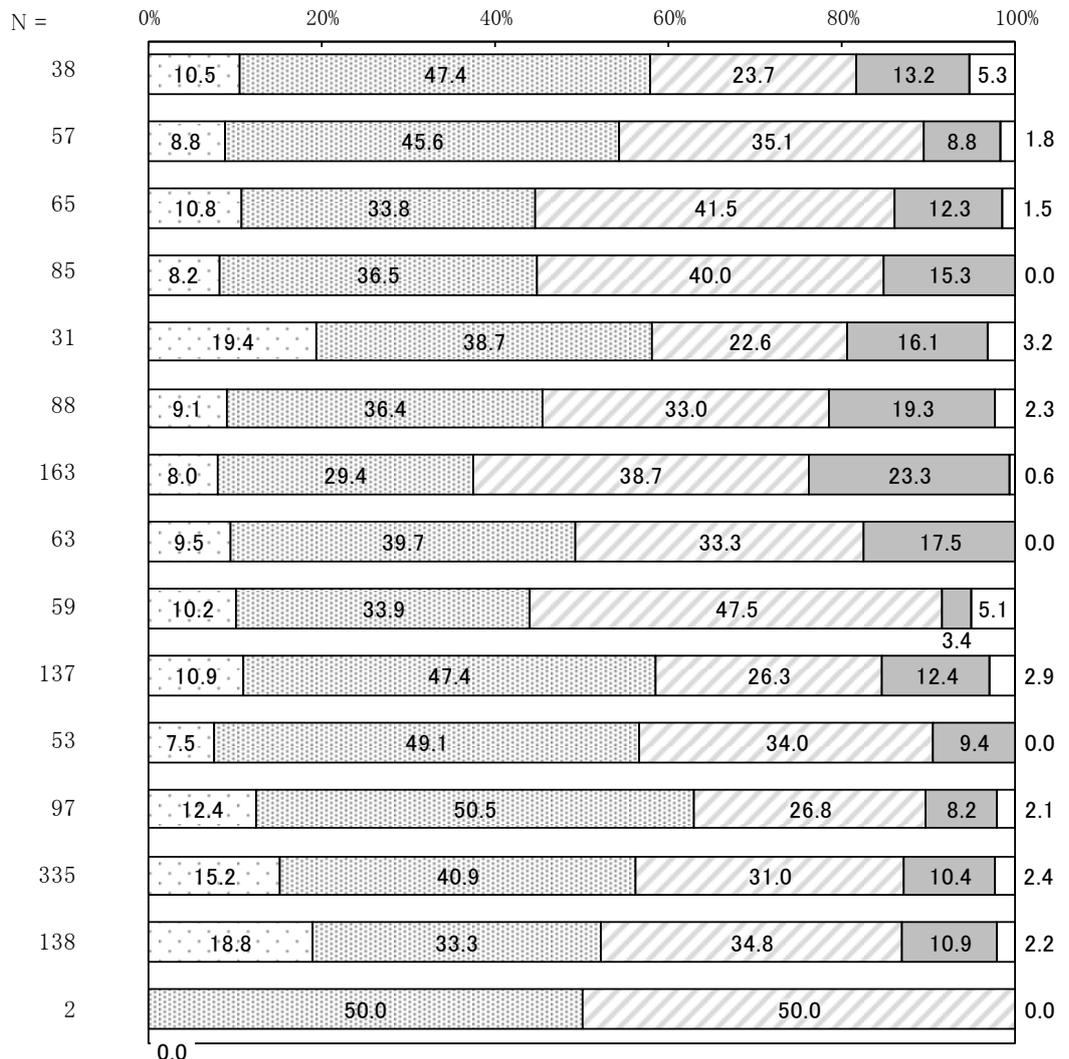
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

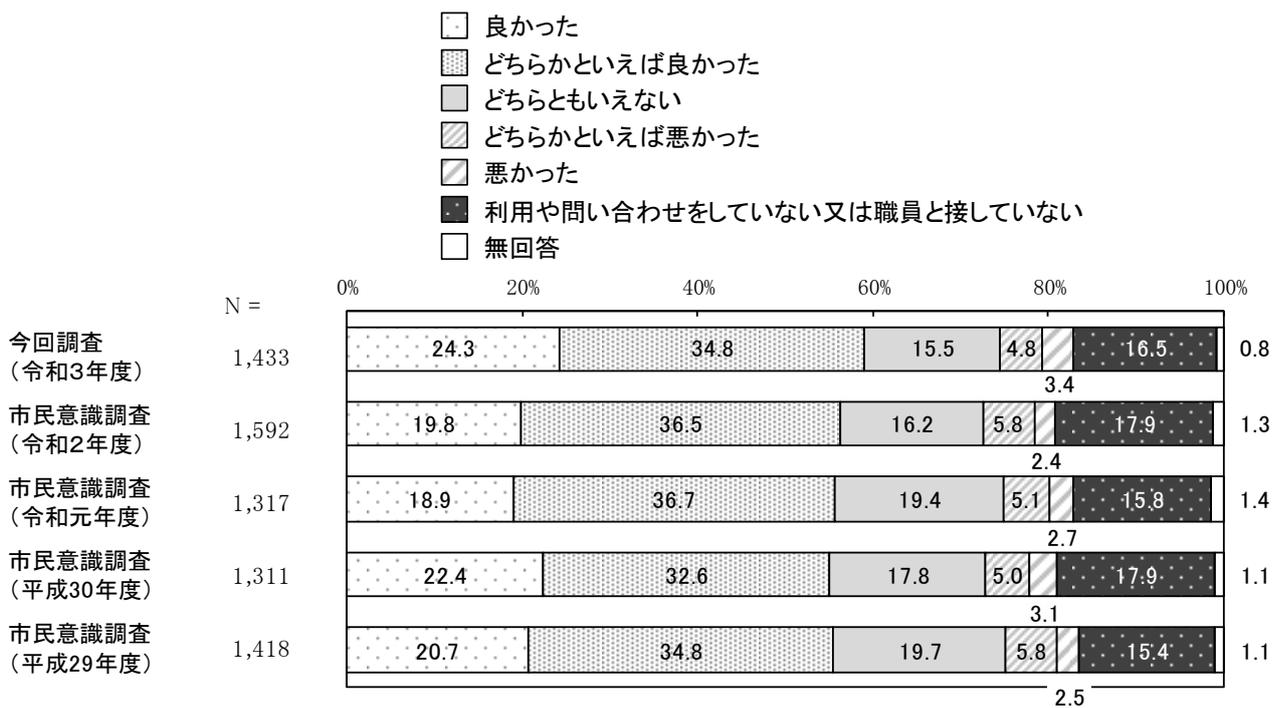


(10) 市役所のサービスに関して

問 52 この1年間に、市役所（支所・出張所を含む）の窓口利用や電話でのお問い合わせ、又は市役所外で職員に接した際の市役所職員の対応はどのように感じましたか。《○1つ》

6割近くが市役所職員の対応は良かった

- ・ 市役所職員の対応の印象については、「良かった」が24.3%、「どちらかといえば良かった」が34.8%で、これらを合わせると59.1%となり、6割近くが良かったと回答しています。一方、悪かった（「どちらかといえば悪かった」と「悪かった」の合計）の割合は8.2%と、1割未満となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、変動があるものの、良かった（「良かった」と「どちらかといえば良かった」の合計）の割合が増加しており、評価は年々上がっています。
- ・ 年代別では、10～20歳代は「利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない」が、そのほかの年代は「どちらかといえば良かった」が最も多くなっています。また、年齢が上がるほど良かった（前述）の割合が高くなっており、60歳以上で7割近くとなっています。
- ・ 居住地区別では、良かった（前述）の割合が永源寺地区、南部地区で7割前後と高くなっています。



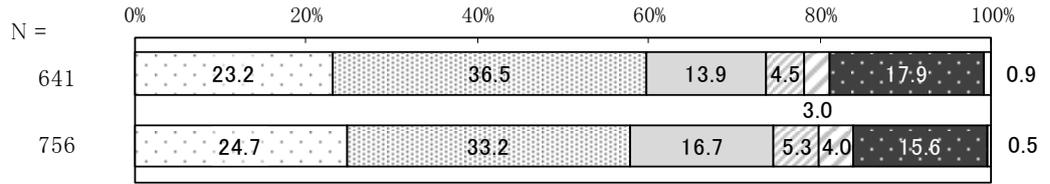
	良かった*	悪かった*	差
①今回調査(令和3年度)	59.1	8.2	50.9
②市民意識調査(令和2年度)	56.3	8.2	48.1
③市民意識調査(令和元年度)	55.6	7.8	47.8
④市民意識調査(平成30年度)	55.0	8.1	46.9
⑤市民意識調査(平成29年度)	55.5	8.3	47.2
①-⑤	3.6	-0.1	3.7

* 良かった:「良かった」と「どちらかといえば良かった」の合計

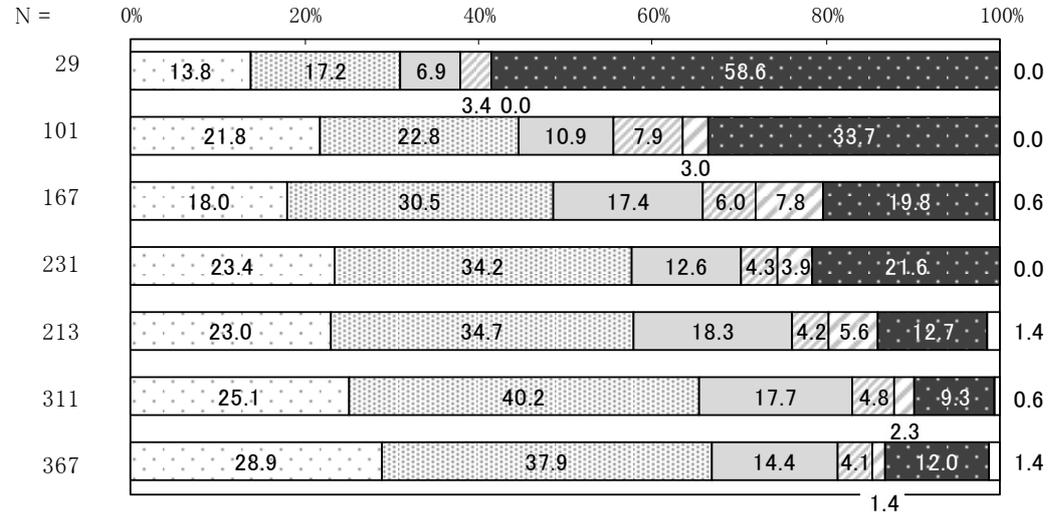
* 悪かった:「どちらかといえば悪かった」と「悪かった」の合計

良かった
 どちらかといえば良かった
 どちらともいえない
 どちらかといえば悪かった
 悪かった
 利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない
 無回答

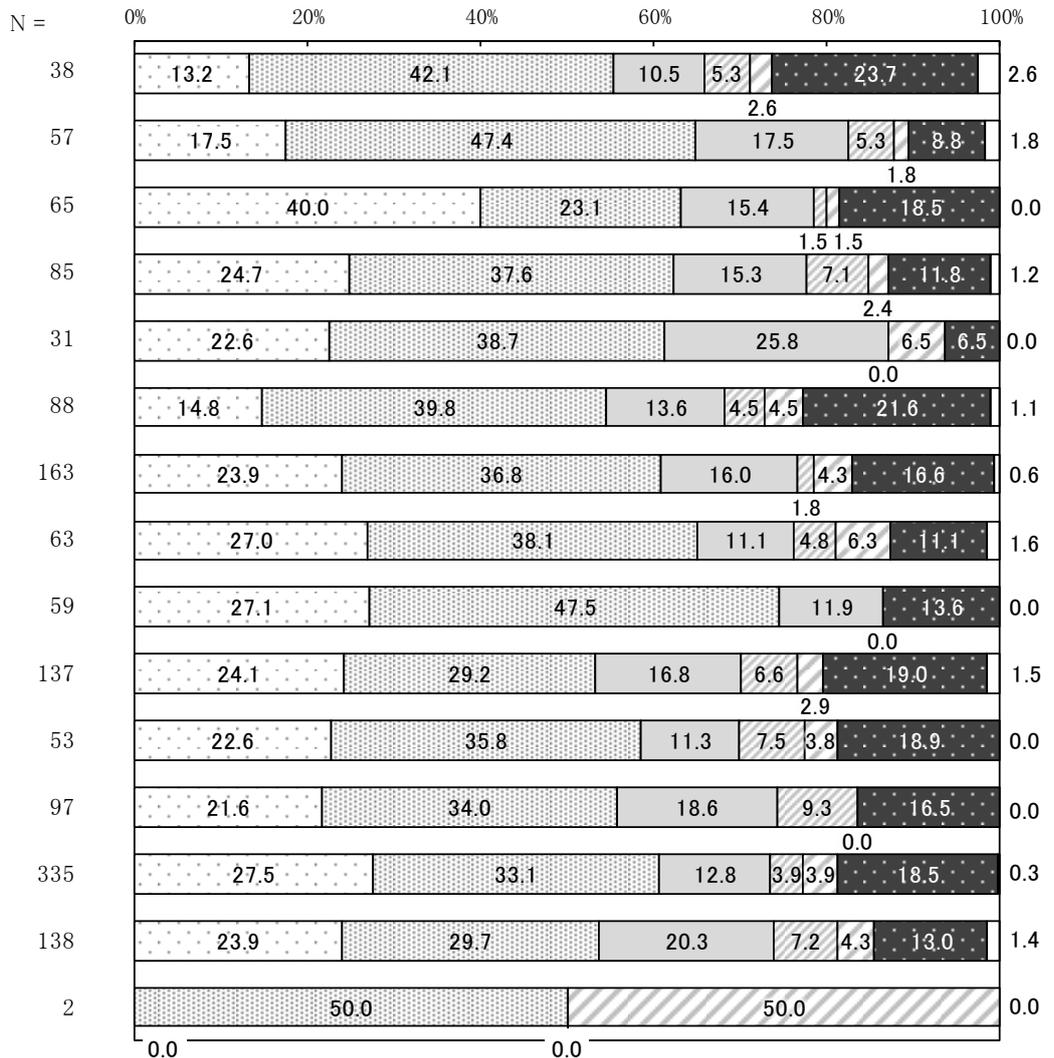
【性別】



【年代別】



【居住地区別】



(11) まちづくりに対する意見等について

問 53 東近江市のまちづくりについて、御意見や御提案等がありましたら御記入ください。

- ・ 有効回収数 1,433 件のうち、自由記述への記入件数は 456 件 (31.8%) でした。これらの意見を概ね本意識調査票の調査項目ごとに分類した件数は、次のとおりです。
- ・ なお、同じ人が複数の項目の意見を書かれているものも多いため、調査項目ごとに分類した件数の合計件数は 456 件以上となっています。

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
住みごこちや愛着等について	13 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ あかねさす蒲生野の夕暮れの風景は本当に素晴らしい。雪野山、田園、民家、夕日がこれだけ絶妙に交じり合う世界がとても好きな時間です。ゆっくり眺められる場所を作ってほしい。（蒲生地区 40 代男性） ・ 東近江は素晴らしい自然環境や田園風景があるのに、いまひとつその環境の良さをいかし切れていない、アピールできていないと感じます。長くこの地で暮らしている方には「あたりまえ」の物の中に「宝」が隠れているような気がするのですが…。（能登川地区 60 代女性） ・ 旧中山道と旧東海道が併走している地勢をいかし地域の魅力を取り込んだカルタのようなものを募集し、優秀な作品は広報やケーブルテレビで取り上げて広く啓発し、一体感を醸成して次代を担う世代との価値観の共有化を図って東近江市を一層身近に感じ、大切に作る気持ちを育む一助にしてはどうでしょうか。（五個荘地区 60 代男性）
健康や福祉について	17 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な所にある診療所の充実を望みます。（湖東地区 60 代不明） ・ ランニングブームになっているので、市民が自由に使えるトラック競技場を布引以外にも作ってほしい。また、歩道の整備により、お年寄りの散歩や若者のランニングが増え、健康へのちょっとした改善になると思う。（能登川地区 30 代女性） ・ 高齢でも元気な方は多いと思うので、地域活動へ出てもらえるような活躍の場ができればいいと思います。高齢者は守るもの！だけでなく、まだまだ現役！という時間の使い方になれば、地域全体が活気あるものになると思います。（御園地区 40 代女性）
環境や暮らしについて	90 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の鉄道やバス等の公共交通機関は不便なことが多いと思うので改善すると良い。（本数や金額）。（蒲生地区 10 代女性） ・ 高齢化が進んでいる地域に市内巡回バスを作ってほしい。（八日市地区 30 代男性） ・ 自然（山や川）を大人から子どもまでゆったり遊べる場所があればいいと思う。コロナで密を言われ、外でと思うが、雨の場合出られない。外でも屋根があり、雨や雪、日よけができるような場所がほしい。（八日市地区 40 代女性）

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
子育てや教育について	31 件	<ul style="list-style-type: none"> ・教育予算で特に人材確保に対して増額を希望します。（能登川地区 60 代男性） ・パートで働きたい母親はたくさんいますが、長期休みの時に、預かってもらうところがなくて仕事に就けません。週に 3 日でもいいので、そういう預かってもらえる所があればいいなと思います。（南部地区 40 代女性） ・学校の通学、下校の時間帯に人を増やして子どもたちの安全を守ってほしい。（建部地区 30 代男性）
都市整備について	68 件	<ul style="list-style-type: none"> ・特に周辺地域に対するアクセス道路の整備が遅れている。（御園地区 70 歳以上男性） ・安心できる自転車道・歩道・信号機をもっと多く作ってほしい。（能登川地区 70 歳以上男性） ・子どもたちが遊ぶ場所がなさすぎると思います。車でなら布施公園やグリーンスタジアム、ひばり公園など良い所があるのですが、子ども達だけで自転車で友達と遊びに行ける場所が少なく結局、道路で遊ぶ、人の家で遊ぶになってしまいます。（中野地区 30 代女性）
商業やにぎわいの創出について	78 件	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなショッピングセンターがあればいいと思う。（能登川地区 50 代女性） ・八日市駅周辺が買い物するのに不便です。もっと駐車場を作ってください。（愛東地区 50 代女性） ・駅周辺の活性化について、高校生が電車をよく利用するかと思うので、高校生が楽しめる商業施設や高校生向けのイベントを増やすと駅前が賑わいそうです。ほかにも、近くにびわこ学院大学があるので、大学生も含め学生が楽しめる駅前にするとうきげんが出そうです。（八日市地区 20 代女性） ・空家対策やリノベーション補助を充実してほしい。（能登川地区 40 代男性）
協働のまちづくりについて	30 件	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動のこれからの在り方を考えていただきたい。高齢化とともに長く働き続けるため役員などに当たると仕事に差し支えることも多い。違う形でコミュニケーションを取り合う方法があればと思います。（南部地区 60 代女性） ・「まちづくり」に参加しやすい環境を整えてください。インターネット等の活用で。（御園地区 50 代男性） ・子育て中の若い人たちには近隣の年老いた元気な高齢者と共に住まえる雰囲気や、お互いに育て見守りやすい街づくりを。元気なうちは、高齢者同士も助け合えるような関係づくりを築く、住む場所づくり（健康なうちにできる事をする）自分もできる事は自分です。体力的に自信があればですが、弱音を吐ける周りの環境が築けたら素晴らしいと思います。（玉緒地区 60 代女性）
広報等の情報について	13 件	<ul style="list-style-type: none"> ・広報ひがしおうみを八日市駅に置いてほしい、手に入れない。（八日市地区 40 代男性） ・色々発信しておられますが、まったく知りません。アピール不足だと思います。（五個荘地区 20 代女性） ・全てのことが市のホームページにあるようですが、ホームページを見られない世帯があることを忘れないでほしい。広報ひがしおうみは手元に置いていつでも見られる情報誌です。一人暮らしの方などが十分に頼れる物になってほしい。「詳しくは市のホームページで」との表現がないように、当月に記載不能なら次月に掲載予定と

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
		して予告することも考えてほしい。（能登川地区 60 代女性）
市役所のサービスについて	37 件	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の数を減らすべきであり、民間に委託すべきである。職員の教育指導をすべきである（挨拶等含めて）。（能登川地区 60 代男性） ・税金の使途不明。市民にもっとわかり易い説明を。（中野地区 40 代女性） ・市民税が高い。まちづくりも良いけど、税金が高くて困る。（玉緒地区 40 代男性）
まちづくり全般について	79 件	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトシティを目指すべき。一極集中でなく多極連携型が良い。（永源寺地区 20 代男性） ・沢山の町が合併してできた東近江市なので、そのエリアの特徴や良さをいかした地域づくりを希望します。大きいとはいえ「八日市」だけが東近江市ではないので、八日市以外のエリアの「まちづくり」も魅力 UP になると思います。（能登川地区 50 代女性） ・交通の便や雇用にもっと力を入れて欲しい。現状では住みにくいので、若年者の流出に歯止めがかからない。他の小手先の政策よりも、交通の利便性の向上や製造業に偏っている産業の在り方を抜本的に変えるべきである。（中野地区 30 代男性） ・老人が住みよい町づくりをしてください。現在は車の運転ができますがいつか車に乗れなくなるので不便です。（市辺地区 60 代女性）
アンケートについて	14 件	<ul style="list-style-type: none"> ・このアンケート調査の輸送費削減のため、インターネットか郵送を選択できると良いと思う。（QR コード等を使ってスマホで簡単にできると集計も早いと思います。）。（能登川地区 40 代女性） ・アンケート内の市の取組の内容を、具体的に知る場が欲しい。（能登川地区 20 代男性） ・アンケート集計結果をどこかでお知らせしてほしいです。（能登川地区 50 代女性）
その他	64 件	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス・ワクチン接種について（12 件） ・その他（31 件） ・特になし（17 件）

3 総括

1. 回答者属性

- ・男女比は4：5で、女性が多くなっています。
- ・60歳以上が半数近くを占めています。
- ・居住地区は、2割が能登川地区、1割が八日市地区、五個荘地区、蒲生地区となっています。旧八日市市8地区を合計すると4割となっています。

2. 住みごこちや愛着等について

- ・8割近くが住みごこちが良く、また7割近くが東近江市に対して愛着があると回答しています。東近江への愛着は、年齢が上がるほど高くなる傾向がみられます。
- ・東近江市を自慢できるかについては、4割近くが自慢できるとする一方、4割が「どちらともいえない」としています。
- ・「鈴鹿10座」の認知度は2割近くで、年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向がみられます。一方、8割が「知らない」と回答しています。
- ・友人・知人に東近江市を紹介するところは、6割が「山や川、湖などの自然が楽しめる」と回答しています。
- ・近江鉄道八日市駅周辺（市役所周辺を含む。）への来訪頻度は、3割近くが週1回以上で、50歳代まで（20歳代を除く。）で高くなっています。また、中心市街地活性化に向けては、駐車場の整備、空店舗の解消などが必要とされています。40歳代までの比較的若い世代では、空店舗の解消、おしゃれな雑貨店の増加など店舗の増加を望む声も多くみられます。

3. 健康や福祉について

- ・6割近くが市内の病院又は診療所にかかりつけ医がいると回答していますが、20歳代は半数近く、30～40歳代は4割前後がかかりつけ医がいないと回答しています。
- ・病院や救急時の医療体制は半数近くが満足している一方、2割が満足していません。年齢が若いほど「わからない」とする人が多くみられます。
- ・健康づくりの取組は半数近くが取り組んでおり、10歳代（6割近く）と60歳以上（半数）でその数が多くなっています。また、その内容としては、運動、食事、睡眠、規則正しい生活、趣味、定期健診の受診などが多くあげられていますが、運動以外は性別・年代によって異なります。
- ・朝食を毎日食べている人は8割で、朝食を食べないときの理由の多くは、時間がない、食べる習慣がないなどです。
- ・運動習慣については、半数近くの人が週1回以上の運動をしており（10歳代、70歳以上は6割前後）、設問の見直しに伴い、今年度大きく増加しました（令和2年度は3割）。ほとんどしていない人は令和2年度の6割近くから4割に減少しました。
- ・7割が不安、悩み、ストレスを感じており（女性、30～50歳代で高い。）、半数近くの人が「仕事のこと」を原因として挙げていますが、女性や60歳以上は「自分の健康」が1位にあげられるなど、それぞれのライフステージに応じて多様化しています。
- ・不安、悩み、ストレスは、7割近くが解消できていると回答しています（ただし、40～50歳代は4割近くが解消できていません。）。

- ・東近江市民の障害者に対する理解は、「わからない」が4割近くと最も多く、理解を深めるために今後特に力を入れるべき取組は、バリアフリーのまちづくりや施設整備における配慮などが多くあげられています。

4. 環境や暮らしについて

- ・自然環境保全の取組への満足度は、3割近くが満足、「どちらともいえない」又は「わからない」が7割近くですが、半数近くが日々の営みの中で自然環境との関わりを感じています。
- ・環境にやさしい取組は9割近くが実践しており、再生可能エネルギー・省エネ設備については設置（予定含む。）が2割で、設置したいも含めると6割になります。また、ごみと資源の分別はほとんどの人が実践しています。
- ・今後木造住宅を建てるとしたら選択したい材料としては、4割近くが大工・工務店等が勧めるもので、県産材も含む地元産材は2割近くとなっています。
- ・「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、7割近くが共感しないと回答しています。
- ・市役所内に消費生活センターがあることの認知度は半数以上ですが、市役所内の市民生活相談課で法律相談や登記相談等が受けられることは、半数の人に知られていません。いずれも年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向がみられ、若い世代の認知度が低くなっています。
- ・公共交通に満足している人は1割で、半数が満足していません。
- ・近江鉄道は8割が重要と感じているものの、9割が利用していないと回答しています（10歳代は3割が利用）。また、半数が改善を望んでいます。
- ・災害への備えについては、7割近くが何らかの備えをしており、50歳代は避難場所等の確認、60歳以上は地域の防災訓練への参加が多くみられます。
- ・東近江市の水道水の水質については、6割が満足していますが、3割近くが「どちらともいえない」としています。

5. 子育てや教育関連の取組について

- ・半数以上（子育て世代の30～40歳代は6割近く）が子育てをするのに良い環境と感じています。また、4割近くが通学路の安全確保ができていると回答していますが、30歳代と50歳代は通学路の安全が確保できていないと考える人のほうが多くなっています。
- ・人権が尊重されるまちになっていると思う人は2割で、6割が「どちらともいえない」又は「わからない」と回答しています。また、何らかの人権に関する講座や講演、研修等に参加した人は3割近くとなっています。
- ・児童虐待が疑われるときの通報先は、警察、市役所、子ども家庭相談センター、民生委員児童委員が多くあげられています。

6. 都市整備について

- ・都市基盤整備に対する満足度の総合評価(加重平均)は、主要幹線道路、雨水排水、河川、公園、地域の生活道路の順となっています。
- ・過去の調査と比べ、すべての項目で評価が上がっており、マイナス評価が続いていた地域の生活道路の整備も、プラス評価へと変わりました。

7. 購買状況等について

- ・食品は8割、日用雑貨品は7割が市内で購入していますが、衣料品は4割が市外で購入しています。年代や居住地区によって購入場所が異なっています。
- ・食品を買いに行く際の交通手段としては、9割近くが自動車、そのほとんどが自分で運転しています。
- ・野菜を購入する際の基準は、鮮度、金額、安全・安心が多くあげられています。
- ・農産物直売所は、半数近くが市内の直売所を利用しており、年間数回程度の利用が最も多くなっています（女性、60歳以上、愛東地区や湖東地区、建部地区で利用者が多い）。
- ・キャッシュレス決済の利用状況は、週1回以上の利用が多いのはHOPマネーなどの流通系電子マネーが3割（40～50歳代中心）、クレジットカードが3割近く（20～40歳代中心）、PayPayなどのQR／バーコード決済が2割近く（10～40歳代中心）となっています。

8. 協働のまちづくりについて

- ・協働のまちづくりができていないかについては、4割近くが「わからない」としています。
- ・半数近くが、住民同士の助け合いはできていると回答しています。60歳以上は半数以上ができているとしています。
- ・地域活動又はNPOやボランティア等の活動は、半数以上が参加していると回答しており、年齢が上がるほど活動参加率も上がる傾向がみられます。その内容としては、9割近くの方が自治会活動で、2割近くの方がボランティア活動を挙げています。一方、活動に参加していない理由としては、時間がない、関心がない以外に、内容がわからないといった声も聞かれ、情報発信・広報の充実も求められています。
- ・国籍や民族の異なる人々が互いに認め合い、共に暮らす社会の実現については、7割が重要としており、年齢が若いほど認識が強いことがうかがえます。

9. 広報等の情報について

- ・市の情報の取得方法は、6割近くが「広報ひがしおうみ」や「自治会回覧」をあげています。
- ・「広報ひがしおうみ」は7割近くが読んでおり、4割近くは毎月読んでいます。年齢が上がるほど、読んでいる人の割合や読む頻度も上がる傾向がみられます。また、半数がその内容に満足しています。
- ・「広報ひがしおうみ」の配信方法は、「公共施設等に設置」が最もよく知られており、スマートフォン等のアプリでの閲覧はほとんど知られていません。実際に見たことがある人は、公共施設等に設置、東近江スマイルネットのデータ放送、市ホームページが2割前後で、そのほかは1割未満となっています。
- ・「東近江市議会だより」は半数が読んでおり、年齢が上がるほど、読んでいる人の割合や読む頻度も上がる傾向がみられます。

10. 市役所のサービスについて

- ・市役所職員の対応については、6割近くが良かったと回答しています。

4 調査票

令和3年度 東近江市 市民意識調査

◆アンケート調査への御協力をお願い◆

皆さまには、日頃から東近江市政に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、東近江市では「うるおいとにぎわいのまち東近江市」を目指し、平成28年度に策定いたしました「第2次東近江市総合計画」に基づき、まちづくりを進めております。

住みよいまちづくりを実現するため、皆さまの意識や生活スタイルなどの幅広い項目について御意見をお聞かせいただきたく、市内にお住まいの18歳以上の市民の皆さまから約3,000名を無作為に抽出し、アンケート調査を毎年実施しております。

皆さまにおかれましては御多用のことと存じますが、本調査の趣旨を御理解いただき、御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、今回お答えいただきました内容につきましては統計的に処理し、東近江市個人情報保護条例に基づき適切に取り扱います。

令和3年6月

東近江市長 小椋 正清

アンケートの記入・返信について

- ・調査の回答は、封筒宛名の御本人が記入してください。なお、御本人による回答(記入)が難しい場合は、御家族の方が御本人の意思を反映して、記入してください。
- ・回答は、質問にしたがって、あてはまる番号に○をつけてください。
- ・選択肢の中で「その他」に回答された場合は、()内に具体的な内容を記入してください。
- ・記入していただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、令和3年7月5日(月)までに郵便ポストに投函してください。切手は不要です。

アンケートに関する問い合わせ

東近江市 企画部 総合政策課

〒527-8527 東近江市八日市緑町10番5号

IP電話:050-5802-9021 電話:0748-24-5621

FAX:0748-24-1457

Eメール:sousei@city.higashiomi.lg.jp

※宛先は、令和3年6月1日現在の住民基本台帳から抽出しました。



令和3年度 東近江市 市民意識調査 調査票

1 あなた自身のことについておたずねします。

問1 性別《○1つ》	1. 男性	2. 女性		
問2 年齢《○1つ》	1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代
	5. 50歳代	6. 60歳代	7. 70歳以上	
問3 居住地区 《○1つ》	1. 平田地区	2. 市辺地区	3. 玉緒地区	
	4. 御園地区	5. 建部地区	6. 中野地区	
	7. 八日市地区	8. 南部地区	9. 永源寺地区	
	10. 五個荘地区	11. 愛東地区	12. 湖東地区	
	13. 能登川地区	14. 蒲生地区	15. わからない(町・丁目名)	

2 住みごちや愛着等についておたずねします。

問4 あなたは、東近江市の住みごちをどう思いますか。《○1つ》

1. 良い	2. どちらかといえば良い	3. どちらかといえば悪い
4. 悪い	5. わからない	

問5 あなたは、東近江市に対して愛着がありますか。《○1つ》

1. とても愛着がある	2. やや愛着がある	3. どちらともいえない
4. あまり愛着がない	5. 愛着がない	

問6 あなたは、東近江市を自慢できますか。《○1つ》

1. とても自慢できる	2. やや自慢できる	3. どちらともいえない
4. あまり自慢できない	5. 自慢できない	

問7 東近江市では、平成27年度に鈴鹿の山々から「鈴鹿10座」を選定し、鈴鹿山脈の素晴らしさと存在意義を広く周知するとともに、市の知名度アップに取り組んでいます。

あなたは、「鈴鹿10座」が選定されたことを知っていますか。《○1つ》

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 8 あなたは、友人・知人に東近江市を紹介する場合、どのようなところを紹介しますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 山や川、湖などの自然が楽しめるところ | 2. 町なみ景観が楽しめるところ |
| 3. 歴史・文化にふれられるところ | 4. 食事や買い物が楽しめるところ |
| 5. 観光農園や農業体験ができるところ | 6. スポーツ施設や子どもが遊べる公園 |
| 7. その他() | |

問 9 あなたは、この1年間で近江鉄道八日市駅周辺(市役所周辺を含む。)にどの程度訪れましたか。《○1つ》

- | | | |
|-----------|-------------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に2～3回程度 | 3. 週に1回程度 |
| 4. 月に数回程度 | 5. 年に数回程度 | 6. 訪れていない |

問 10 あなたは、八日市駅周辺の中心市街地が活性化するには、どのようなお店や施設、イベントなどの開催が必要だと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1. 空店舗に新しい店が入る | 2. おしゃれな雑貨店が増える |
| 3. 駅前や歩道等の空間をオープンカフェなどに活用する | 4. 魚屋、八百屋など生鮮品の店が並ぶ、歩いて楽しい商店街にする |
| 5. マルシェなどのイベントを定期的に開催する | 6. イベントホールやテナントが入るビルをつくる |
| 7. 自家用車で訪れやすいよう駐車場をつくる | 8. 観光客が地元の名産品を買えるようにする |
| 9. 延命公園や清水川などの自然をいかして癒しの空間にする | 10. その他() |

3 健康や福祉についておたずねします。

問 11 あなたには、日常的な診療や健康の管理をしてくれるお医者さん(かかりつけ医)はいますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|-------------------|-------------|
| 1. 市内の病院にいる | 2. 市内の診療所(開業医)にいる | 3. 市外の病院にいる |
| 4. 市外の診療所(開業医)にいる | 5. いない | |

問 12 あなたは、病院や救急時の医療体制に満足していますか。《○1つ》

- | | | |
|------------|-------------------|--------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している | 3. どちらかといえば満足していない |
| 4. 満足していない | 5. わからない | |

問 13 あなたは、自分の健康づくりのために何か取り組んでいますか。《○1つ》

- | | | |
|---------------|-----------------|-----------|
| 1. 取り組んでいる | 2. 取り組みたいと思っている | →問 13-1 へ |
| 3. 取り組むつもりはない | →問 13-2 へ | |

問 13-1 問 13 で「1. 取り組んでいる」「2. 取り組みたいと思っている」とお答えの方におたずねします。
具体的にどのような取組をしていますか、又は取り組みたいと思っていますか。

《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 運動をする | 2. 趣味(運動以外)の時間をつくる |
| 3. 休養を十分にとる | 4. 食事の量や質に注意する |
| 5. 睡眠を十分にとる | 6. 定期的に健康診査やがん検診を受ける |
| 7. 規則正しい生活をする | 8. たばこを控える又はやめる |
| 9. アルコールを控える又はやめる | 10. その他() |

問 13-2 問 13 で「3. 取り組むつもりはない」とお答えの方におたずねします。

その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. どのように取り組んだらよいのかわからない | 2. 自分の健康づくりに興味、関心がない |
| 3. 取り組んでも効果が期待できない | 4. その他() |

問 14 あなたは、朝食を食べていますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------|-------------|-----------|
| 1. 毎日食べる | 2. 週4～5日食べる | →問 14-1 へ |
| 3. 週2～3日食べる | 4. ほとんど食べない | |

問 14-1 問 14 で「2. 週4～5日食べる」「3. 週2～3日食べる」「4. ほとんど食べない」とお答えの方におたずねします。

食べない日がある理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 食欲がないから | 2. 太りたくないから |
| 3. 食べる時間がないから | 4. 以前から食べる習慣がないから |
| 5. 朝食を用意するのが面倒だから | 6. その他() |

問 15 あなたは、スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っていますか(運動には、散歩やラジオ体操といった簡単に体を動かすものも含まれます。)。《○1つ》

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 週3回以上 | 2. 週1～2回 |
| 3. 月1～2回程度 | 4. ほとんどしていない |

問 16 あなたはこの1箇月間に、不安、悩み、ストレスを感じましたか。《○1つ》

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1. 大いにある | 2. 多少ある | →問 16-1 へ |
| 3. あまりない | 4. まったくない | |

問 16-1 問 16 で「1. 大いにある」「2. 多少ある」とお答えの方におたずねします。

あなたの不安、悩み、ストレスの原因は何ですか。《あてはまるものすべてに○》

- | | | |
|-----------|--------------|---------------|
| 1. 経済的なこと | 2. 仕事のこと | 3. 人間関係 |
| 4. 家族関係 | 5. 子育てに関すること | 6. 親の介護に関すること |
| 7. 自分の健康 | 8. 家族の健康 | 9. その他() |

問 17 あなたの不安や悩み、ストレスは解消できていますか。《○1つ》

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. うまくできている | 2. ある程度できている |
| 3. あまりできていない | 4. まったくできていない |

問 18 あなたは、東近江市民の障害者に対する理解は進んできたと思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|--------------|--------------|
| 1. かなり進んできた | 2. ある程度進んできた | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり進んできたとは思わない | 5. 進んでいない | 6. わからない |

問 19 あなたは、障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. スポーツや文化活動で地域交流を深める | 2. 「ふれあいの集い」などのイベントを充実する |
| 3. 市民対象の福祉講座や講演会を開催する | 4. 福祉施設を地域に開放し交流を図る |
| 5. グループホームを地域の中につくる | 6. 子どもたちへの人権・福祉教育を充実する |
| 7. 障害者団体や関係グループの活動をPRする | 8. ボランティアの育成を図る |
| 9. 障害者も使いやすい施設をつくる | 10. 障害者がまちに出かけやすい整備を進める |
| 11. わからない | 12. その他() |

4 環境や暮らしについておたずねします。

問 20 あなたは、東近江市の自然環境保全の取組について満足していますか。《○1つ》

- | | | |
|--------------------|-------------------|--------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば満足していない | 5. 満足していない | 6. わからない |

問 21 あなたは、暮らしや仕事等日々の営みの中で自然環境との関わりを感じていますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. 感じている | 2. どちらかといえば感じている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば感じていない | 5. 感じていない | 6. わからない |

問 22 あなたは、次の低炭素・資源循環型の取組を行っていますか。

①あなたは、環境にやさしい取組を行っていますか。(使用していない電気の消灯、マイバックの持参、省エネ機器の選択、自転車や公共交通機関の利用等)《○1つ》

- | | | |
|---------------|----------------|-------------|
| 1. 常に取り組んでいる | 2. ときどき取り組んでいる | 3. 取り組んでいない |
| 4. 取り組もうと思わない | 5. わからない | |

②あなたは、自宅に再生可能エネルギー・省エネ設備を設置していますか。(太陽光発電やコージェネレーションシステム、蓄電システム、太陽熱温水器、雨水貯留施設の設置等)《○1つ》

※コージェネレーションシステム(熱電併給)…天然ガス、石油等を燃料として発電し、その際に生じる廃熱も同時に回収し、有効利用するシステム

- | | | |
|---------------|--------------|----------------|
| 1. 既に設置している | 2. 設置する予定である | 3. 設置したいが予定はない |
| 4. 設置したいと思わない | 5. わからない | |

問 23 あなたは、ごみと資源の分別をしていますか。《○1つ》

- | | | |
|----------|-----------------|------------------|
| 1. している | 2. どちらかといえばしている | 3. どちらかといえばしていない |
| 4. していない | 5. 分別方法がわからない | |

問 24 あなたは、御自身で今後木造住宅を建てるとしたら、材料にはどのようなものを選びたいと思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-----------|---------------------------|------------|
| 1. 東近江市産材 | 2. 琵琶湖産材(県産材) | 3. 県外産材 |
| 4. 外国産材 | 5. 大工・工務店・ハウスメーカーなどが勧めるもの | 6. 金額が安いもの |
| 7. わからない | 8. その他() | |

問 25 あなたは、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。《○1つ》

- | | | |
|----------|-----------------|------------------|
| 1. 共感する | 2. どちらかといえば共感する | 3. どちらかといえば共感しない |
| 4. 共感しない | 5. わからない | |

問 26 あなたは、消費者トラブルに巻きこまれたときや、多重債務に陥ったときの相談窓口として、市役所内に消費生活センターがあることを知っていますか。《○1つ》

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 27 あなたは、市役所内の市民生活相談課で、暮らしの困りごとに関して法律相談や登記相談等を受けられることを知っていますか。《○1つ》

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 28 あなたは、市内の鉄道やバス等の公共交通に対して満足していますか。《○1つ》

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば満足していない |
| 5. 満足していない | 6. わからない |

問 29 市内には近江鉄道の駅が13箇所あり、全線を将来にわたって存続させていくために、令和元年11月から、事業者、県及び沿線の市や町などが一緒になって、様々な議論をしているところです。あなたは、近江鉄道線についてどう感じていますか。《○1つ》

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1. 重要であると感じる | 2. 重要でないと感じる |
| 3. 重要であるが利便性等の改善が必要と感じる | 4. その他() |

問 30 あなたは、近江鉄道をどの程度利用しますか。《○1つ》

- | | | | |
|--------------|--------------|----------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週1～2日 | 3. 月1～2日 | →問 30-1 へ |
| 4. ほとんど利用しない | 5. 利用したことはない | | |

問 30-1 問 30 で「1. ほぼ毎日」「2. 週1～2日」「3. 月1～2日」とお答えの方におたずねします。
近江鉄道を利用する目的は何ですか。《○1つ》

- | | | | |
|----------|-------|-----------|-------|
| 1. 通勤・通学 | 2. 仕事 | 3. 買物 | 4. 通院 |
| 5. 遊び・趣味 | 6. 観光 | 7. その他() | |

問 31 あなたは、地震等の災害に備えてどのような準備をしていますか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 水や食料等を3日分以上備蓄 | 2. 非常持ち出し袋の準備 |
| 3. 家具の転倒防止 | 4. 地域の防災訓練に参加 |
| 5. 一時集合場所や避難所を家族で確認 | 6. 安否連絡方法を家族で確認 |
| 7. 特に何もしていない | 8. その他() |

問 32 あなたは、東近江市の水道水の水質に満足していますか。《○1つ》

- | | | |
|--------------------|-------------------|--------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば満足していない | 5. 満足していない | →問 32-1 へ |

問 32-1 問 32 で「4. どちらかといえば満足していない」「5. 満足していない」とお答えの方におたずねします。

その理由はどのようなことですか。《○1つ》

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. おいしくないから | 2. においがするから |
| 3. 安全性に不安があるから | 4. その他() |

5 子育てや教育についておたずねします。

問 33 あなたは、東近江市は子育てをするのに良い環境であると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|-----------------|--------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばそう思わない | 5. そう思わない | 6. わからない |

問 34 あなたは、市内において児童・生徒の通学路の安全は確保できていると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. できている | 2. どちらかといえばできている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばできていない | 5. できていない | 6. わからない |

問 35 あなたは、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|-----------------|--------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばそう思わない | 5. そう思わない | 6. わからない |

問 36 あなたは、この1年間に職場、市又は地区等が開催する人権に関する講座や講演、研修等に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

1. 職場の講演や研修に参加した	2. 市の講座や講演に参加した
3. 地区の講座や講演に参加した	4. 自治会の町別懇談会に参加した
5. 参加していない	6. その他()

問 37 あなたは、児童虐待が疑われるときに、どこに通報しますか。《あてはまるものすべてに○》

1. 子ども家庭相談センター	2. 警察
3. 市役所	4. 虐待ホットライン
5. 児童相談所全国共通ダイヤル189	6. 園・学校
7. 保健センター	8. 民生委員児童委員
9. その他()	10. 通報先を知らない
11. 通報しない	

6 都市整備についておたずねします。

問 38 市内の都市基盤の整備に対する満足度をお答えください。《①～⑤それぞれの項目に○1つ》

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえ ない	どちらかといえ ば不満足	不満足	わからない
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)	1	2	3	4	5	6
②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)	1	2	3	4	5	6
③河川の整備(一級河川等)	1	2	3	4	5	6
④雨水排水の整備(身近な水路等)	1	2	3	4	5	6
⑤公園の整備(広場、遊び場等)	1	2	3	4	5	6

7 購買状況等についておたずねします。

問 39 あなたは、日頃、食品や日用雑貨品、衣料品を主にどこで購入しますか。

《①～③それぞれの項目に○1つ》

	東近江市内	近江八幡市	彦根市	甲賀市	県内市町 その他	県外	通販	カタログ	ネット ショッピング	その他
①食品	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
②日用雑貨品	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
③衣料品	1	2	3	4	5	6	7	8	9	

問 40 あなたは、主にどのような交通手段で食品を買いに行きますか。《○1つ》

1. あなたが運転する自動車	2. 家族や知人が運転する自動車
3. 自転車	4. 徒歩
5. バス・鉄道	6. 買い物に行く手段がない
7. その他()	

問 41 あなたの家庭では野菜等を購入するとき、主に何を基準に選んでいますか。(自作している方も不足する野菜を購入する場合)《○1つ》

1. 金額	2. 鮮度	3. 安全・安心
4. 調理の利便性(カット済み、洗浄済み等)	5. 見た目	6. 大きさ
7. 産地(市内、県内産等)	8. わからない	9. その他()

問 42 あなたの家庭では、市内の農産物直売所(青空市、無人販売所を含む)を利用しますか。《○1つ》

1. よく利用する(週に1回以上)	2. 利用する(月に1~3回程度)
3. たまに利用する(年間数回程度)	4. 利用しない
5. 市内の直売所は利用しないが市外の直売所を利用している	6. 直売所がどこにあるのか知らない
7. わからない	8. その他()

問 43 あなたは、次のキャッシュレス決済をどの程度利用していますか。《①~⑥それぞれの項目に○1つ》

	週に2回以上	週に1回程度	月に1~3回程度	年に数回程度	利用していない
①クレジットカード	1	2	3	4	5
②デビットカード	1	2	3	4	5
③QR/バーコード決済(PayPay、LINE Pay など)	1	2	3	4	5
④流通系電子マネー(HOP マネー、WAON、nanaco など)	1	2	3	4	5
⑤交通系電子マネー(ICOCA、PiTaPa など) ※電車やバス等の交通機関での利用を除く	1	2	3	4	5
⑥その他()	1	2	3	4	5

8 協働のまちづくりについておたずねします。

問 44 あなたは、東近江市では市民、企業、行政等が共に考え、力を合わせた協働のまちづくりができていると思いますか。《○1つ》

1. できている	2. ある程度できている	3. どちらともいえない
4. あまりできていない	5. できていない	6. わからない

問 45 あなたの身近な地域では、住民同士の助け合いができていますか。《○1つ》

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. できている | 2. どちらかといえばできている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばできていない | 5. できていない | 6. わからない |

問 46 あなたは、自治会やまちづくり協議会等の地域活動又はNPOやボランティア等の活動にどの程度参加していますか。《○1つ》

- | | | |
|---------------|----------------|-----------|
| 1. 積極的に参加している | 2. できる限り参加している | →問 46-1 へ |
| 3. ときどき参加している | 4. 参加していない | →問 46-3 へ |

問 46-1 問 46 で「1. 積極的に参加している」「2. できる限り参加している」とお答えの方におたずねします。
この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

- | | | |
|-----------|----------------|-----------|
| 1. 自治会活動 | 2. まちづくり協議会の活動 | →問 46-2 へ |
| 3. NPOの活動 | 4. ボランティア活動 | |
| 5. その他() | | |

問 46-2 問 46-1 で「3. NPOの活動」「4. ボランティア活動」とお答えの方におたずねします。
この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 高齢者に対する活動 | 2. 障害者に対する活動 |
| 3. 子育てをする親や子どもを支援する活動 | 4. 健康や医療に関連した活動 |
| 5. スポーツに関連した活動 | 6. 自然や環境を守る活動 |
| 7. 美化・清掃活動 | 8. 災害・防災に関連した活動 |
| 9. 交通安全・防犯活動 | 10. 国際協力に関連した活動 |
| 11. その他() | |

問 46-3 問 46 で「4. 参加していない」とお答えの方におたずねします。
参加していない理由をお聞かせください。《○1つ》

- | | |
|-------------------------------------|--------------------|
| 1. 仕事や育児、家族の介護等のため忙しく
時間に余裕がないから | 2. 年齢・身体・健康上の理由から |
| 3. 活動の情報が少なく、活動内容がわから
ないから | 4. 既存の仕組み等に不満があるから |
| 5. 面倒だから | 6. 関心がないから |
| 7. その他() | |

問 47 あなたは、国籍や民族の異なる人々が互いに認め合い、共に暮らす社会の実現についてどう思いますか。《○1つ》

- | | | |
|----------------|------------------|--------------|
| 1. 重要と思う | 2. どちらかといえば重要と思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり重要とは思わない | 5. 重要とは思わない | 6. わからない |

9 広報等の情報についておたずねします。

問 48 あなたは、市の情報(お知らせ)は主にどのような方法で取得していますか。《○3つまで》

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 広報ひがしおうみ | 2. 新聞 |
| 3. 自治会回覧 | 4. 公共施設に設置してあるチラシ |
| 5. 市ホームページ | 6. ケーブルテレビ(東近江スマイルネット) |
| 7. 防災情報告知放送システム | 8. ラジオ(FMひがしおうみ) |
| 9. スマートフォン等のアプリ「LINE」 | 10. その他() |

問 49 あなたは、市の広報紙「広報ひがしおうみ」を読んでいますか。《○1つ》

- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| 1. 毎月読んでいる | 2. たまに読んでいる | →問 49-1 へ |
| 3. 読んでいない | 4. 知らない | |

問 49-1 問 49 で「1. 毎月読んでいる」「2. たまに読んでいる」とお答えの方におたずねします。
あなたは、「広報ひがしおうみ」の内容について満足していますか。《○1つ》

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば満足していない |
| 5. 満足していない | |

問 50 「広報ひがしおうみ」は、毎月新聞折込みによる配布のほか、次の方法で配信等を行っています。
あなたは、次の配信等の方法を知っていますか。《それぞれの項目に○1つ》

	見たことがある	見たことはない 知っているが	知らない
①市ホームページで閲覧	1	2	3
②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴	1	2	3
③スマートフォン等のアプリ「LINE」で閲覧	1	2	3
④スマートフォン等のアプリ「マチイロ」で閲覧	1	2	3
⑤スマートフォン等のアプリ「カタログポケット」で閲覧	1	2	3
⑥公共施設等(市役所、図書館、コミュニティセンター等)に設置	1	2	3

問 51 あなたは「東近江市議会だより」を読んでいますか。《○1つ》

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. 毎号読んでいる | 2. たまに読んでいる |
| 3. 読んでいない | 4. 「東近江市議会だより」を知らない |

10 市役所のサービスに関しておたずねします。

問 52 この1年間に、市役所(支所・出張所を含む)の窓口利用や電話でのお問い合わせ、又は市役所外で職員に接した際の市役所職員の対応はどのように感じましたか。《○1つ》

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 1. 良かった | 2. どちらかといえば良かった |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば悪かった |
| 5. 悪かった | 6. 利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない |

11 まちづくりに対する御意見等についておたずねします。

問 53 東近江市のまちづくりについて、御意見や御提案等がありましたら御記入ください。

調査に御協力いただき、ありがとうございました。
調査票を返信用封筒に入れ、7月5日(月)までにポストに御投函ください。

令和3年度 市民意識調査結果報告書

発行年月 令和3年11月

発行 東近江市 企画部 総合政策課
〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町10番5号
IP電話:050-5802-9021 電話:0748-24-5621